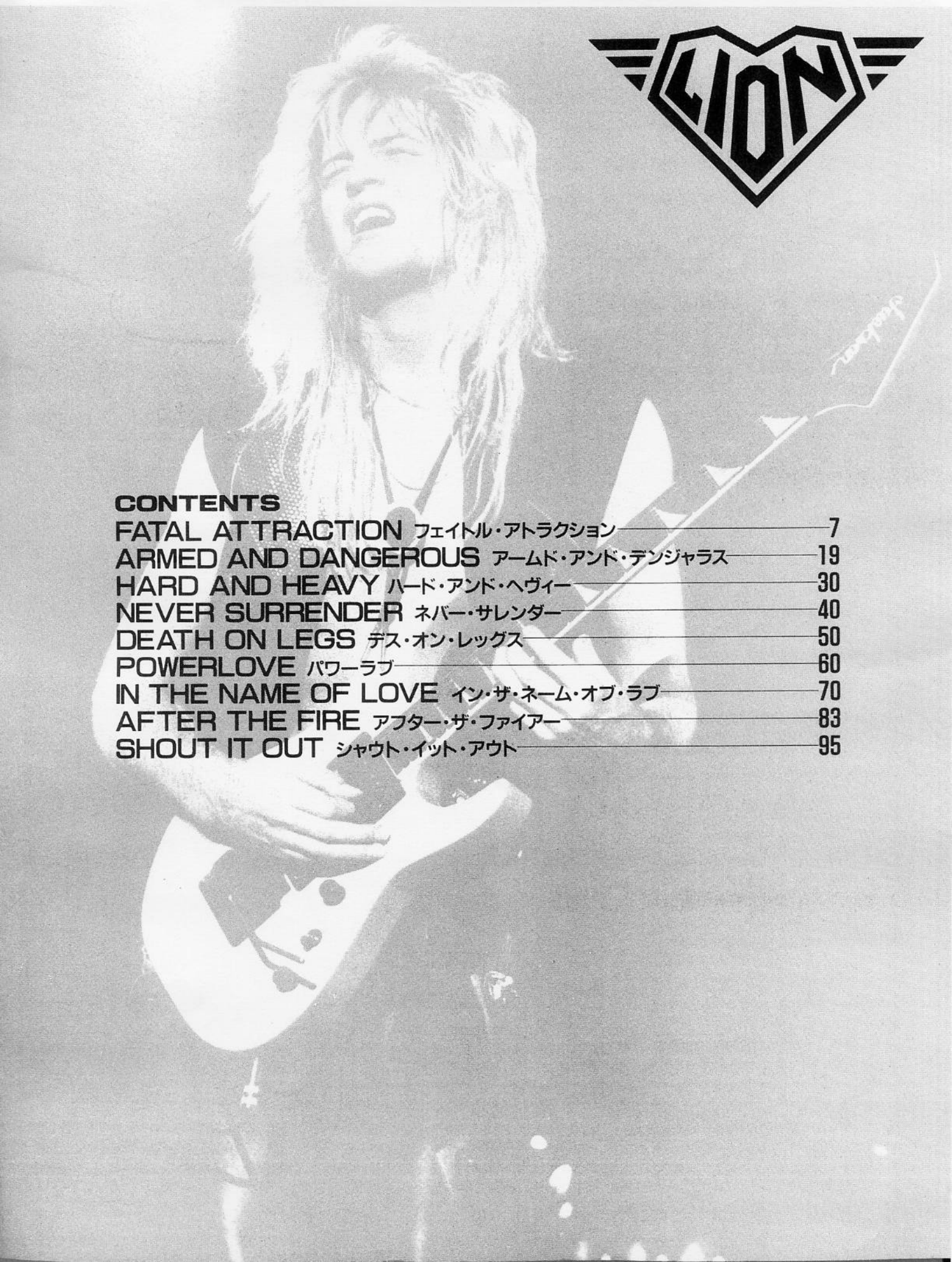


CONTENTS

FATAL ATTRACTION フェイトル・アトラクション 7
ARMED AND DANGEROUS アームド・アンド・デンジャラス 19
HARD AND HEAVY ハード・アンド・ヘヴィー 30
NEVER SURRENDER ネバー・サレンダー 40
DEATH ON LEGS デス・オン・レッグス 50
POWERLOVE パワーラブ 60
IN THE NAME OF LOVE イン・ザ・ネーム・オブ・ラブ 70
AFTER THE FIRE アフター・ザ・ファイアー 83
SHOUT IT OUT シャウト・イット・アウト 95

LAメタルシーンが生んだ最後の大物グループ・ライオン!!

by 福田真己

LION

現代のミュージック・シーンは、きわめて生存競争の激しい社会である。ポップス、ジャズ、ロックなど、様々な音楽形態がある上に、それを選択する人々の価値感もまた様々……。毎年、数多くのミュージシャンが世に送り出されているが、そんな中で生き抜いていくのは、並大抵のことではない。こういった状況の中、ロック界で今最も注目に値するハード・ロック・バンドが、〝ライオン〟である。

ライオンは、4人編成のバンドで、LA出身。メンバーは、カル・スワン（ヴォーカル）、マーク・エドワーズ(ドラムス)、ダグ・オルドリッチ(ギター)、ジェリー・ベスト（ベース）となっている。我日本ではそれほどネーム・バリューを持ったプレイヤーではないがライオンの出現を見ても分かるように、アメリカにはチャンスを得ようとしている、実力のあるミュージシャンが大勢いるのである。ライオンは、そのチャンスをつかんで今まさにメジャー進出を狙っている有望株なのだ。

バンドの母体をスタートさせたのは、今からおよそ4年前のことで、この時はカル・スワンとマーク・エドワーズが中心となり、現在とは異なるメンバーで精力的に活動していた。カルはかつて、ブラック・サバス（オジー・オズボーンの率いていたバンド）に加入するのではないか、というウワサも流れたほどの実力派ヴォーカリストで、ライオンを結成する以前は、イギリスのバンドに在籍していた経歴の持ち主である。また、マークは、かのイングヴェイ・マルムスティーンと〝スティーラー〟というバンドでプレイしていた強力なドラマーで、アメリカ西海岸を本拠地とするミュージシャン達の中では、かなりの知名度を誇る人物だ。その後、メンバーが交代して、ダグ・オルドリッチとジェリー・ベストが新たに加わり、現在のラインナップに至る訳だ。ここでライオンの誕生。バンド名を考えたのは、カルとマークで、その力強い語感が気に入ってつけたのだそうだ。これが今からおよそ2年前のことである。

DANGEROUS ATTRACTION

ライオンが、当アルバム『デンジャラス・アトラクション／宿命の砦』をリリースしたのは、'87年7月21日のこと。プロデュースは、エンジニアと共にメンバー自身で行なった。また、レコーディングは、彼らの所属するレコード会社のスタジオを使用したのであるが、スタジオ自体の状況は必ずしも良くなく、音作りにはかなりの苦労をしたようだ。

彼らは、このフル・アルバムを発表する1年余り前に、すでに『パワー・ラヴ』と題されたミニ・アルバム（全6曲）を世に問うている。従って、形式的には『パワー・ラヴ』がライオンのデビュー・アルバムになる訳だが、この時現メンバーであるダグ・オルドリッチは、1曲しかレコーディングに参加していない。しかし、今回のアルバムでは、ダグのギタープレイが全編に渡ってちりばめられ、彼の存在が大きくクローズ・アップされてきた。その意味においては、ライオンの真のデビュー・アルバムは、この『デンジャラス・アトラクション』と言えるのではなかろうか。

『デンジャラス・アトラクション』におけるライオンのサウンドは、比較的にこれまでのハード・ロック路線を継承したオーソドックスなタイプのもので、これを基本にして、その中に彼らの独自な音楽性を盛り込む形でできあがっている。彼らのサウンドの一要素は、いかにもアメリカン・バンドといった音作りだけに終止するのではなく、どこかイギリス的な香りを感じさせるアプローチをしている点にある。今では、ロック史が始まった頃とは違って、アメリカン・ロックとブリティッシュ・ロックとが、明確に分けられないほどに音楽自体が国際化している訳で、ライオンのサウンド・アプローチもごくあたり前で、ごく自然な流れとして捕えることができる。が、アメリカ西海岸出身のバンドが、それらしさを前面に出さないで、ブリティシュ・ロック的なサウンドを取り入れてプレイしている所に、彼らの独自な音楽的指向が表われているのではなかろうか。その代表的な曲のひとつが、B面2曲目に収められている「イン・ザ・ネーム・オブ・ラヴ」である。ここで聞くことのできるダグのギター・ワークには、特にその感じが良く出ている。二つ目の要素は、従来のハード・ロックに対するイメージに新しい感覚を結びつけ、それらをバランス良くミックスしている点にある。あまりに奇をてらった音は、なかなか受け入れられるものではないが、これから進出しようとするバンドには、常に何か新しい部分が要求されるのだ。ライオンは、その辺を良く考えた上で、自らのサウンド作りを考えていると言える。そして、彼らのサウンドの鍵を握る人物が、ダグ・オルドリッチである。このことは、アルバム全体のかなりの部分を支配する彼のギター・ワークを聞けば明らかだし、彼らのバンド編成を考えれば、ダグにかかるアレンジ面での比重は、自ずと大きなものになるはずだ。

DOUGLAS ALDRICH

ここからは、ライオン・サウンドの要であるダグを中心に語っていこう。ダグラス・オルドリッチは、1964年2月19日、ノース・カロライナ州生まれ。ほどなくして、ペンシルバニア州の小さな町に移り、幼年期はここで過ごした。そして、今度はワシントンDCに引っ越すことになるが、多感な時期を過ごしたこの地は、彼に多くの思い出を提供することとなる。彼の都会的なイメージは、この時にできあがったものであろう。彼には、妹がいて、8歳の時からクラシック・ギターを習っていたとのことで、彼がギターを始める以前から彼の身近にはギターがあった訳だ。実際に彼がギターを弾き始めたのは12歳になってからで、当時はテンプテーションやフォー・トップスに耳を傾けていた。ギター・プレイをコピーしたミュージシャンは、ジミー・ペイジ、エリック・クラプトン、ジェフ・ベック、リッチー・ブラックモアなどで、ヴァン・ヘイレンもコピーしたことがあるようだ。ギターを弾き始めてからしばらくすると、ワシントンを離れて、フィラデルフィアに移る。高校に入った彼は、1年生の時に授業でジャズ・インプロヴィゼーションを学び、譜面の世界に慣れ親しんでいった。ベースのジェリー・ベストと知り合ったのはフィラデルフィア時代で、共にプレイするようになる。当初、彼らは、ジェリーの弟を含めて、ラッシュのコピー・バンドをやっていたが、これは全くの遊びでやっていたとのこと。このバンドは、後に〝ファイター〟と名乗るようになり、2・3の高校パーティーで演奏するという経験を積む。作曲を始めたのもこの頃で、自分の作詞能力に不満だった彼は、主にインストルメンタル・ナンバーを書いていた。高校を卒業すると、大学進学のためにバンドとしての出身地となった西海岸に移り、大学では音楽の専門知識をかなりの所まで学んだ。つまり、彼は譜面の読み書きをマスターしている訳で、現在音楽活動をする上で大きく役立っているようだ。

大学に入ってしばらくすると、ジェリーも西海岸に移り住み、ここでダグとふたりで〝マンスフィールド〟というバンドを作った。この頃は、もうすでにロキシーやウィスキー・ア・ゴーゴーといった、かなり大きなクラブでプレイするほどになり、ライヴ活動のための貴重な経験をつんでいる。マンスフィールドは、LAのレコード会社に売り込みを始めるが、ヴォーカリストの力量が弱いという理由で、どこからも受け入れられなかった。

そして、ある日、どうやって番号を知ったのか、マークから電話が掛かり、彼のバンドに誘われることとなる。ダグは、ここでカル・スワンとも出会う訳だ。この時点では、まだジェリーがバンドにいないのであるが、ベーシストが辞めることになったので、ダグが彼をバンドに紹介し、〝ライオン〟の誕生となる。

TECHNIQUE

ダグ奏法の最大の特徴は、何と言っても彼のフィンガリング・フォームにある。ロック・ギタリストは、通常左手の親指をネックの上から出してフィンガリングする訳で、これはチョーキングを多用するロック・ギターリストにとってなくてはならないフォームである。つまり、チョーキングする際には、指の力で弦を押し上げるのではなく、ネックをはさみ込んだ人差指と親指のつけ根を支点として、手首の回転をうまく利用しなければならない

のだ。そして、必要な時には、親指をネックの裏に下げることになる。ところが、ダグの場合は、完全なクラシック・ギター奏法のフィンガリング・フォームで、左手の親指は終止一貫してネックの裏側につけられたままだ。彼はチョーキングさえもこのフォームで行なっている。

その中で特に特徴的な彼のフィンガリングは、ストレッチ・フィンガー。ストレッチを行なう時には、どんなギタリストでも親指をネットの裏につけるのであって、クラシック的フィンガリング・フォームを通常の形にしている彼は、必然的にストレッチを多用することになる。彼の速弾きは、ほとんどストレッチ・フィンガーで行なわれて、ライト・ハンド時にもストレッチを大いに活用している。あえて言うならば、ダグはジョージ・リンチに近いタイプのギタリストと言える。ただ、ライト・ハンド奏法に関しては、決して多用するタイプではなく、ごく自然な流れの中で使用していて、その意味では正統派のギタリストである。

また、彼のフレージングは、ペンタトニックを基本に置きつつも、モードを取り入れている点が特徴的で、これなどは、音楽理論に詳しいダグならでは、といったところだ。モードとは、日本語にするならば、旋法のことで、スケールが音の羅列であるのに対して、これは音の動きが重視される訳だ。ドリアン、ミクソリディアンなどと呼ばれているヤツがそれだ。

EQUIPMENT

今回のレコーディングに使用されたギターは、白いボディーのジャクソン・ソロイストと同じく白いシャーベル・ストラトキャスター。ソロイストは、ケーラーのトレモロ・アームが付けられていて、ピックアップはダンカンのカスタムが装備されている。もう1本のシャーベルは、フロイド・ローズ(トレモロ)＋ビル・ローレンス(ピックアップ)の組み合わせで、ボディーはフェンダー製のモノ。トレモロに関して言うと、ダグとしては、フロイド・ローズよりもケーラーの方が好みに合っているそうだ。アンプは、マーシャルをメインにして使用。これは、エディー・ヴァン・ヘイレンのマーシャルを手掛けて有名になった、ホゼ・アルダントがカスタマイズしたモノだ。また、レコーディングに使用されたエフェクターは、主にイコライザーで、あとはリヴァーブやディレイ。

FATAL ATTRACTION

フェイトル・アトラクション

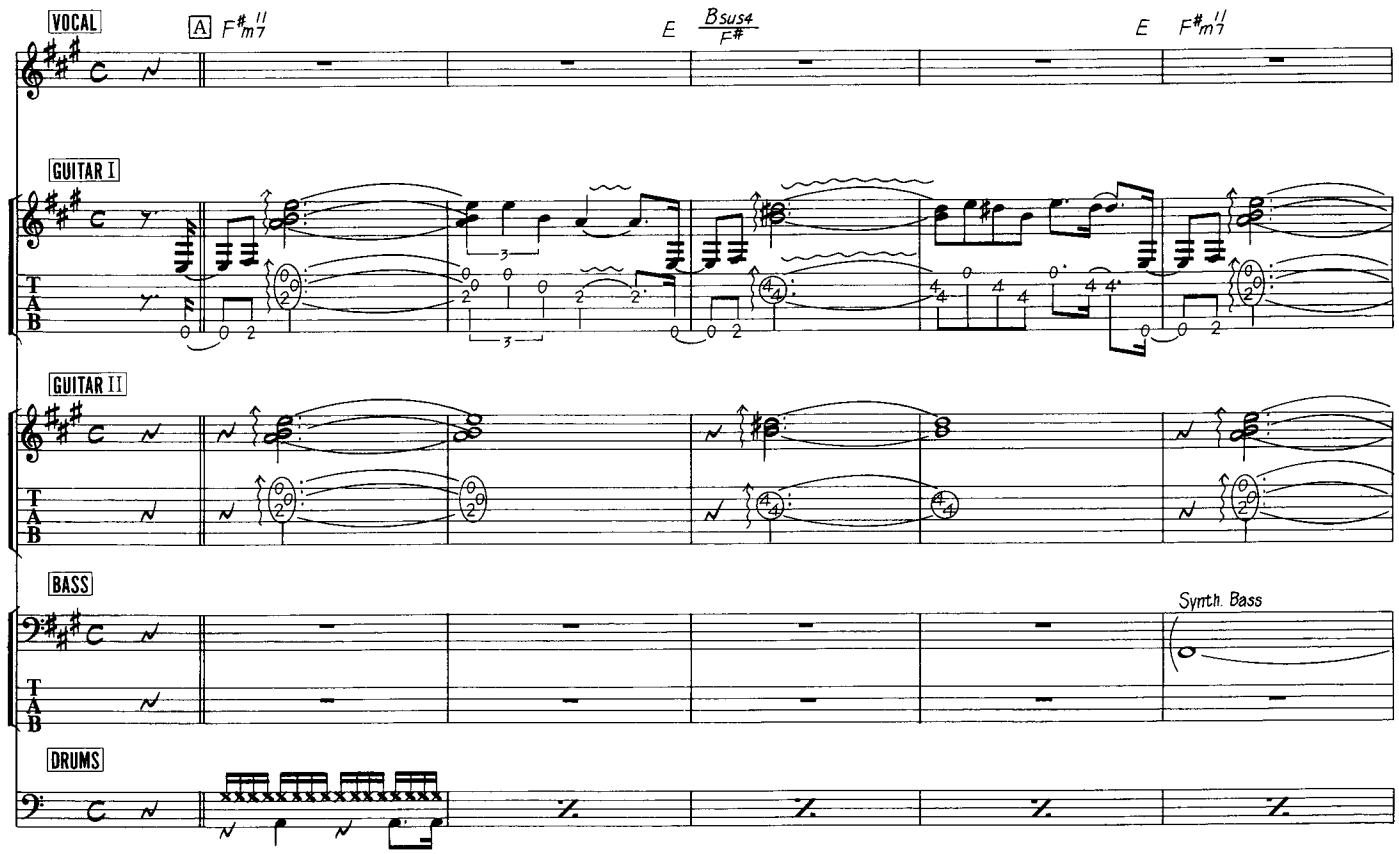
Words & Music by Kal Swan and Douglas Aldrich

当アルバムのA面トップを飾るこの曲は、リズム・アレンジの凝ったヘヴィーなナンバーである。実際にこういったタイプの曲をバンドで演奏する時には、リズムを正確に刻むことが大切なポイントとなる。

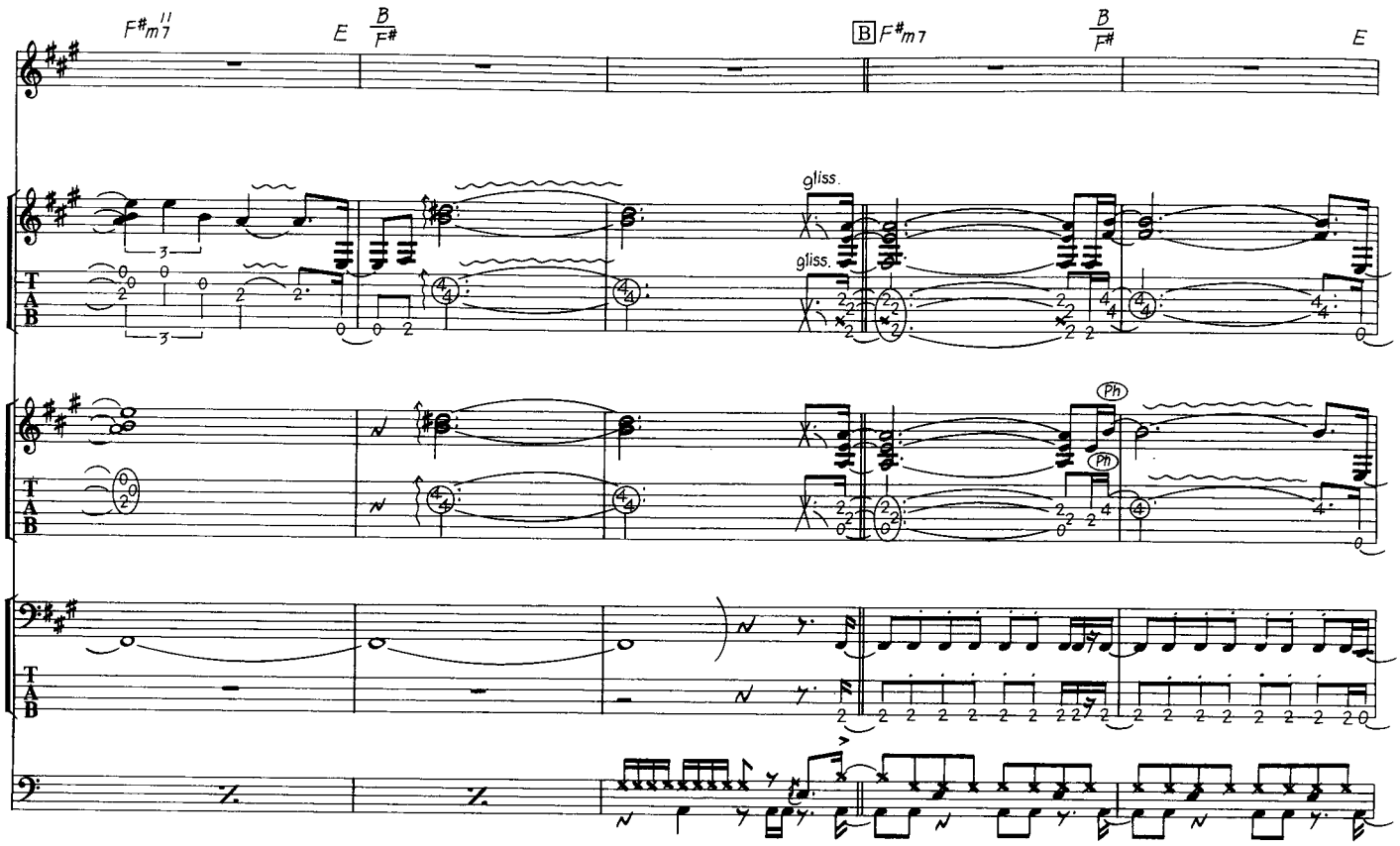
たとえば、Bは、16分音符や休符を大事にしたい部分だ。ドラムスは、キックのつぶがそろうようにし、4拍目裏の16分音符は特に気をつけてプレイすることが肝心。Cなども正確なテンポがキープできるように、各メンバーがぴったりと息の合ったプレイをめざそう。

リハーサル・マークDのギター譜で出てくる×印は、ブラッシングをする箇所だ。これは、左手の指2本以上（できれば4本の指）を弦上に這わせ、その状態でピッキングするテクニックである。が、左手はあくまで軽く乗せるだけで、決して強く押え込んではいけない、ピッキングは歯切れ良くやること。

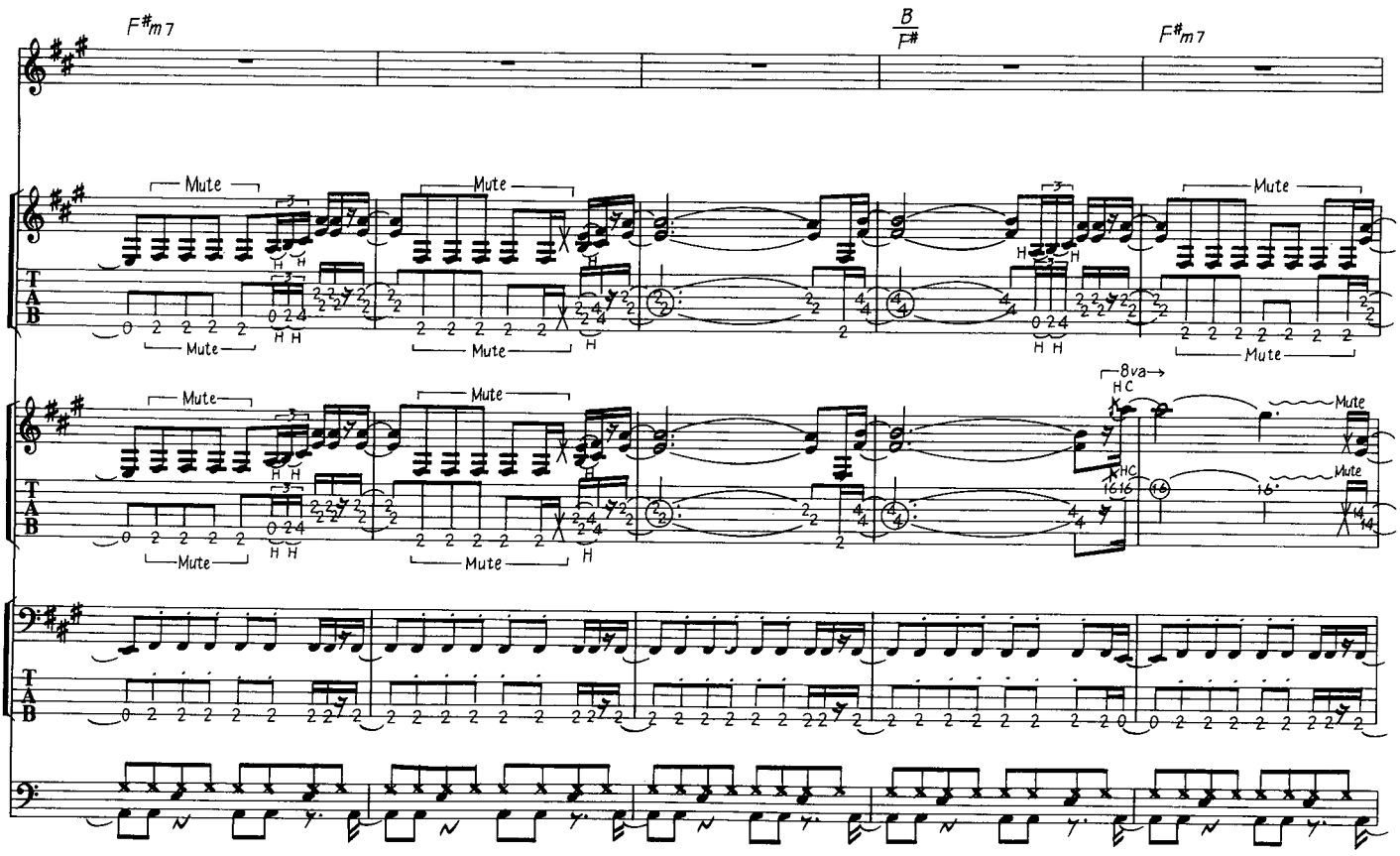
続いて、ギター・ソロのE。1小節目は、ワイド・ストレッチを使ったフレージングで、$\frac{9}{3}$人差指、$\frac{12}{3}$中指、$\frac{14}{3}$小指とフィンガリングしていく。ストレッチでフィンガリングする時のポイントは、左手の親指をネックの裏側につけ、フィンガー・ボード上の4本の指が自由に動くように構えることだ。特に、大きく指を開かなければならない場合は、手首を前方に出すようにして、さらにスムーズな運指ができるフォームをつくろう。

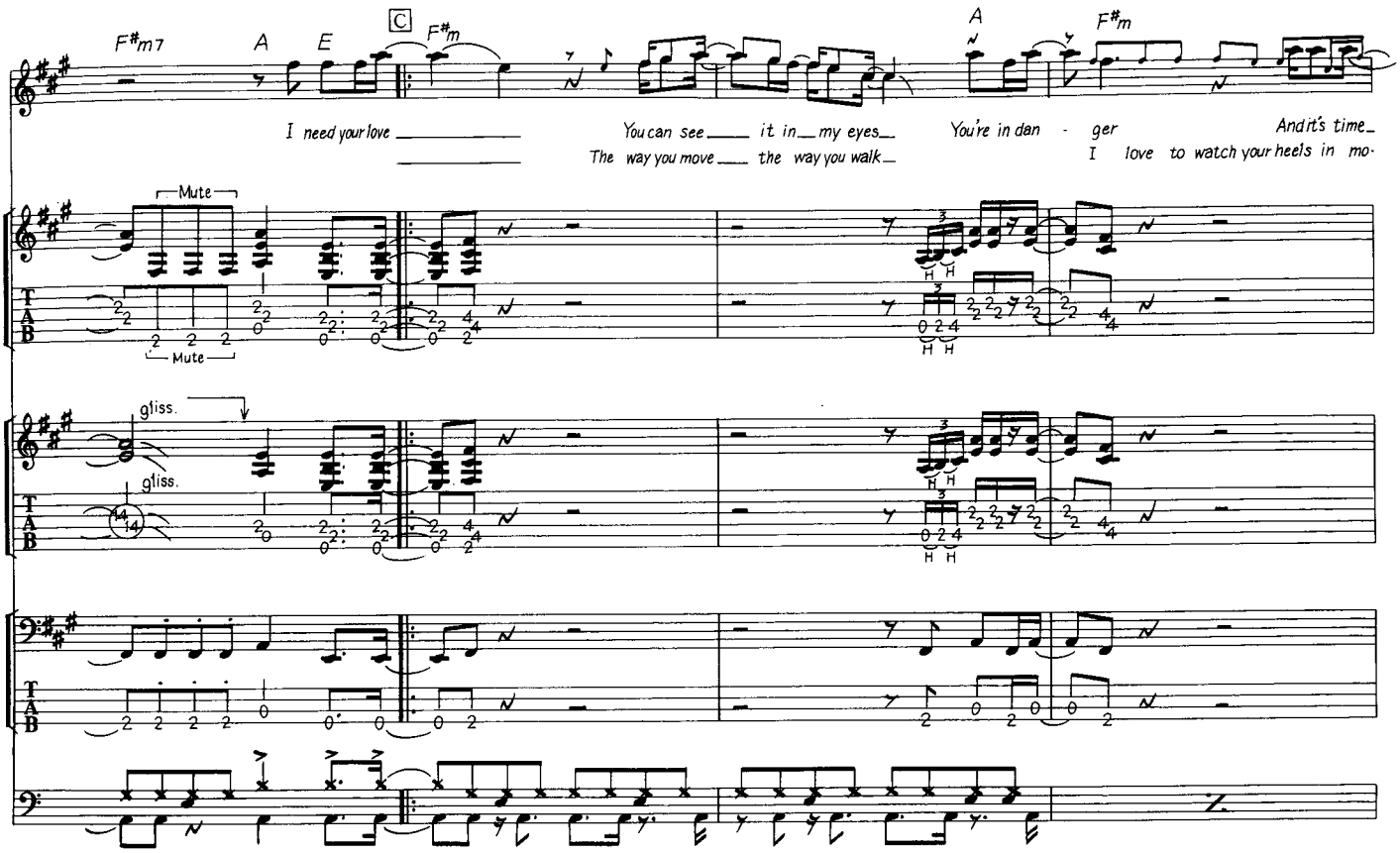


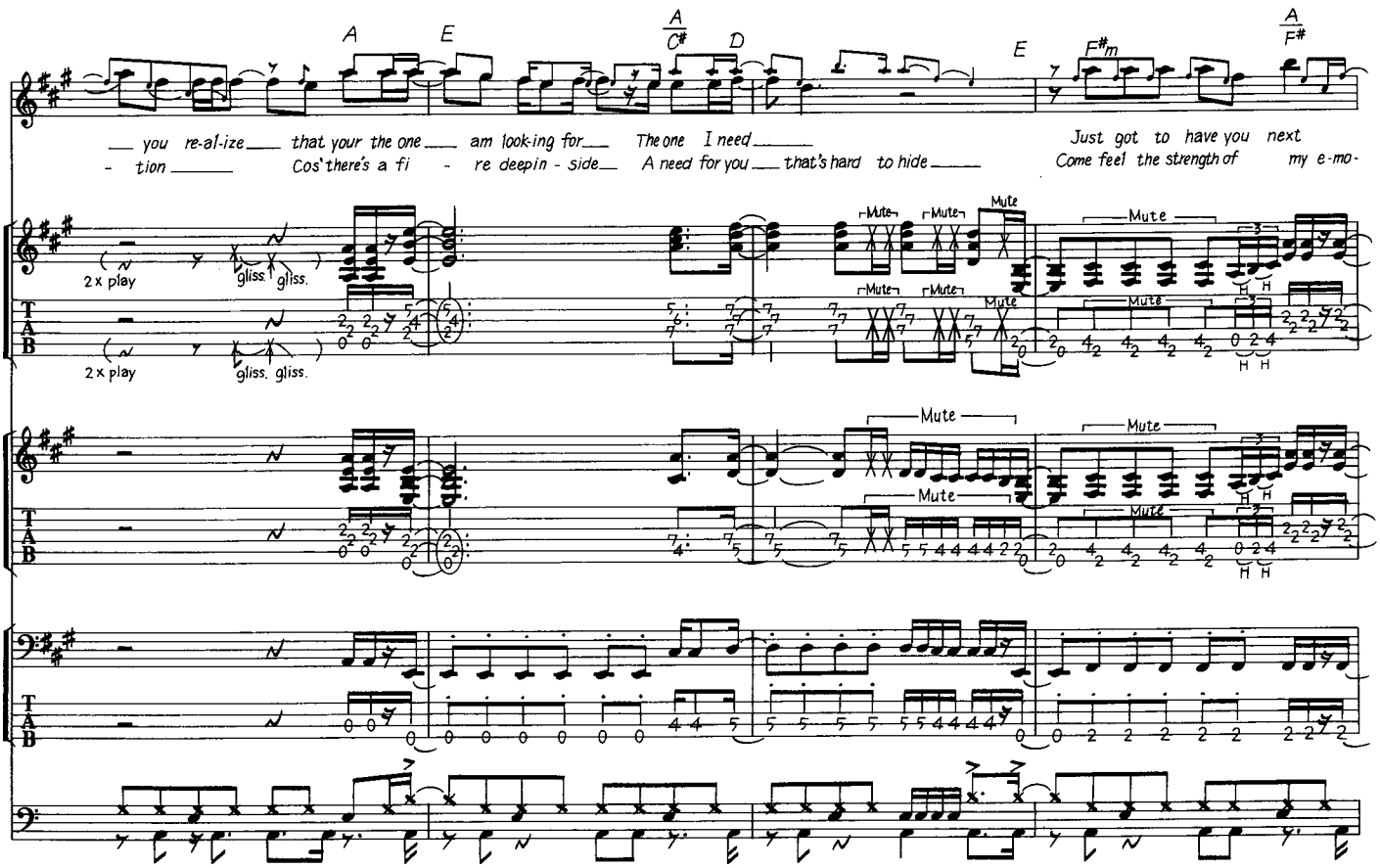
© 1987 by LION
Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

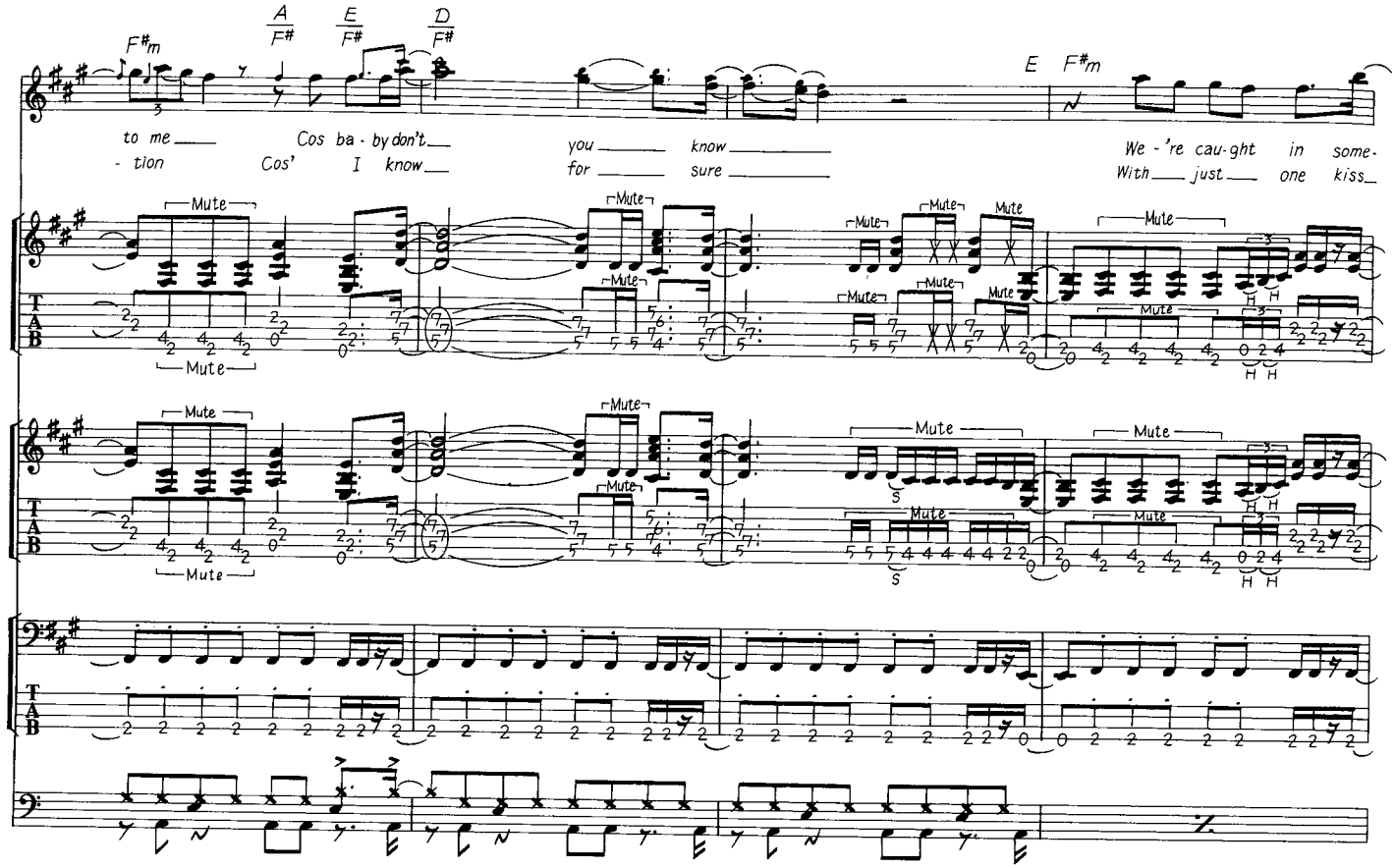


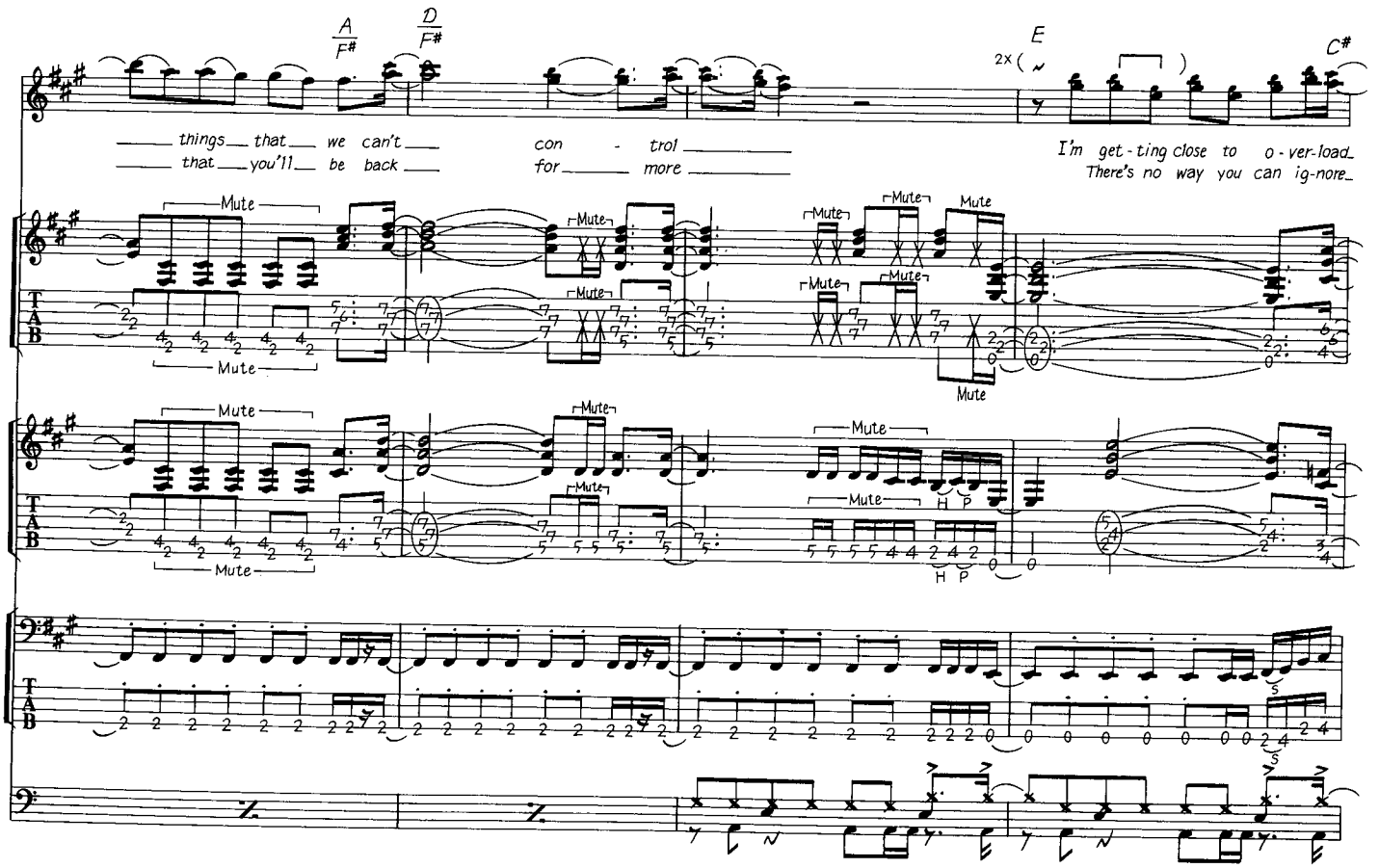
8

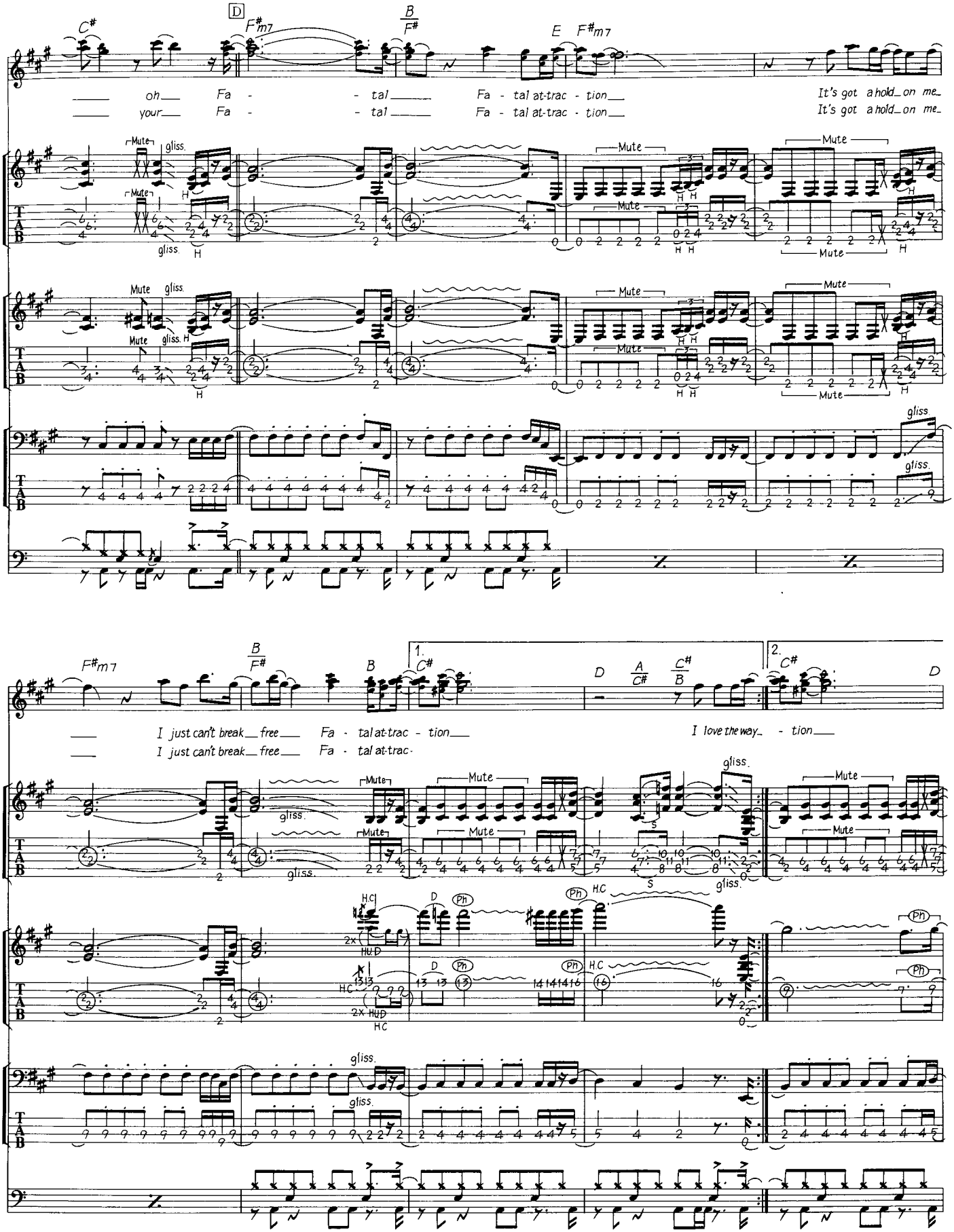


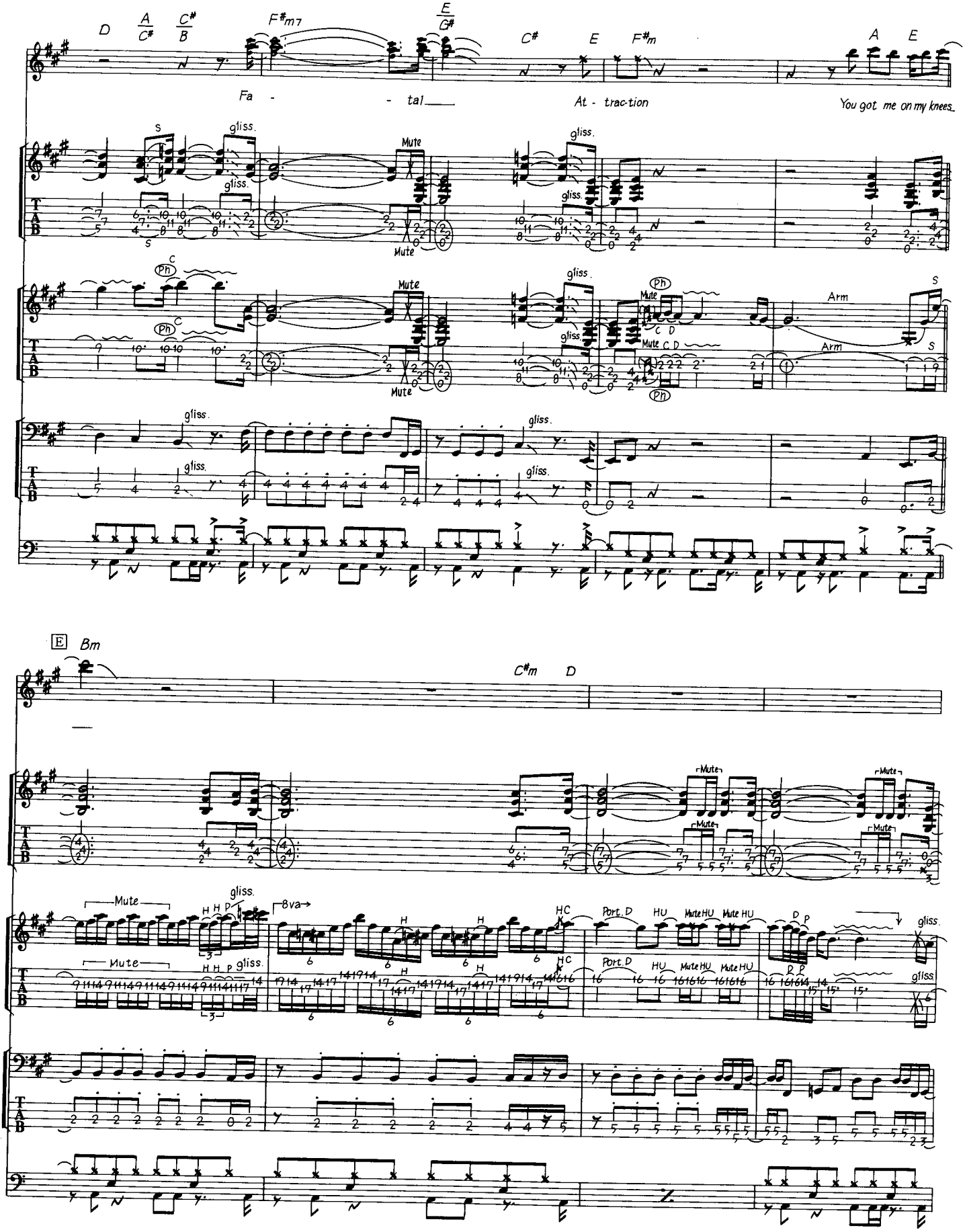

F#m7
A
E
C
F#m
A
F#m
I need your love
You can see it in my eyes
You're in dan - ger
And it's time
The way you move the way you walk
I love to watch your heels in mo-
Mute
gliss.


A
E
A
C#
D
E
F#m
A
F#
- you re-al-ize that your the one am look-ing for The one I need
- tion Cos' there's a fi - re deepin - side A need for you that's hard to hide
Just got to have you next
Come feel the strength of my e-mo-
2x play
gliss. gliss.
Mute

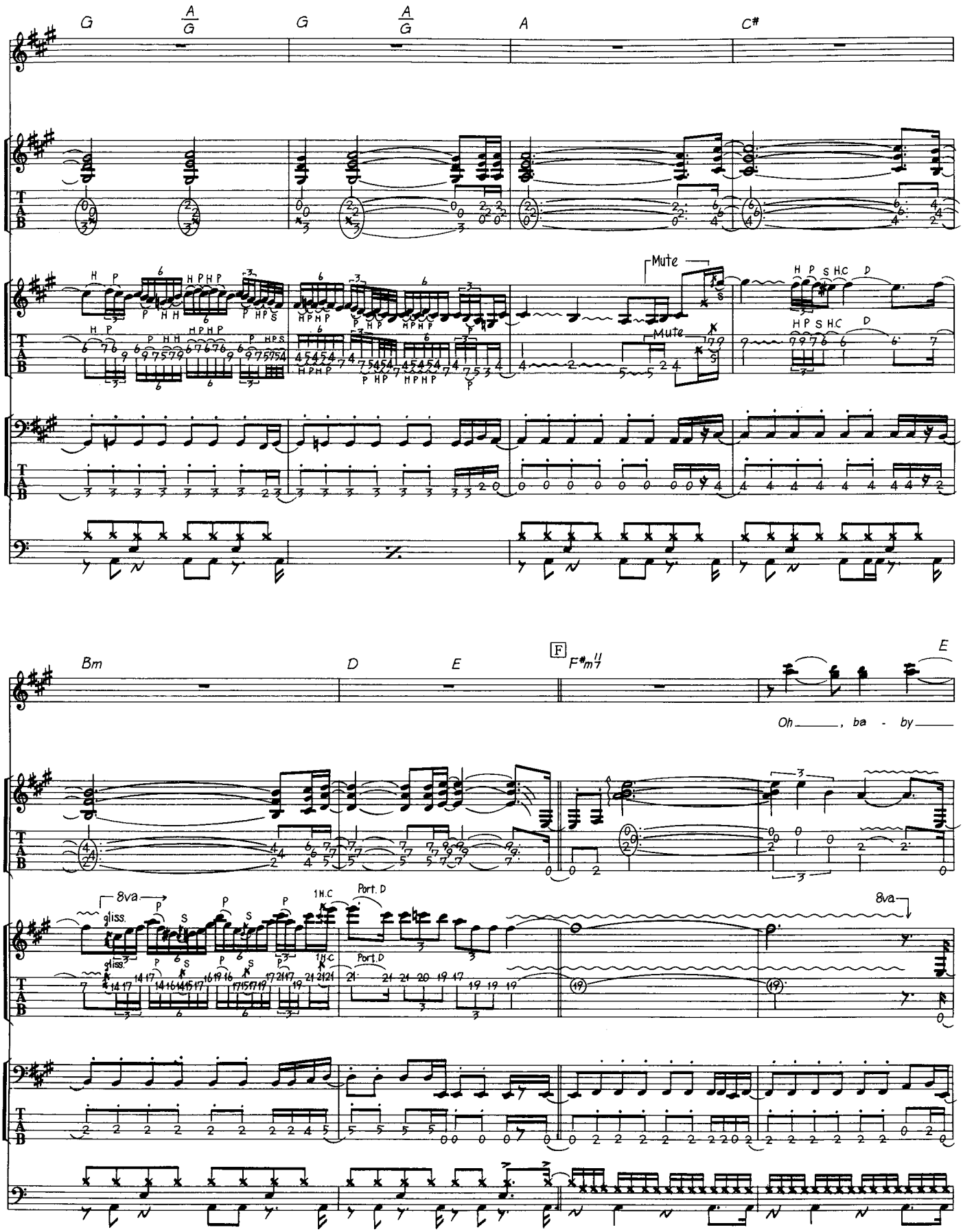

F#m
A/F#
E/F#
D/F#
E
F#m
to me
- tion
Cos ba - by don't
Cos' I know
you
for
know
sure
We - 're cau-ght in some-
With just one kiss
Mute
T
A
B

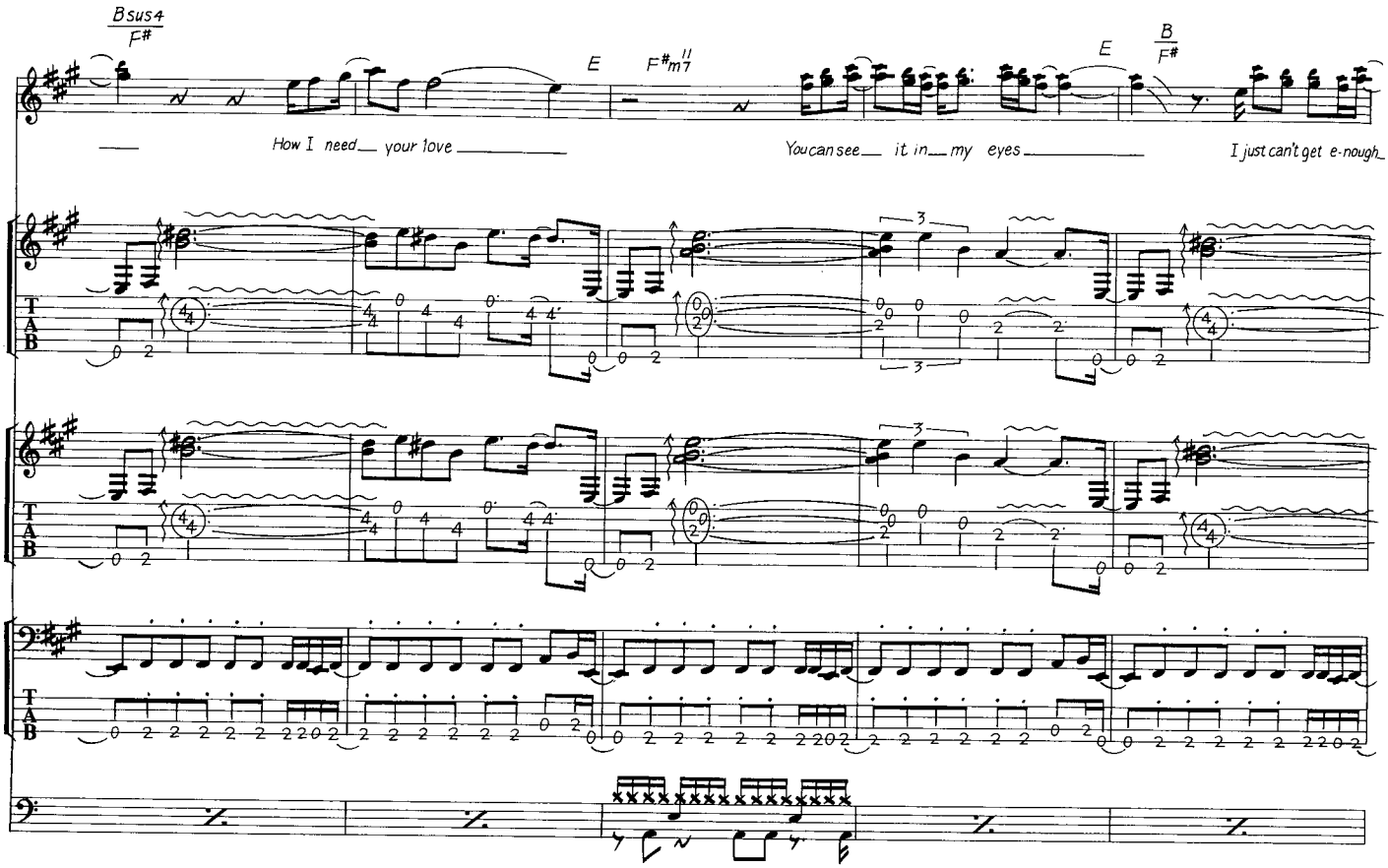

A/F#
D/F#
E
2x
C#
things that we can't
that you'll be back
con - trol
for more
I'm get - ting close to o - ver-load
There's no way you can ig-nore
Mute
T
A
B


D
C#
F#m7
B
F#
E
F#m7
oh Fa - tal Fa - tal at-trac - tion
your Fa - tal Fa - tal at-trac - tion
It's got a hold on me
It's got a hold on me
Mute
gliss.
H
F#m7
B
F#
B
1.
C#
D
A
C#
C#
B
2.
C#
D
I just can't break free Fa - tal at-trac - tion
I just can't break free Fa - tal at-trac-
I love the way - tion
gliss.
H.C
D
Ph
2x
HUD
HC

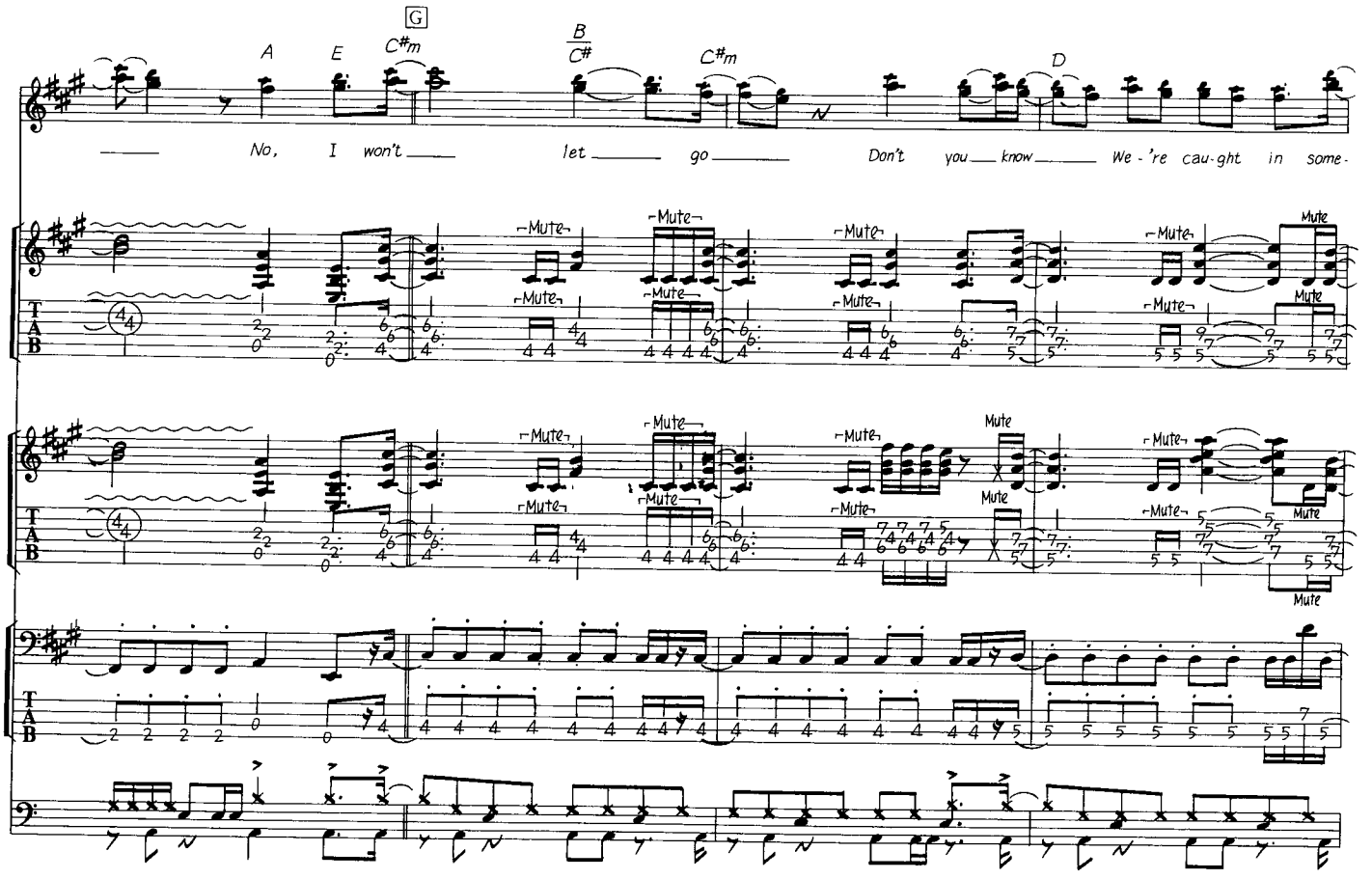

D
A/C#
C#/B
F#m7
E/G#
C#
E
F#m
A
E
Fa - tal
At - trac-tion
You got me on my knees
gliss.
Mute
Ph
C
Arm
S
TAB

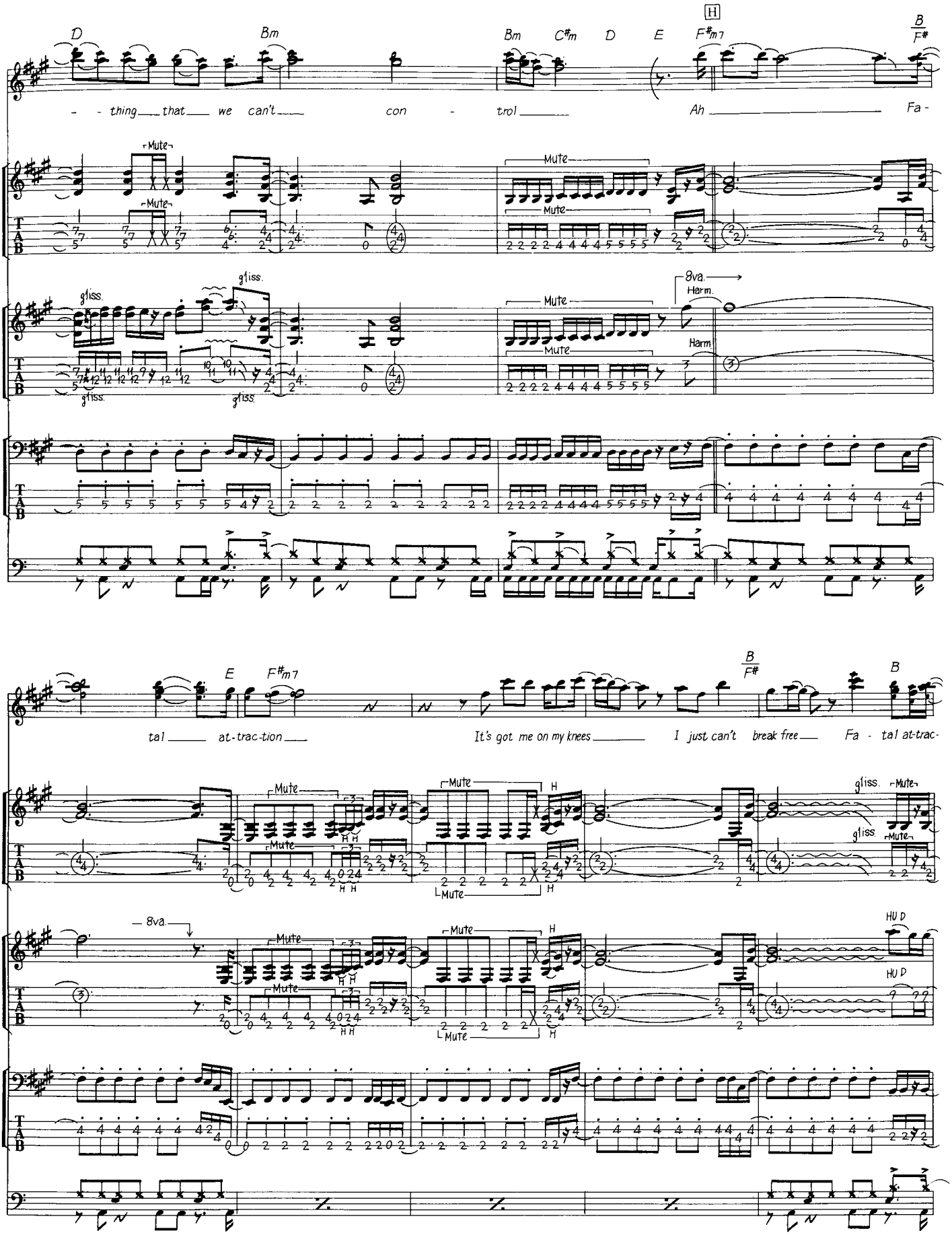
E
Bm
C#m
D
Mute
gliss.
8va
H
P
HC
Port.D
HU
MuteHU
TAB

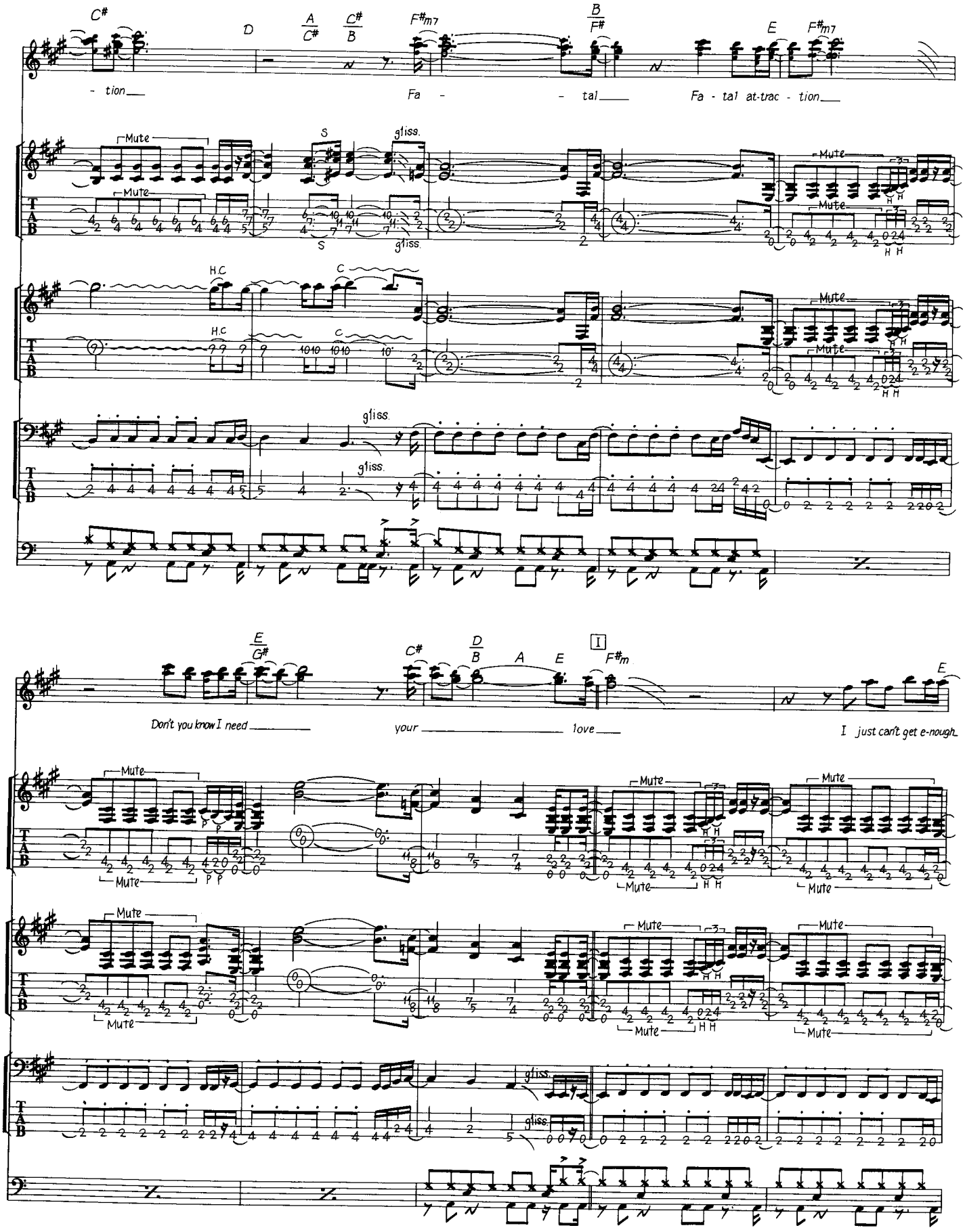

G
A/G
G
A/G
A
C#
Mute
Mute
Bm
D
E
F
F#m11
E
Oh ____, ba - by ____
8va
gliss.
P
S
1H.C
Port. D
8va

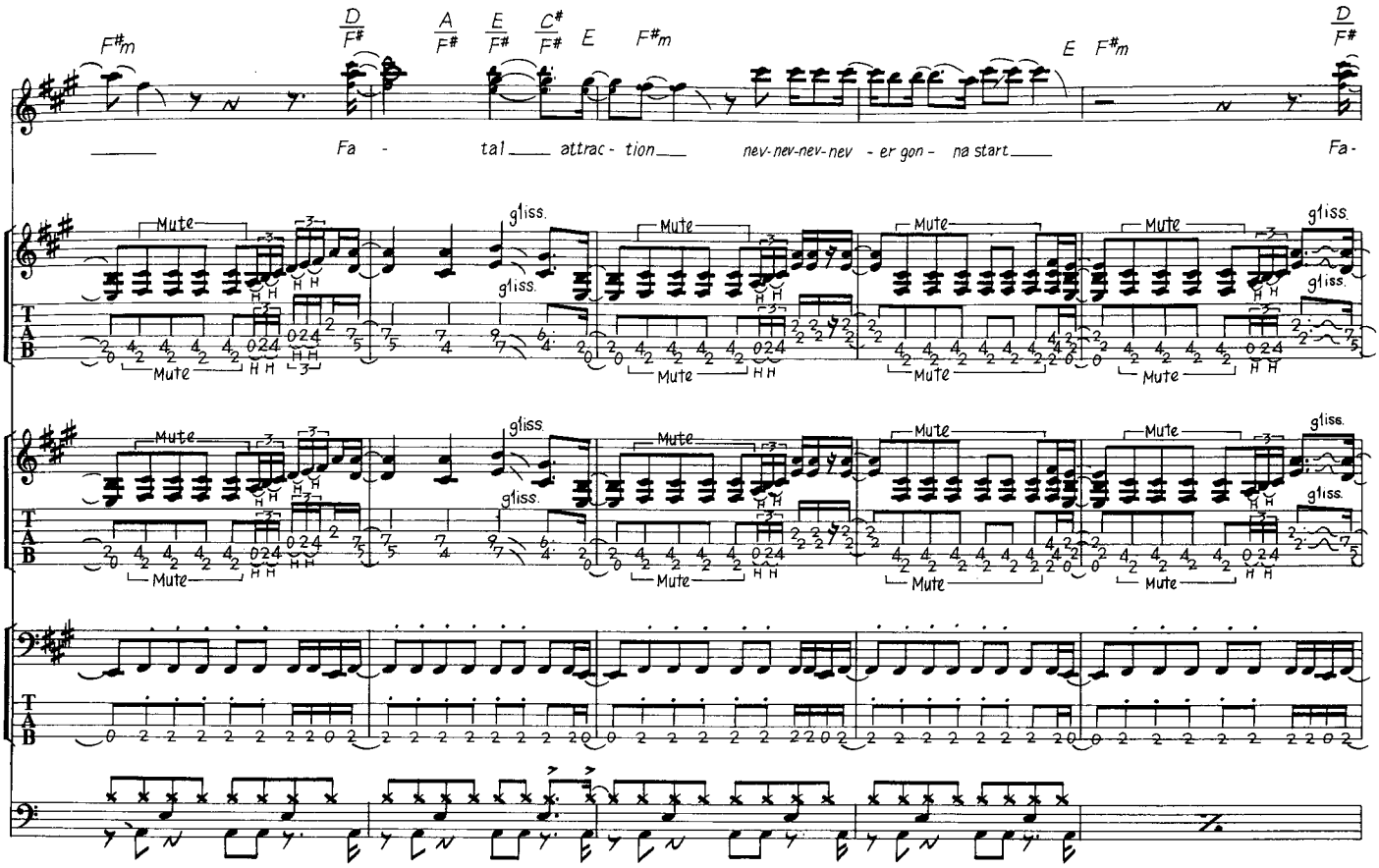

Bsus4
F#
E
F#m11
E
B
F#
How I need your love
You can see it in my eyes
I just can't get e-nough
T
A
B

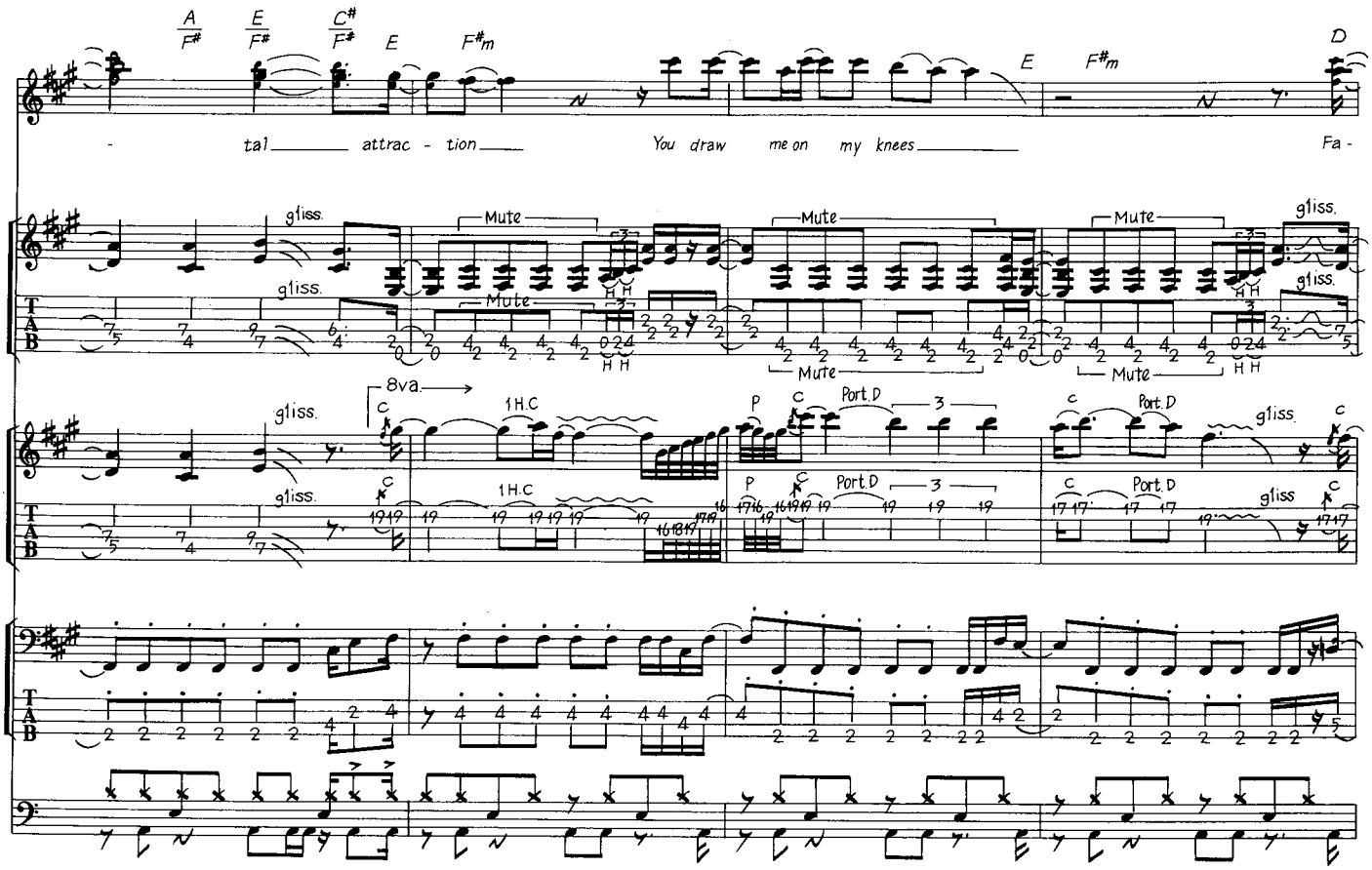
14

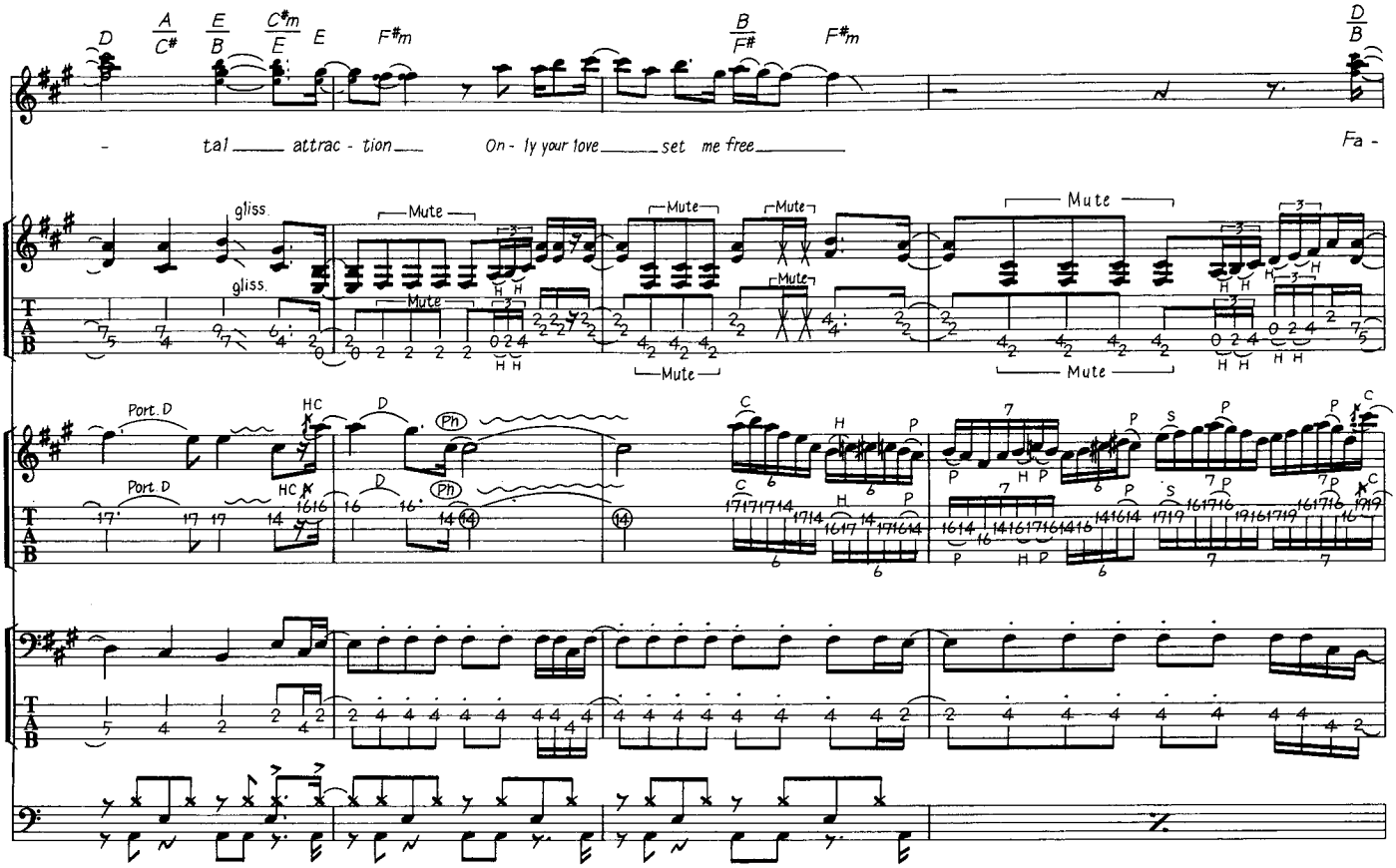

G
A
E
C#m
B
C#
C#m
D
No, I won't let go
Don't you know We-'re cau-ght in some-
Mute
T
A
B


D
Bm
Bm
C#m
D
E
F#m7
B
F#
H
- - thing that we can't con - trol Ah Fa -
Mute
gliss.
8va.
Harm.
E
F#m7
B
F#
tal at-trac-tion
It's got me on my knees
I just can't break free
Fa - tal at-trac-
8va.
HU D
TAB

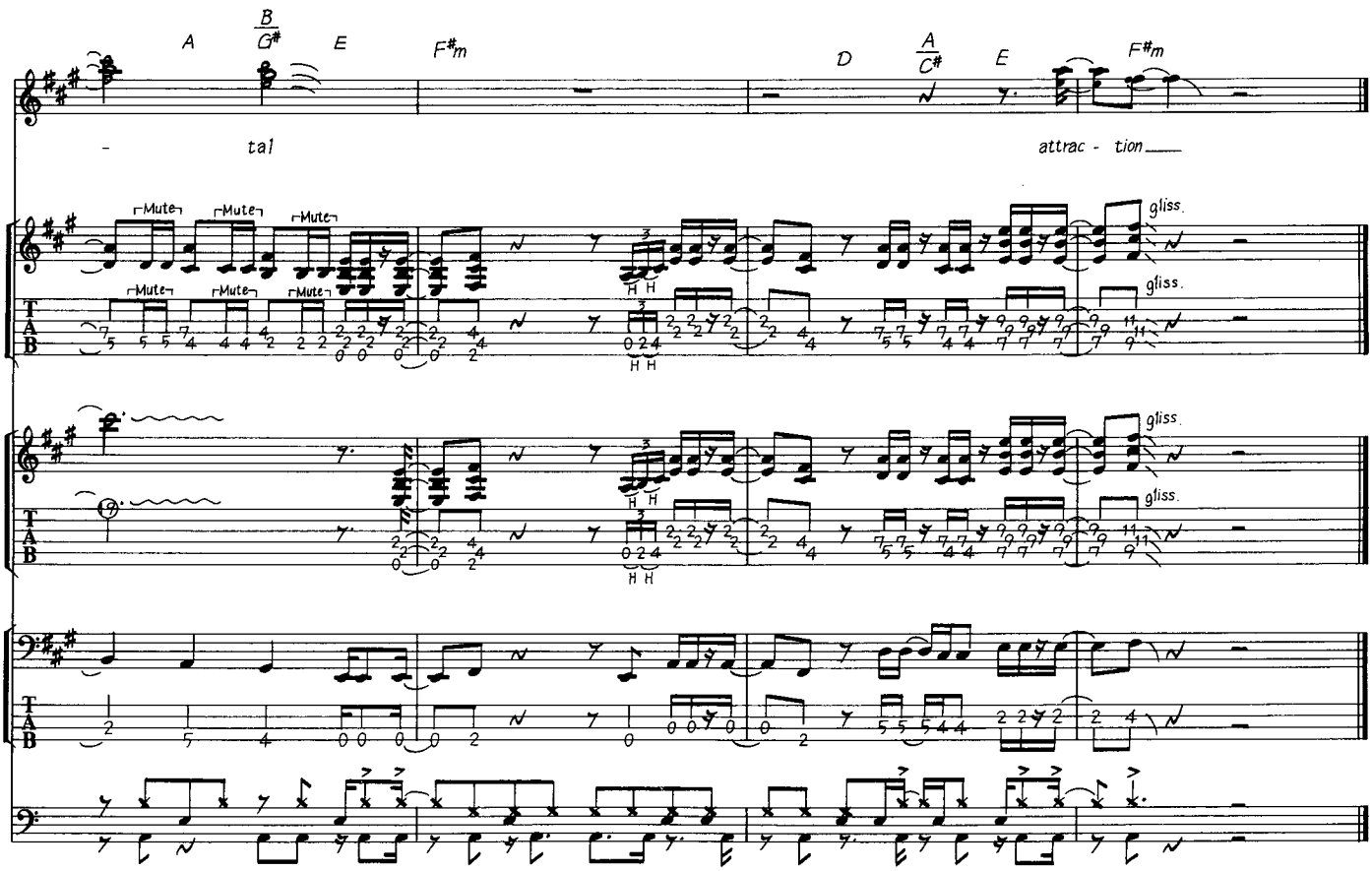

C#
D
A/C#
C#/B
F#m7
B/F#
E
F#m7
- tion
Fa - tal
Fa - tal at-trac - tion
Mute
S
gliss.
H.C
C
16
E/G#
C#
D/B
A
E
I
F#m
E
Don't you know I need
your
love
I just can't get e-nough
P P
H H


F#m
D/F#
A/F#
E/F#
C#/F#
E
F#m
E
F#m
D/F#
Fa - tal attrac - tion nev-nev-nev-nev - er gon - na start Fa-
Mute
gliss.
T
A
B


A/F#
E/F#
C#/F#
E
F#m
E
F#m
D
- tal attrac - tion You draw me on my knees Fa -
Mute
gliss.
8va
1H.C
P
C
Port.D
3
T
A
B


D
A/C#
E/B
C#m/E
E
F#m
B/F#
F#m
D/B
- tal attrac - tion On - ly your love set me free
Fa -
gliss.
Mute
Port. D
HC
Ph
P
S
C
H

18


A
B/G#
E
F#m
D
A/C#
E
F#m
- tal
attrac - tion
Mute
gliss.

ARMED AND DANGEROUS

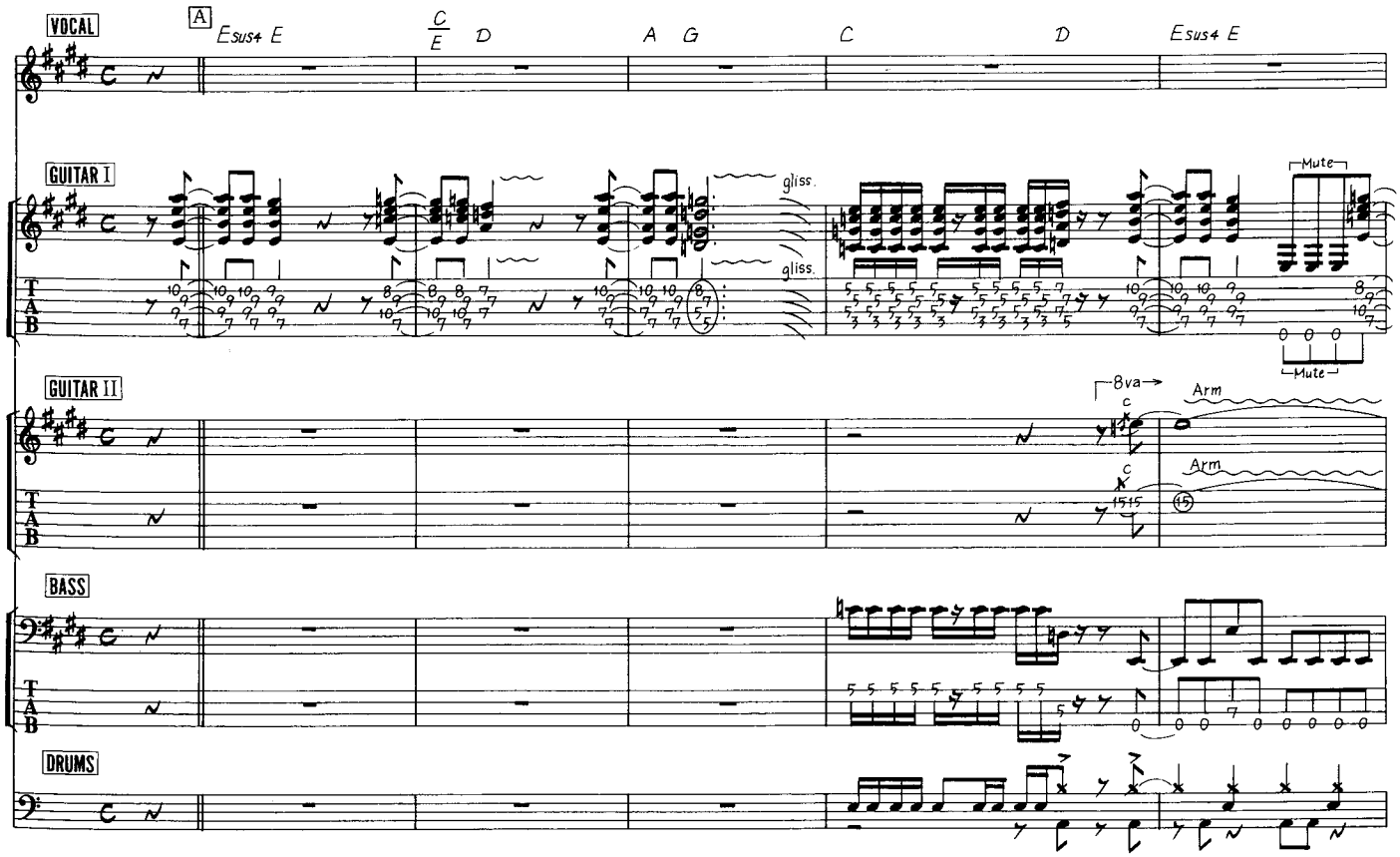
アームド・アンド・デンジャラス

Worbs & Music by Kal Swan, Douglas Aldrich and Mark Holden

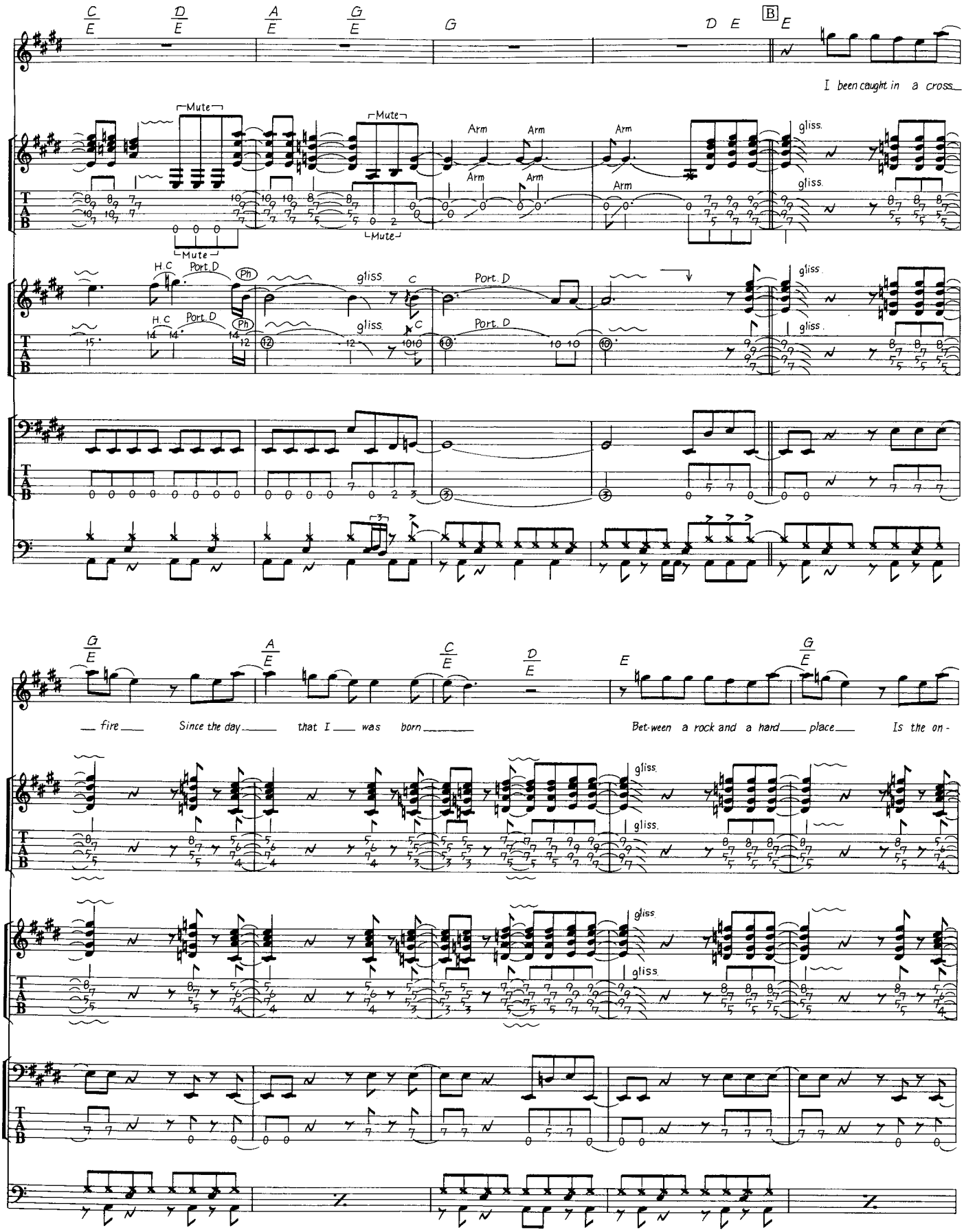
一流のギタリストは、ソロ、バッキングのどちらを取っても、見事に弾きこなしてしまうものだが、このダグ・オルドリッチもそういったギタリストのひとりだ。特にこのナンバーでは、センスあふれるバッキング・ギターを披露してくれている。

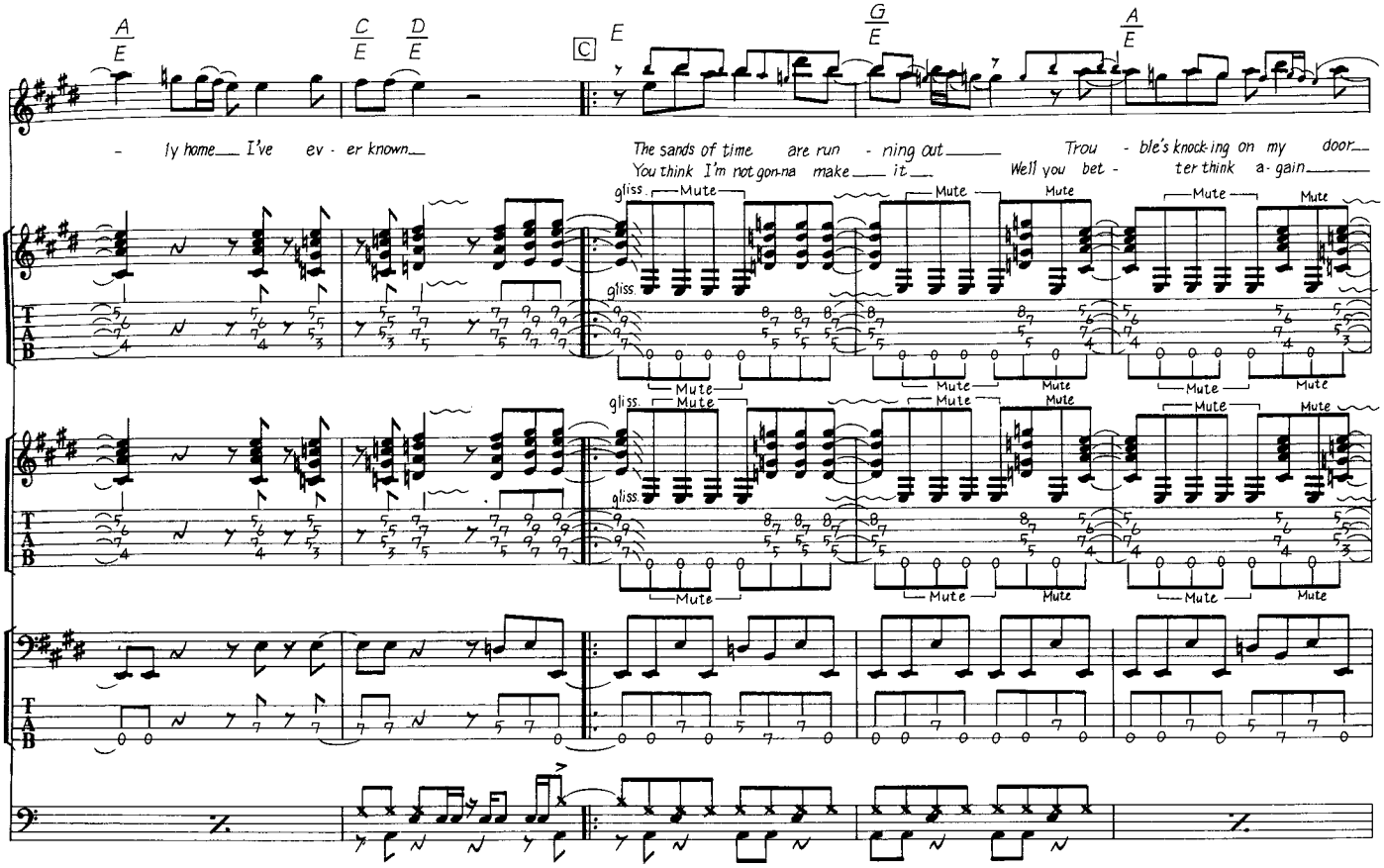
まずは、Cのバッキングをマスターする方法がいいだろう。Bでも同じコード進行で演奏しているのだが、Cでは6弦の開放音を使っているので、その分リズムも取り易いはずだ。C頭にシンコペーションしてくるコードEは、7フレットを人差指でバレーし、9フレットは薬指を寝かせて同時に押える形がベスト。3拍目からのコードは、5フレットを人差指で押えるバレー・スタイルで、$\frac{7}{4}$は薬指、$\frac{8}{2}$は小指で押えるコード・フォーム。この形はしばしば使われるタイプのモノなので、憶えておくと大変便利な形だ。2小節目最後のコードは、4フレットを人差指でバレーし、$\frac{7}{4}$小指、$\frac{6}{3}$薬指、$\frac{5}{2}$中指と押弦する。3・4小節目のコードCやDは、前述のEと同じ様に対処すればOK。また、ここではコード・トーンにヴィブラートを掛けているが、ヴィブラートする時に左手の指が浮き上り易いので、その点には要注意。

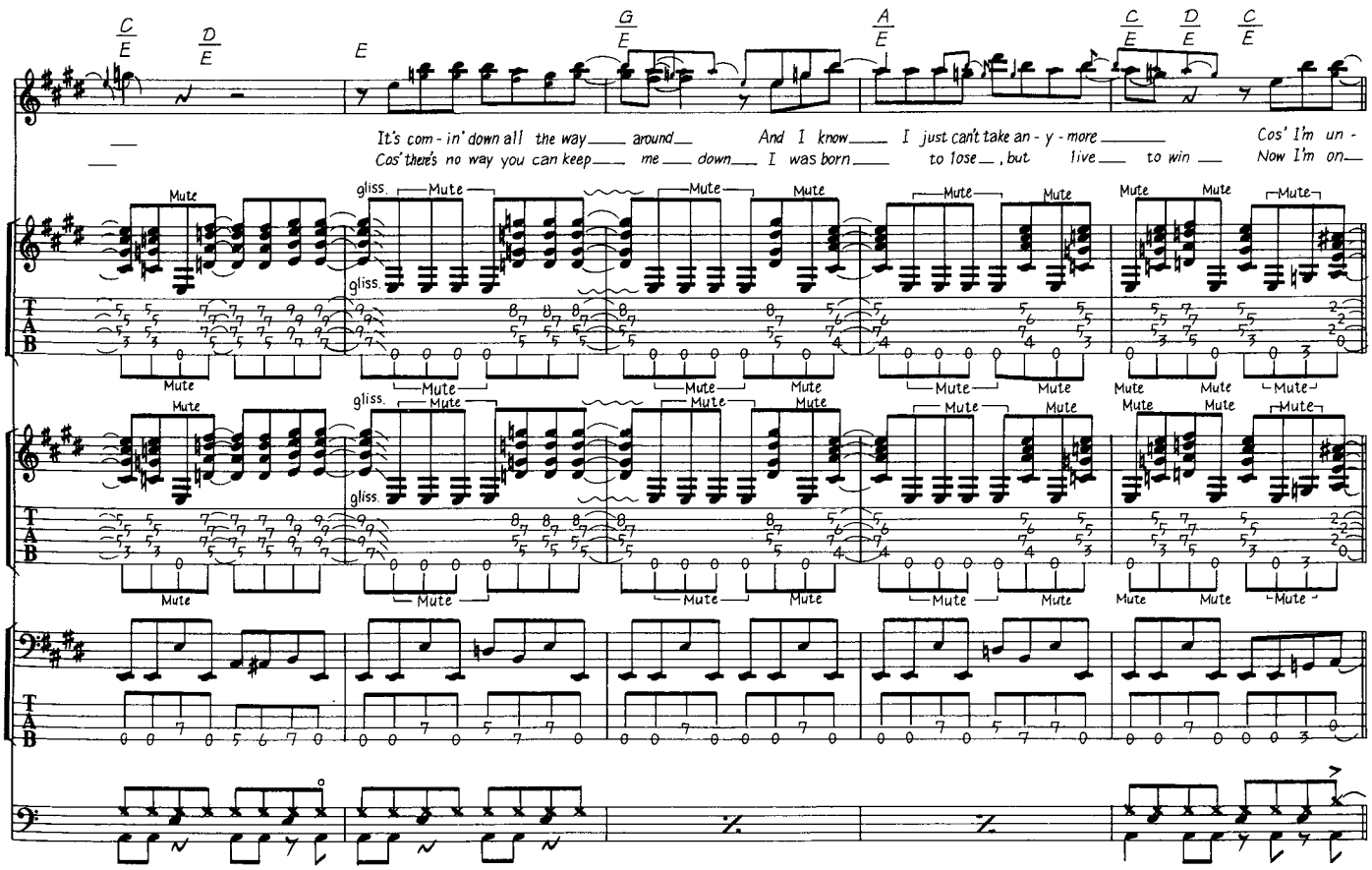
Fの7・8小節目は、ギター・ソロの第1難関である。1小節目は6連符の連続技で、この間のピッキングは正確なオルタネイト・ピッキングでクリアしよう。フィンガリングは次の通り。$\frac{15}{2}$＝薬指、$\frac{12}{2}$＝人差指、$\frac{15}{3}$＝薬指、$\frac{14}{3}$＝中指。これは、ラン奏法と言われているフレージング・パターンで、そのままの形を憶えておくと自分のアドリブ・プレイに役立つだろう。

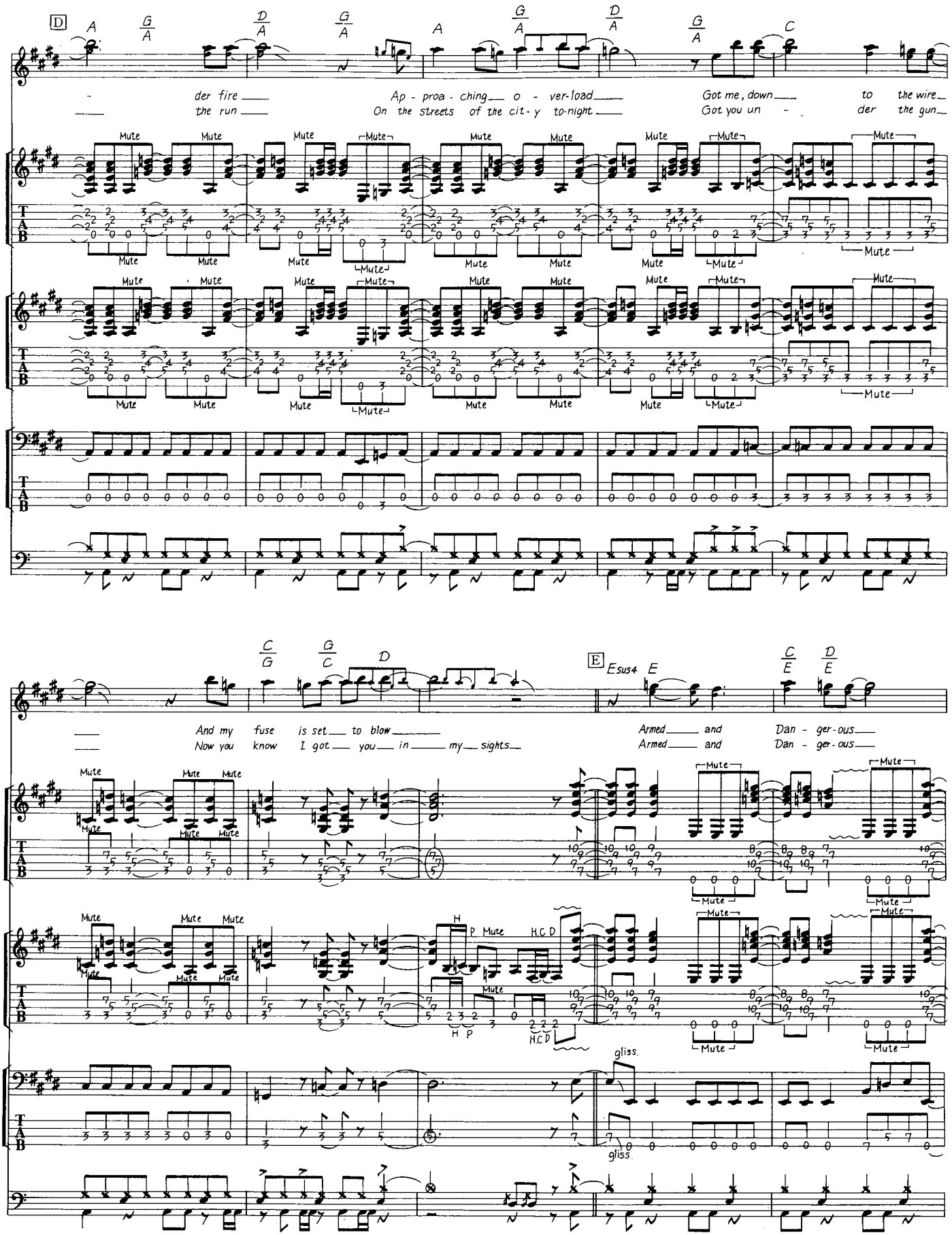


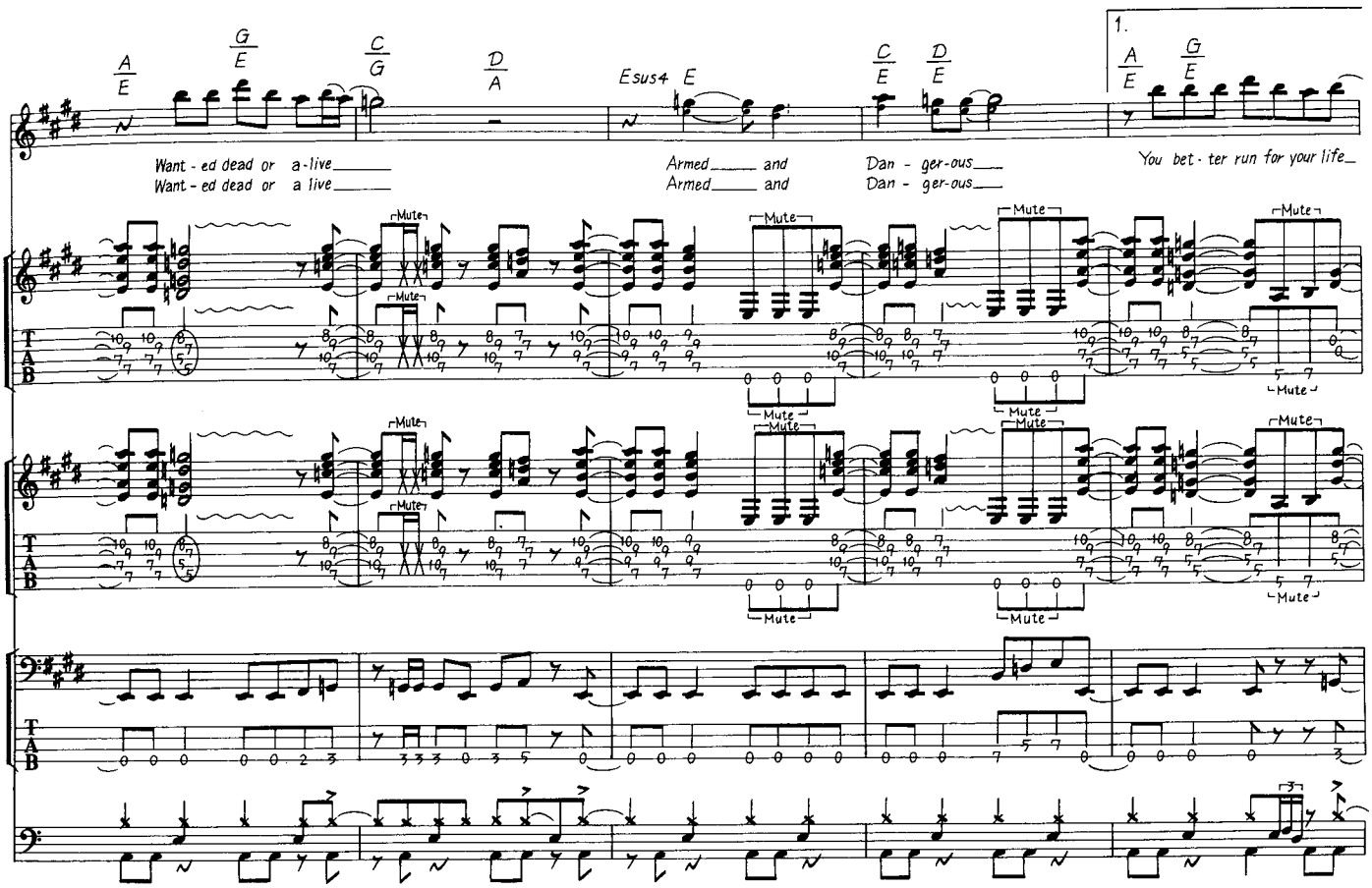
© 1987 by LION AND DREAM DEALERS MUSIC.
Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD.
AND TAIYO MUSIC, INC.

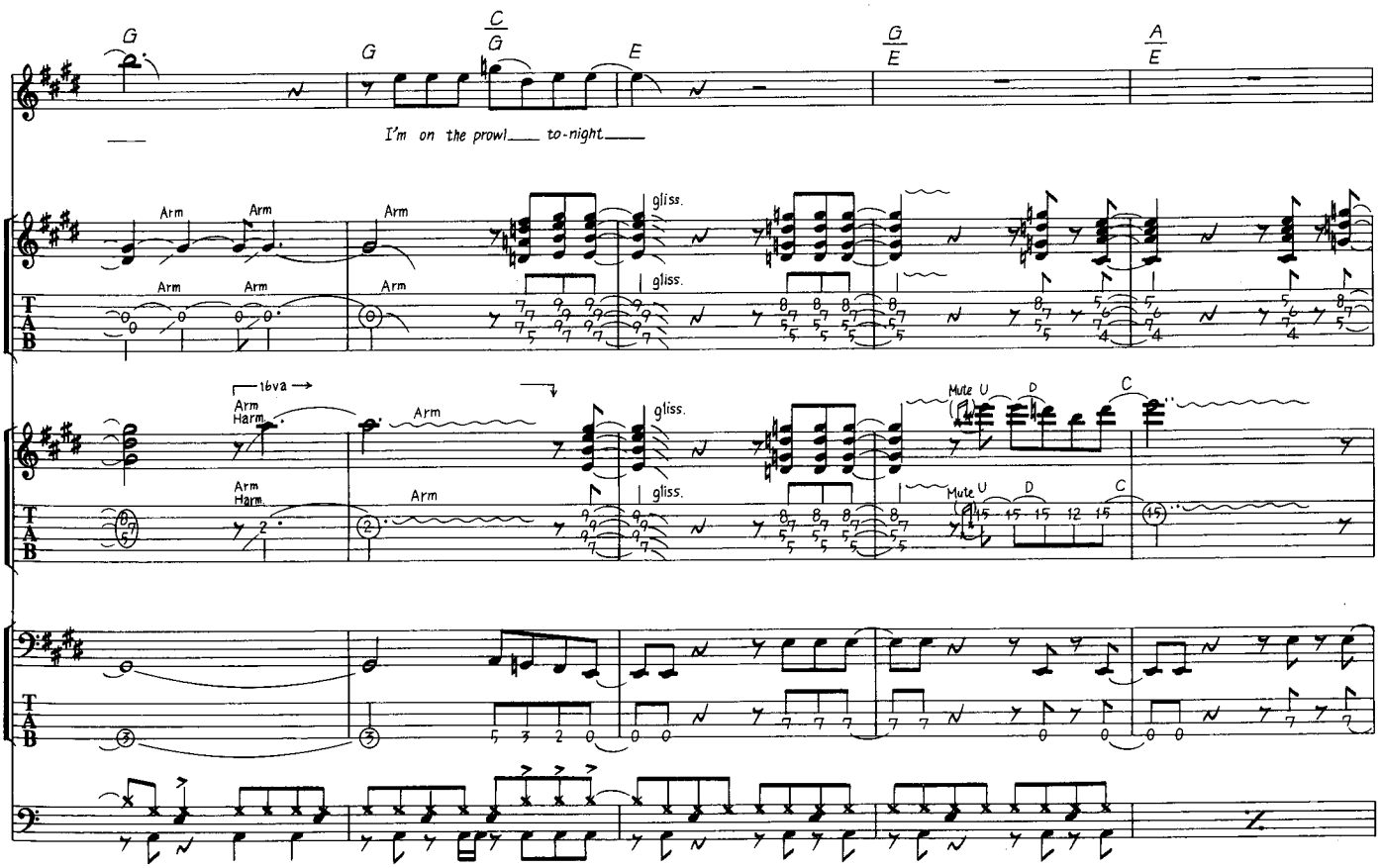

C/E
D/E
A/E
G/E
G
D E
B
E
I been caught in a cross
Mute
Arm
gliss.
H.C
Port.D
Ph
20
G/E
A/E
C/E
D/E
E
G/E
fire
Since the day
that I was born
Bet-ween a rock and a hard place
Is the on-

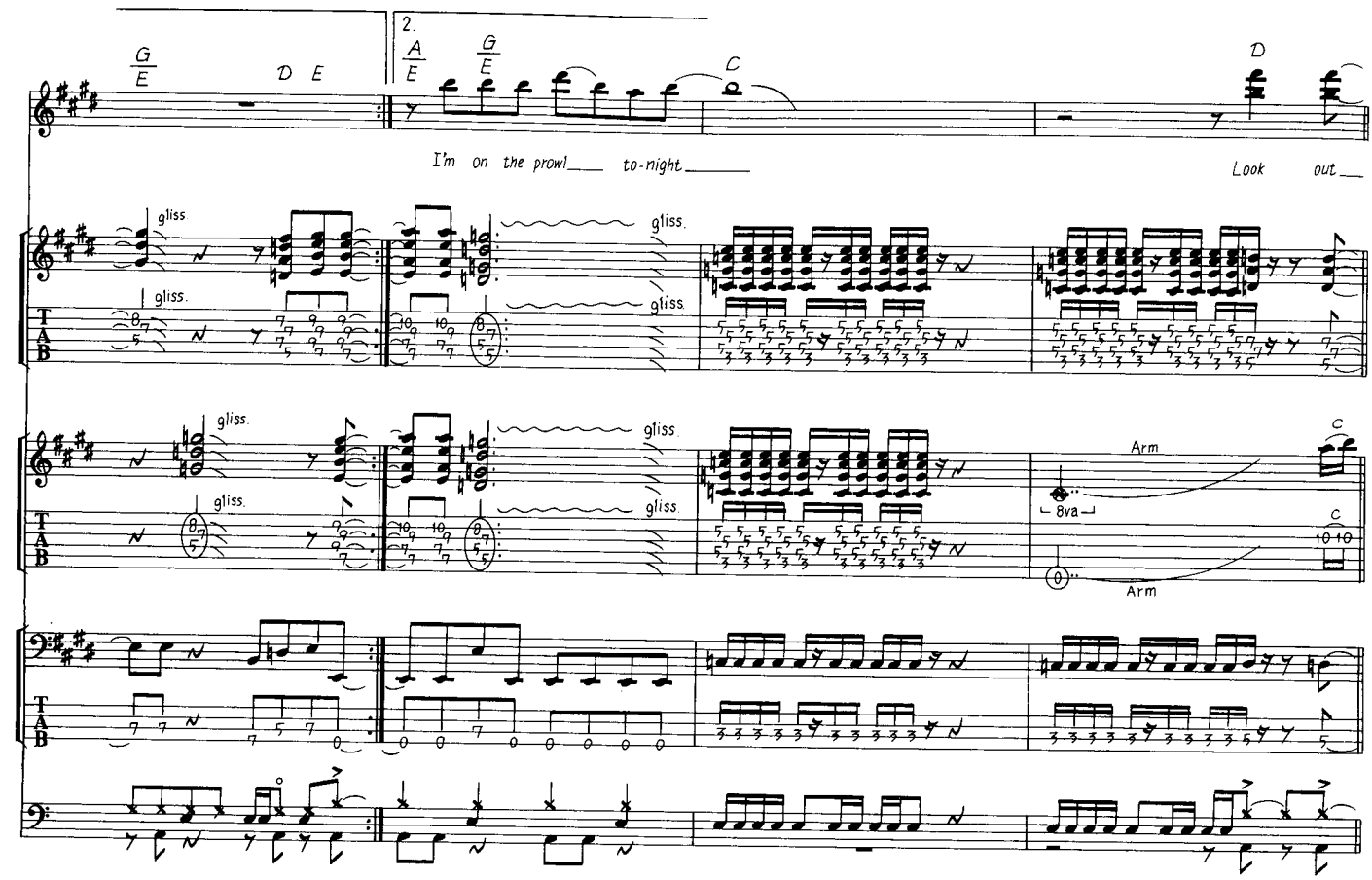

A/E
C/E
D/E
C
E
G/E
A/E
- ly home I've ev - er known
The sands of time are run - ning out Trou - ble's knock-ing on my door
You think I'm not gon-na make it Well you bet - ter think a - gain
gliss.
Mute
T
A
B

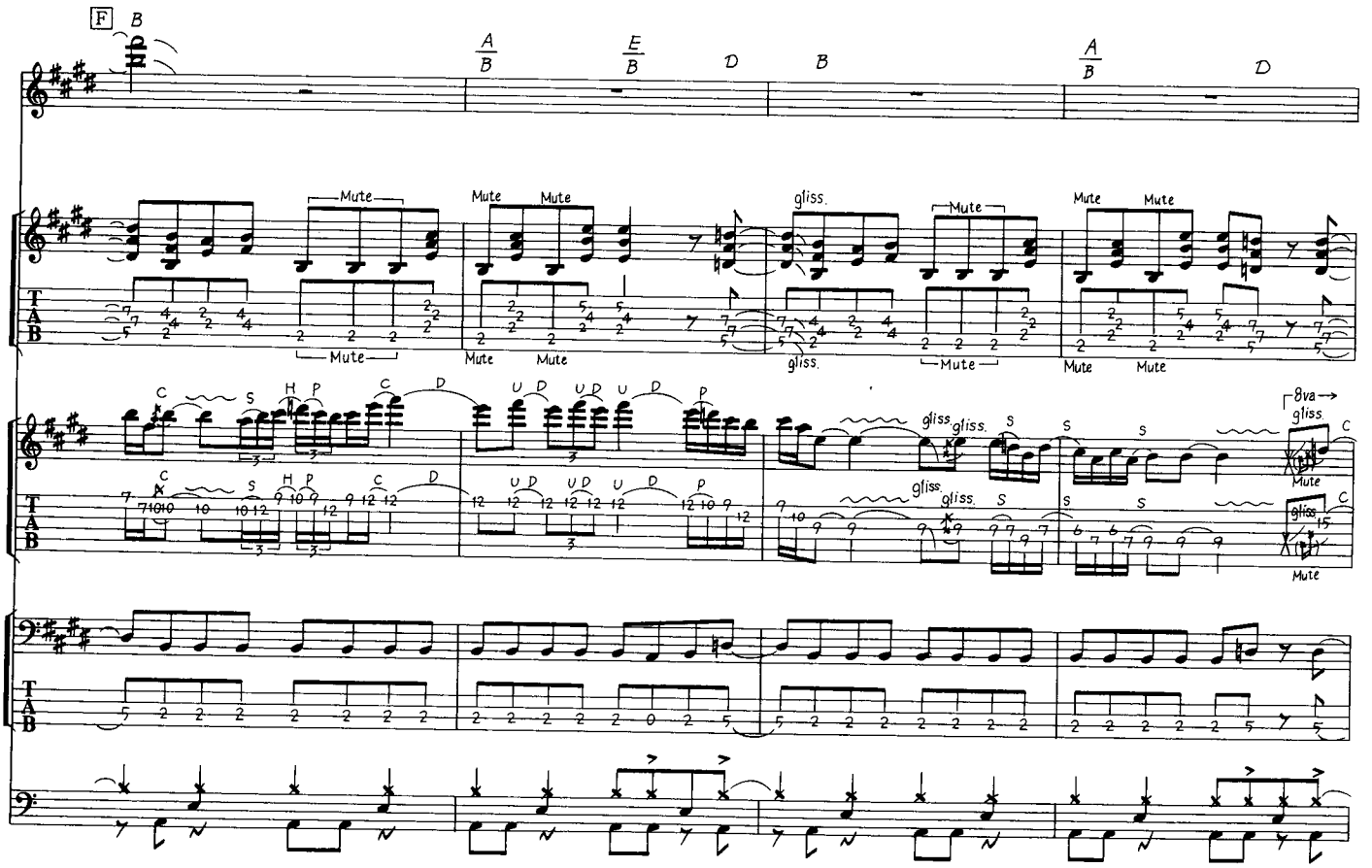

C/E
D/E
E
G/E
A/E
C/E
D/E
C/E
It's com - in' down all the way around And I know I just can't take an - y - more
Cos' there's no way you can keep me down I was born to lose, but live to win
Cos' I'm un -
Now I'm on
gliss.
Mute
T
A
B

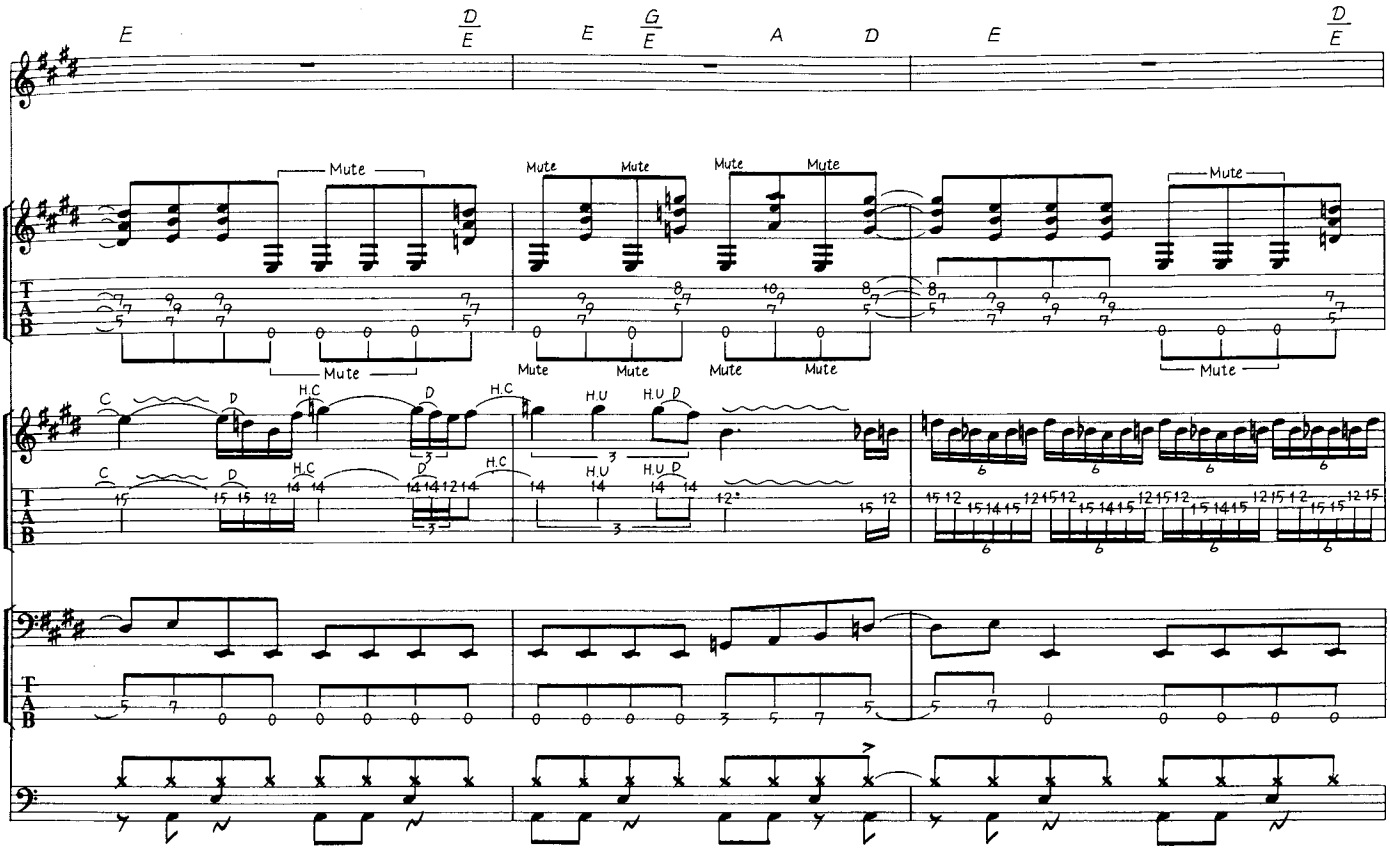

D
A
G/A
D/A
G/A
A
G/A
D/A
G/A
C
der fire
the run
Ap - proa - ching o - ver-load
On the streets of the cit-y to-night
Got me, down
Got you un -
to the wire
der the gun
Mute
T
A
B
C/G
G/C
D
E
Esus4
E
C/E
D/E
And my fuse is set to blow
Now you know I got you in my sights
Armed and Dan - ger-ous
Armed and Dan - ger-ous
H
P
H.C.D
gliss.

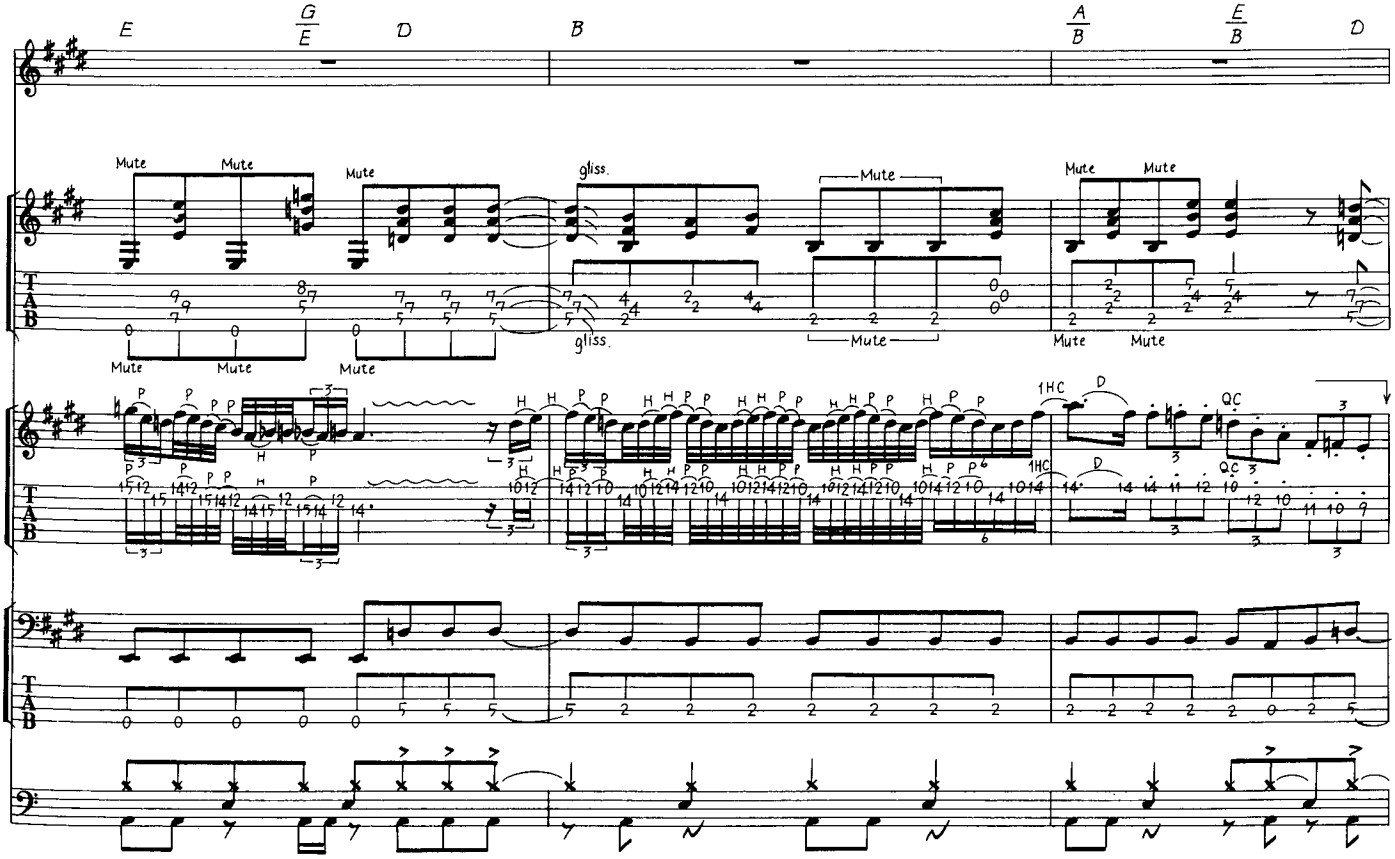

A/E
G/E
C/G
D/A
Esus4 E
C/E
D/E
1.
A/E
G/E
Want - ed dead or a - live
Want - ed dead or a live
Armed and
Armed and
Dan - ger - ous
Dan - ger - ous
You bet - ter run for your life
Mute
T
A
B

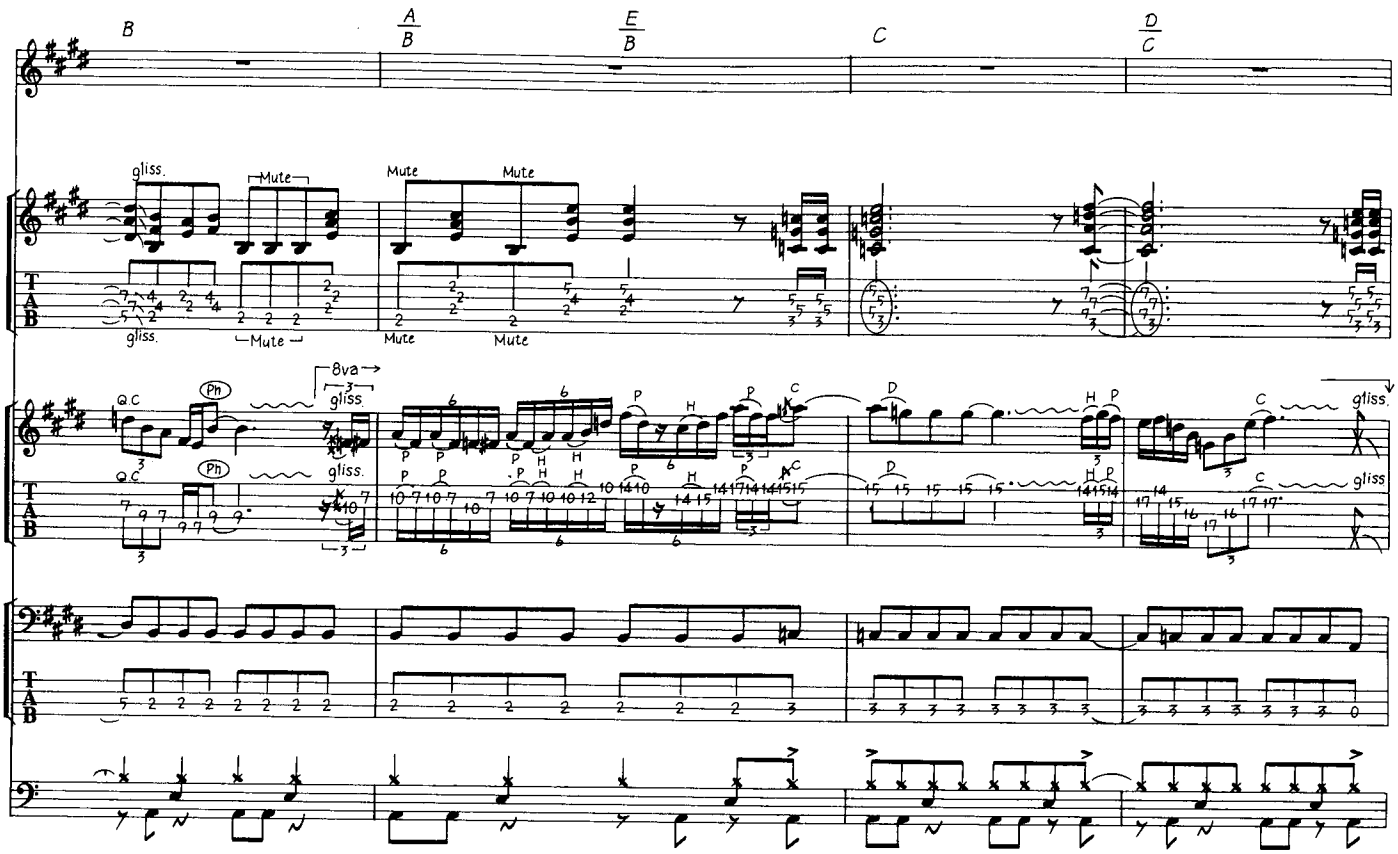

G
G
C/G
E
G/E
A/E
I'm on the prowl to - night
Arm
Arm Harm.
gliss.
16va
Mute U
D
C
T
A
B

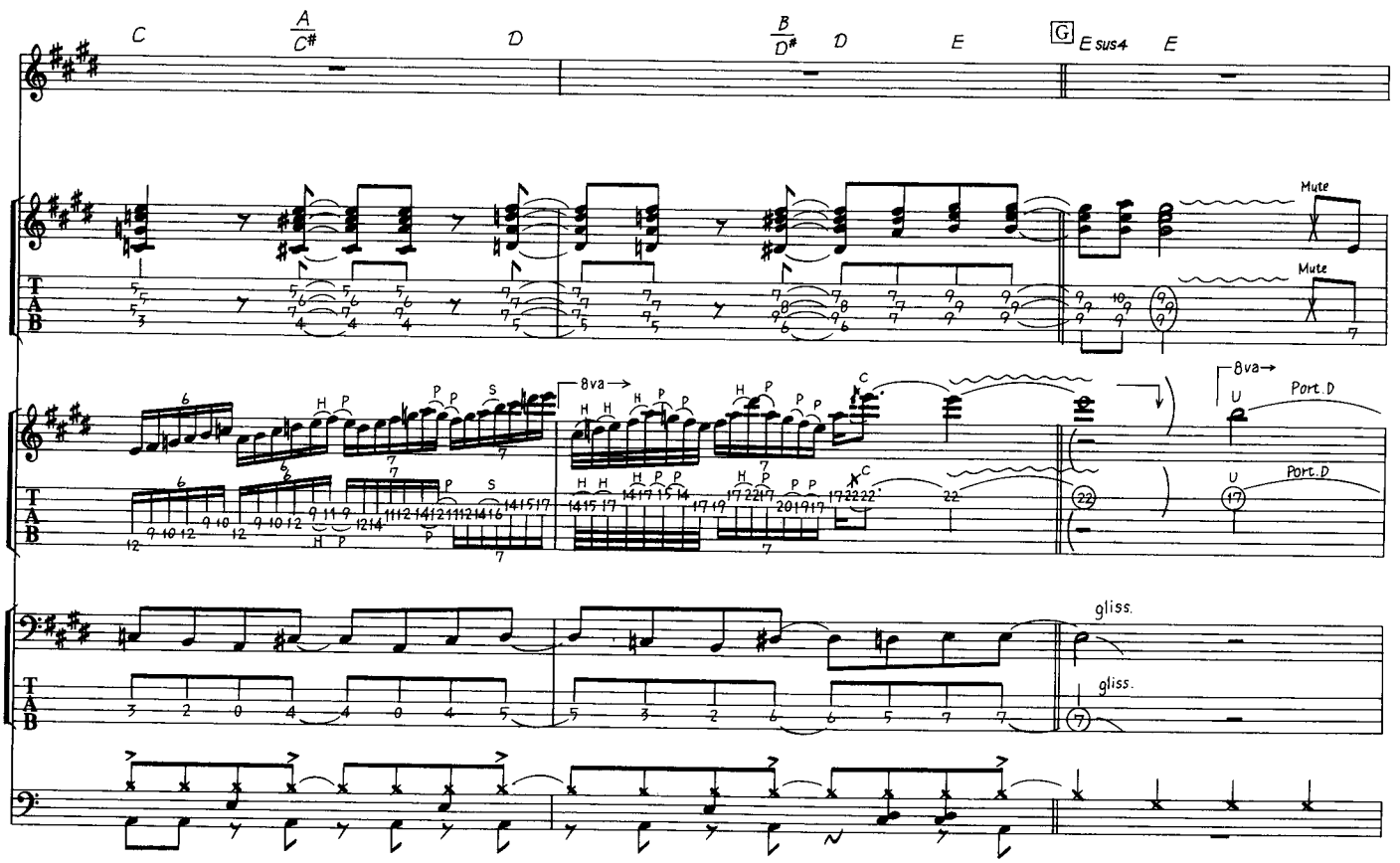

2.
I'm on the prowl___ to-night___
Look out___
gliss.
Arm
8va
Arm

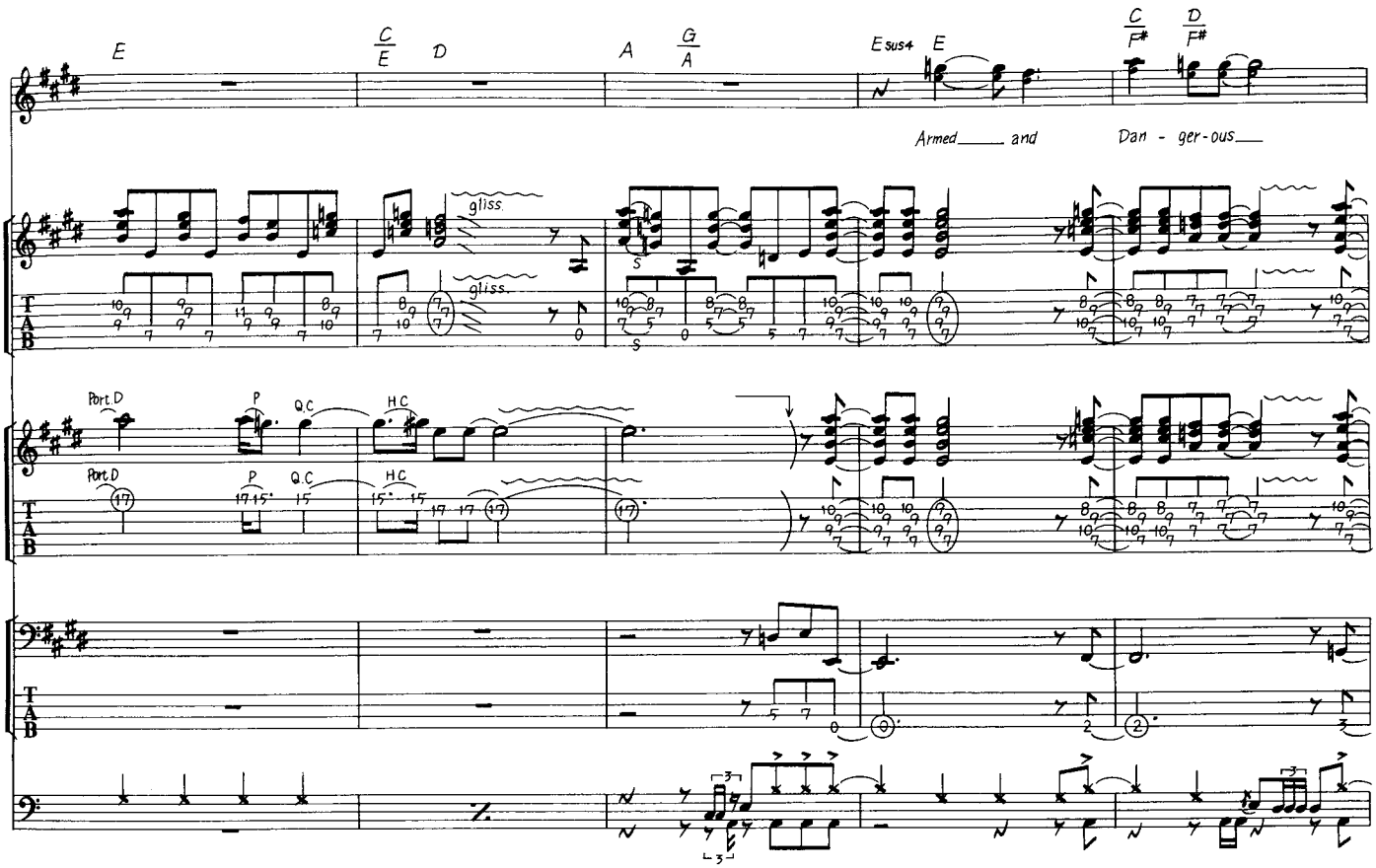

F
Mute
gliss.
8va
Mute

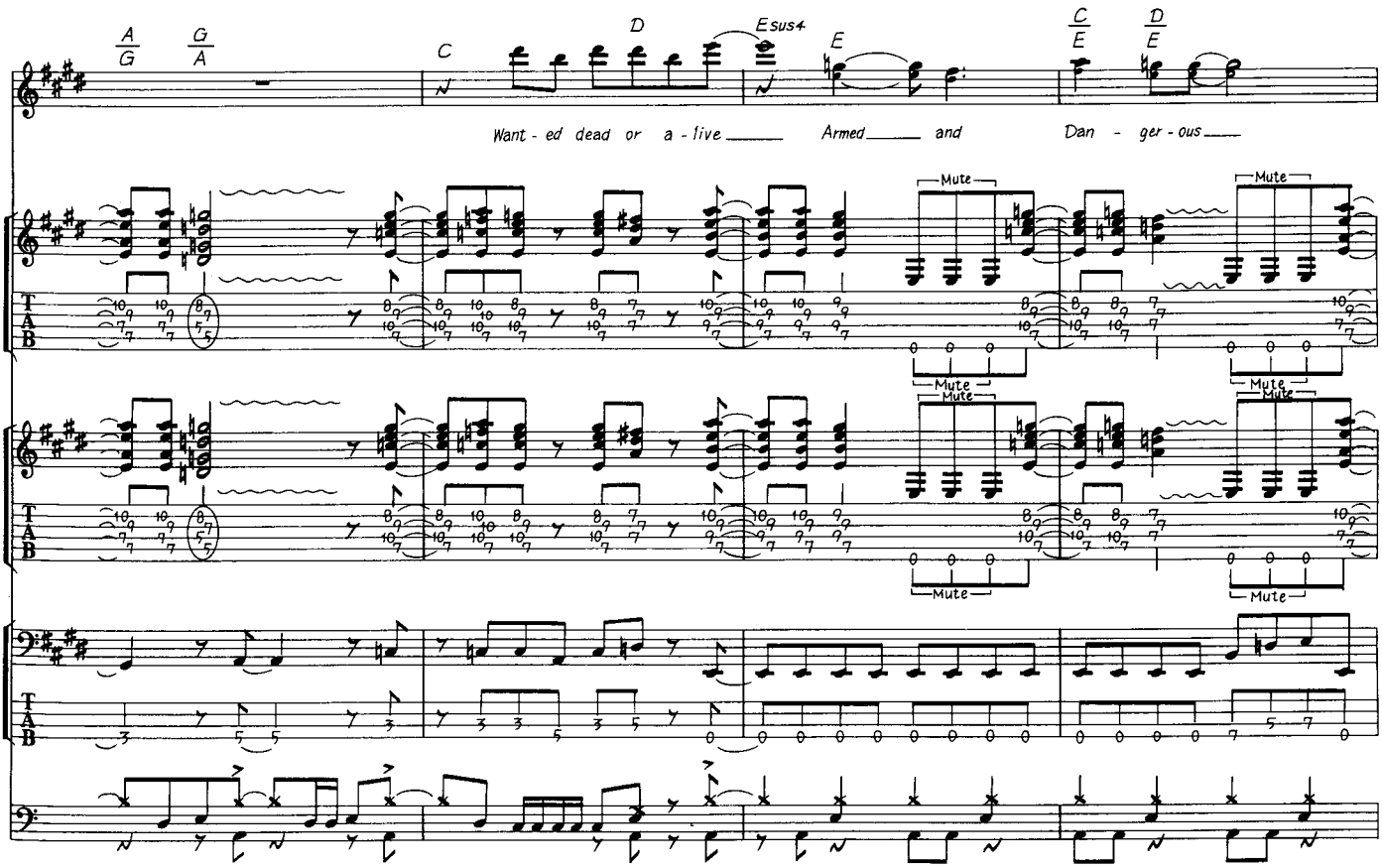

E
D/E
E
G/E
A
D
E
D/E
Mute
H.C
H.U
D
C

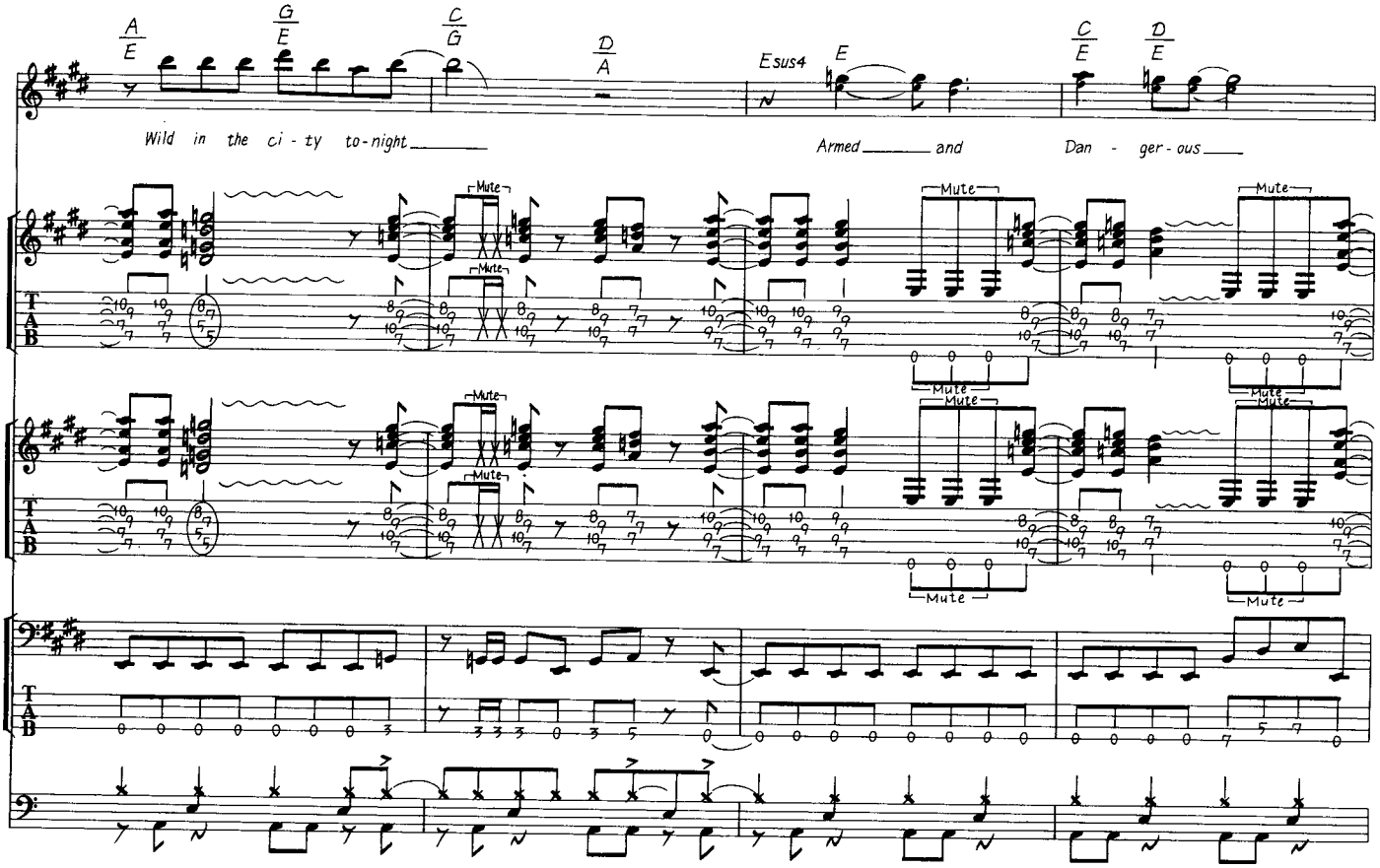

E
G/E
D
B
A/B
E/B
D
Mute
gliss.
1HC
QC
P
H

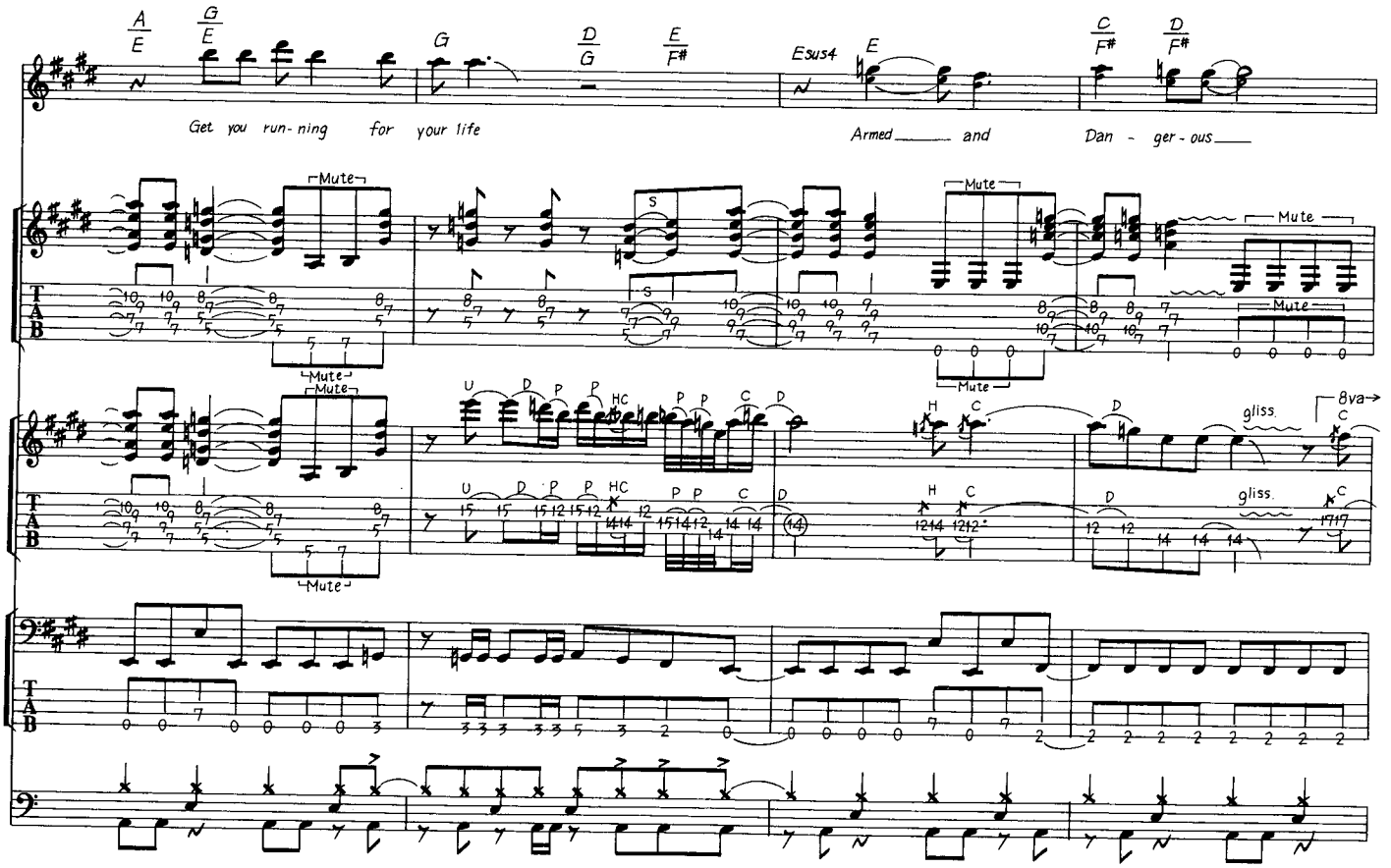

B
A/B
E/B
C
D/C
gliss.
Mute
Mute
Mute
Mute
Mute
Q.C
Ph
8va
gliss.
gliss.
gliss.
gliss.

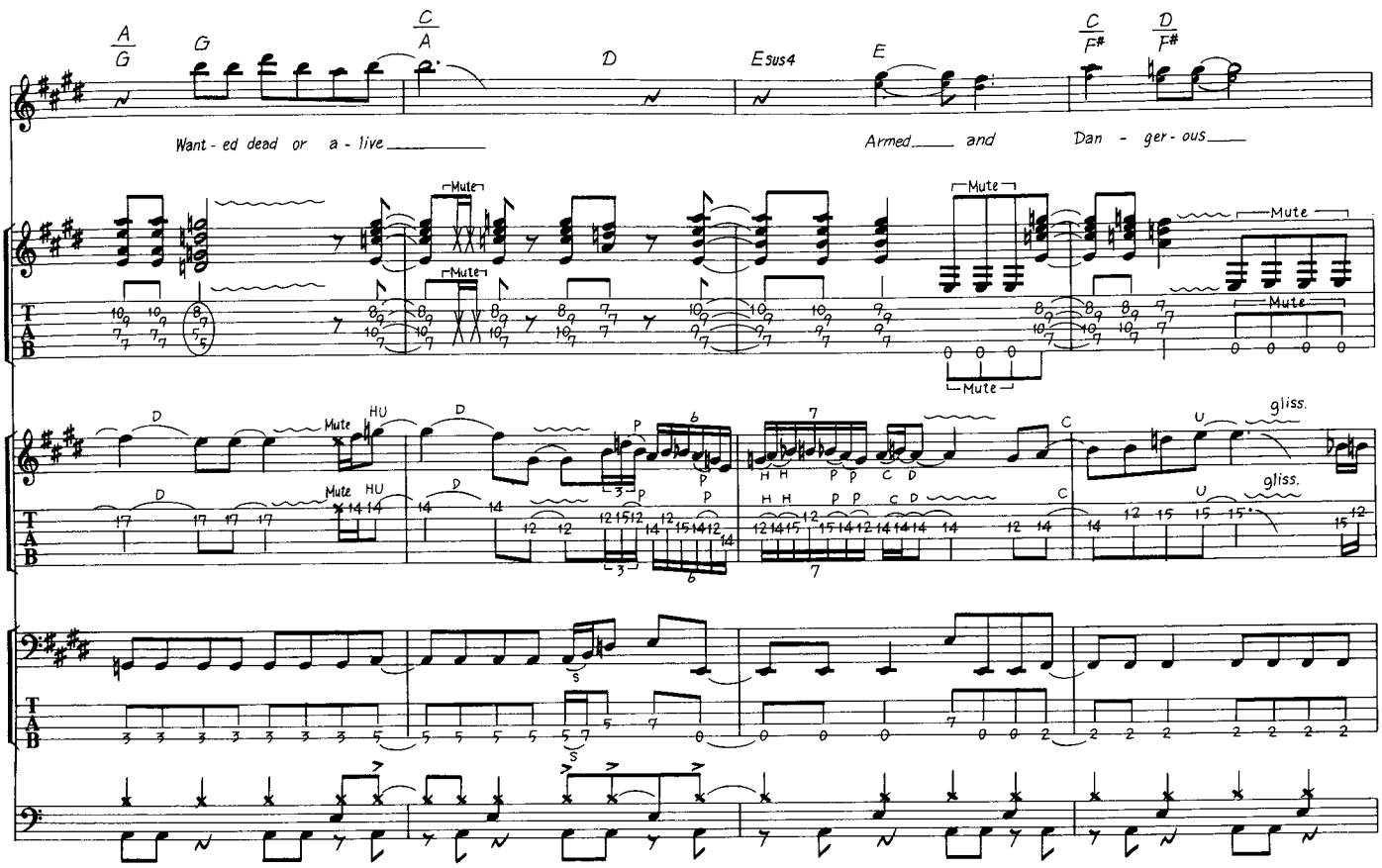

C
A/C#
D
B/D#
D
E
G
E sus4
E
Mute
Mute
8va
8va
Port.D
Port.D
gliss.
gliss.

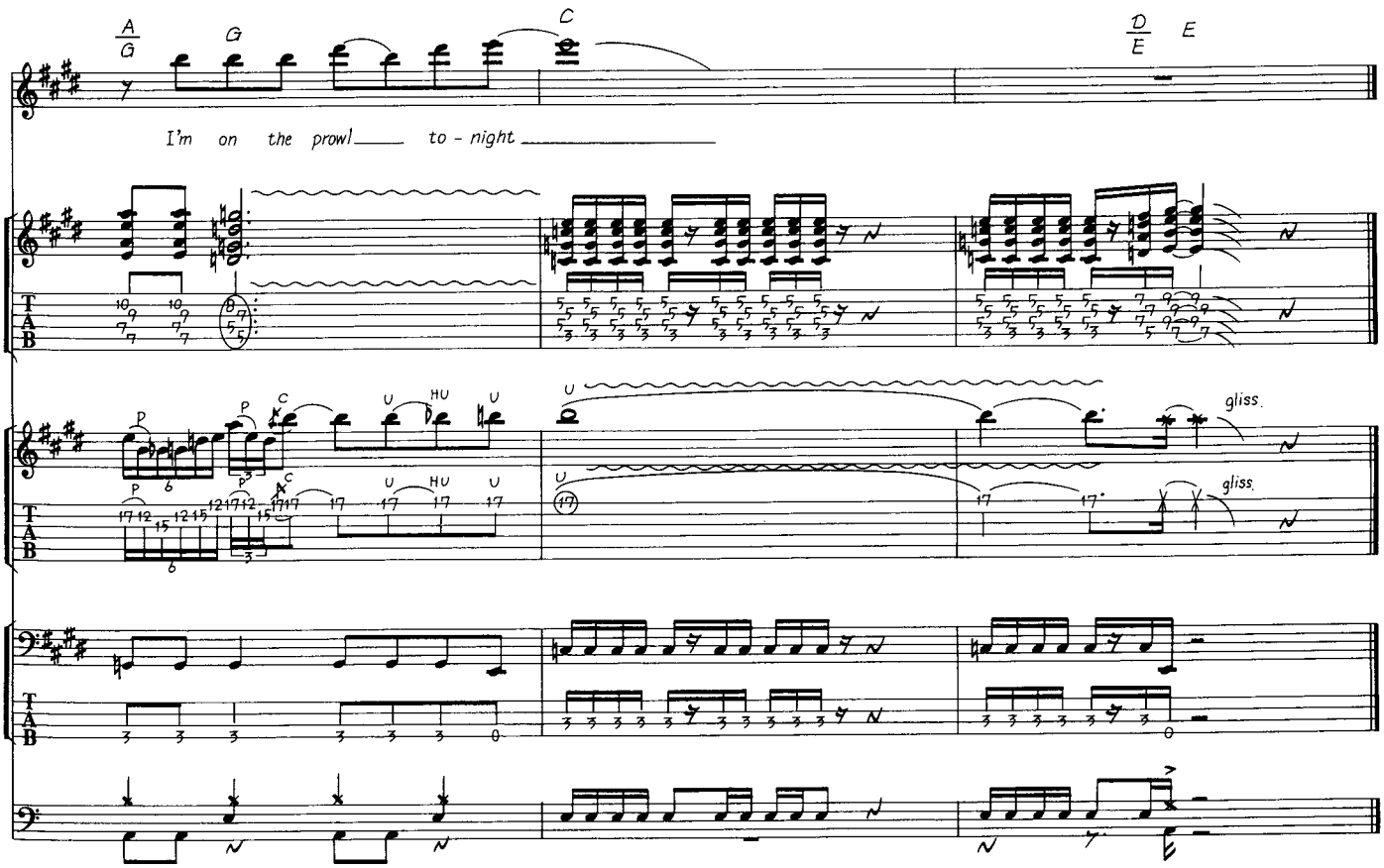

E
C/E
D
A
G/A
Esus4
E
C/F#
D/F#
Armed and Dan - ger - ous
gliss.
Port.D
P
Q.C
H.C


A/G
G/A
C
D
Esus4
E
C/E
D/E
Want - ed dead or a - live Armed and Dan - ger - ous
Mute


A/E
G/E
C/G
D/A
Esus4
E
C/E
D/E
Wild in the ci - ty to-night
Armed and
Dan - ger - ous
Mute
T
A
B


A/E
G/E
G
D/G
E/F#
Esus4
E
C/F#
D/F#
Get you run-ning for your life
Armed and
Dan - ger - ous
Mute
gliss.
8va
T
A
B


A/G
G
C/A
D
Esus4
E
C/F#
D/F#
Want - ed dead or a - live
Armed and Dan - ger - ous
Mute
HU
gliss.
T
A
B


A/G
G
C
D/E
E
I'm on the prowl to - night
gliss.
T
A
B

HARD AND HEAVY

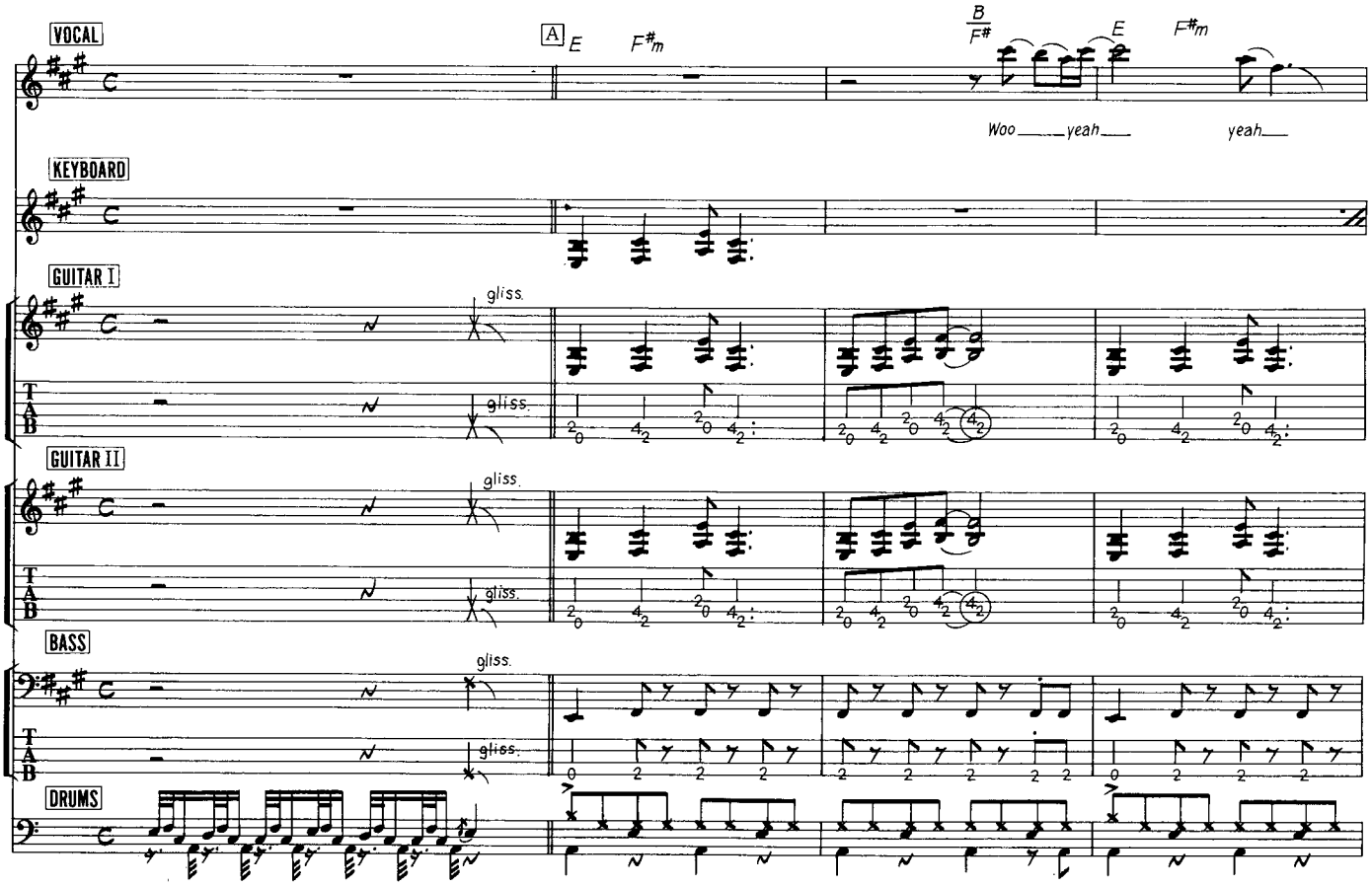
ハード・アンド・ヘヴィー

Words & Music by Kal Swan and Douglas Aldrich

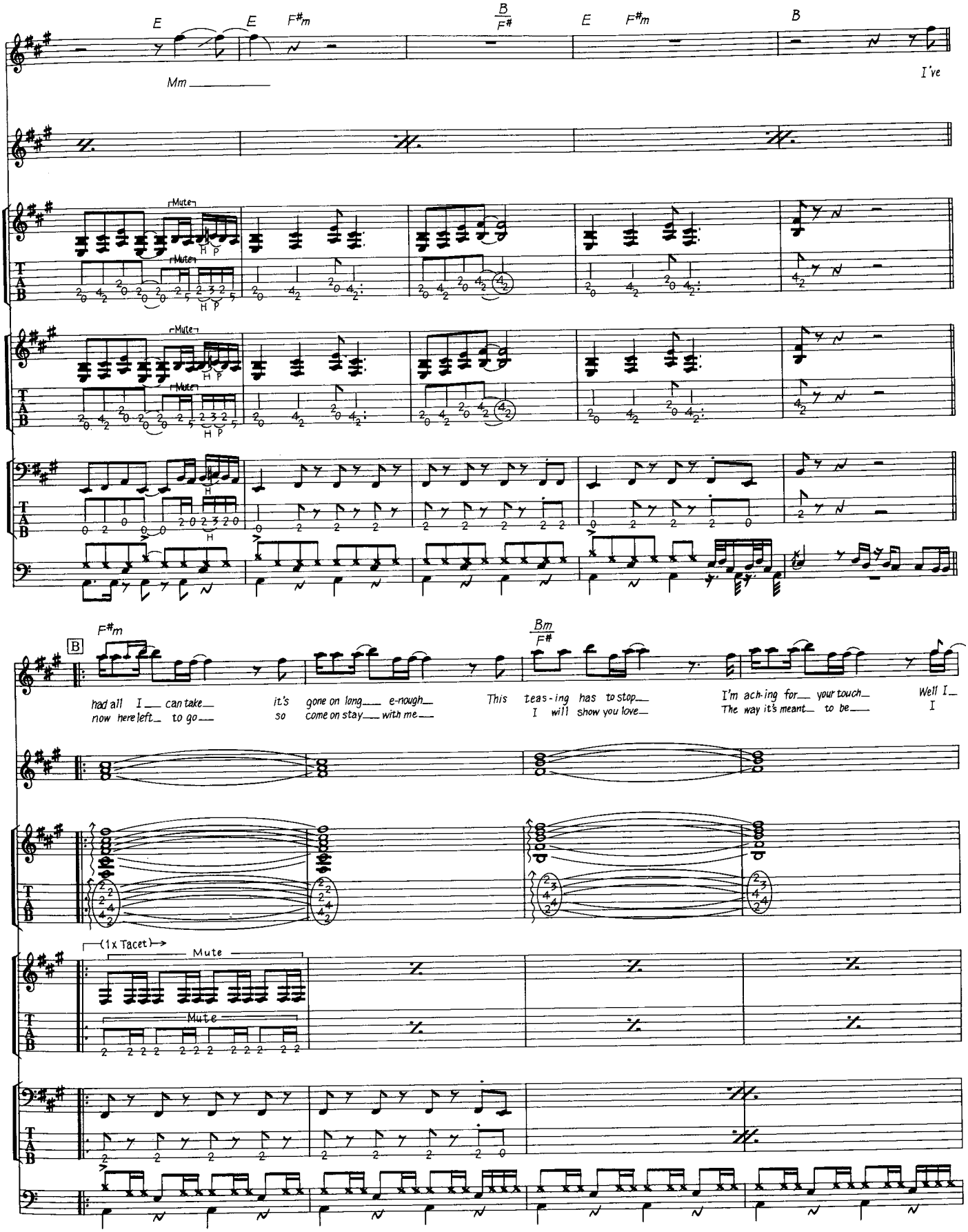
曲名と同じくハード&ヘヴィーなナンバーである。イントロの8小節間はディストーションの効いたギター・サウンドを使うが、Bのギター上段は、多少歪んではいるものの比較的クリアなサウンドなので、両者を使い分けること。このクリアな音は、Cの手前まで続き、アームの部分からは再びディストーション・サウンドである。音色の使い分け方としては、アンプで歪ませておく方法とエフェクターを使って歪ませる方法の2通りがある。前者はギターのヴォリュームを最大にした時にアンプ側で歪むようにセッティングしておき、ヴォリュームを若干下げた時には、比較的クリアなサウンドに近い音色に設定しておく。後者の場合は、アンプの歪みは抑えておき、ディストーション・サウンドが必要な時にはエフェクターをオンにすればいい訳だ。もちろん、アンプ自体で両者を使い分けることのできるタイプは、その機構を活用すればOK。

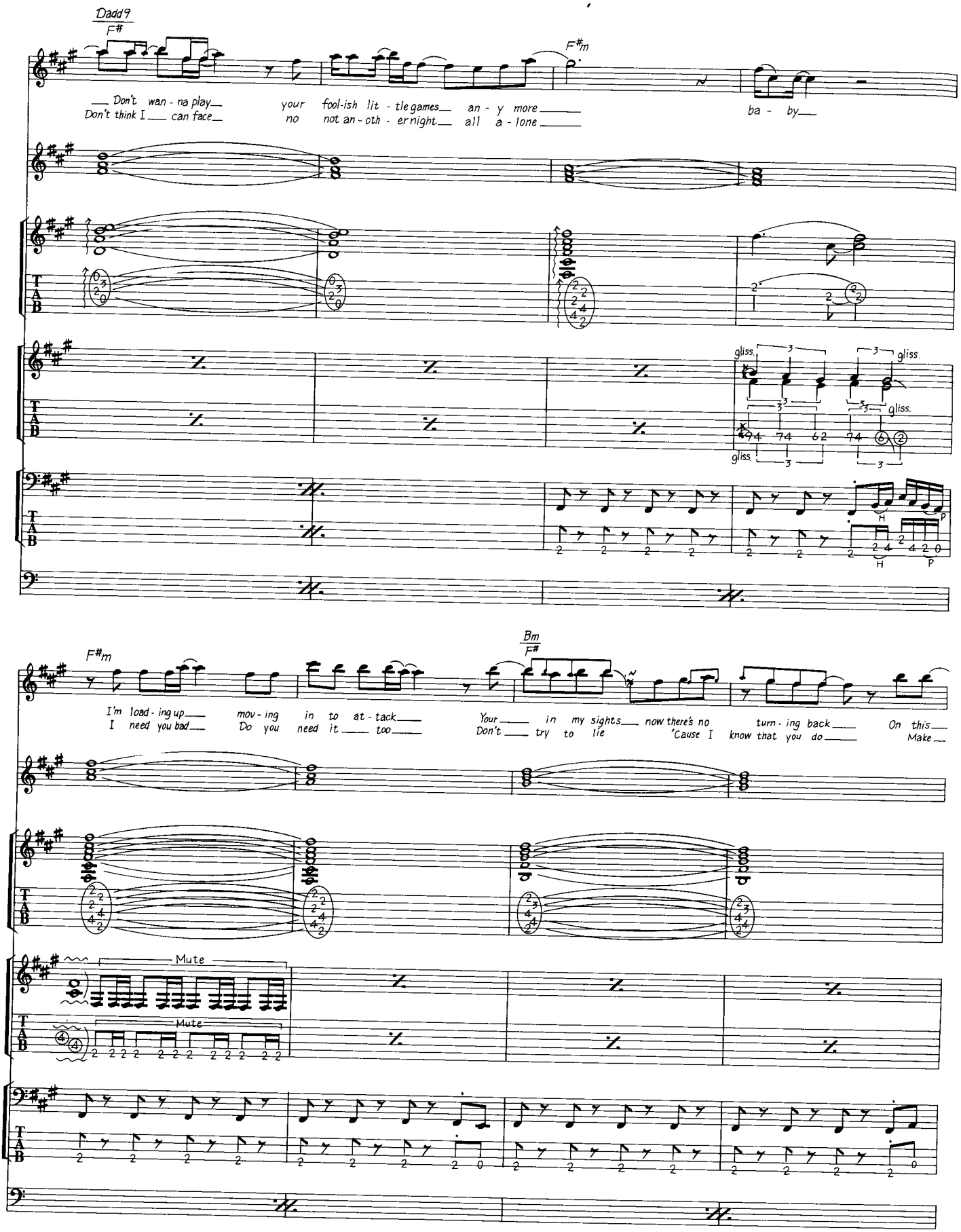
次に、奏法的な部分を確認しておこう。Eの2小節目にあるハーモニクスは、右手を使うテクニック。つまり、1小節目最後で弾いた$\frac{4}{4}$F♯音をそのまま押えておき、それより12フレット上の4弦16フレットを右手の指で叩く奏法である。この時右手で叩くポイントは、フレットの真上で、うまくハーモニクスを出すコツは叩いたらす速く指を引き上げることである。

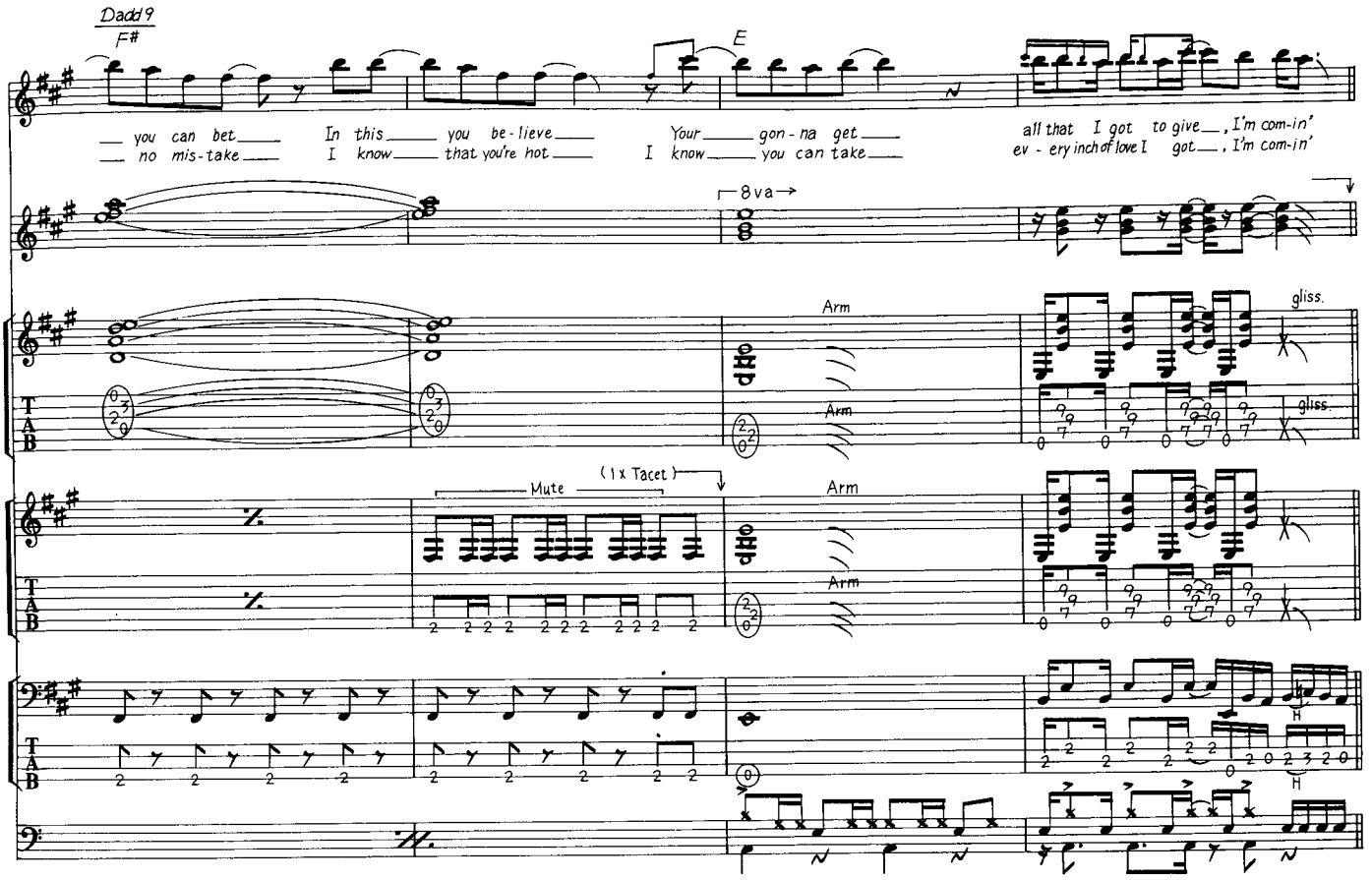
続いてはFの7小節目。ここでは、ライト・ハンド奏法が使われている。ポジショニングは、2種類で「$\frac{12}{1}$人差指・$\frac{13}{1}$中指・$\frac{14}{1}$薬指・$\frac{19}{1}$右手・$\frac{14}{2}$薬指」と「$\frac{12}{2}$人差指・$\frac{13}{2}$中指・$\frac{14}{2}$薬指・$\frac{19}{2}$右手・$\frac{14}{3}$薬指」という具合になる。$\frac{14}{2}$や$\frac{14}{3}$は、弦移動してハンマリングやプリングできない部分だが、これは左手の薬指をいきなりそのポジションに叩きつける方法で音を出す。次の小節にかけて1音チョーキングしている所は、$\frac{14}{2}$薬指→$\frac{19}{2}$右手とつなげた後に$\frac{19}{2}$を押えたまま左手薬指で弦を押し上げるテクニックだ。

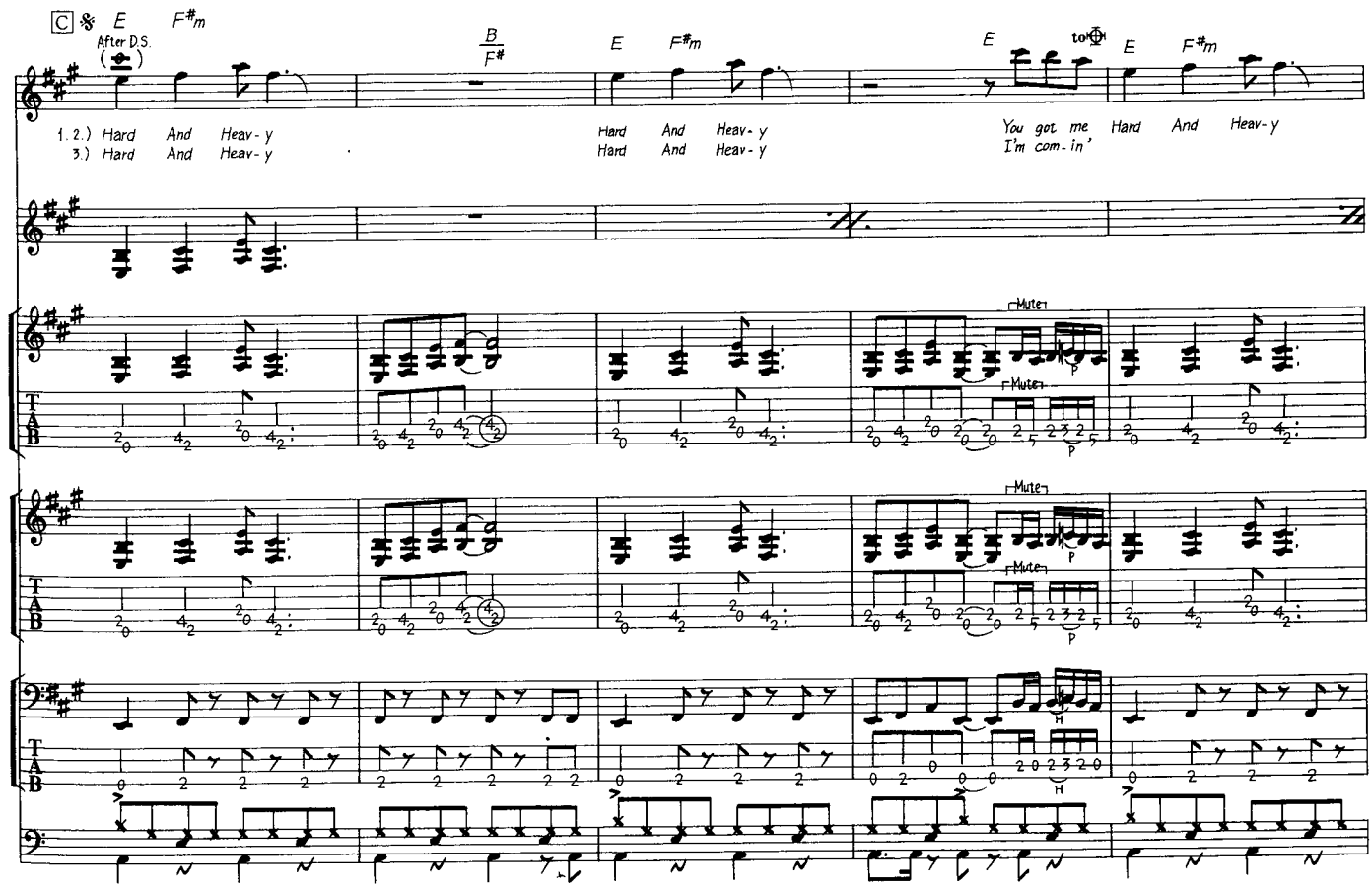


© 1987 by LION
Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

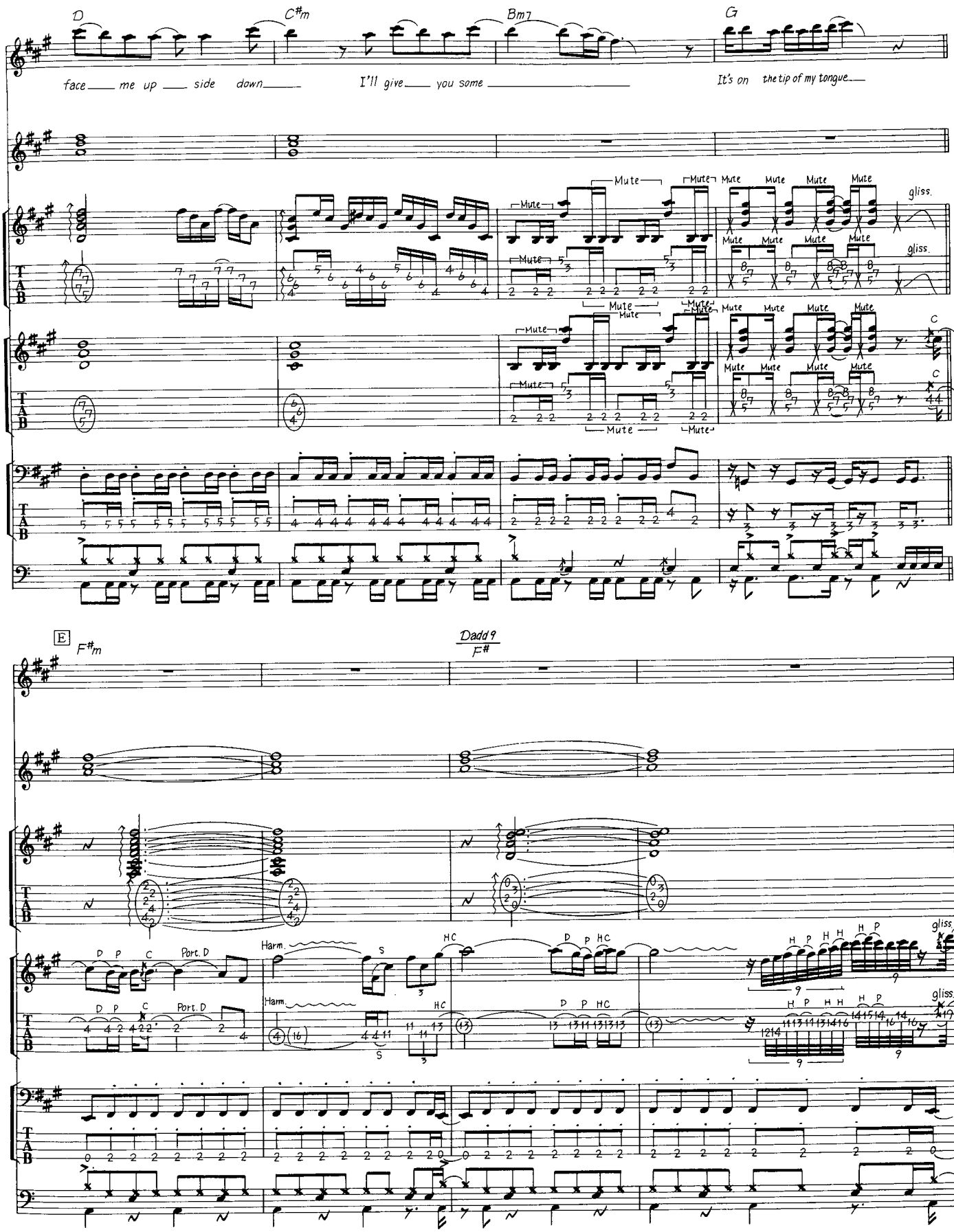

E
E
F#m
B
F#
E
F#m
B
Mm
I've
Mute
H P
B
F#m
Bm
F#
had all I can take
now here left to go
it's gone on long e-nough
so come on stay with me
This teas-ing has to stop
I will show you love
I'm ach-ing for your touch
The way it's meant to be
Well I
I
(1x Tacet)
Mute
Mute

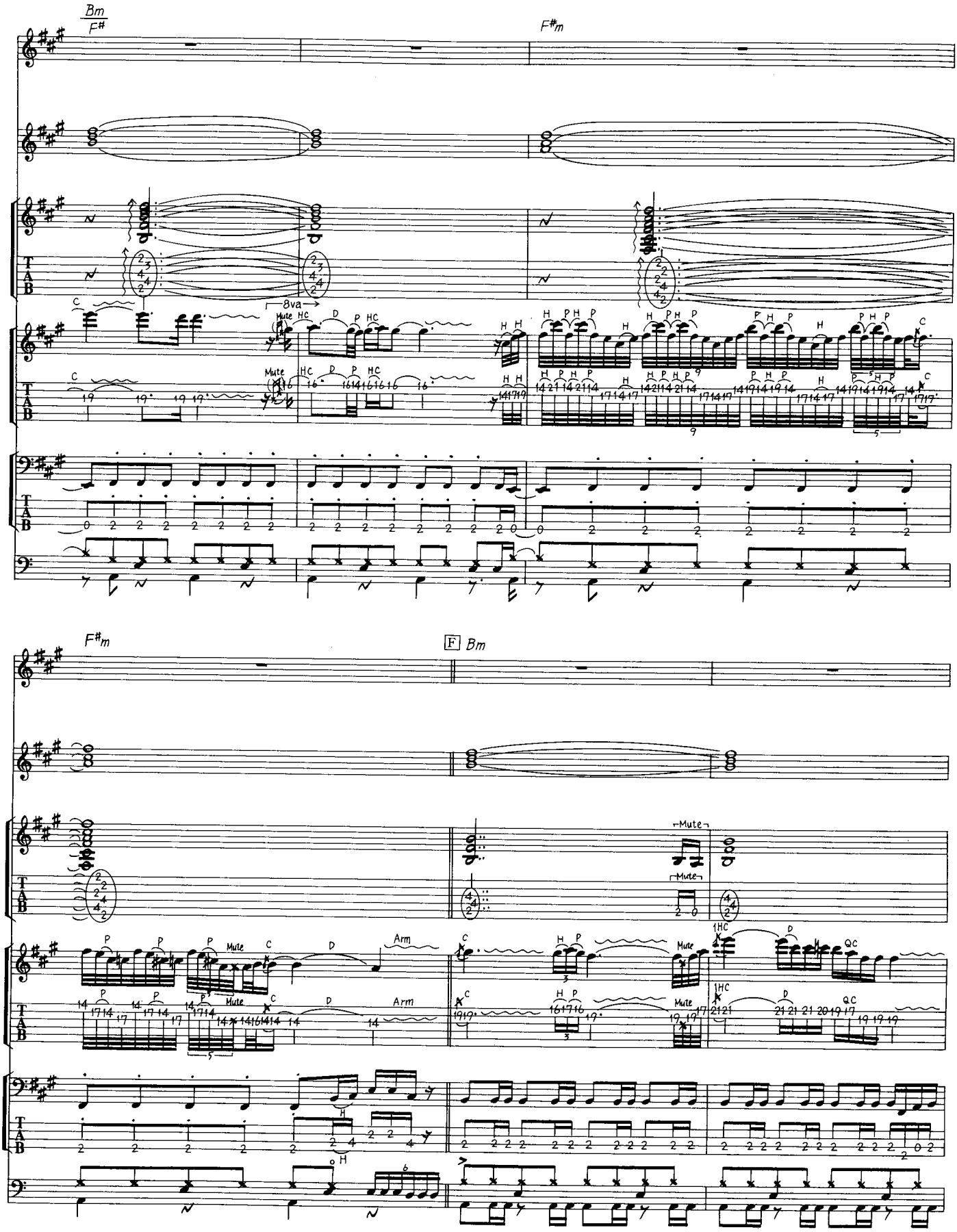

Dadd9
F#
F#m
Don't wan - na play
Don't think I can face
your fool-ish lit - tle games an - y more
no not an - oth - er night all a - lone
ba - by
gliss.
gliss.
gliss.
gliss.
H
P
32
F#m
Bm
F#
I'm load - ing up
I need you bad
mov - ing in to at - tack
Do you need it too
Your in my sights now there's no turn - ing back
Don't try to lie 'Cause I know that you do
On this
Make
Mute
Mute

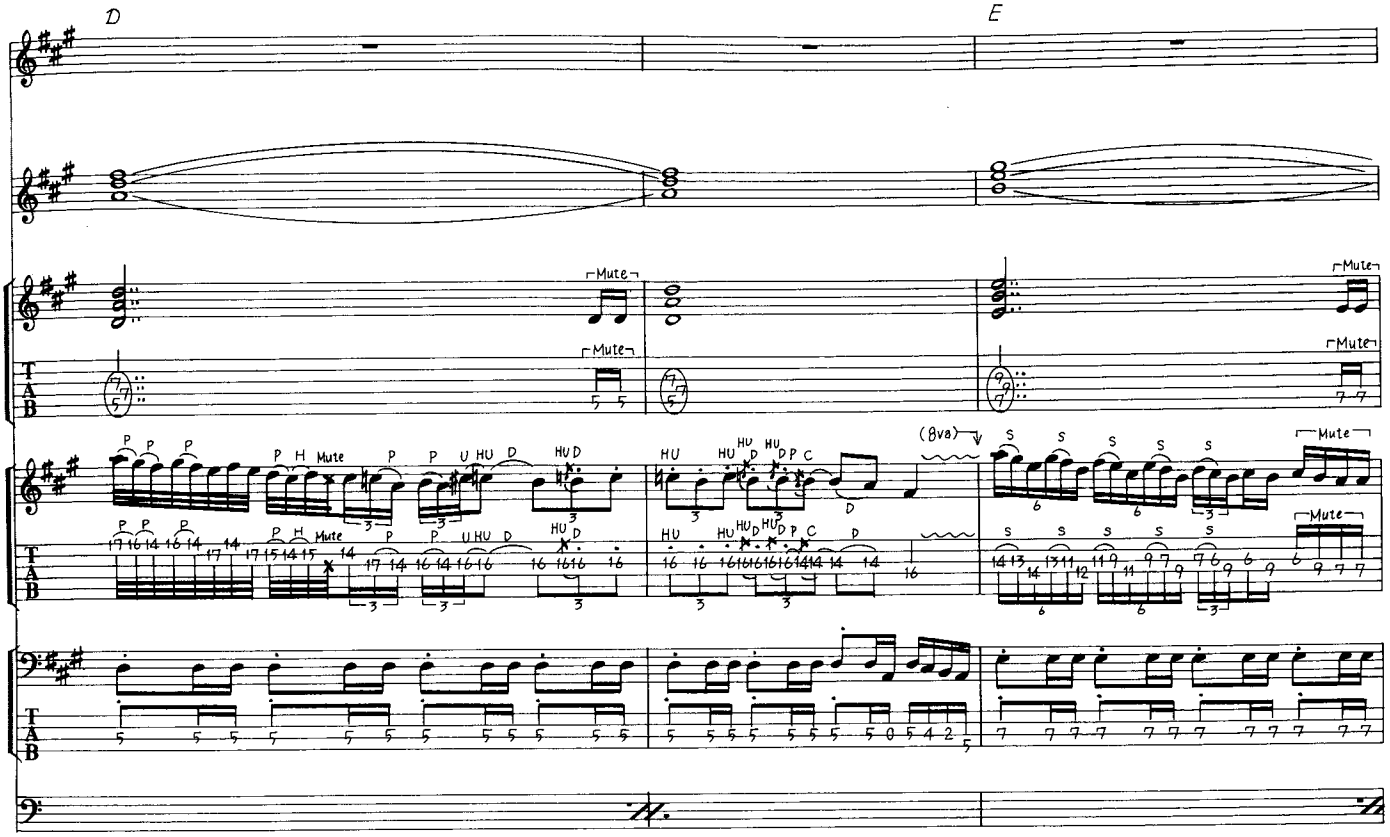

Dadd9
F#
E
you can bet
no mis-take
In this
I know
you be-lieve
that you're hot
Your
I know
gon-na get
you can take
all that I got to give, I'm com-in'
ev-ery inch of love I got, I'm com-in'
8va
Arm
gliss.
Mute
(1x Tacet)
H

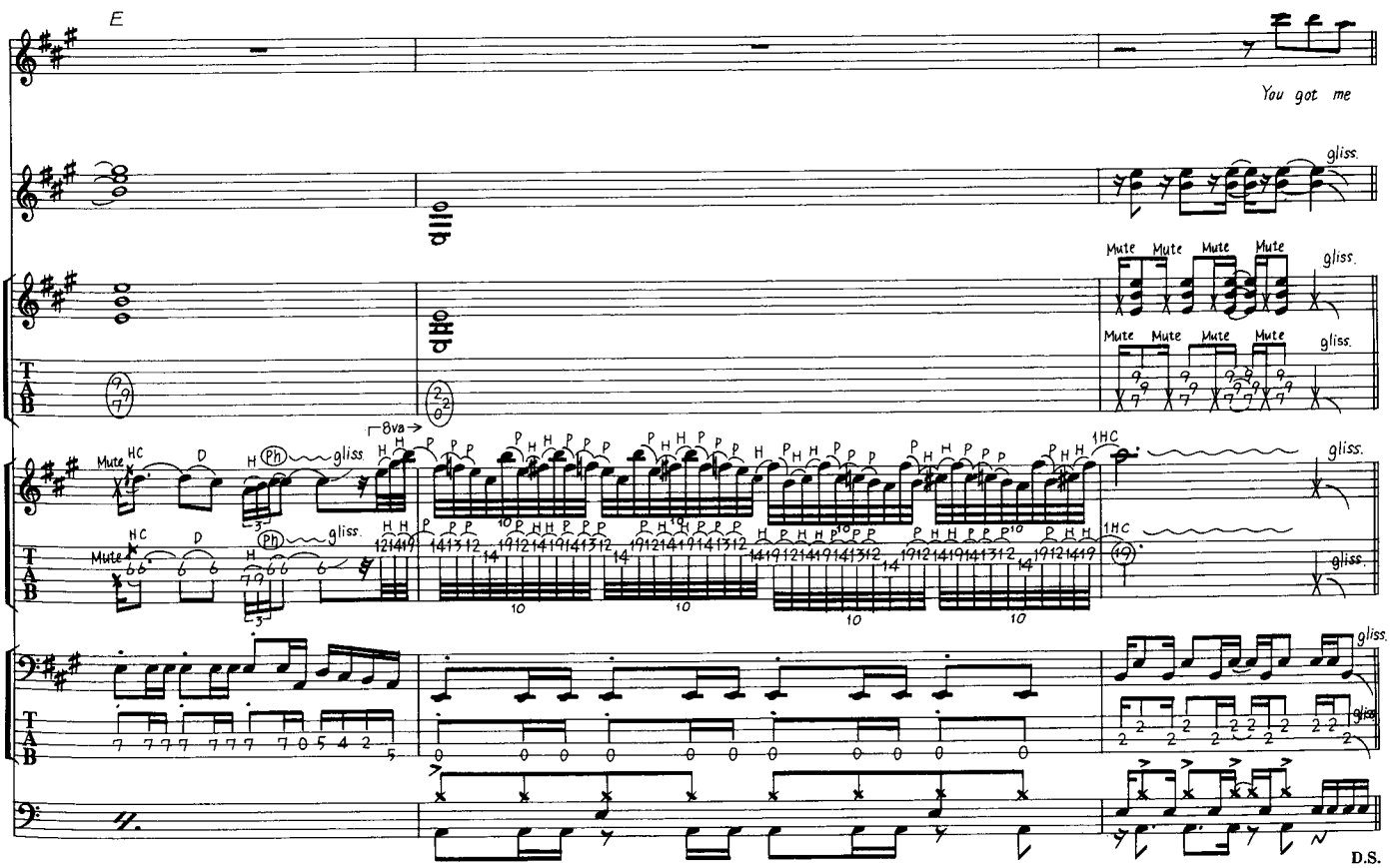

C
After D.S.
E
F#m
B
F#
1.2.) Hard And Heav-y
3.) Hard And Heav-y
Hard And Heav-y
Hard And Heav-y
to
You got me
I'm com-in'
Hard And Heav-y
Mute
H

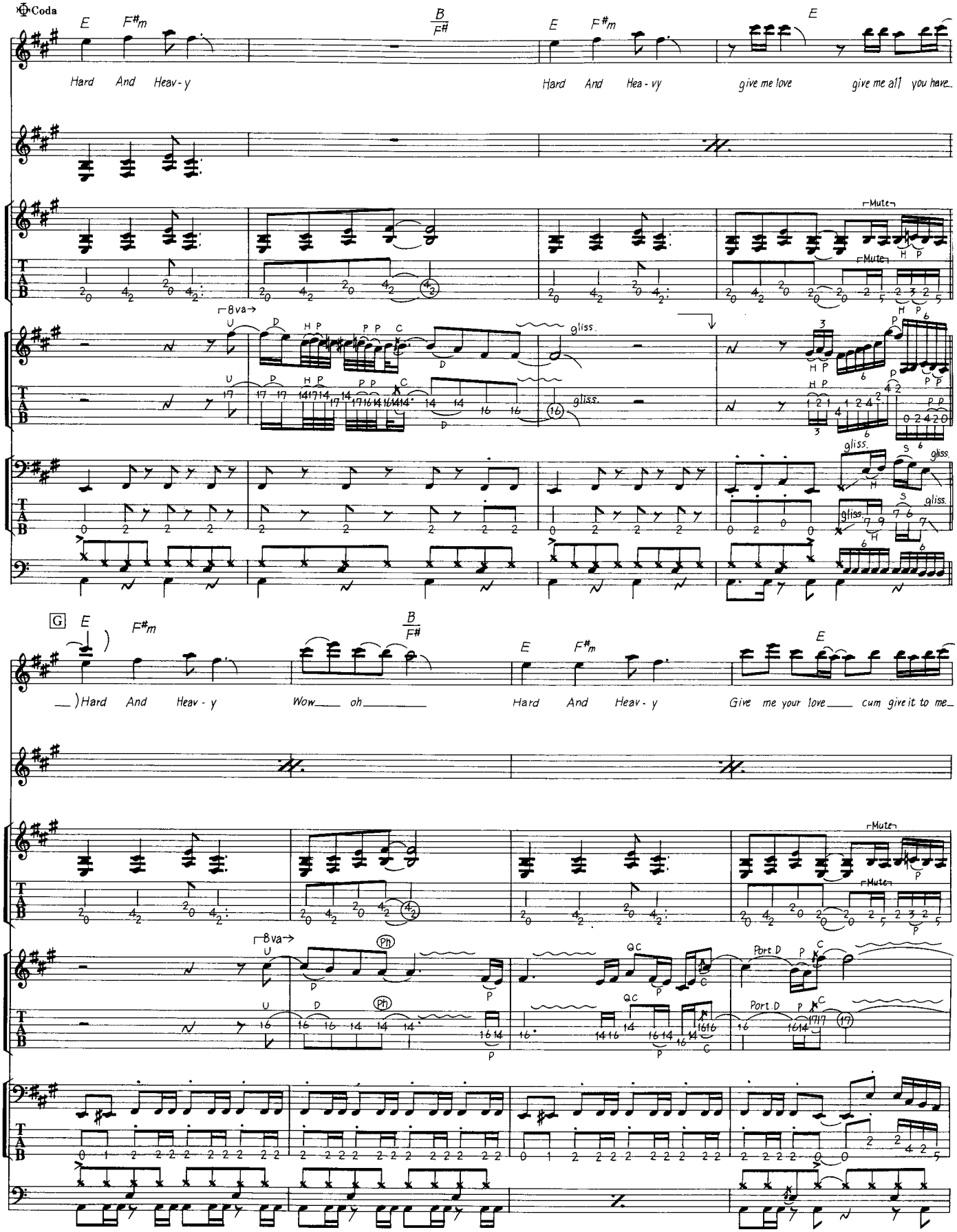
F#m
B/F#
1.
E F#m
B
2.
E F#m
B
Hard And Heav-y
You've Hard And Heav-y
gliss.
Mute
D
D
C#m
Bm7
C#m
All you need__ is a taste of the things__ to cum___, girl
Woo__ yeah__ If you

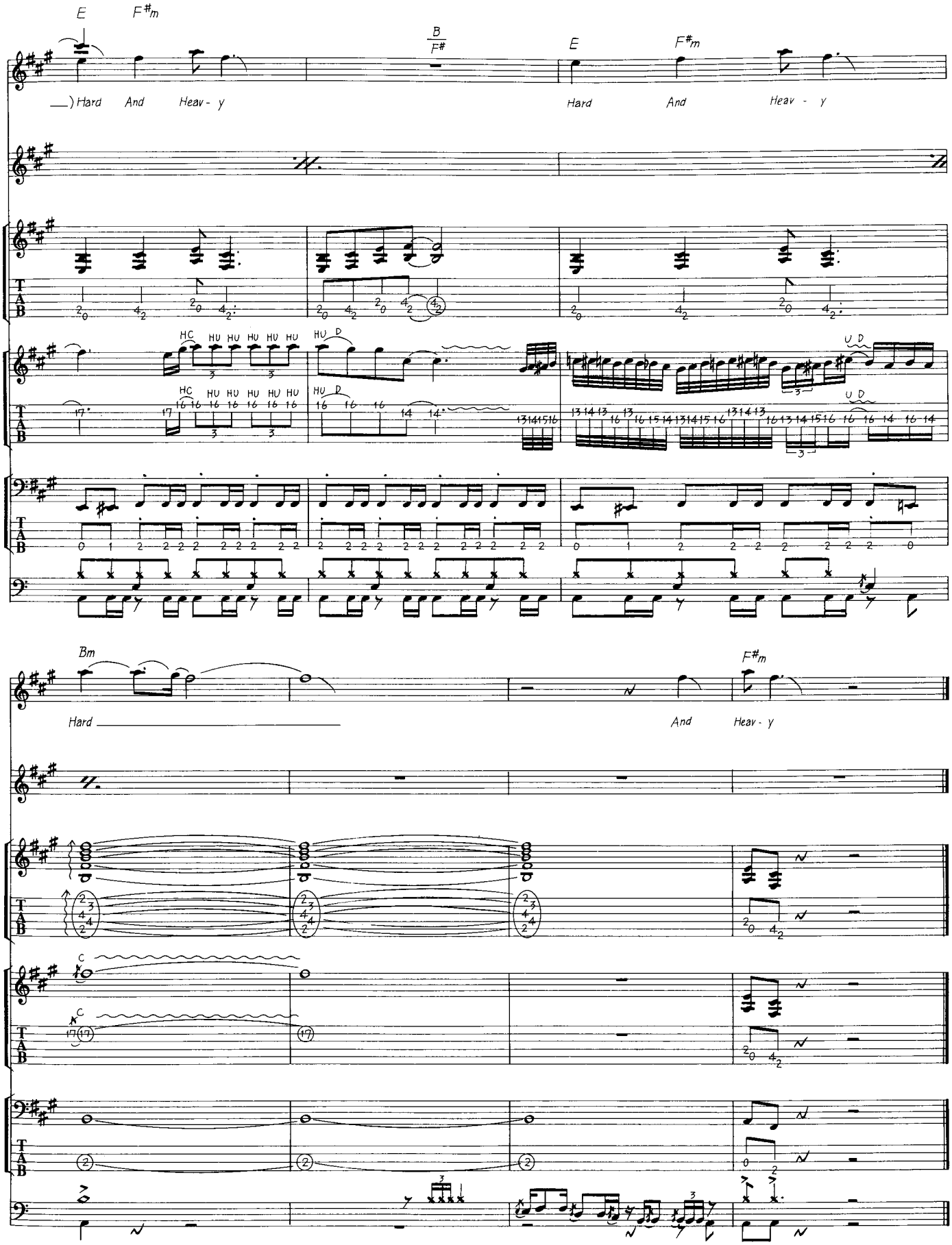

D
C#m
Bm7
G
face me up side down
I'll give you some
It's on the tip of my tongue
Mute
gliss.
C
E
F#m
Dadd9
F#
Harm.
Port. D
HC
P
H


Bm
F#
F#m
8va
Mute
F#m
F Bm
Mute
Arm


D
E
Mute
(8va)


E
You got me
gliss.
Mute
8va
Ph
HC
1HC
D.S.


Coda
E
F#m
B/F#
E
F#m
E
Hard And Heav-y
Hard And Hea-vy
give me love
give me all you have
Mute
8va
gliss.
G
E
F#m
B/F#
E
F#m
E
)Hard And Heav-y
Wow oh
Hard And Heav-y
Give me your love cum give it to me
Mute
8va
Ph
QC
Port D
C


E
F#m
B
F#
E
F#m
) Hard And Heav - y
Hard And Heav - y
HC HU HU HU HU HU HU
HU D
U D
Bm
F#m
Hard
And Heav - y
C

NEVER SURRENDER

ネバー・サレンダー

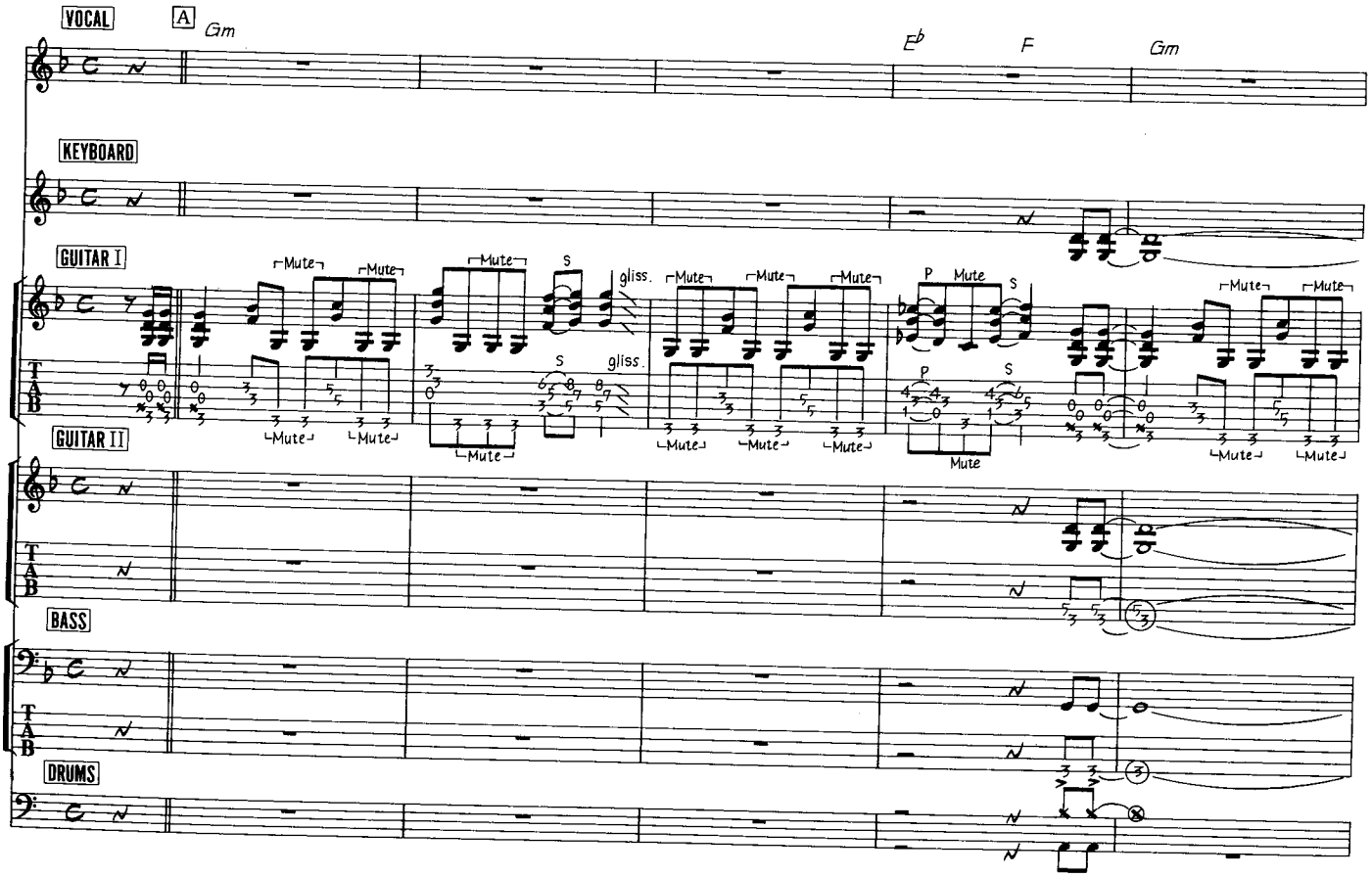
Words & Music by Kal Swan and Douglas Aldrich

当アルバムの中では、比較的オーソドックスな作りの曲であるが、それでも〝ライオン〟のオリジナリティを感じさせる聞きごたえのあるナンバーだ。

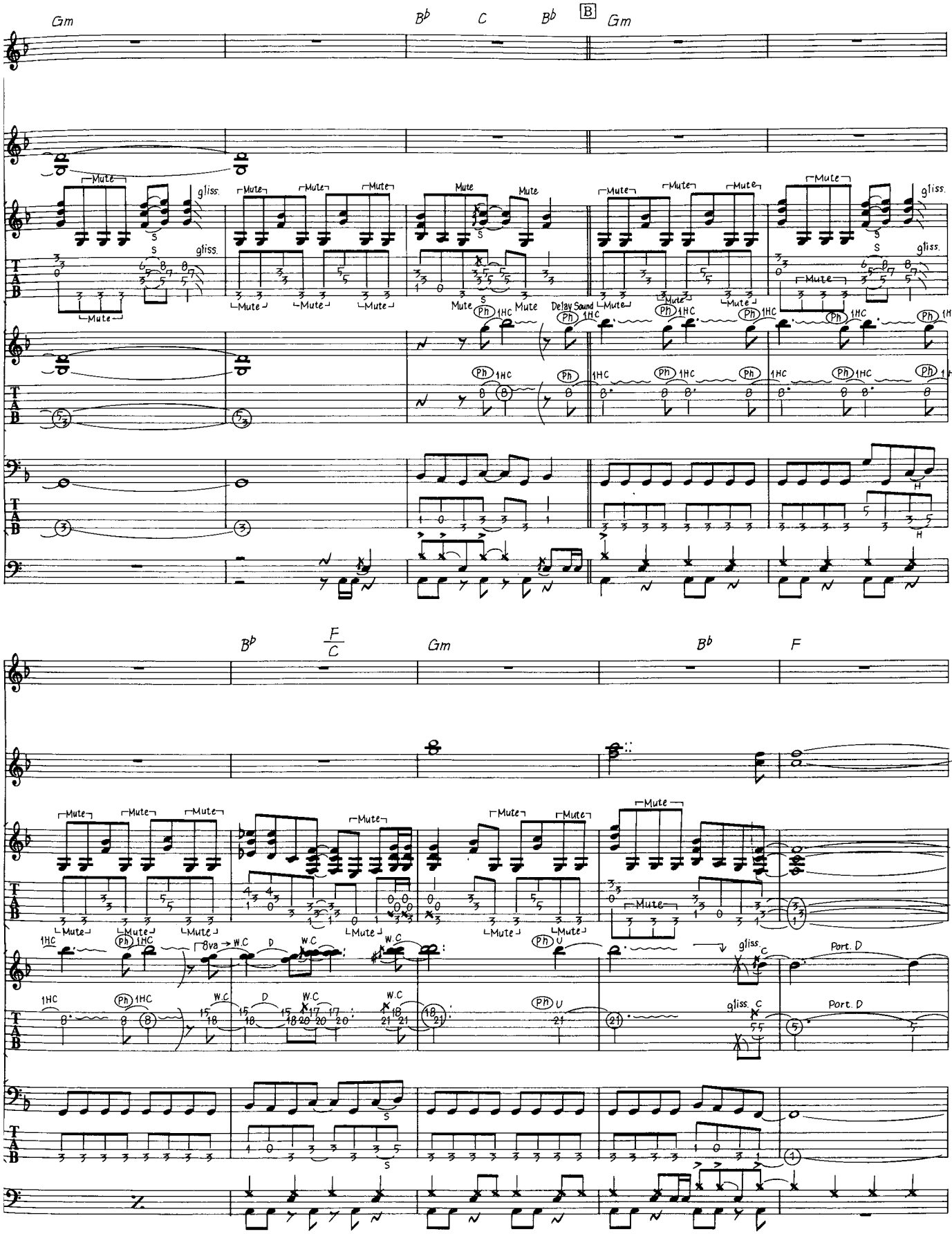
Bの4小節目は、ダブル・チョーキングというテクニック。これは2本の弦の内、1方をチョーキングしてユニゾンにする手法だが、チョーキングの音程には要注意。ここでは1弦と2弦を使うパターンなので、両者の音程がぴったりと合うように2弦をうまくコントロールしよう。

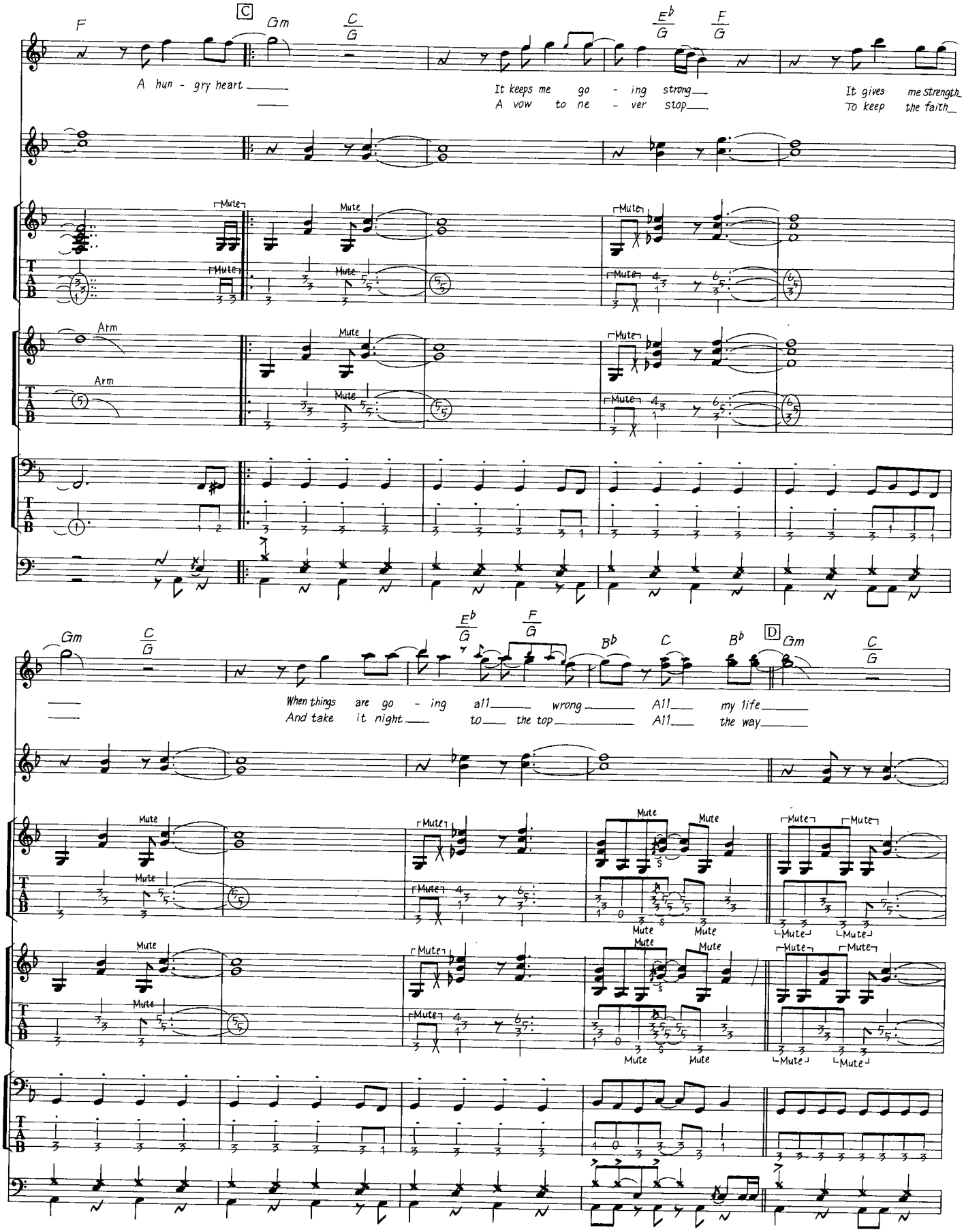
F2小節目のピッキング・ハーモニクスは、ピックの先があまり出ない様に、深目に持ってピッキングすること。また、ピッキング・ハーモニクスの場合、同じ$\frac{1}{8}$を押弦していても、ピッキングする位置によって音程が変わるので、色々とポイントをずらして実験しておくことも大切である。4小節目のアームは、思い切って押し下げる部分だが、問題はノイズ対策。つまり、$\frac{1}{8}$B♭音以外の開放弦が鳴らないように、不必要な弦はすべてミュート状態にしておく事。$\frac{1}{8}$を押さえている人差指の腹や指の付け根を弦に軽く当てておく方法がベスト。6弦は人差指の先で触れるか、または親指を使えばOK。6小節目は、ダグお得意のストレッチ・フィンガー。プリングを確実に行なうことがポイントなので、左手のフォームには注意が必要。従って、指がフレットと平行になるように構え、指先でしっかりと弦を捕える体勢をつくるように。

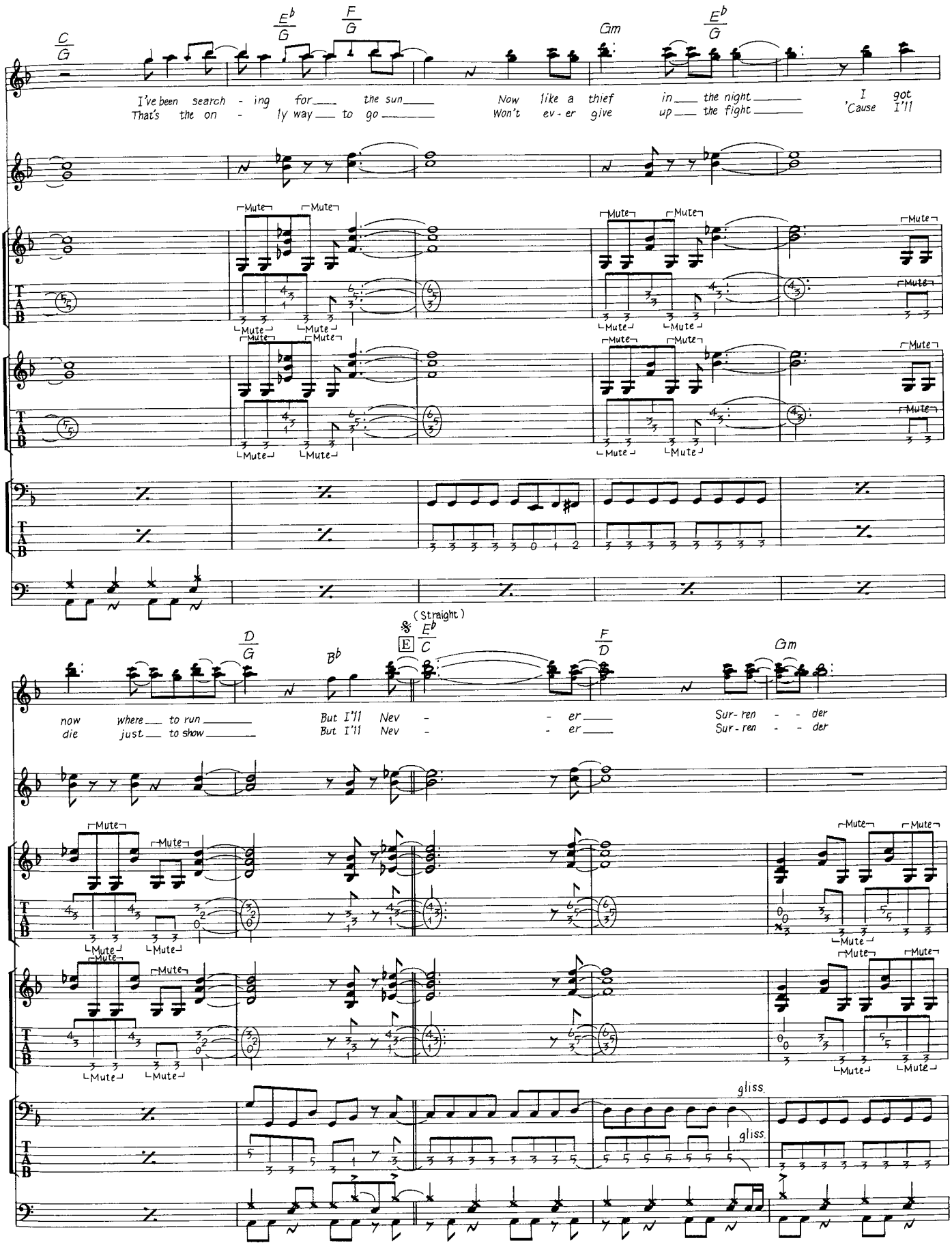
Gの最後に出てくる3連符は、D7の ブロークン・コード。ピッキングは、オルタネイト方式を使う訳だが、3連符のために各拍数の頭はダウンとアップを交互に行なわなければならない。ピッキング・テクニックを鍛えるつもりで、しっかりとプレイしよう。

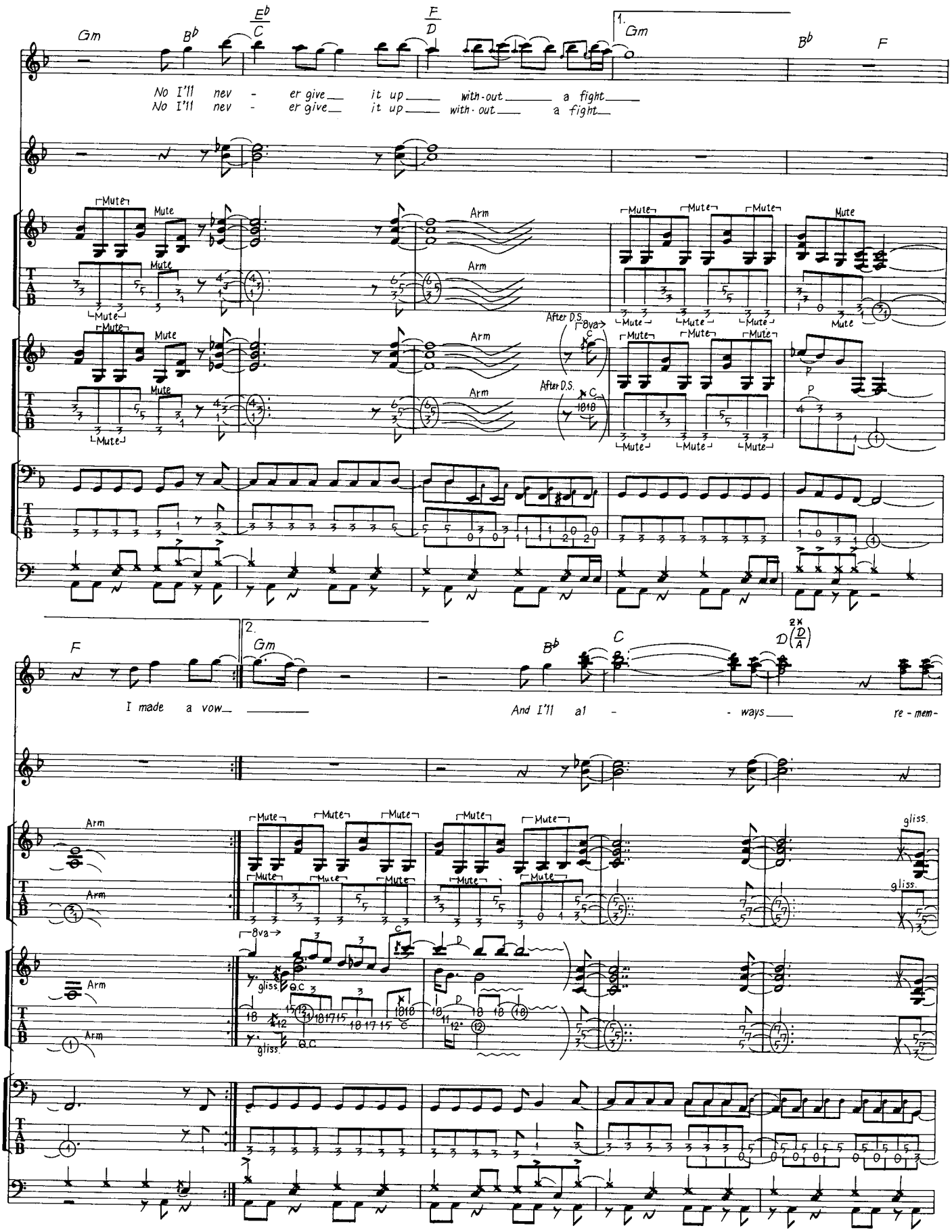


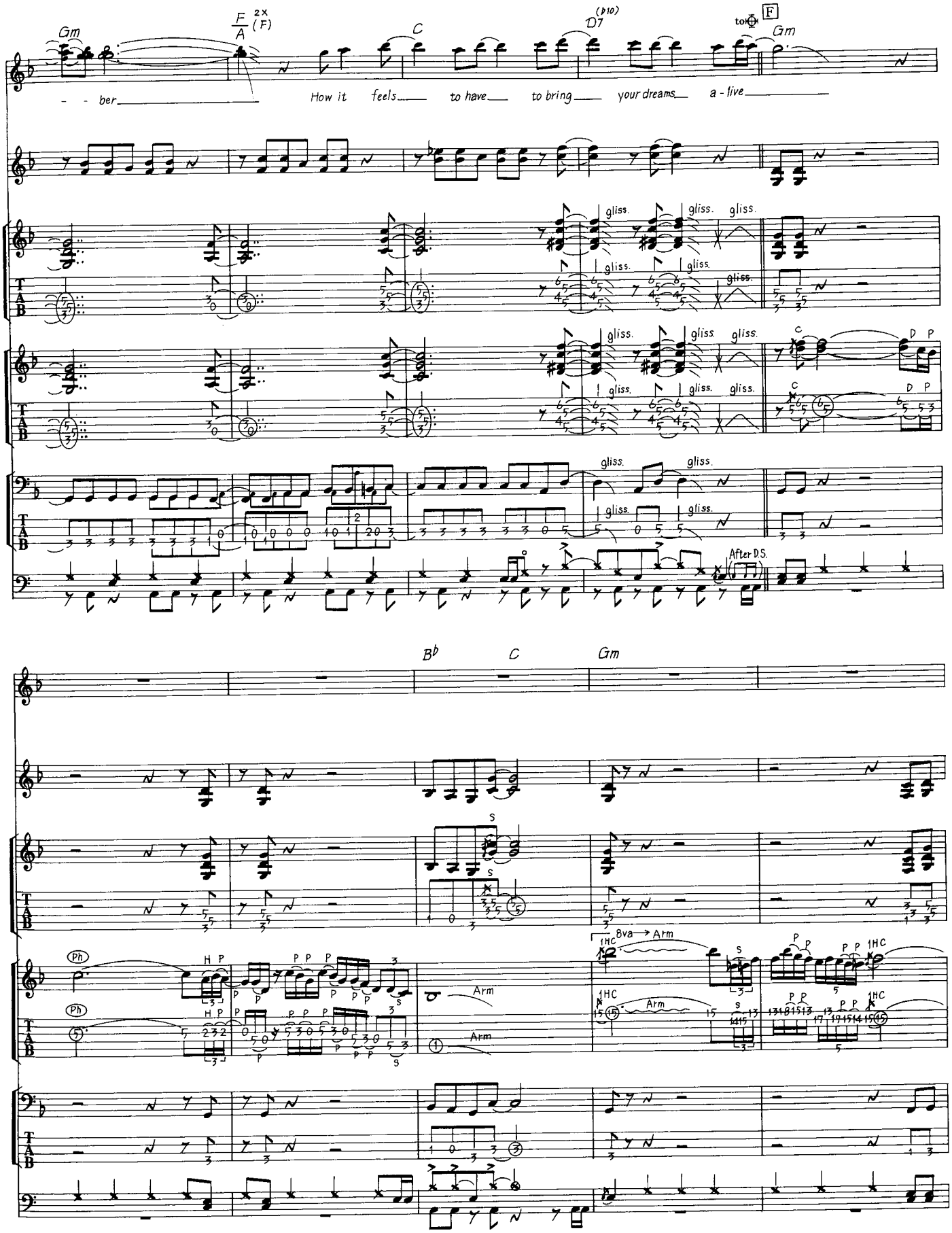
© 1987 by LION
Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

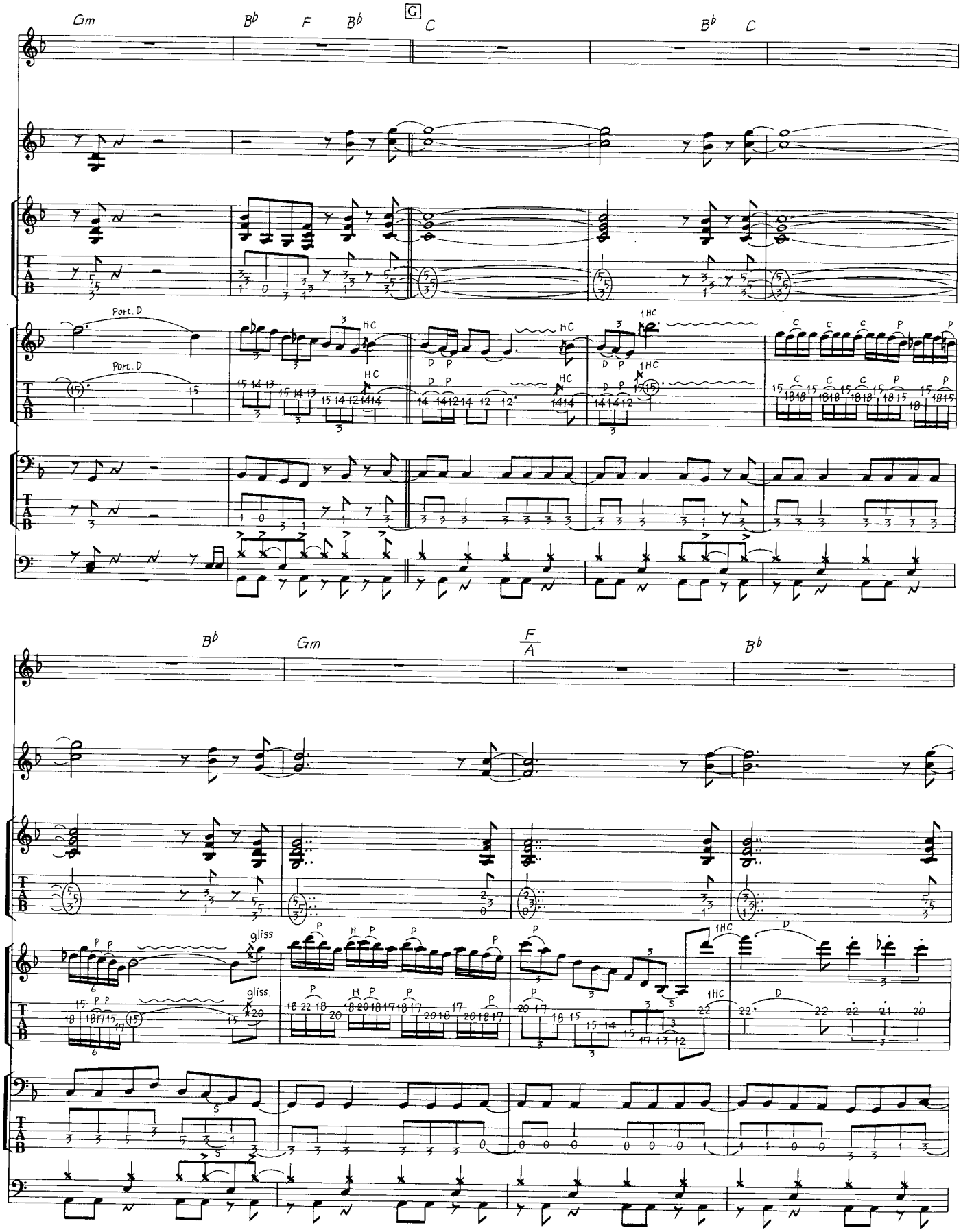

Gm
B♭
C
B♭
B
Gm
Mute
gliss.
Delay Sound
Ph
1HC
B♭
F/C
Gm
B♭
F
8va
W.C
D
U
Port. D

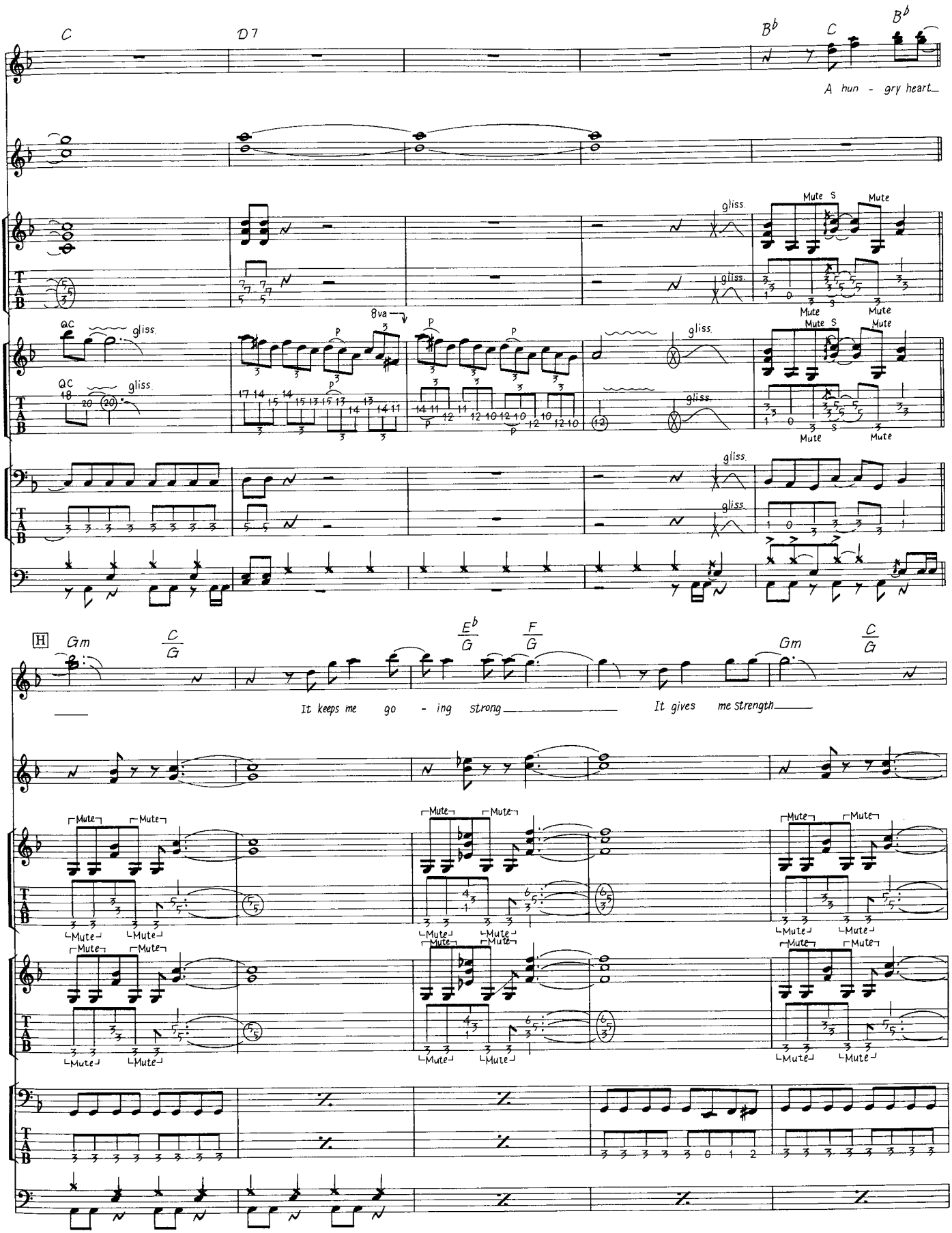

C
F
Gm
C/G
Eb/G
F/G
A hun - gry heart
It keeps me go - ing strong
A vow to ne - ver stop
It gives me strength
To keep the faith
Mute
Arm
T
A
B
Gm
C/G
Eb/G
F/G
Bb
C
Bb
D
When things are go - ing all wrong
And take it night to the top
All my life
All the way

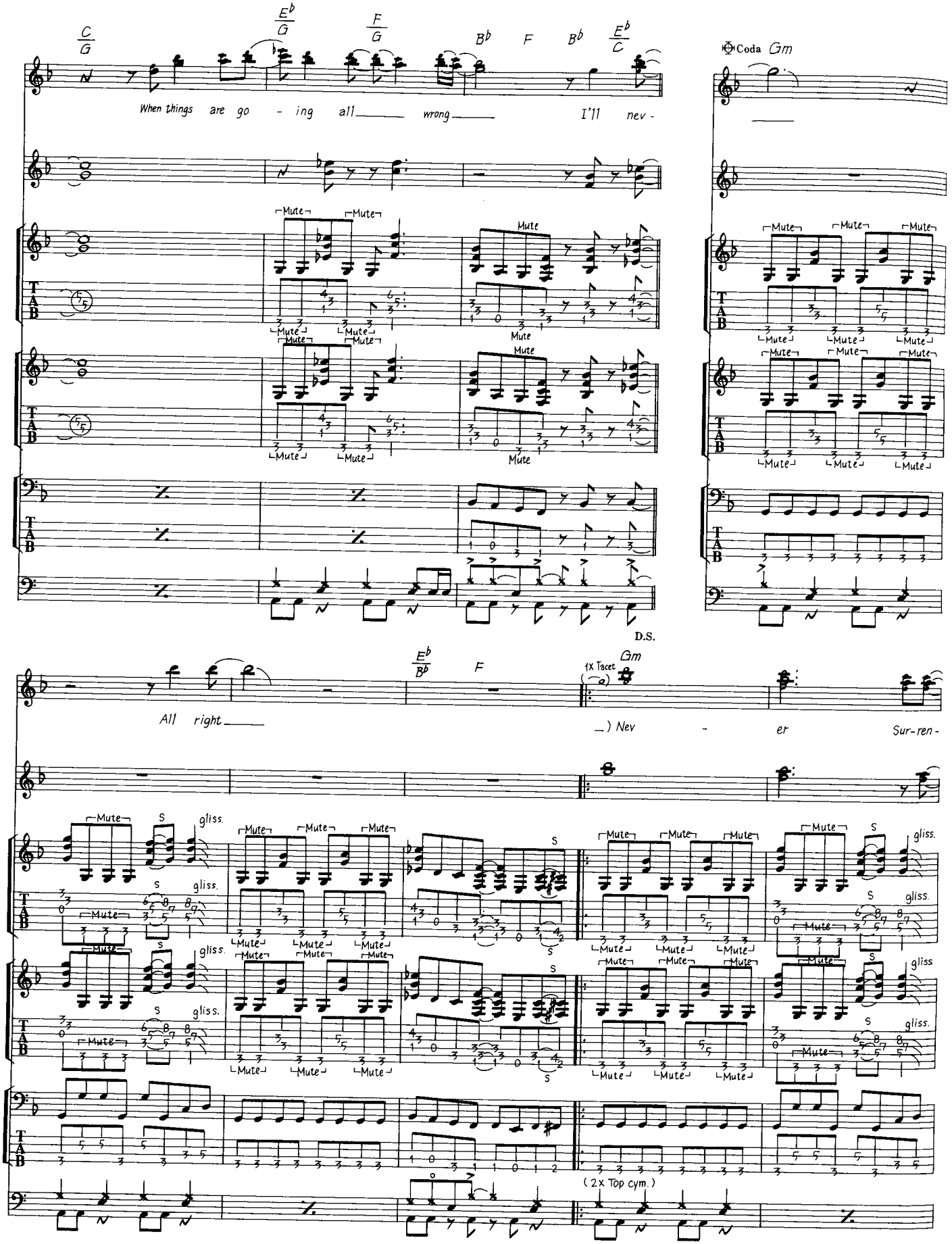

C/G
Eb/G
F/G
Gm
Eb/G
I've been search - ing for the sun
That's the on - ly way to go
Now like a thief in the night
Won't ev - er give up the fight
I got
'Cause I'll
Mute
T
A
B
D/G
Bb
(Straight)
E
Eb/C
F/D
Gm
now where to run
die just to show
But I'll Nev - er
But I'll Nev - er
Sur - ren - der
Sur - ren - der
gliss.
gliss.

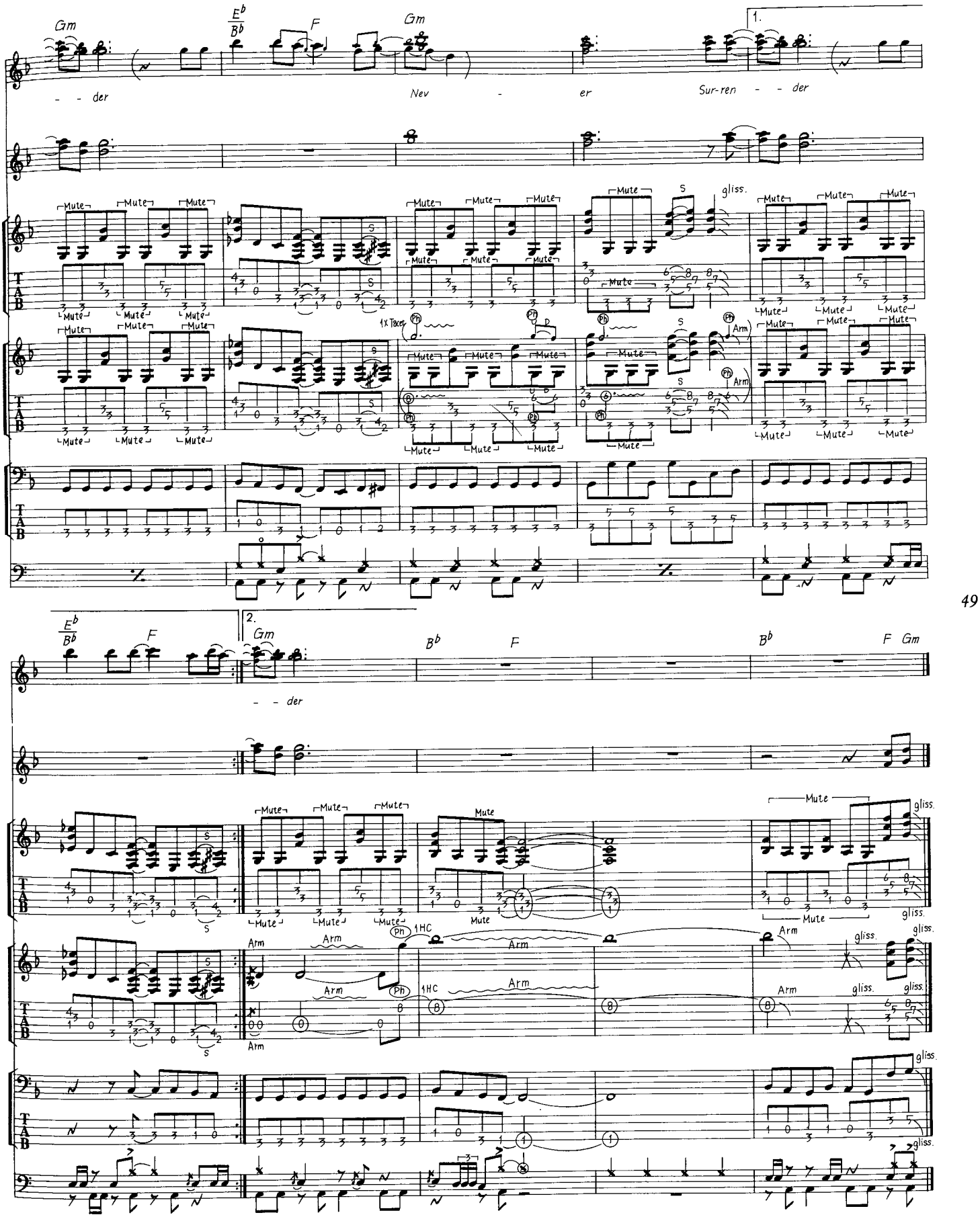

Gm
B♭
E♭/C
F/D
1.
Gm
B♭
F
No I'll nev - er give it up with-out a fight
No I'll nev - er give it up with - out a fight
Mute
Arm
After D.S.
8va
P
44
F
2.
Gm
B♭
C
D(D/A)
I made a vow
And I'll al - ways re-mem-
gliss.


Gm
F/A
2x (F)
C
D7
(♭10)
to ⊕
F
Gm
- - ber
How it feels to have to bring your dreams a - live
gliss.
After D.S.
B♭
C
Gm
Ph
H P
P P P
Arm
8va → Arm
1HC
S
P P
P P 1HC


Gm
B♭
F
B♭
G
C
B♭
C
Port. D
Port. D
HC
D P
1HC
C
P
B♭
Gm
F/A
B♭
gliss
H P
S
D


C
D7
B♭
C
B♭
A hun - gry heart
gliss.
Mute
S
8va
P
QC
H
Gm
C/G
E♭/G
F/G
It keeps me go - ing strong
It gives me strength
T
A
B


C/G
Eb/G
F/G
Bb
F
Bb
Eb/C
When things are go - ing all wrong I'll nev -
Coda Gm
Mute
T
A
B
48
D.S.
Eb/Bb
F
Gm
1X Tacet
All right
) Nev - er Sur-ren -
S
gliss.
(2X Top cym.)


Gm
E♭/B♭
F
Gm
1.
- - der
Nev - er
Sur-ren - - der
Mute
S
gliss.
1x Tacet
Ph
Arm
2.
B♭
F
- - der
1HC
Arm
gliss.

DEATH ON LEGS

デス・オン・レッグス

Words & Music by Kal Swan, Douglas Aldrich and Mark Holden

A面ラストは、メジャー・キーで作られた陽気な感じのナンバーである。

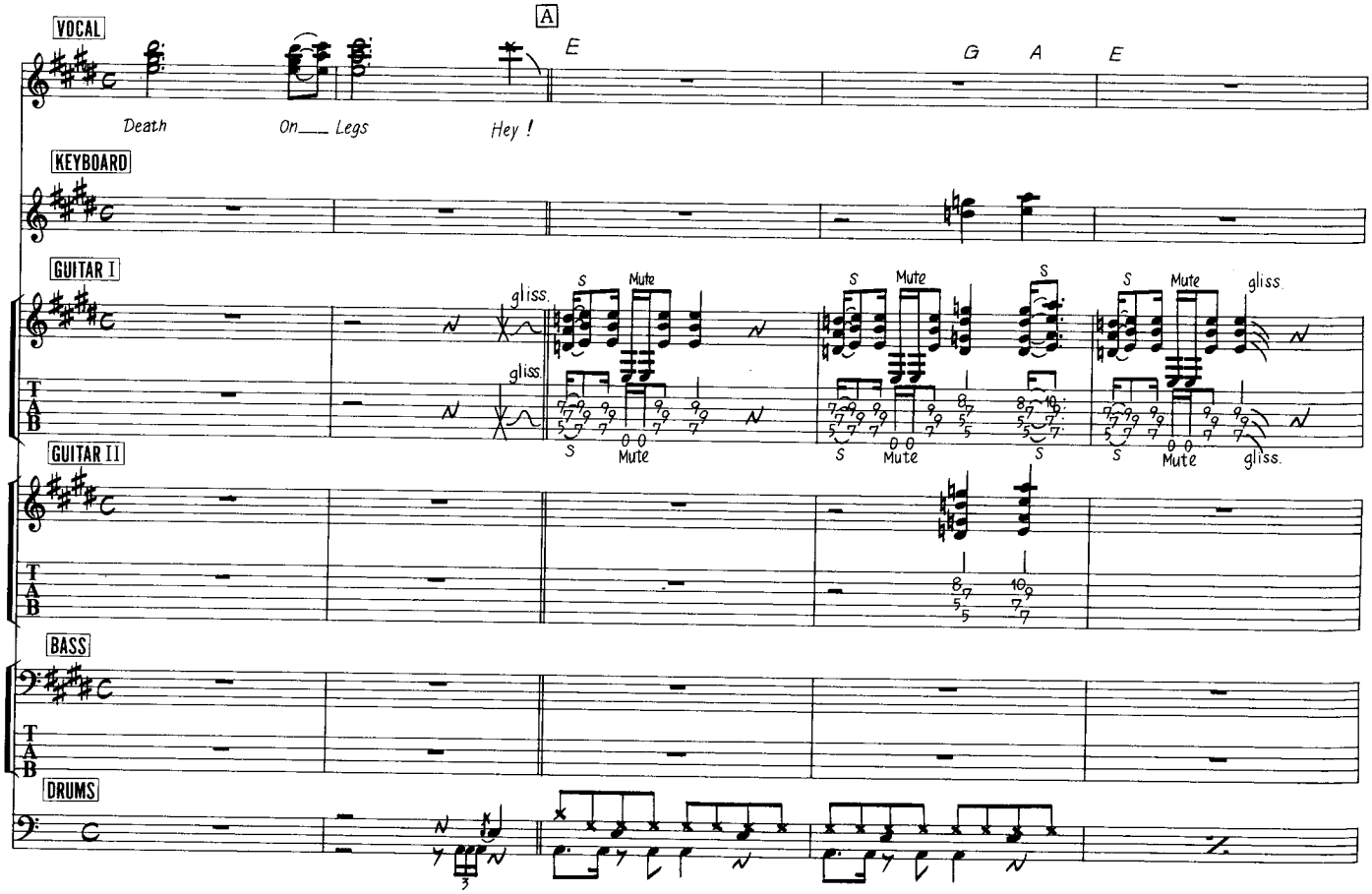
まずは、イントロのAから。この部分は、スライドがポイント。スライドする途中で指が浮き上がると音が止切れてしまうので注意が必要だ。6弦の開放音は、右手をブリッジ上に軽く乗せて確実に行なうこと。この部分だけは、ダウン→アップでピッキングする方法がスムースであるが、その他はダウン・ピッキングのみで弾く。

Cは、3小節目4拍裏のシンコペーションのコードがポイントだ。つまり、$\frac{4}{3}$小指・$\frac{2}{4}$人差指・$\frac{4}{6}$薬指と押弦した時に、$\frac{4}{6}$を押えている薬指を若干寝かせぎみにして5弦に触れ、その開放弦をミュートしなければならない。8小節目の5弦も同様に対処すること。

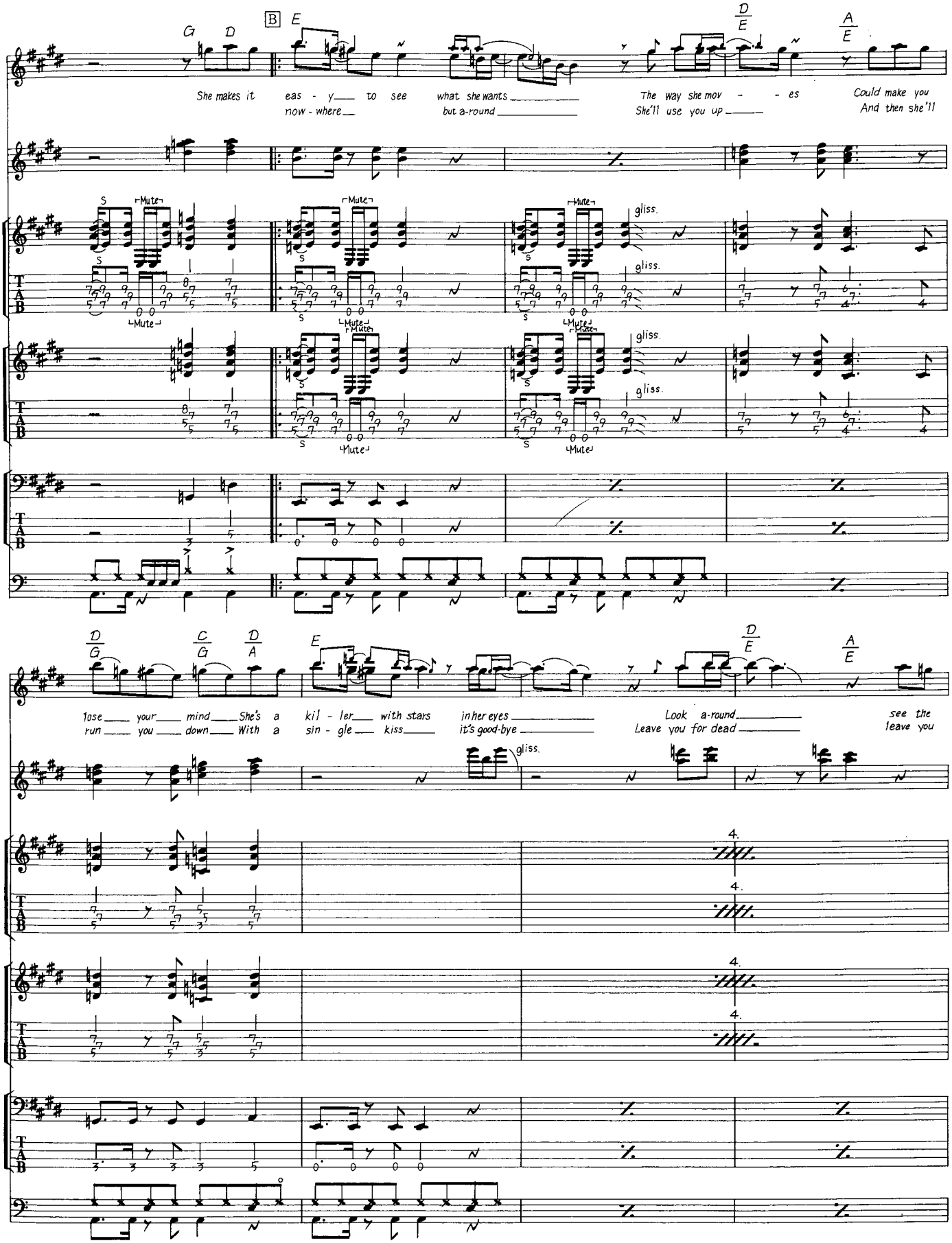
Eの手前2小節目は$\frac{10}{2}$Cho→S(スライド)$\frac{17}{2}$H.C(1音半チョーキング)という新鮮な響きの連続技。スライドはほとんど一瞬のうちに行なって、$\frac{17}{2}$まですべらせる訳だが、$\frac{10}{2}$をチョーキングしたままスライドさせるのではなく、スライドさせる直前にダウンさせてつなげていけばOK。

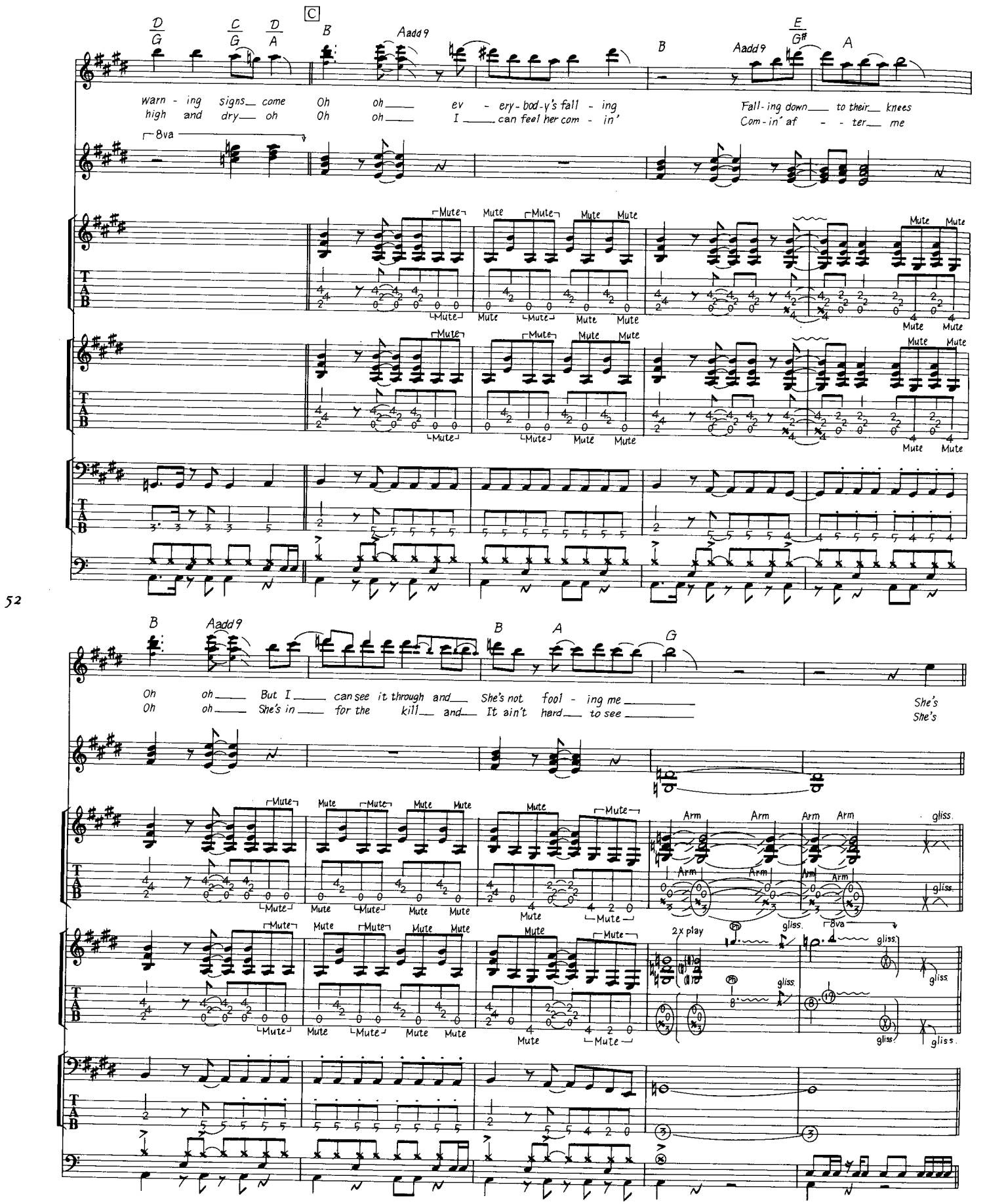
Eの1小節目にあるミュート(M)は、左手を使うモノ。つまり、$\frac{17}{1}$を薬指で押弦する際には人差指を1～4弦上に這わせてき、ミュート状態にした4弦から一気にピッキングするテクニックだ。あまり使い過ぎると逆効果だが、ここぞという時に使用するとメリハリがつくちょっとした奏法である。

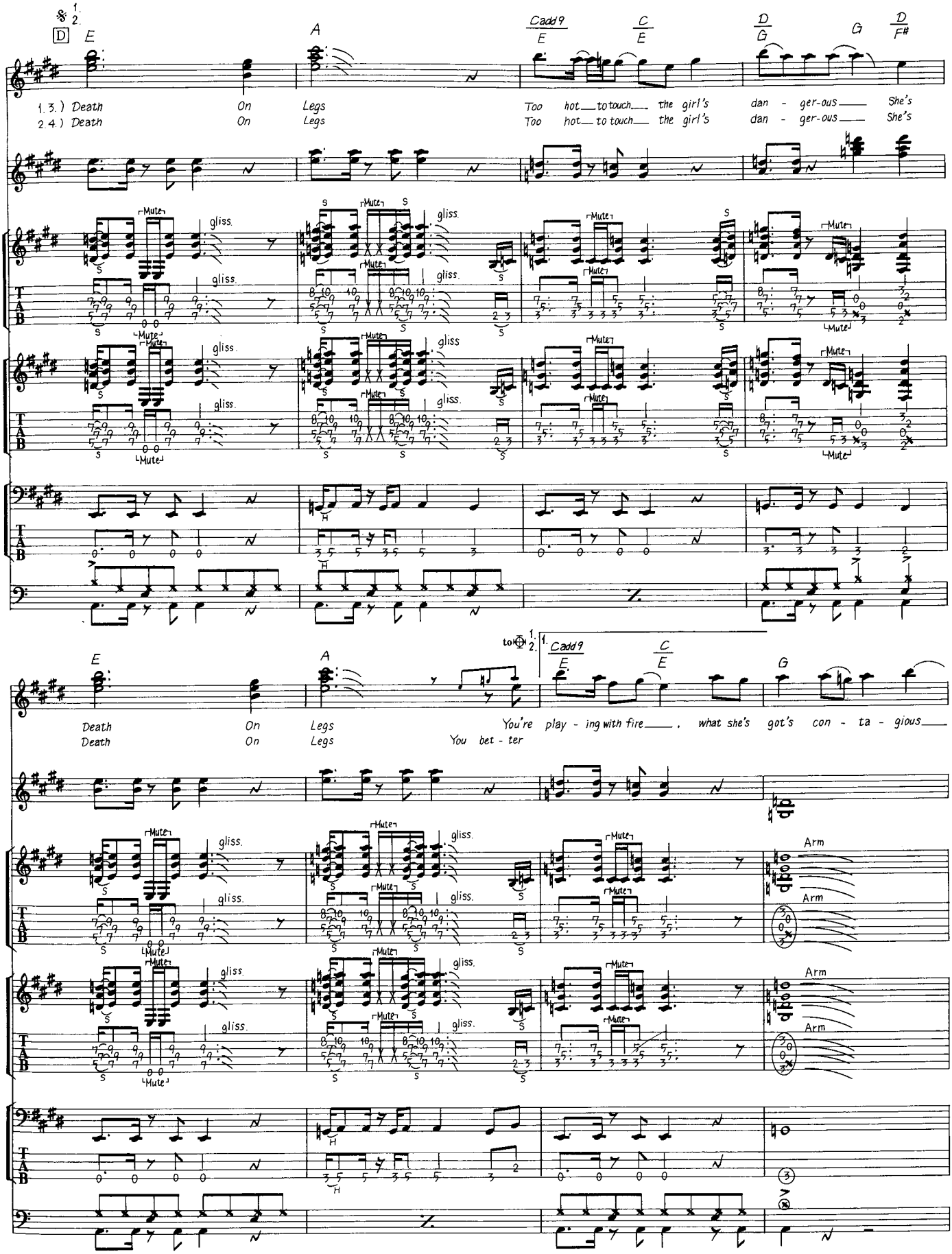
Eの6小節目は、ライト・ハンド奏法。「$\frac{22}{1}$・$\frac{21}{2}$・$\frac{21}{3}$」は、それぞれ右手を使ってプレイするポジションだ。

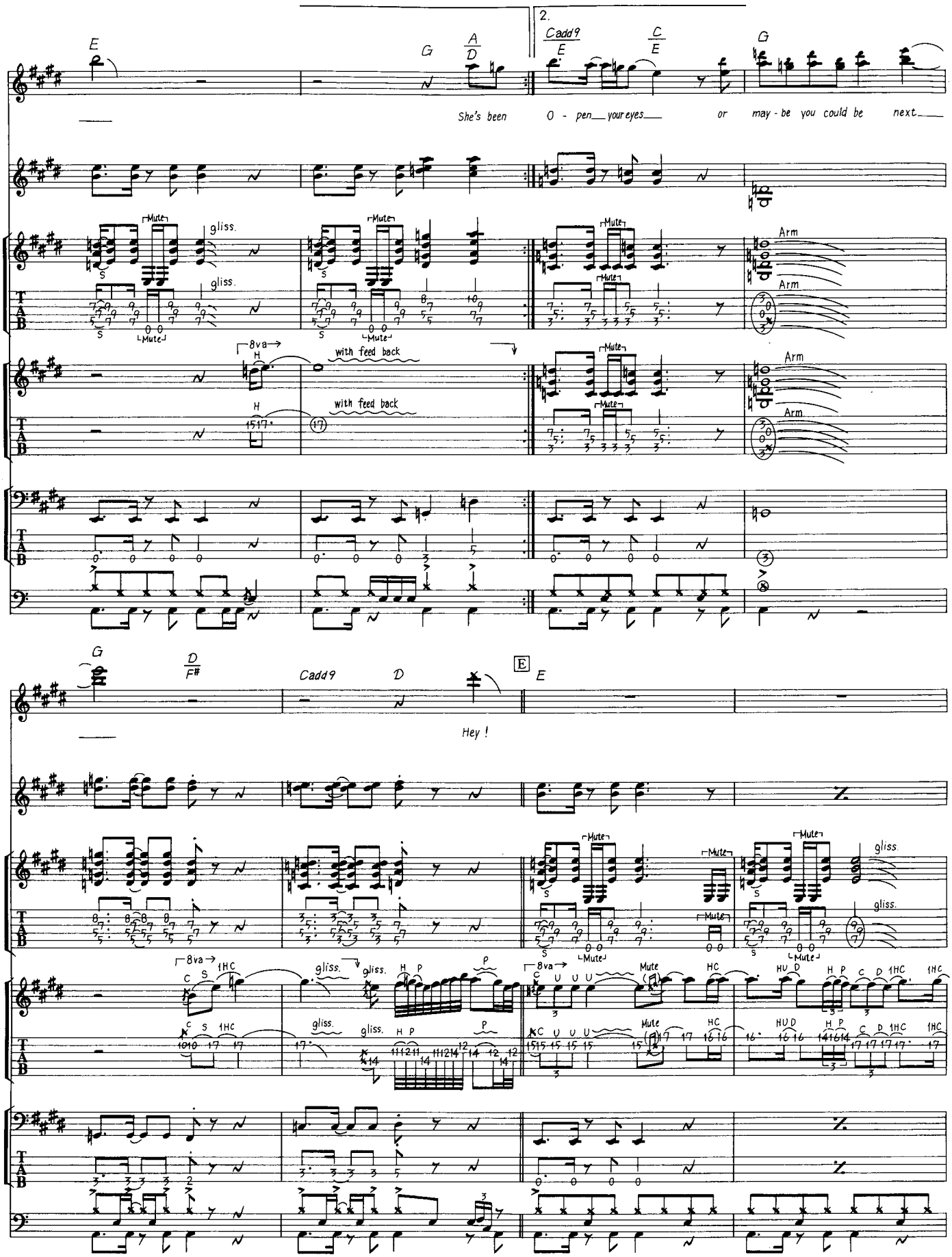


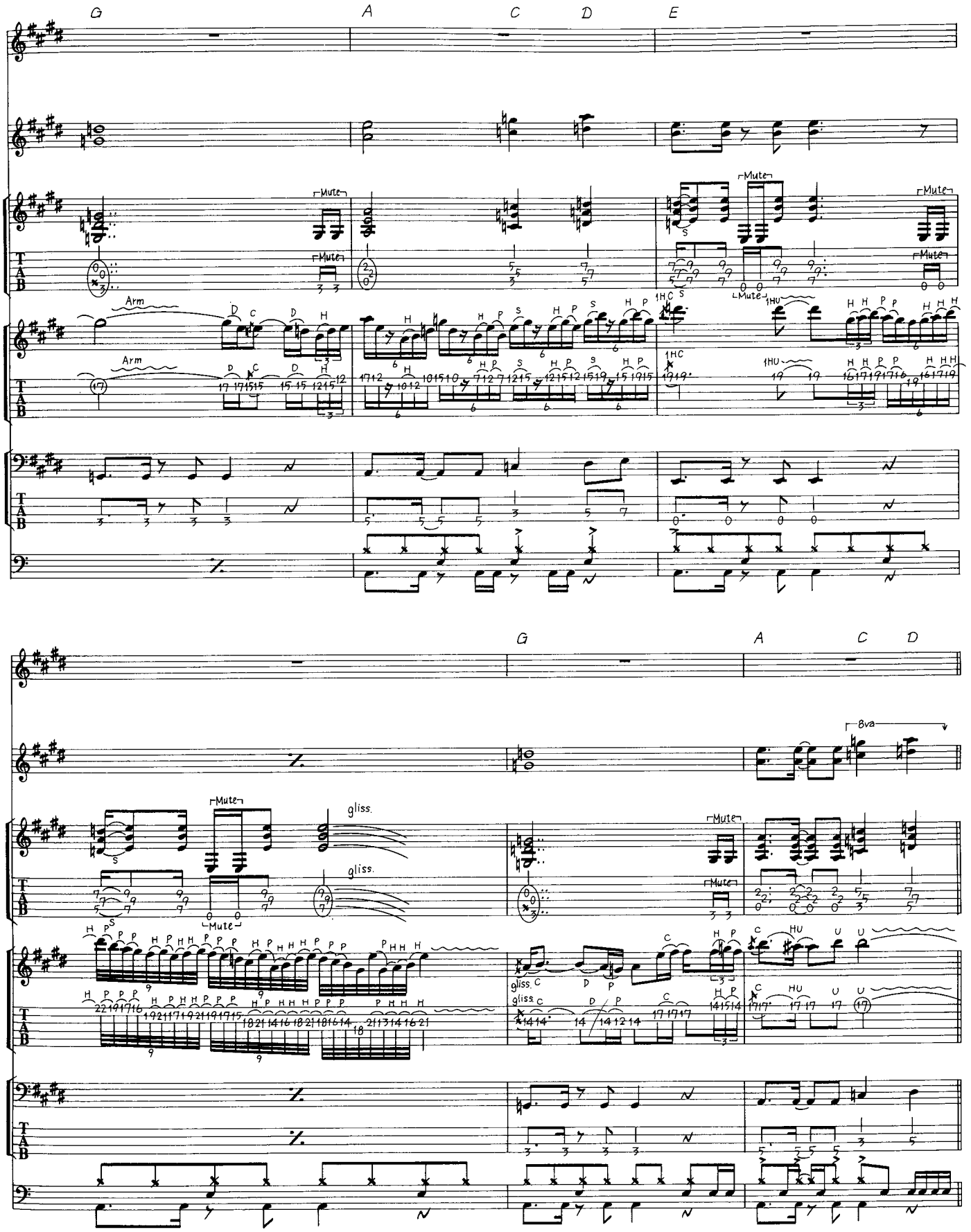
© 1987 by LION AND DREAM DEALERS MUSIC.
Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD.
AND TAIYO MUSIC, INC.

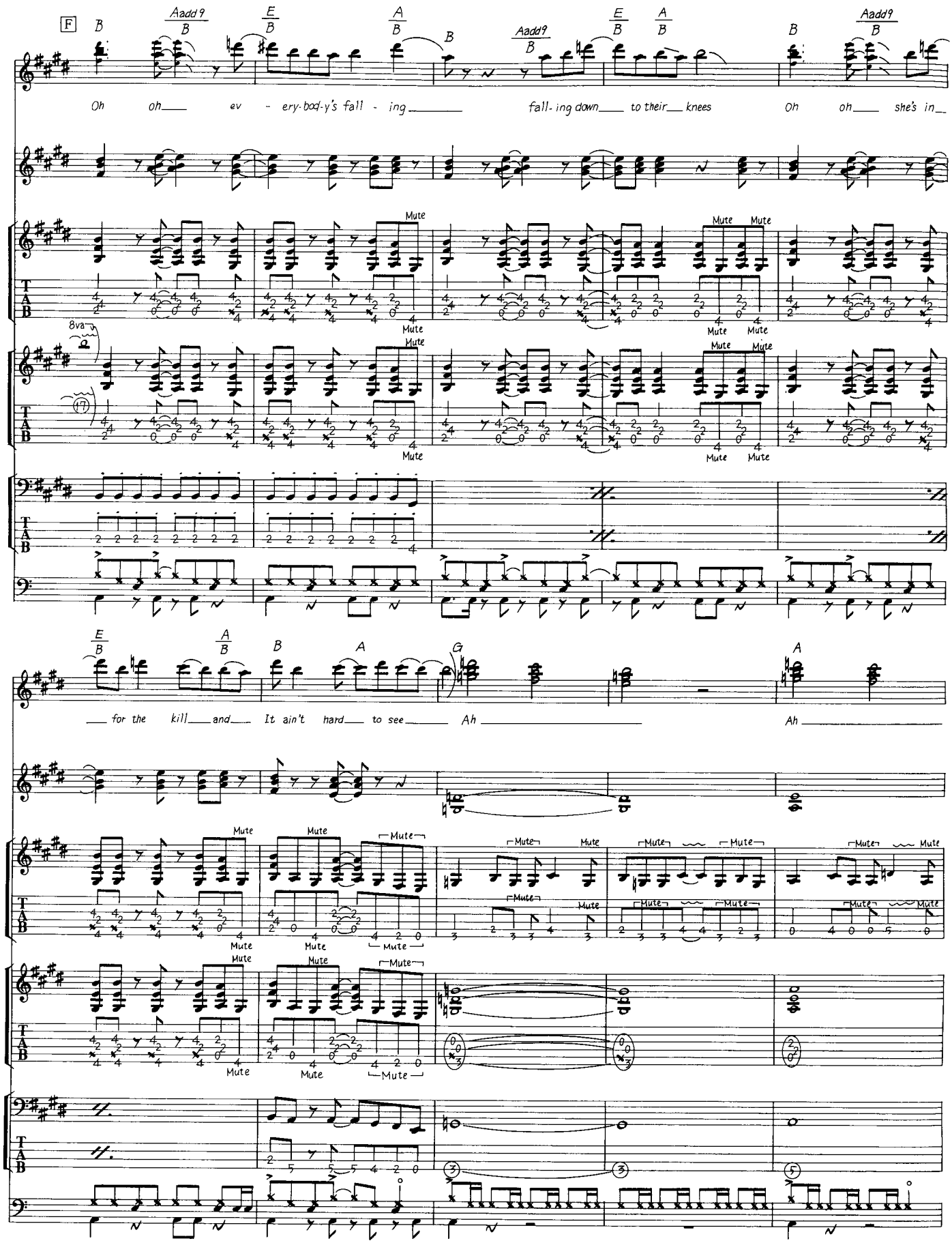

G D
B E
D/E
A/E
She makes it eas - y to see what she wants
now - where but a-round
The way she mov - - es
She'll use you up
Could make you
And then she'll
Mute
gliss.
T A B
D/G C/G D/A
E
lose your mind She's a kil - ler with stars in her eyes
run you down With a sin - gle kiss it's good-bye
Look a-round
Leave you for dead
see the
leave you
4.

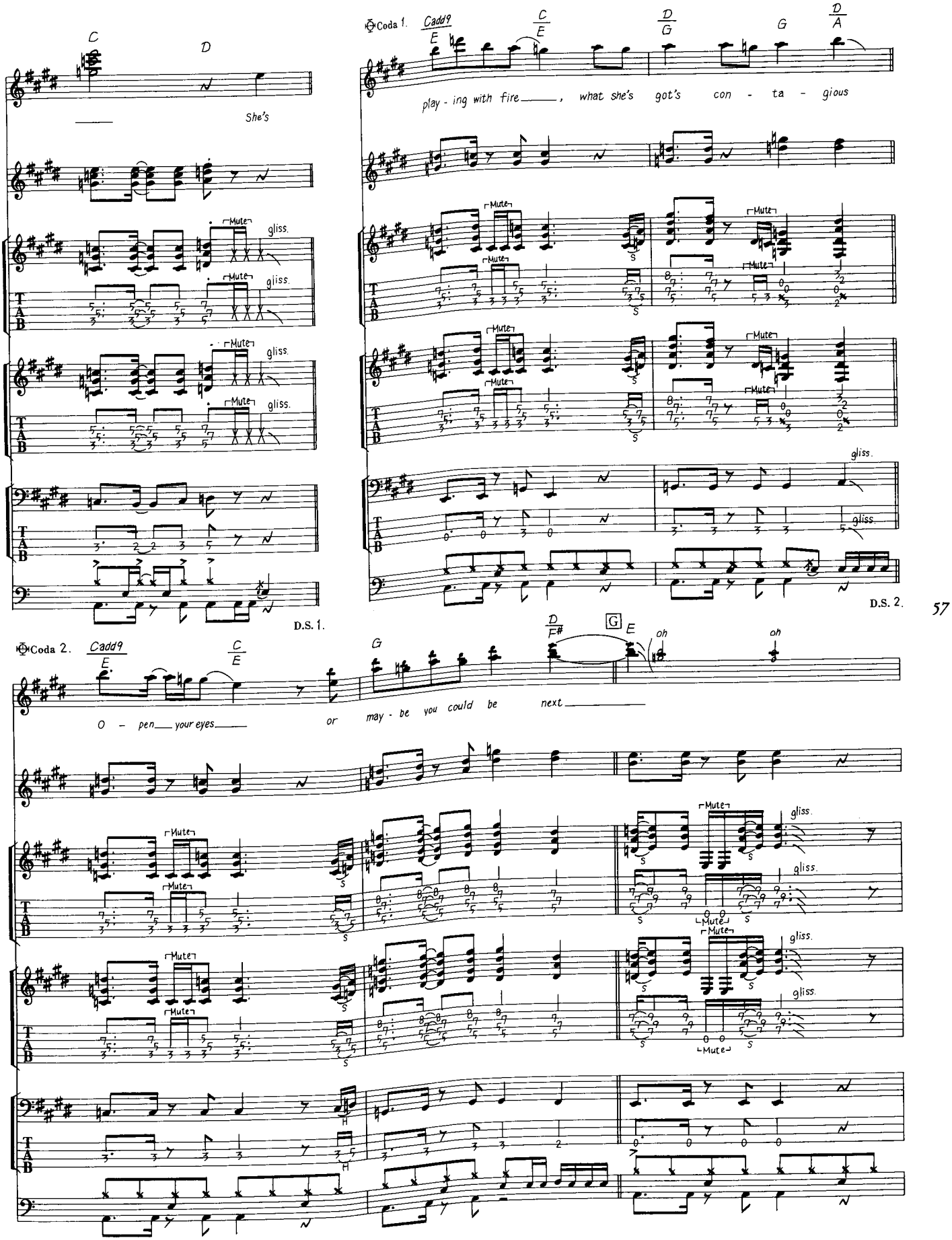

D/G C/G D/A
C
B Aadd9
B Aadd9 E/G# A
warn - ing signs come Oh oh ev - ery-bod-y's fall - ing
high and dry oh Oh oh I can feel her com - in'
Fall-ing down to their knees
Com-in' af - ter me
8va
Mute
T A B
B Aadd9 B A G
Oh oh But I can see it through and She's not fool - ing me
Oh oh She's in for the kill and It ain't hard to see
She's
She's
Arm
gliss.
2x play
8va

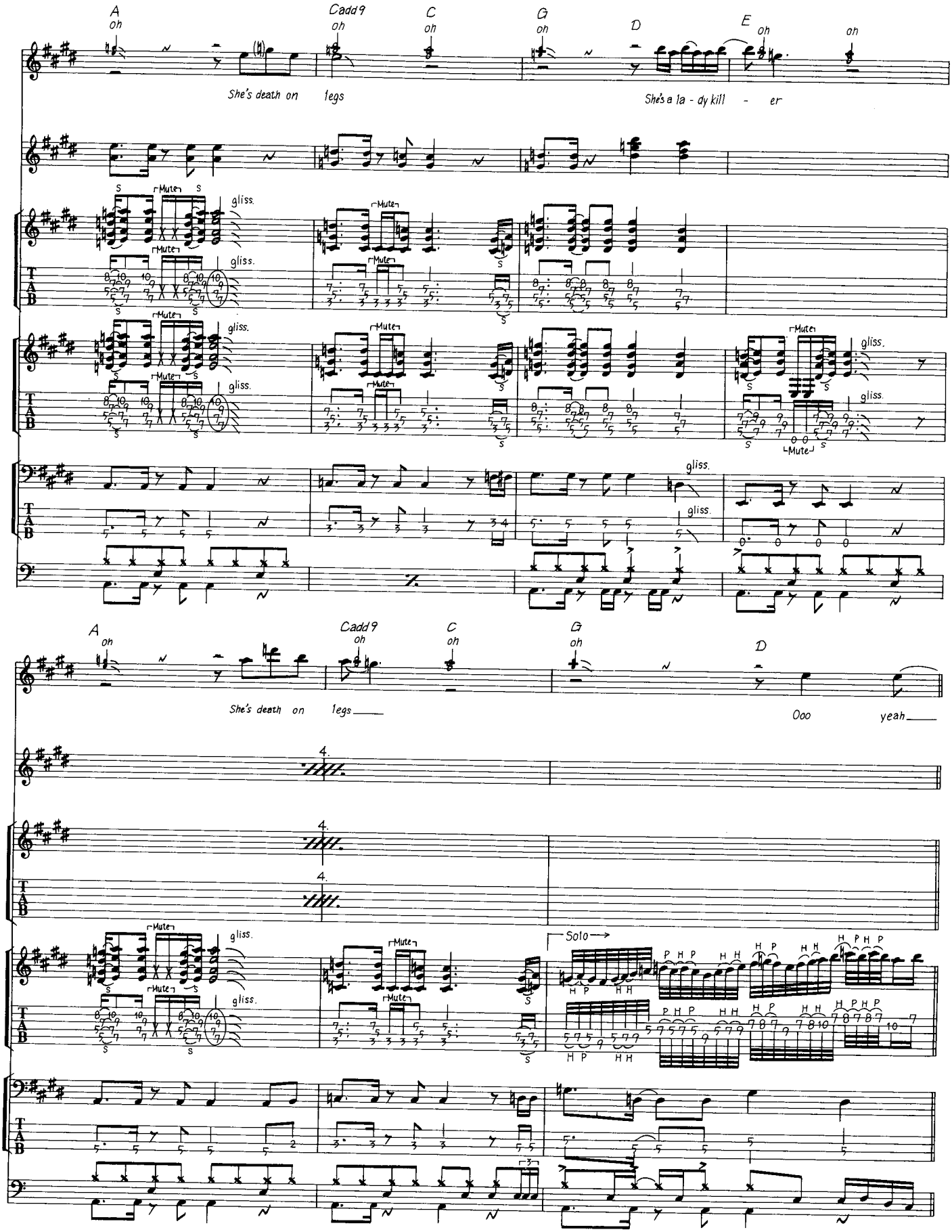

D
E
A
Cadd9
E
C
E
D
G
G
D
F#
1.3.) Death On Legs Too hot to touch the girl's dan - ger-ous She's
2.4.) Death On Legs Too hot to touch the girl's dan - ger-ous She's
Mute
gliss.
S
H
Death On Legs You're play - ing with fire, what she's got's con - ta - gious
Death On Legs You bet - ter
Arm

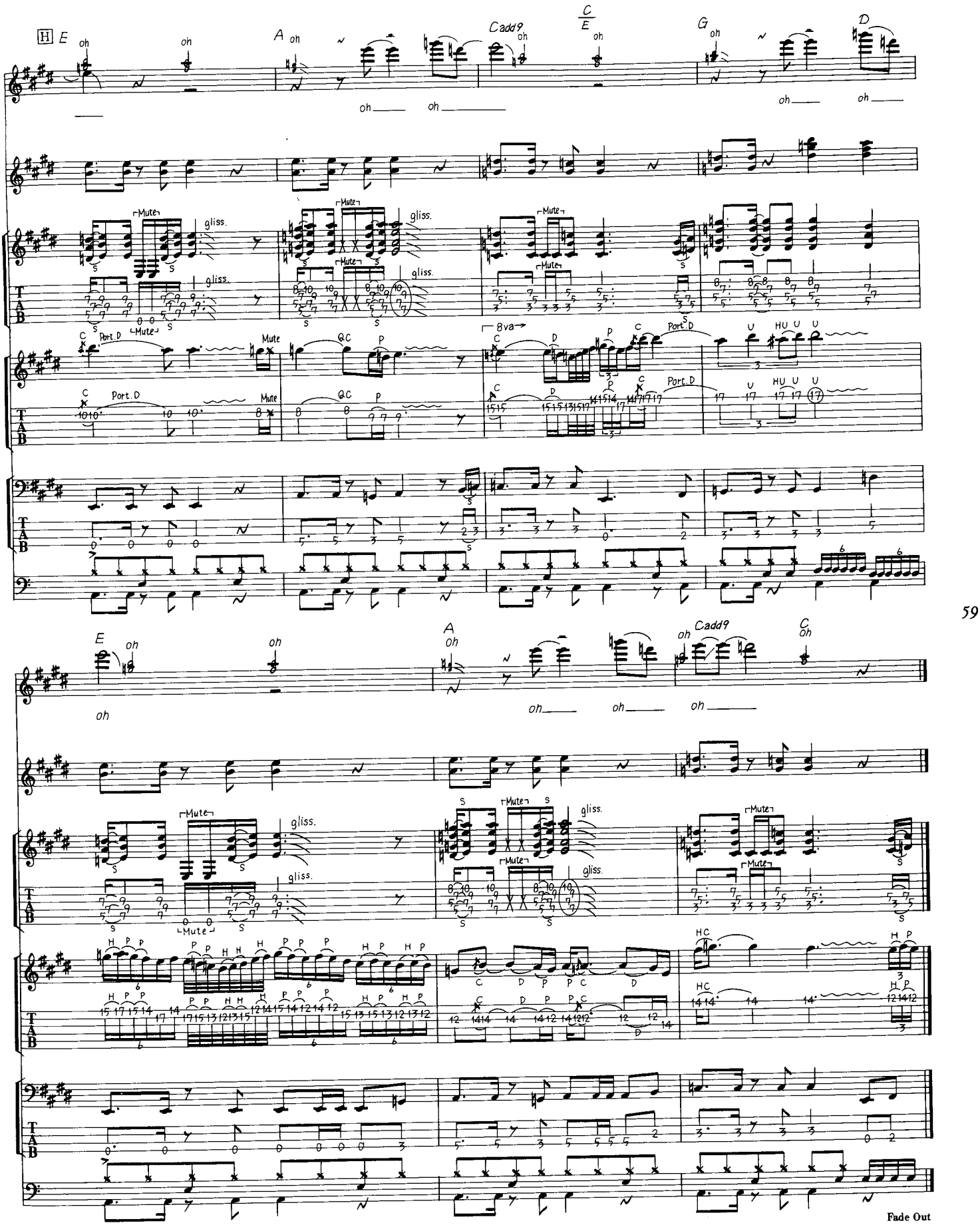

2.
Cadd9
E
G
A
D
C
E
G
She's been O - pen your eyes or may - be you could be next
Mute
gliss.
Arm
8va
with feed back
G
D
F#
Cadd9
D
E
Hey !
gliss.
8va
Mute
HC
HU D
H P
C D
1HC


G
A
C
D
E
Mute
Arm
gliss.
8va


F
B
Aadd9
B
E
B
A
B
B
Aadd9
B
E
B
A
B
B
Aadd9
B
Oh oh ev - ery-bod-y's fall - ing fall-ing down to their knees Oh oh she's in
8va
Mute
T
A
B
56
E
B
A
B
B
A
G
A
for the kill and It ain't hard to see Ah Ah


C
D
She's
Mute
gliss.
D.S. 1.
Coda 1.
Cadd9
E
C
E
D
G
G
D
A
play - ing with fire ____, what she's got's con - ta - gious
D.S. 2.
Coda 2.
Cadd9
E
C
E
G
D
F#
G
E
oh
oh
O - pen ____ your eyes ____ or may - be you could be next ____
H


A
oh
Cadd9
oh
C
oh
G
oh
D
E
oh
oh
She's death on legs
She's a la - dy kill - er
Mute
gliss.
T
A
B
58
A
oh
Cadd9
oh
C
oh
G
oh
D
She's death on legs
Ooo yeah
4.
Solo
H P


H
E
A
Cadd9
C/E
G
D
oh
Mute
gliss.
Port.D
8va
QC
P
C
D
U
HU
HC
Fade Out

POWERLOVE

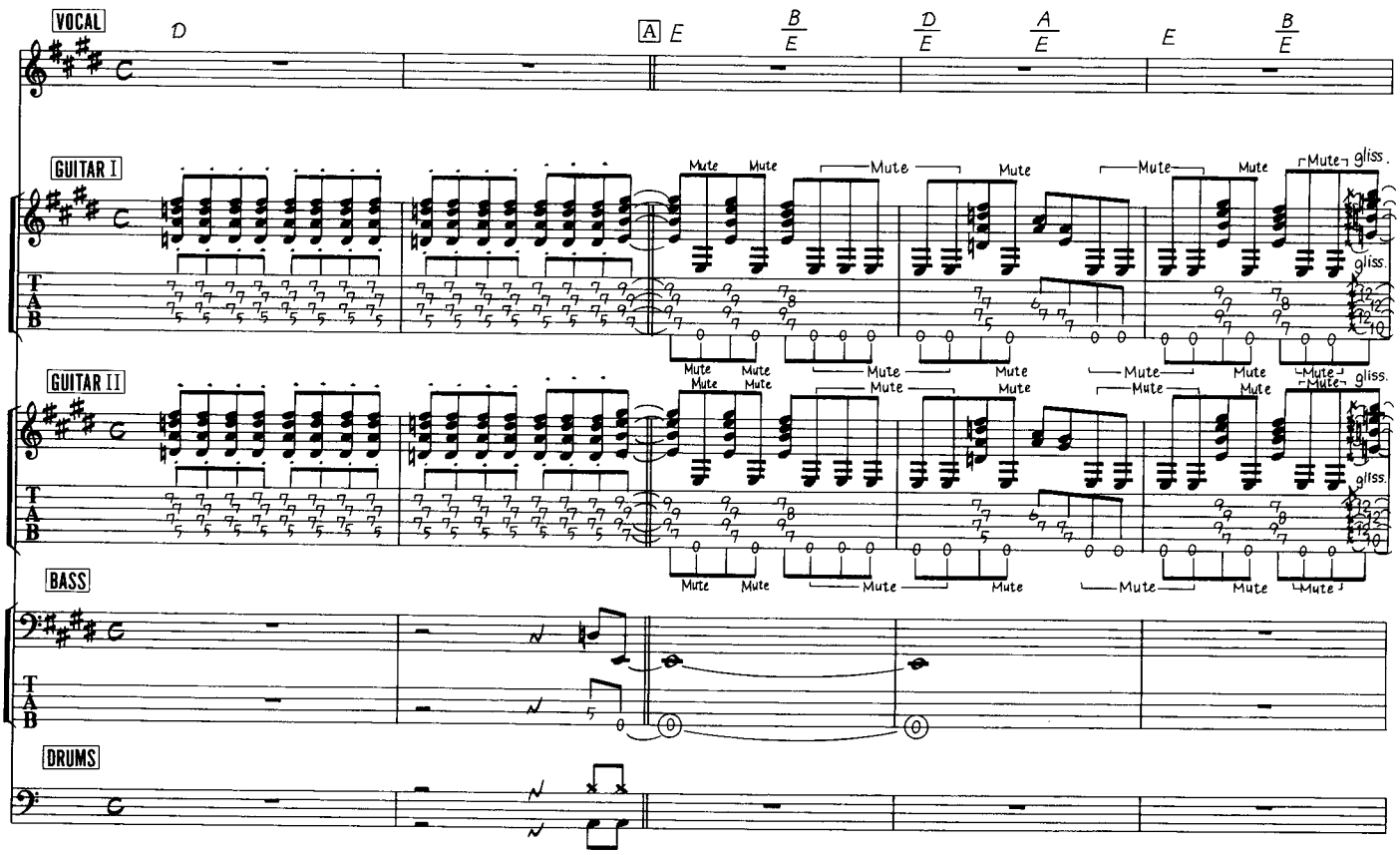
パワーラヴ

Words & Music by Kal Swan and Douglas Aldrich

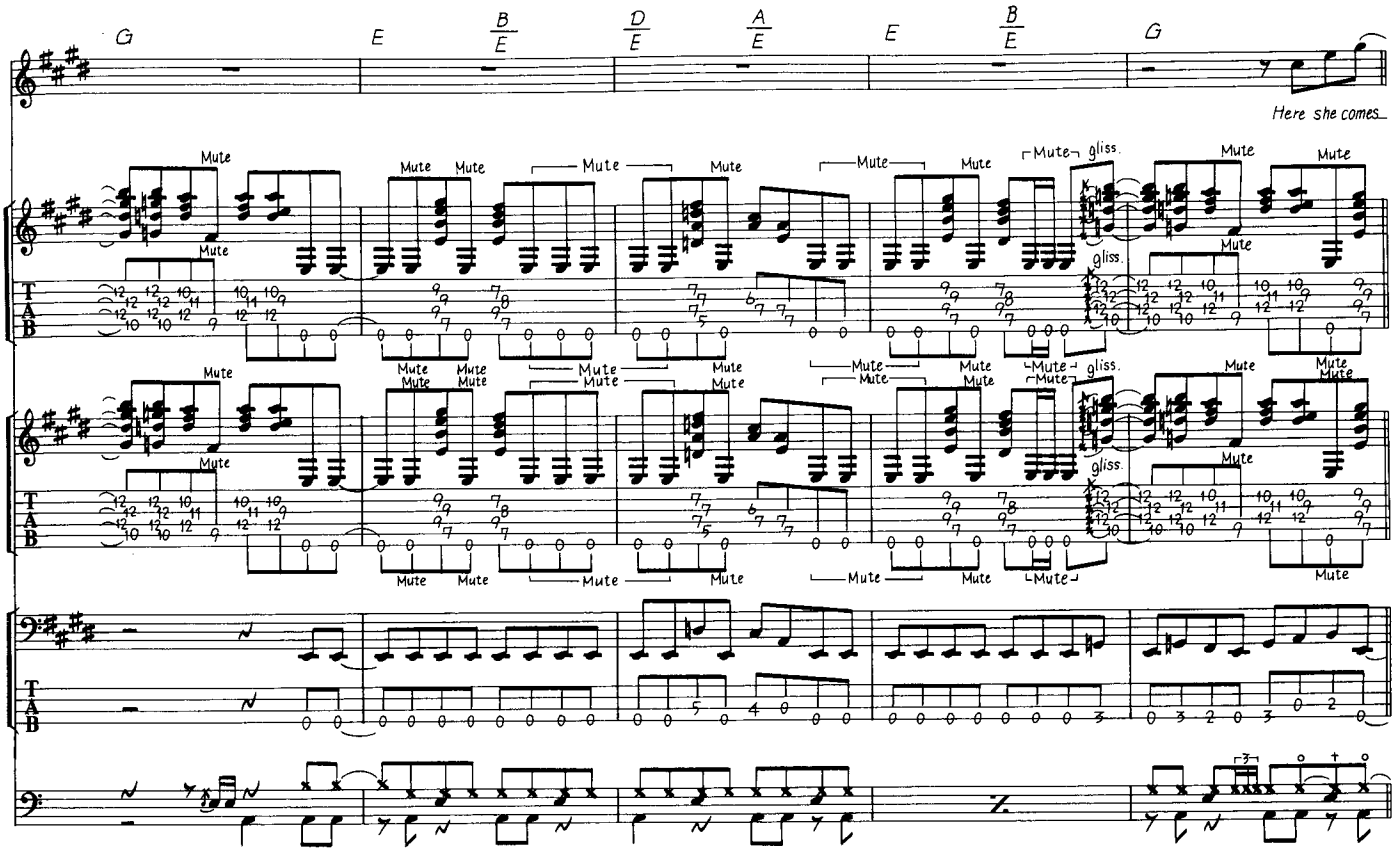
B面トップのこの曲は、ミディアム・テンポのヘヴィーなナンバーである。ギター・ソロを除くと、全体的に言って、それほど超ハイ・テクニックを駆使した演奏ではないが、それでもただ聞いている時の感じと実際にプレイする時とでは大違い。

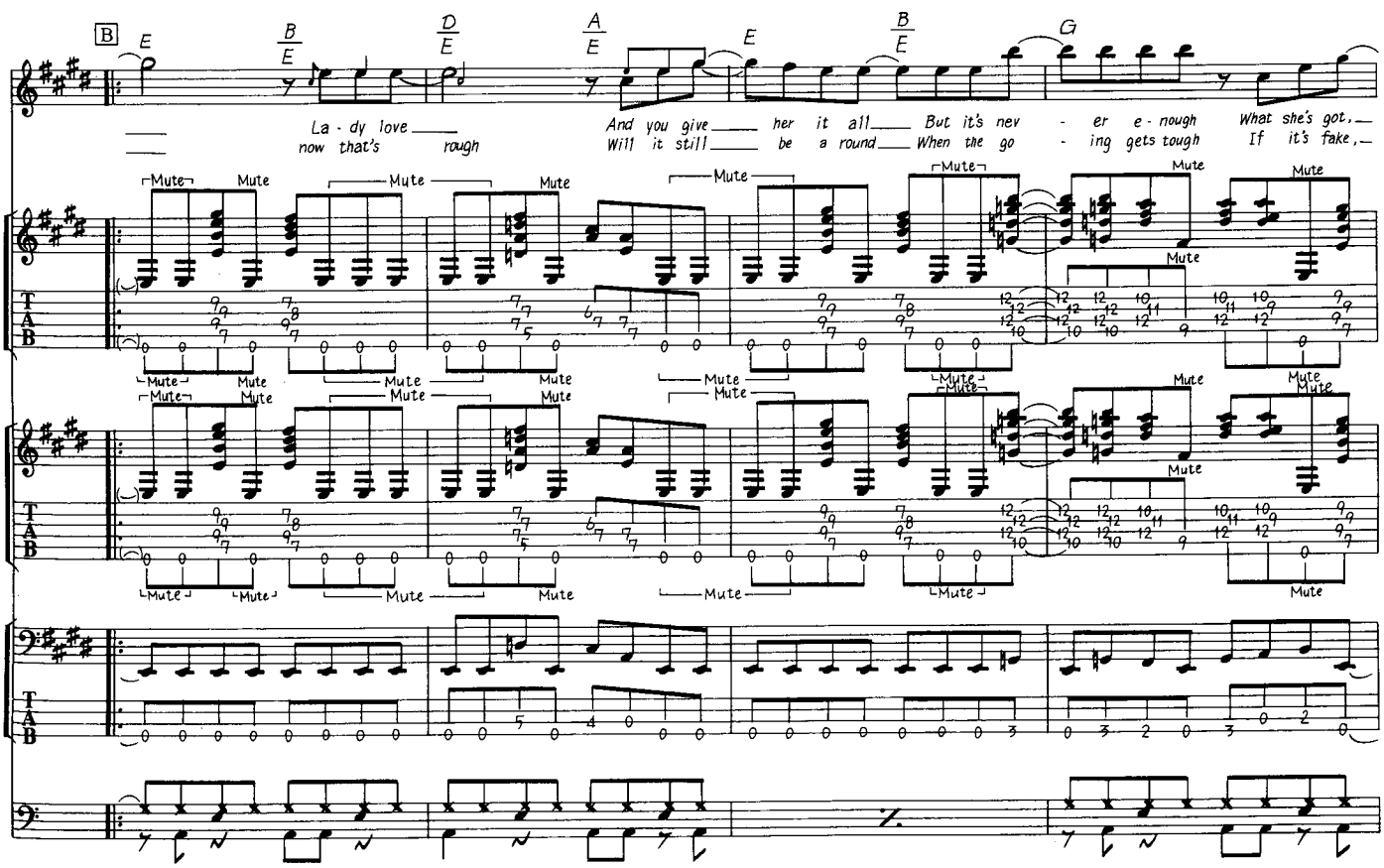
Aが「パワーラヴ」のメイン・リフで、Bではこの形がバッキング・パターンになる。では、Bを例に取ってみよう。アンサンブル的には、2・4小節目（6・8小節目）のように、ベース・ラインとギターのコード・バッキングが、一致して動く部分に注目。ここは、ドラムも含めて特にタイミングをぴったりと合わせることが肝心だ。ギターの2小節目3拍は、記譜されたポジションだけを押えるのではなく、5フレットを人差指でバレーしたAコードにしておくフォームがスムーズ。4小節目4拍の裏は、特に強くピッキングして、メリハリをつけること。

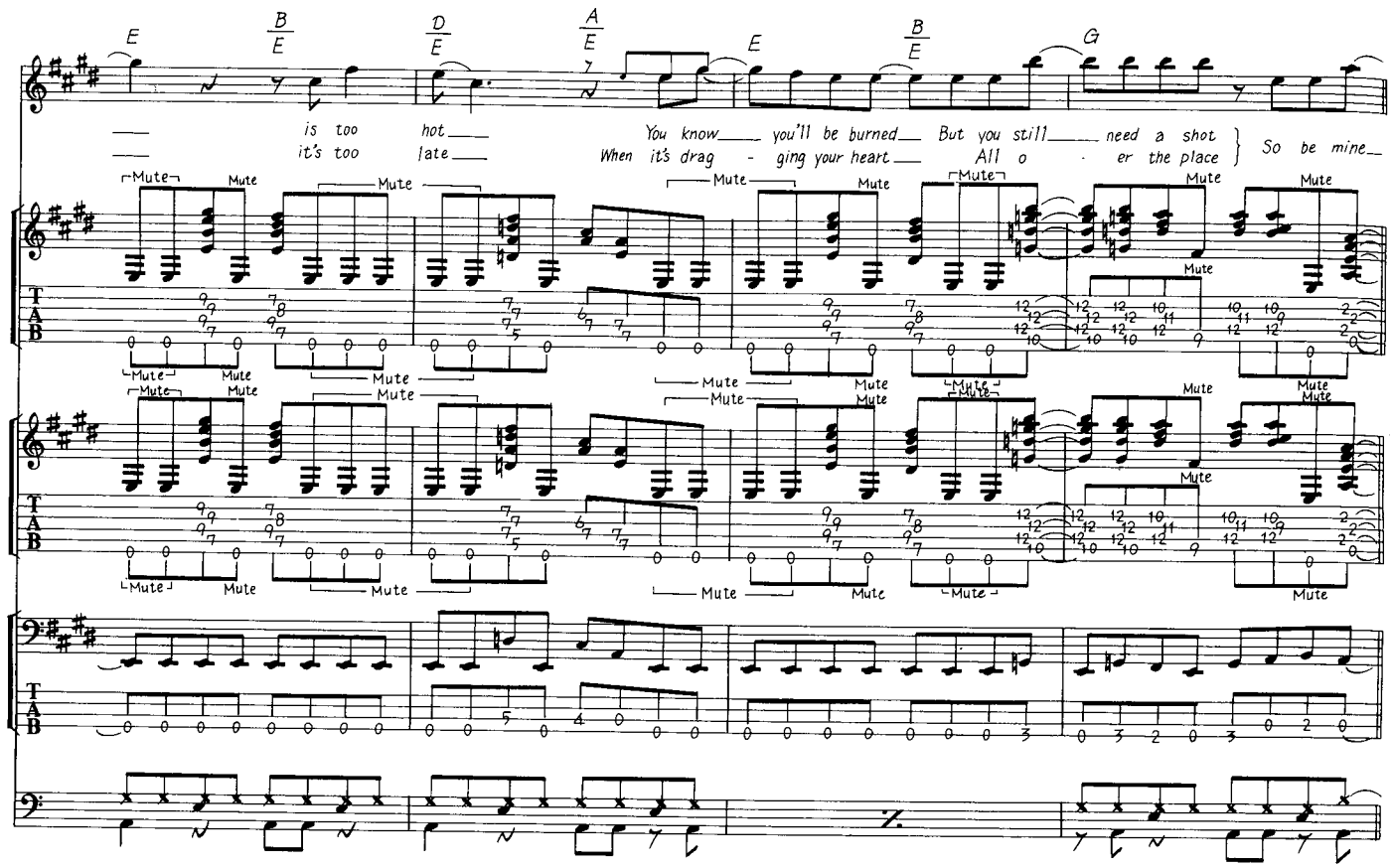
Eのギター・ソロは、圧巻。出だしはオーソドックスなロック・ギター奏法で、$\frac{7}{1}$・$\frac{7}{2}$は人差指1本でジョイントし、$\frac{9}{3}$を薬指で1音チョーキングするパターン。2小節目最後の3連から次の1小節間は、Bmのナチュラル・マイナー・スケールを使ったフレージングである。こういった展開は、良く使われるもののひとつなので、そのまま憶えてしまえばアドリブをする時にも役に立つだろう。また、$\frac{9}{3}$A♯音のヴィブラートは、人差指で行なうわけだが、人差指でチョーキングする時と同じ要領で行なうことがポイント。6小節目のチョーキングに続く部分はまず$\frac{12}{1}$を1音チョーキングしてから、次の小節の1拍目裏で半音だけ下げ、2拍目では、あらかじめ1音分アップ(U)させてピッキングし直すフレーズだ。つまり、アップでは通常のチョーキングのように音を上げる際の過程音を出してはならない。ここでは、音程を正確に出すこと。9・10小節目は、ストレッチを加えた速弾きで、ダグー流のフィンガリング・パターン。最初は、ゆっくりと練習して慣れるに従って、テンポ・アップしていこう。



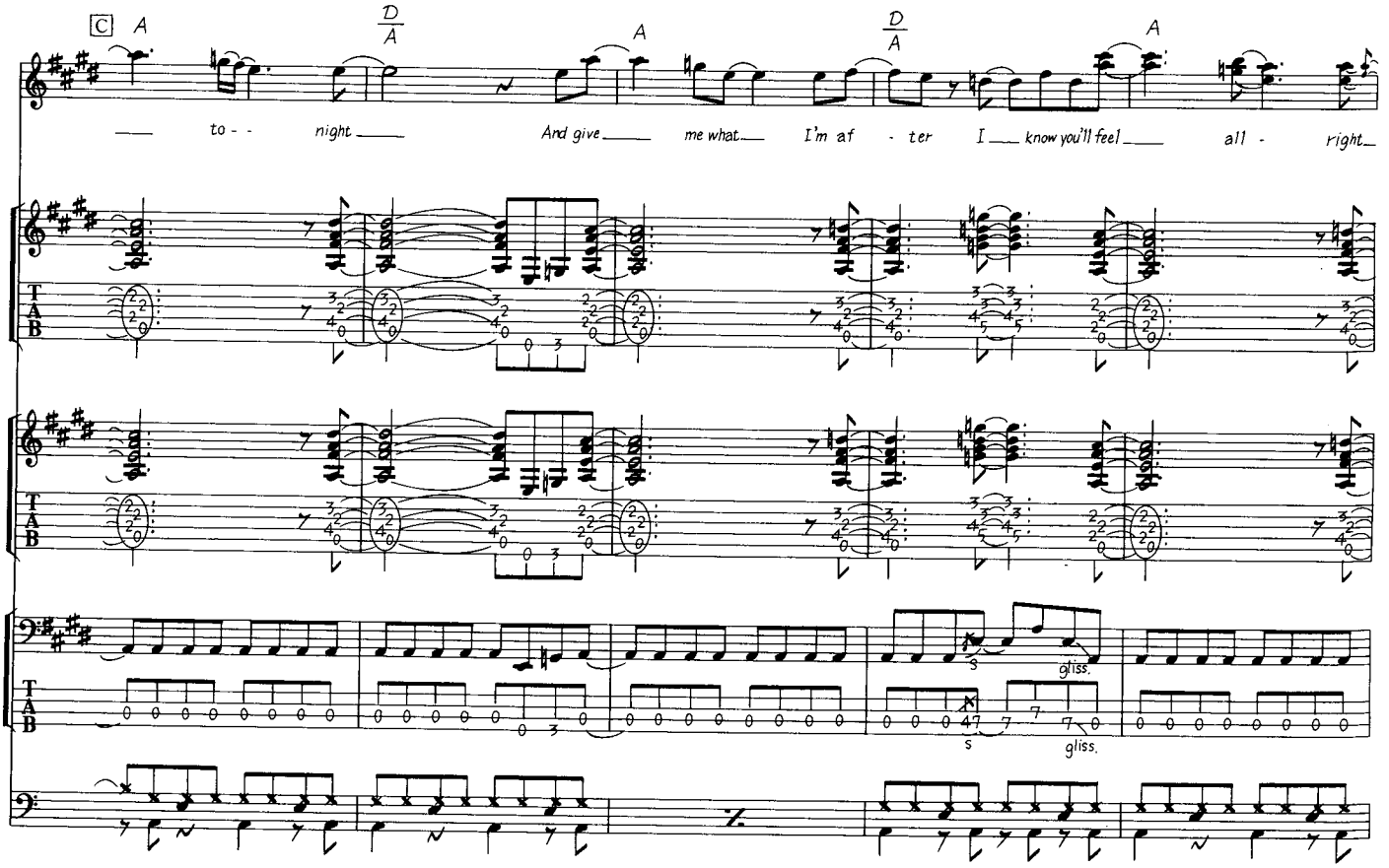
© 1987 by LION
Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

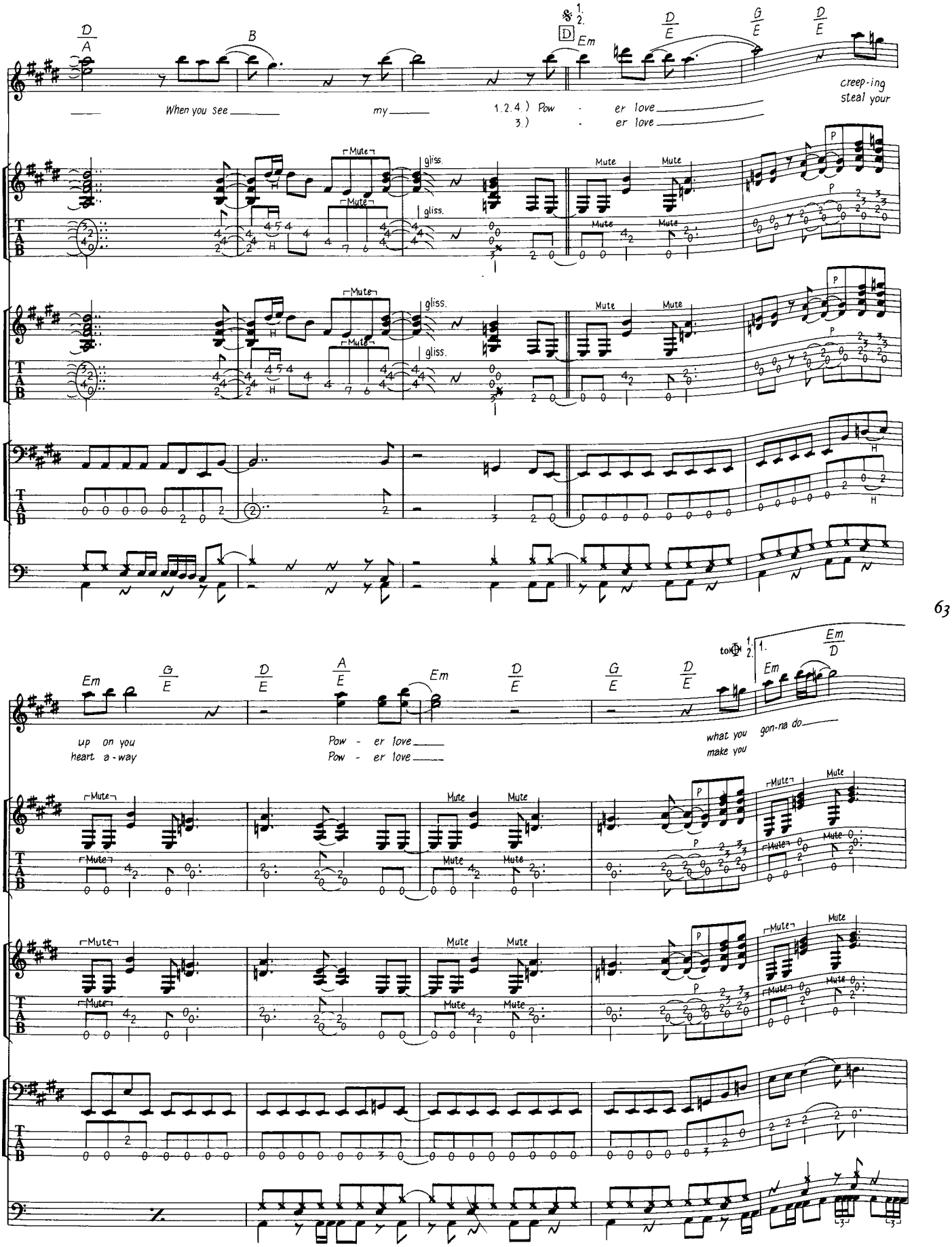

G
E
B/E
D/E
A/E
E
B/E
G
Here she comes
Mute
gliss.
T
A
B

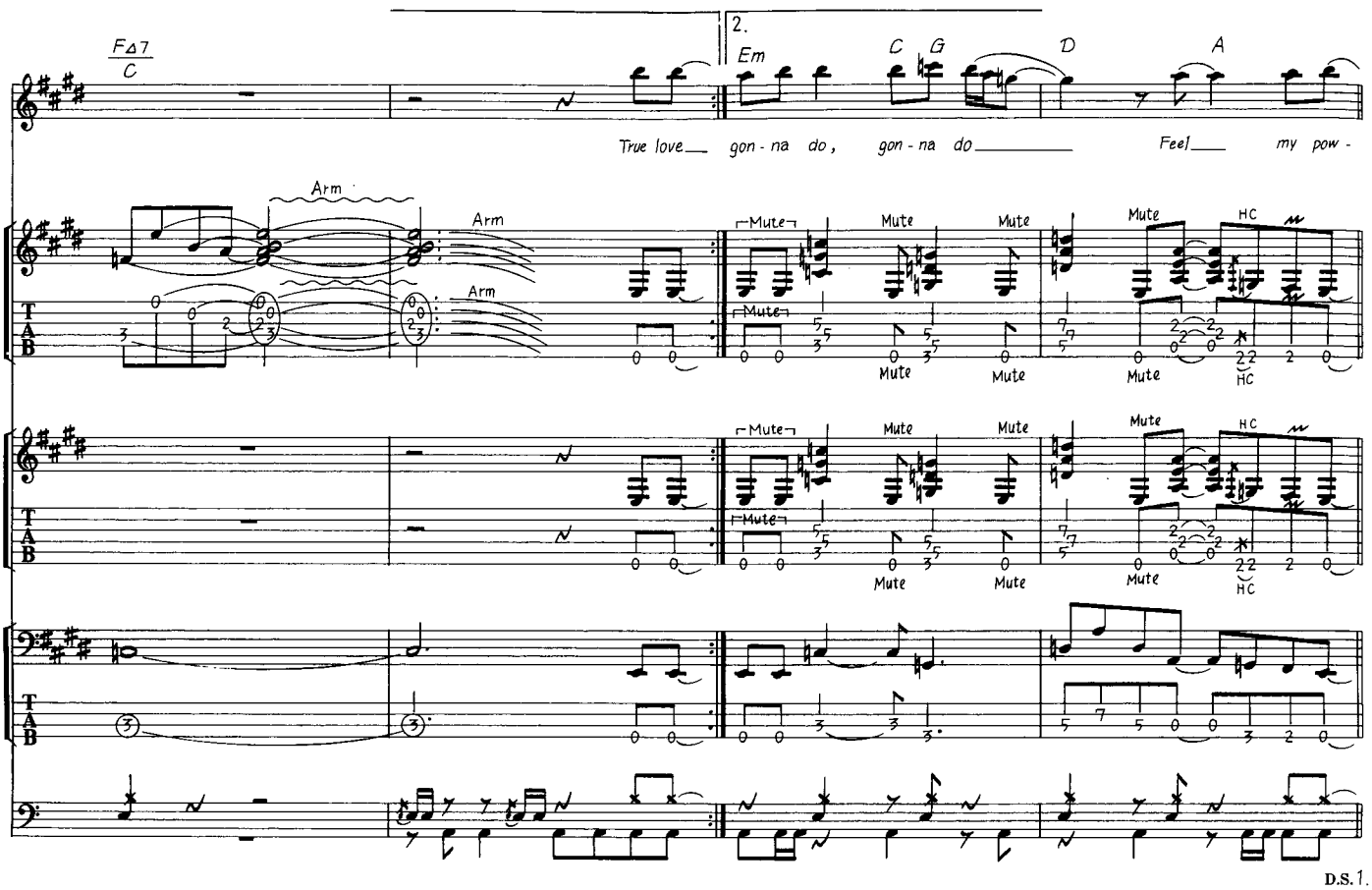

B
E
B/E
D/E
A/E
E
B/E
G
La - dy love now that's rough
And you give her it all Will it still be a round
But it's nev - er e - nough When the go - ing gets tough
What she's got, If it's fake,
Mute
T
A
B


E
B/E
D/E
A/E
E
B/E
G
is too hot
it's too late
You know you'll be burned But you still need a shot
When it's drag - ging your heart All o - er the place
So be mine
Mute
T
A
B

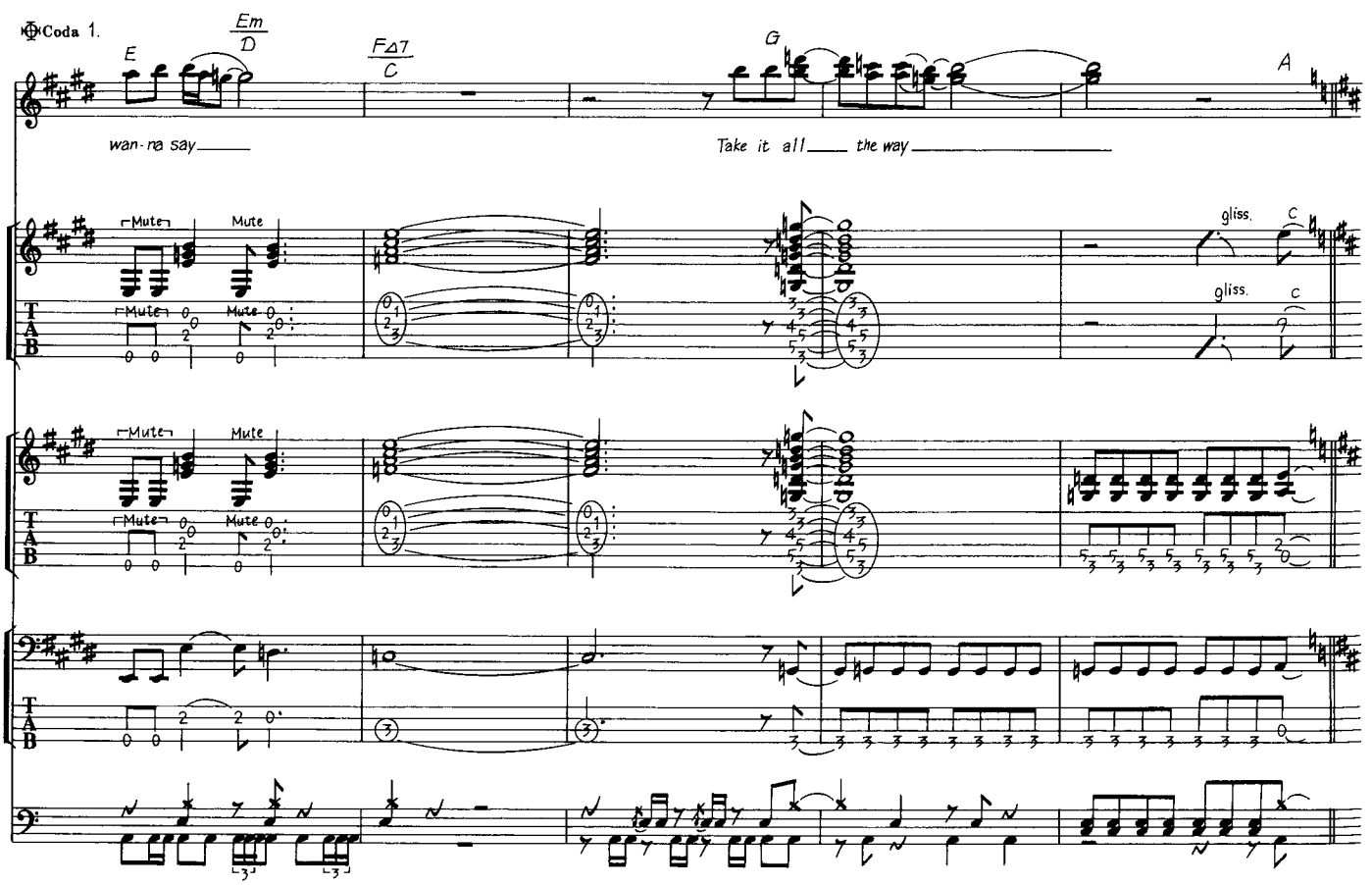
62

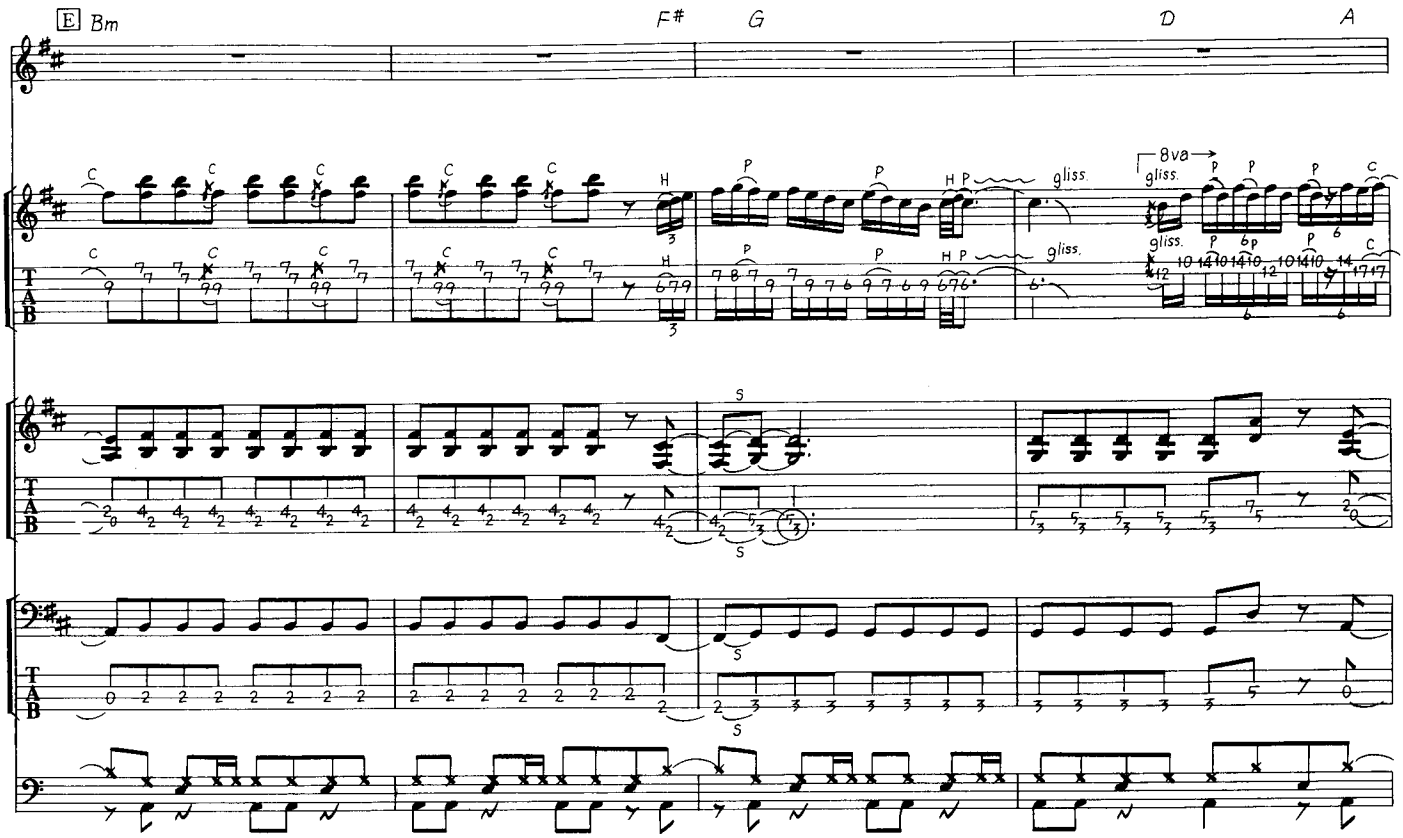

C
A
D/A
A
D/A
A
to - - night
And give me what I'm af - ter I know you'll feel all - right
gliss.
T
A
B

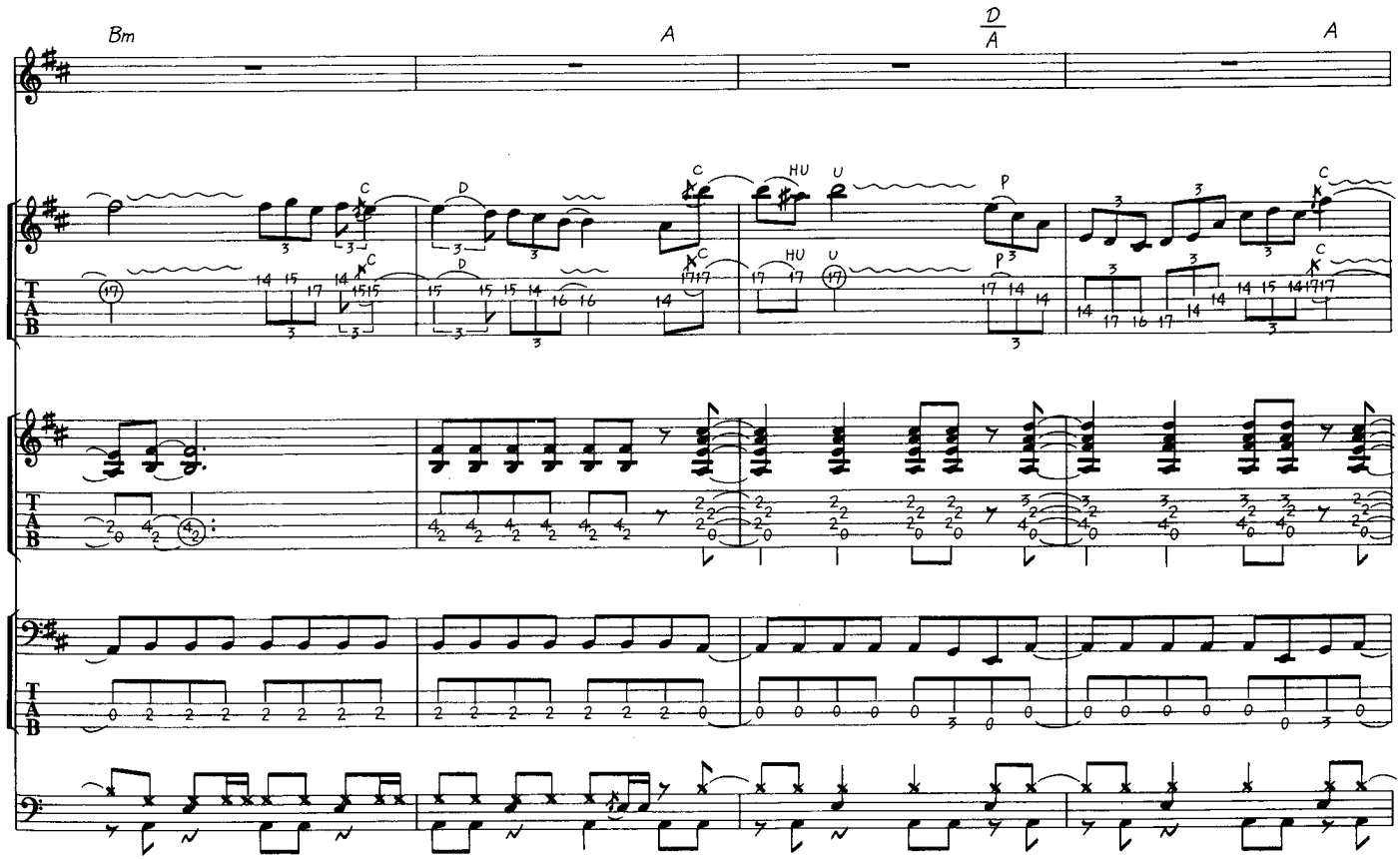

D
A
B
1.
2.
D
Em
D
E
G
E
D
E
When you see
my
1.2.4.) Pow - er love
3.) - er love
creep-ing
steal your
Mute
gliss.
P
H
T
A
B
Em
G
E
D
E
A
E
Em
D
E
G
E
D
E
to ⊕
1.
2.
Em
D
up on you
heart a-way
Pow - er love
Pow - er love
what you
make you
gon-na do

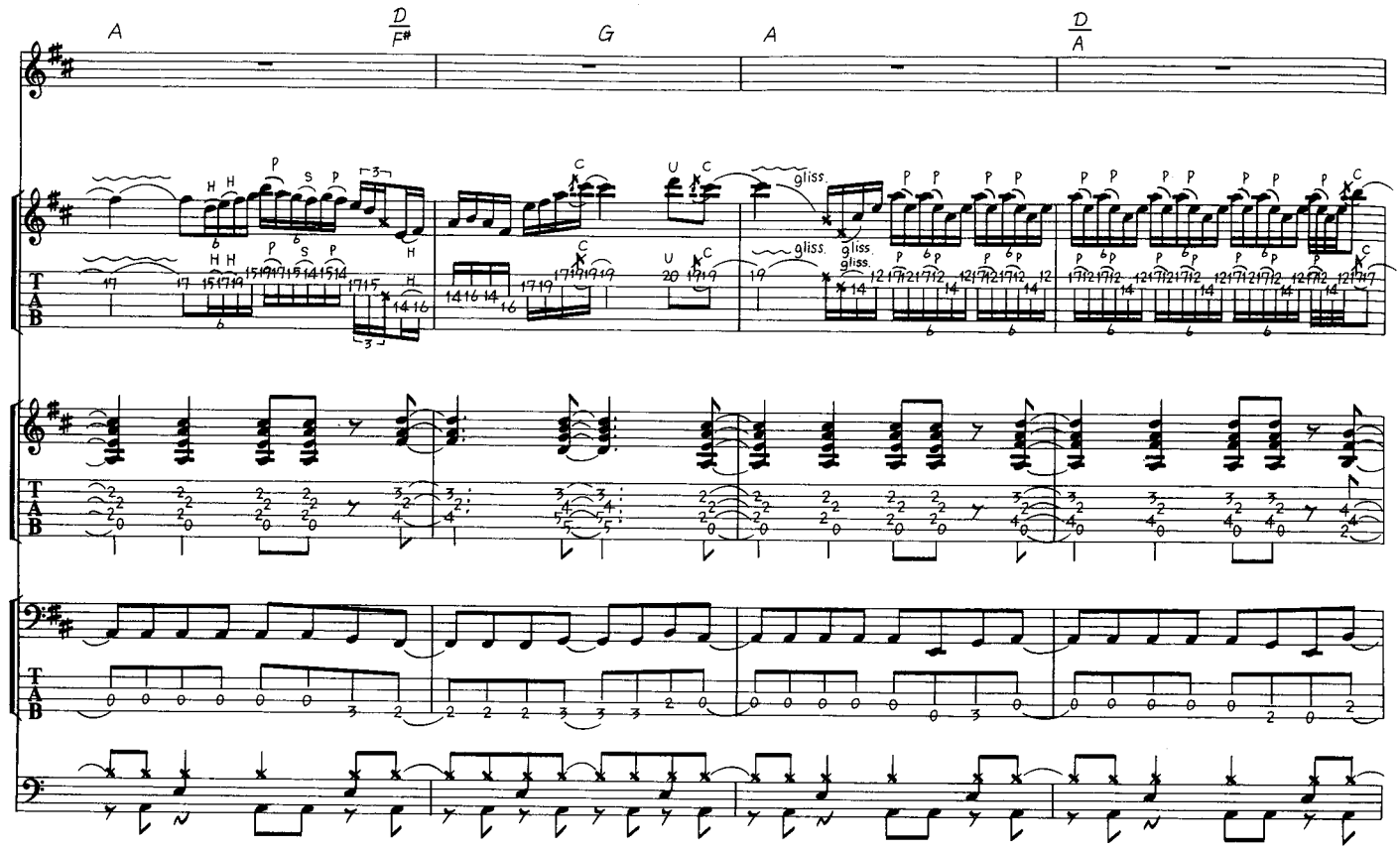

FΔ7
C
2.
Em
C
G
D
A
True love gon - na do, gon - na do
Feel my pow -
Arm
Mute
HC

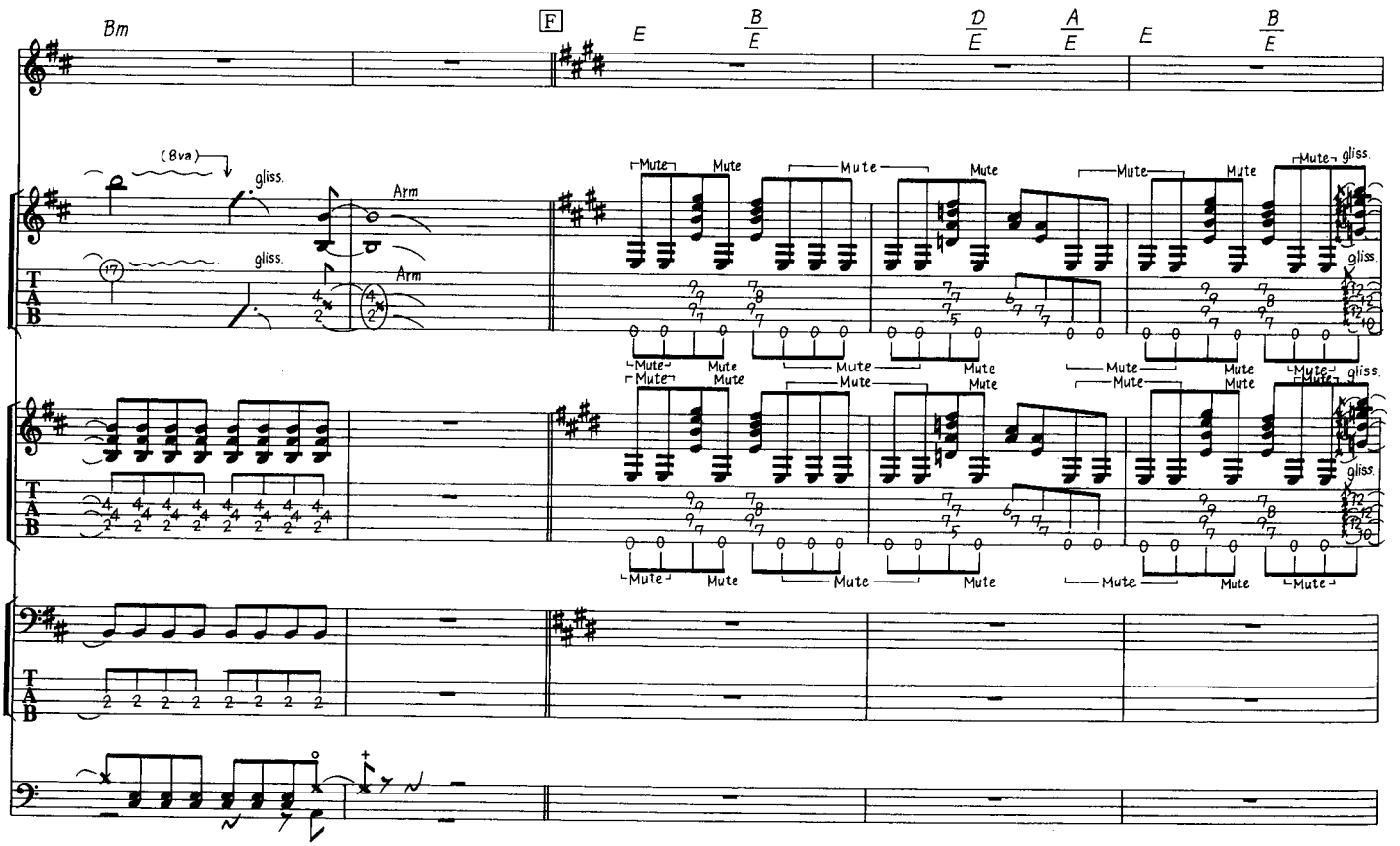
D.S. 1.

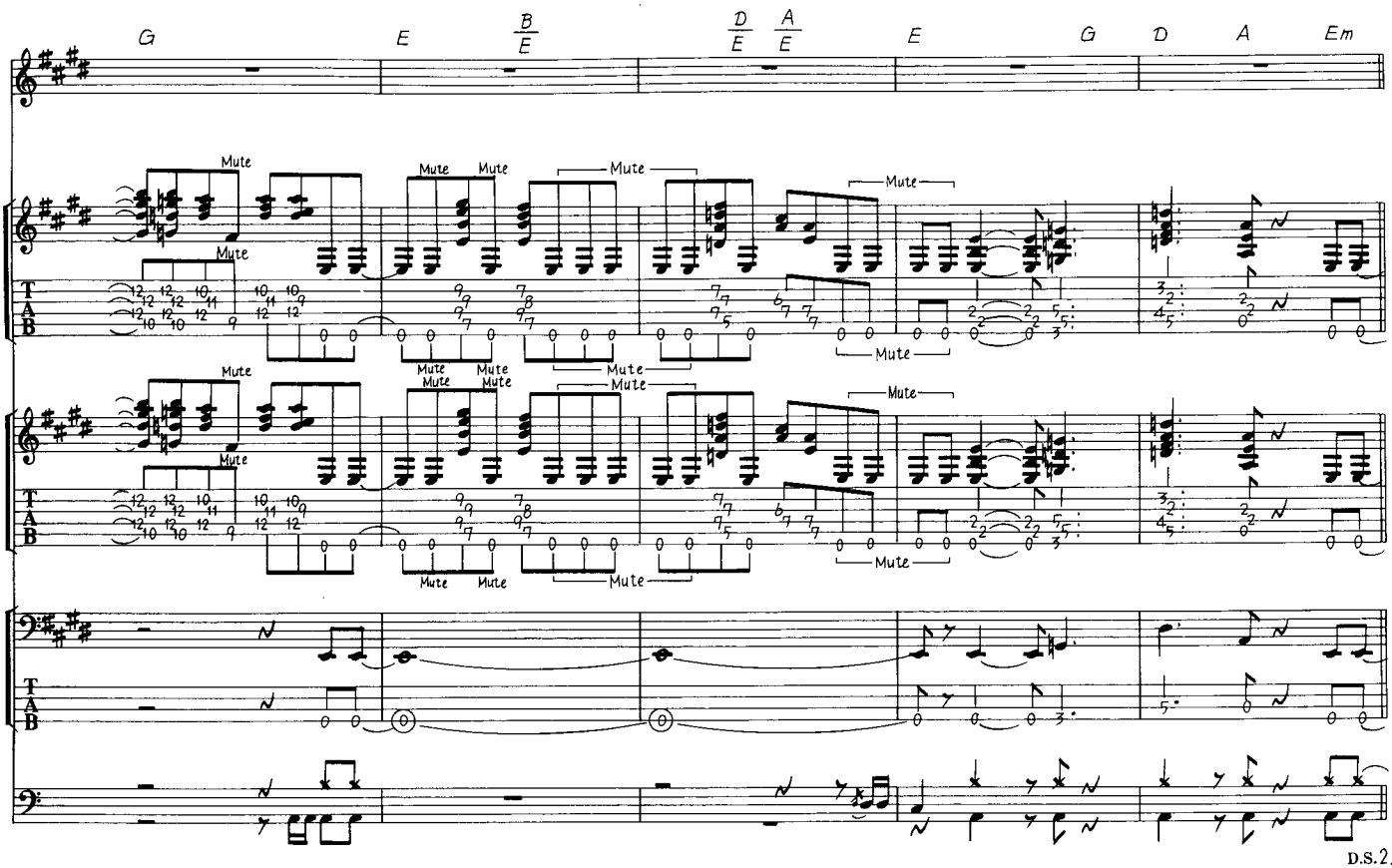

Coda 1.
Em
D
E
FΔ7
C
G
A
wan - na say
Take it all the way
Mute
gliss.
C

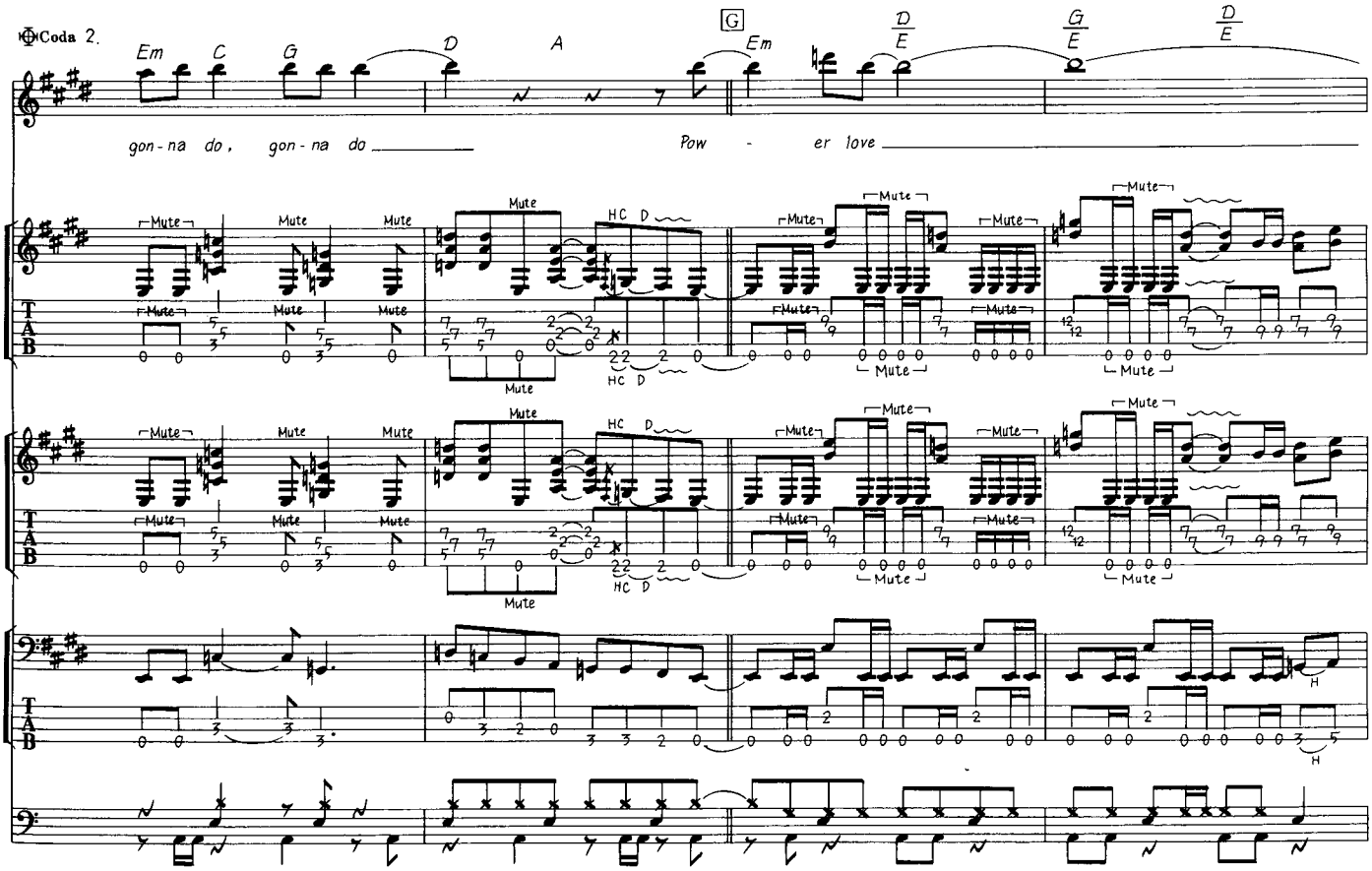

E Bm
F#
G
D
A
8va
gliss.
T
A
B

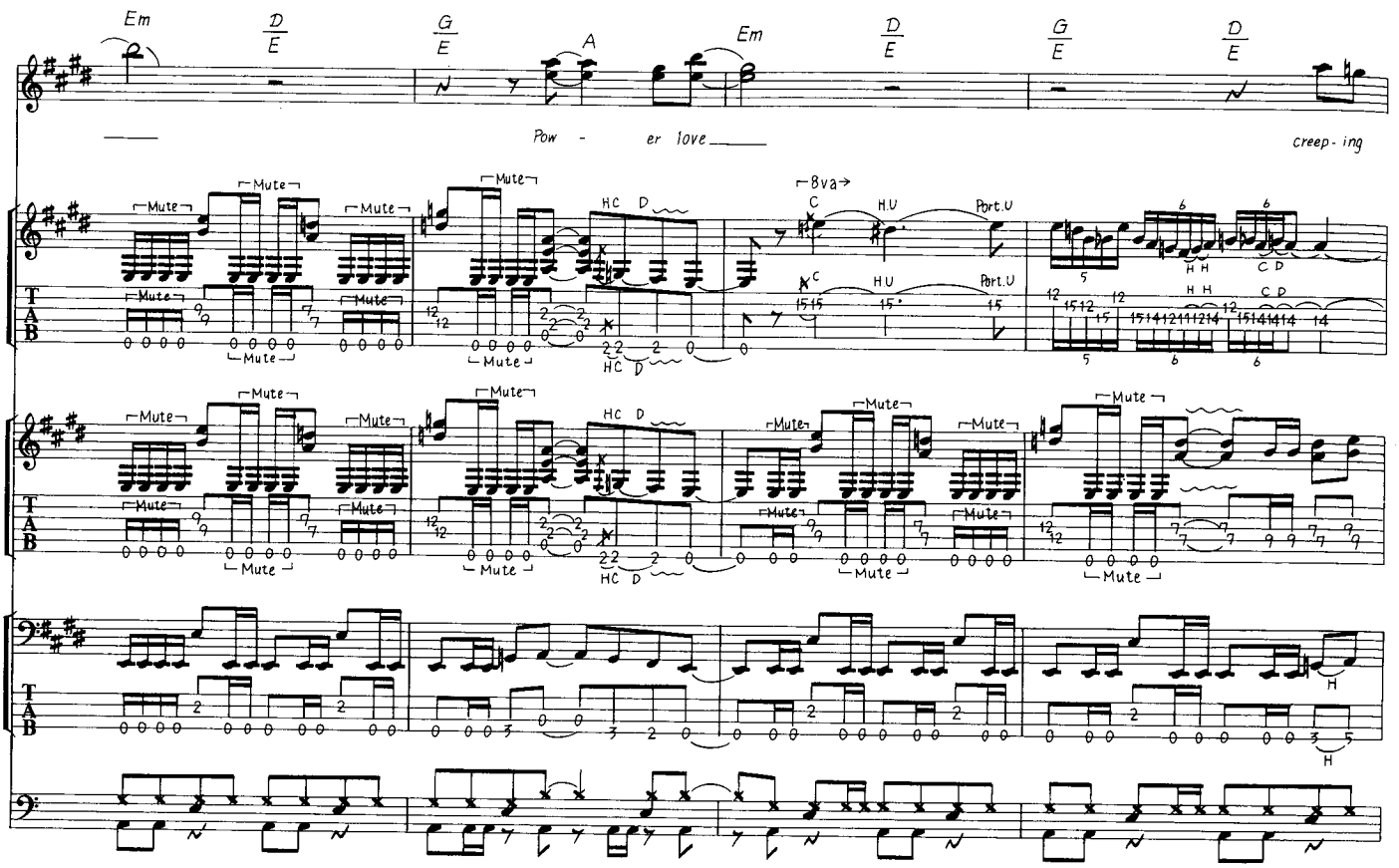

Bm
A
D
A
T
A
B


A
D/F#
G
A
D/A
gliss.
T
A
B

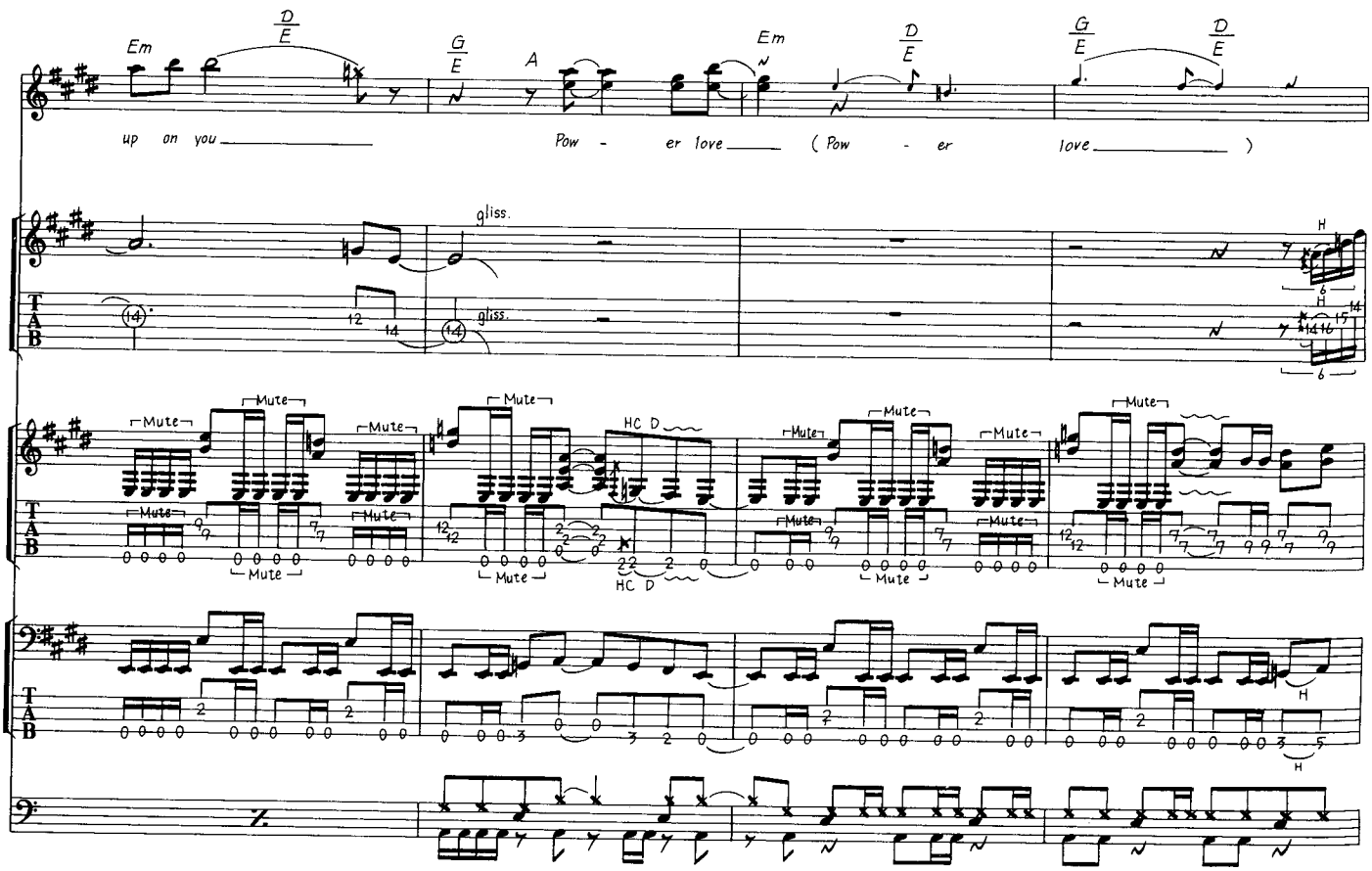

Bm
F
E
B/E
D/E
A/E
E
B/E
(8va)
gliss.
Arm
Mute
T
A
B

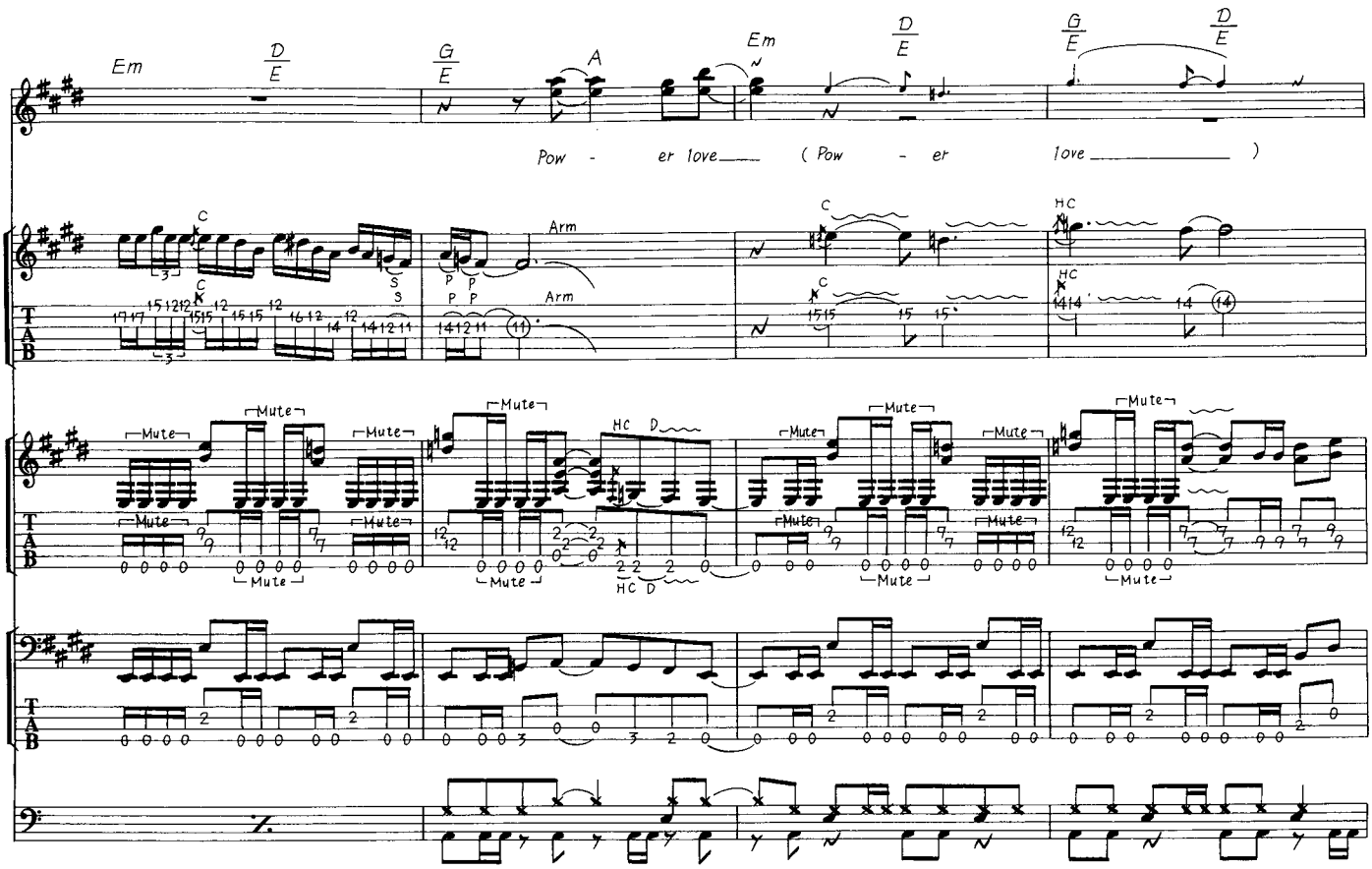

G
E
B/E
D/E
A/E
E
G
D
A
Em
Mute
T
A
B
D.S.2.

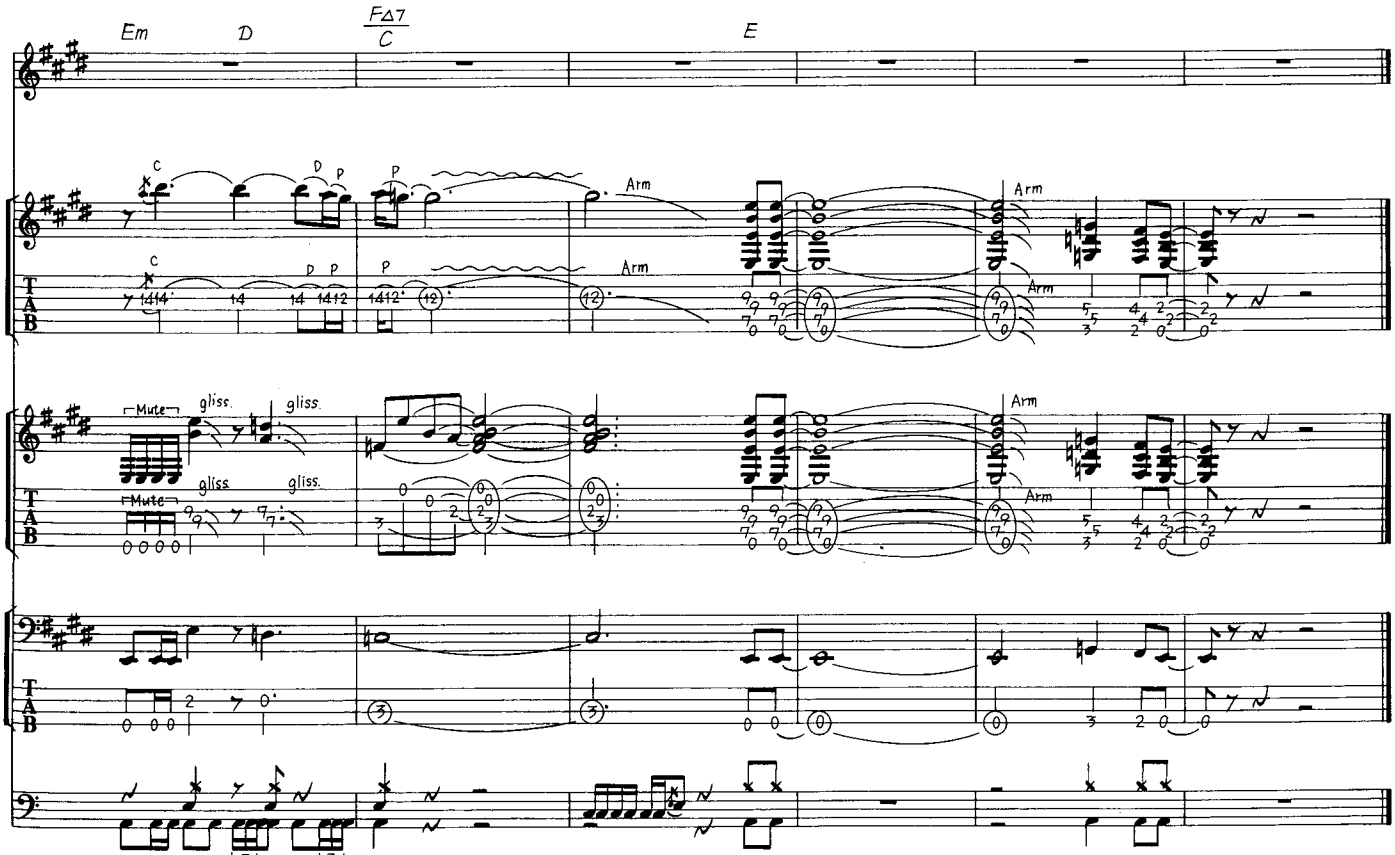

Coda 2.
Em
C
G
D
A
G
Em
D/E
G/E
D/E
gon - na do, gon - na do
Pow - er love
Mute
HC D
T
A
B


Em
D/E
G/E
A
Em
D/E
G/E
D/E
Pow - er love
creep-ing
Mute
HC D
8va
C
H.U
Port.U
H H
C D

68


Em
D/E
G/E
A
Em
D/E
G/E
D/E
up on you
Pow - er love
(Pow - er love)
gliss.
Mute
HC D
H


Em
D/E
G/E
A
Em
D/E
G/E
D/E
Pow - er love (Pow - er love)
C
Arm
HC
Mute
HC D
TAB


Em
D
FΔ7/C
E
C
D P
P
Arm
Mute
gliss.
TAB

IN THE NAME OF LOVE

イン・ザ・ネーム・オブ・ラヴ

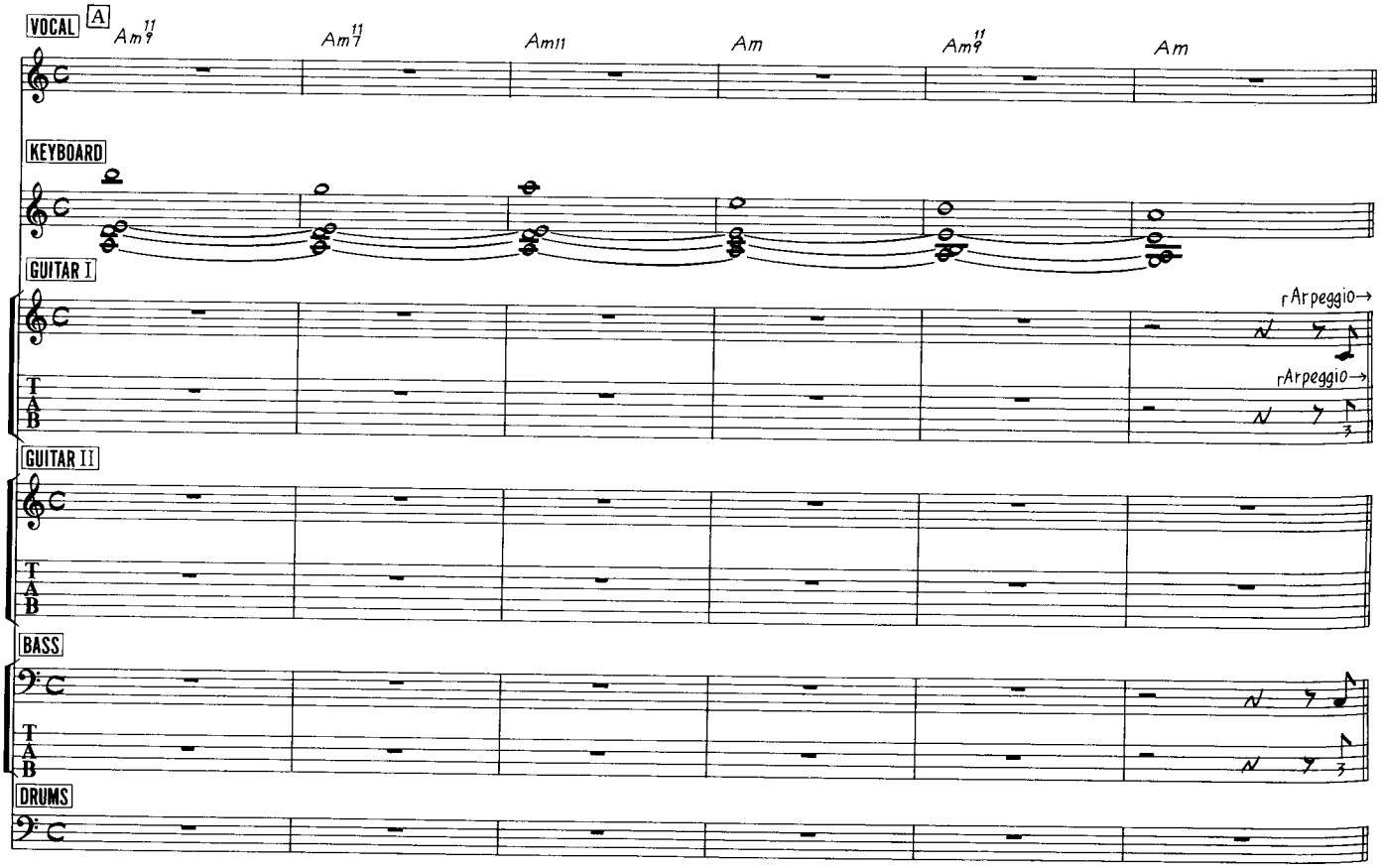
Words & Music by Kal Swan

導入部分のシンセとアコースティック・ギターの響きが、印象的な秀作である。空間的な広がりを作るシンセと、テンション・ノートを巧みに利用したギターのアルペジオ（分散和音）は、効果満点。しかも、この静かな部分から一転して、ディストーションのきいたギター・リフに変わる展開が好対照を示していて、互いにその特徴を充分生かしている。

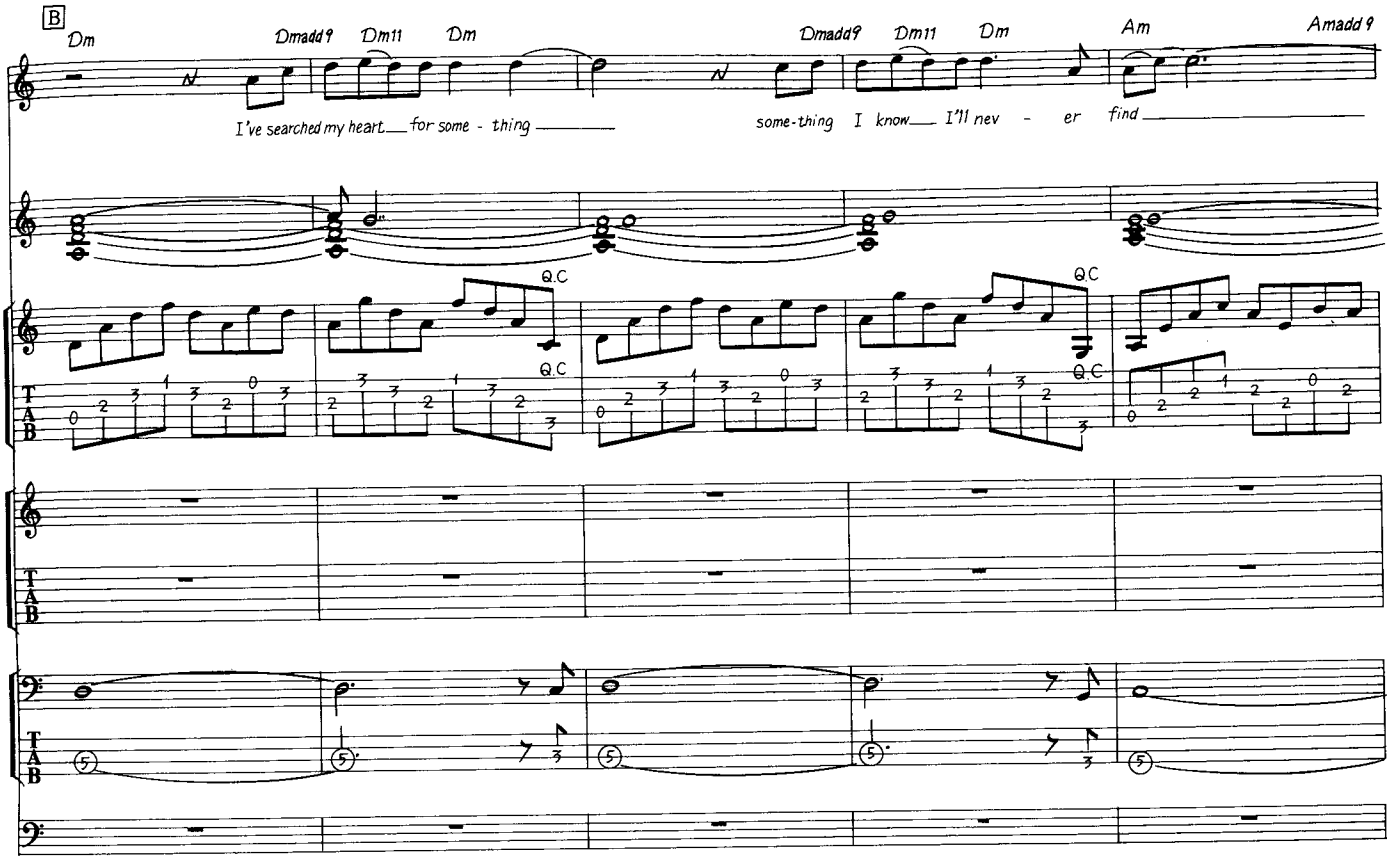
Aから Cまでのシンセは、ストリングスでギターは前述の通りアコースティックが使われている。（ただし、Cの最後の小節はエレクトリック・ギター）アルペジオの途中でしばしば登場するQ.Cとは、クオーター・チョーキングのことで、$\frac{1}{4}$だけ音を上げるテクニック。Q.Cは、半音チョーキングを完全に行なう手前でチョーキングをストップさせる要領でプレイすればOK。ここでは、それほど神経質になる必要はないだろう。なお、C7小節目のギターは、1弦から6弦に向けてピッキングすること。

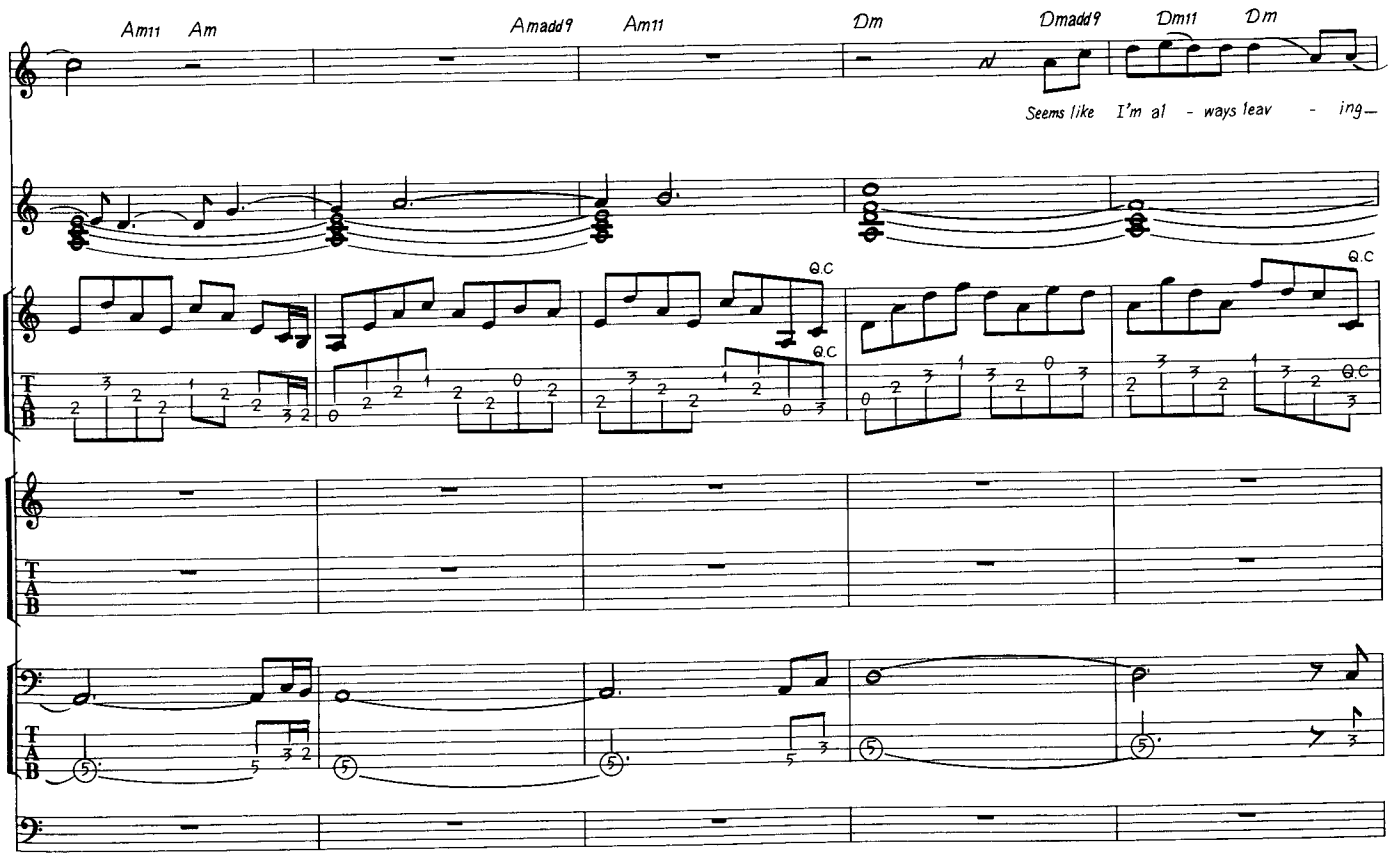
Dは、この曲のメイン・リフ。ギターで和音にヴィブラートを掛ける部分は、$\frac{2}{5}$人差指・$\frac{4}{4}$小指と押弦したフォームで、下方向に引き下げる作業がスムースである。キーボードは、オーケストラ・ヒットによるもので、同じギター・リフが使われているGやJもこの音色を使った局面だ。

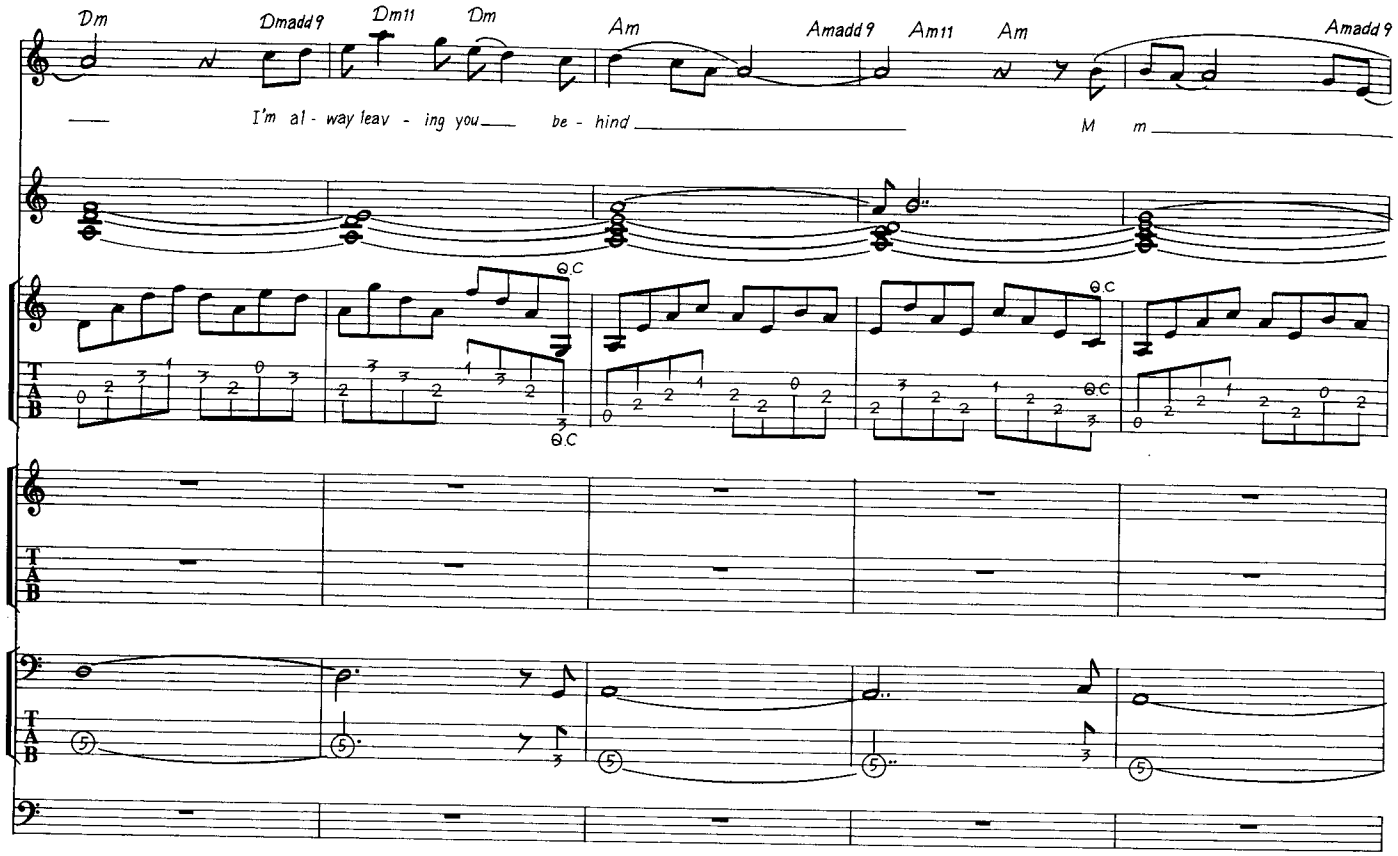
ギター・ソロIに出てくる(Ph)とは、ピッキング・ハーモニクスの省略形で、右手を使って倍音を出すテクニックである。コツは、ピックの先をあまり出さないようにして深目に持ち、立てぎみに構えてピッキングするということだ。ピッキングした時には瞬間的に親指の横腹を弦に接触させ、す速く離すこと。つまり、これは、スピーディーなピッキングが要求される奏法と言える。

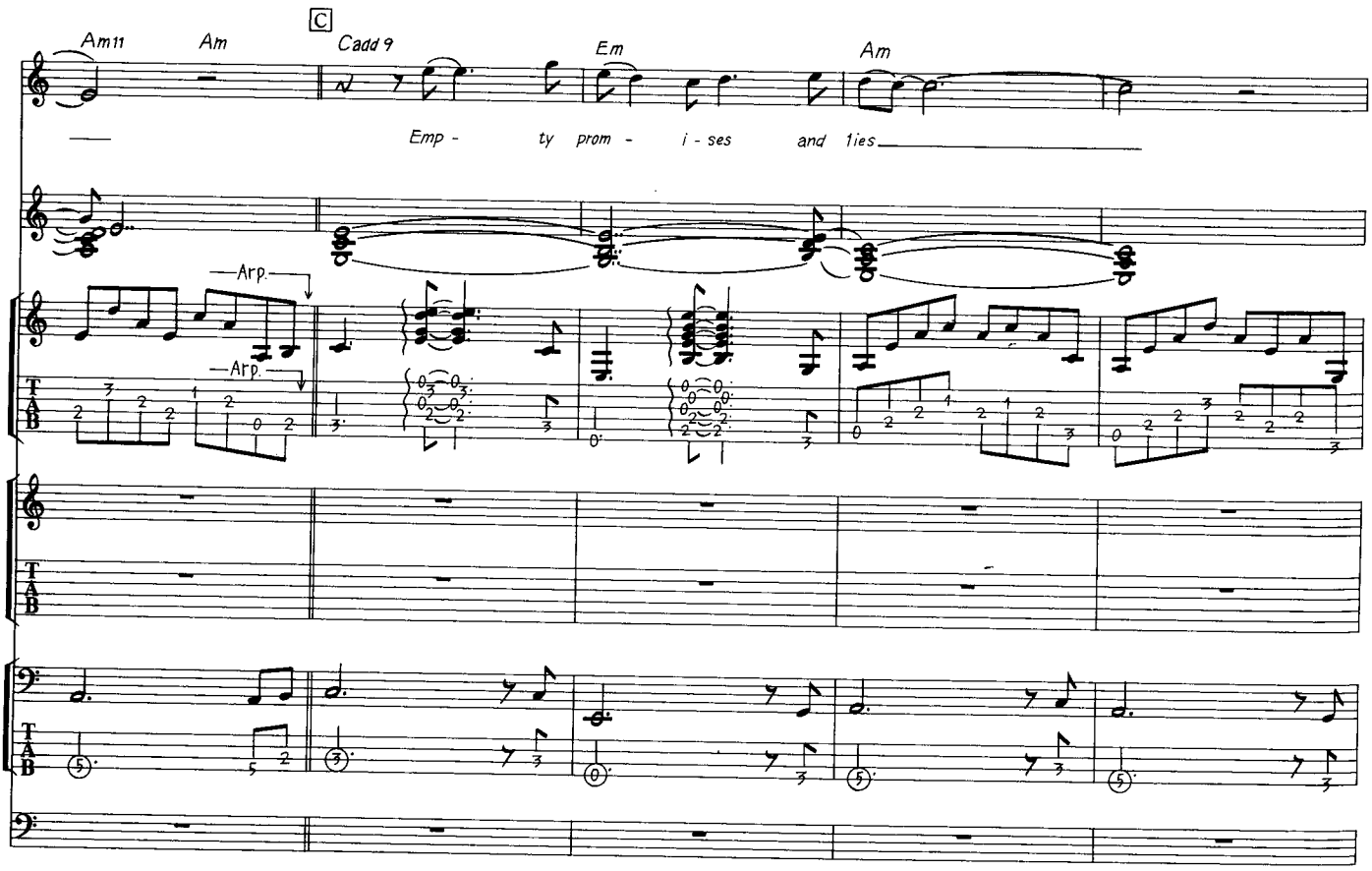


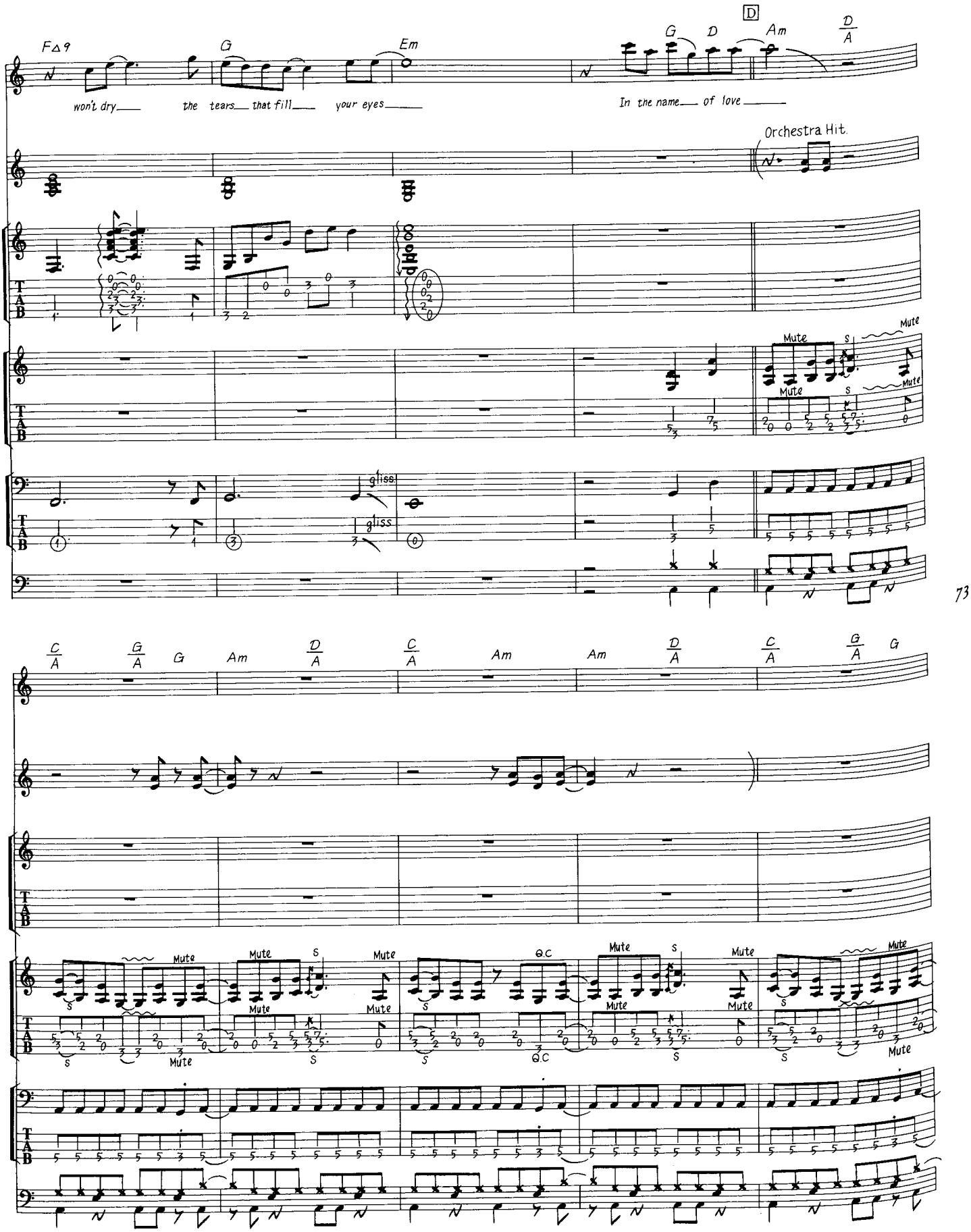
© 1987 by LION
Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

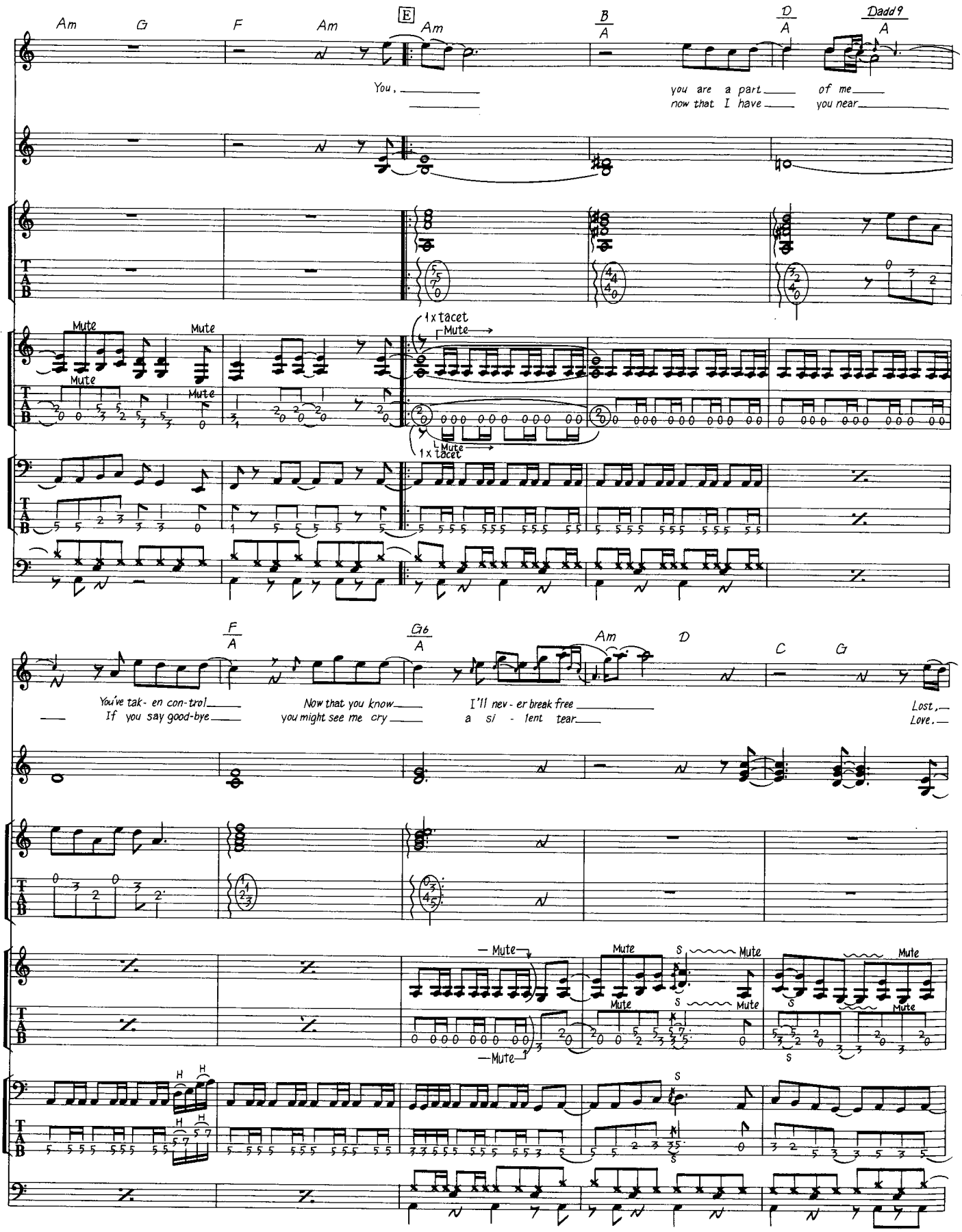

B
Dm
Dmadd9
Dm11
Dm
Dmadd9
Dm11
Dm
Am
Amadd9
I've searched my heart for some - thing
some-thing I know I'll nev - er find
Q.C
Q.C
Q.C
Q.C
T
A
B

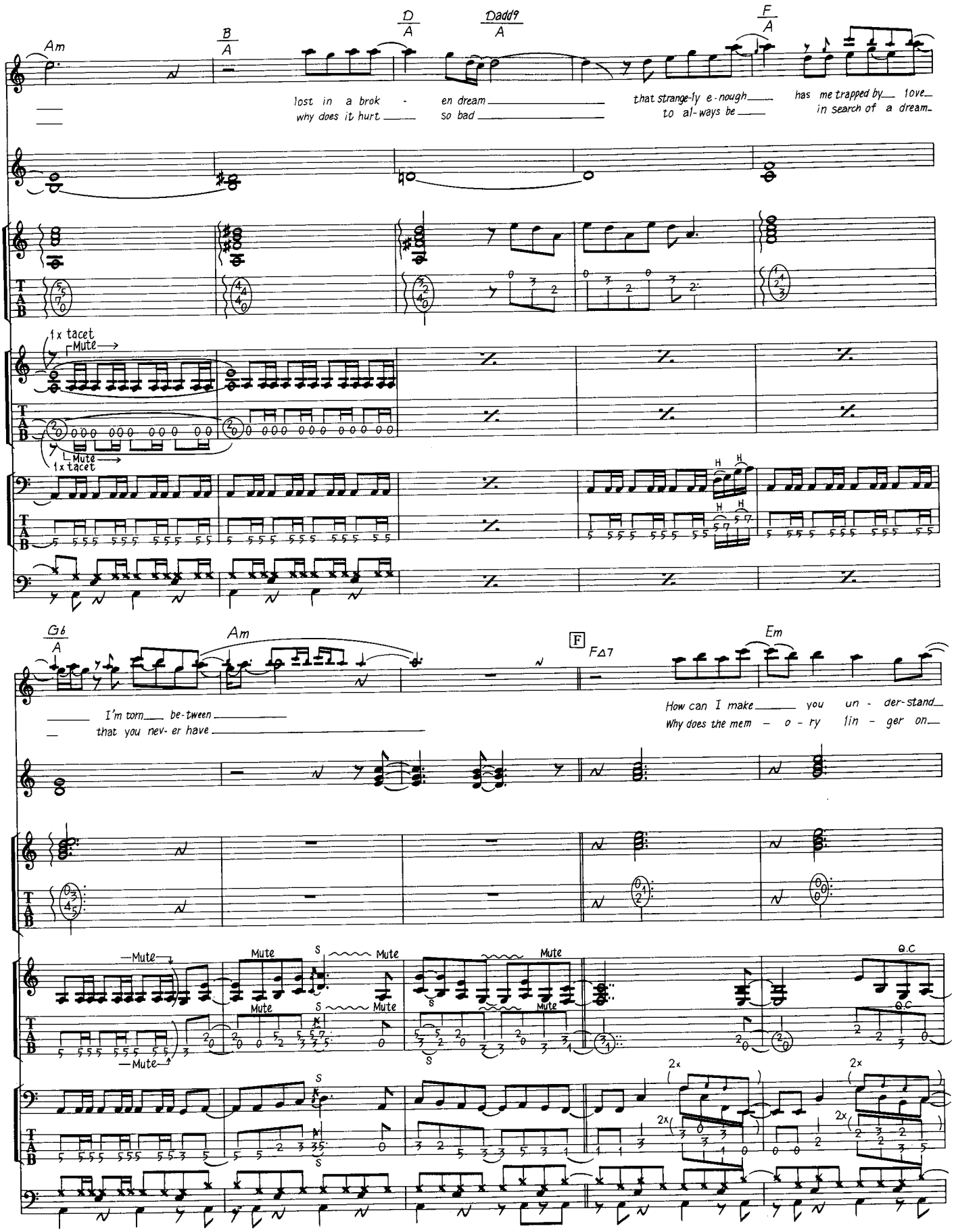

Am11
Am
Amadd9
Am11
Dm
Dmadd9
Dm11
Dm
Seems like I'm al - ways leav - ing
Q.C
Q.C
Q.C
Q.C
T
A
B


Dm
Dmadd9
Dm11
Dm
Am
Amadd9
Am11
Am
Amadd9
I'm al - way leav - ing you be - hind
M m
T
A
B

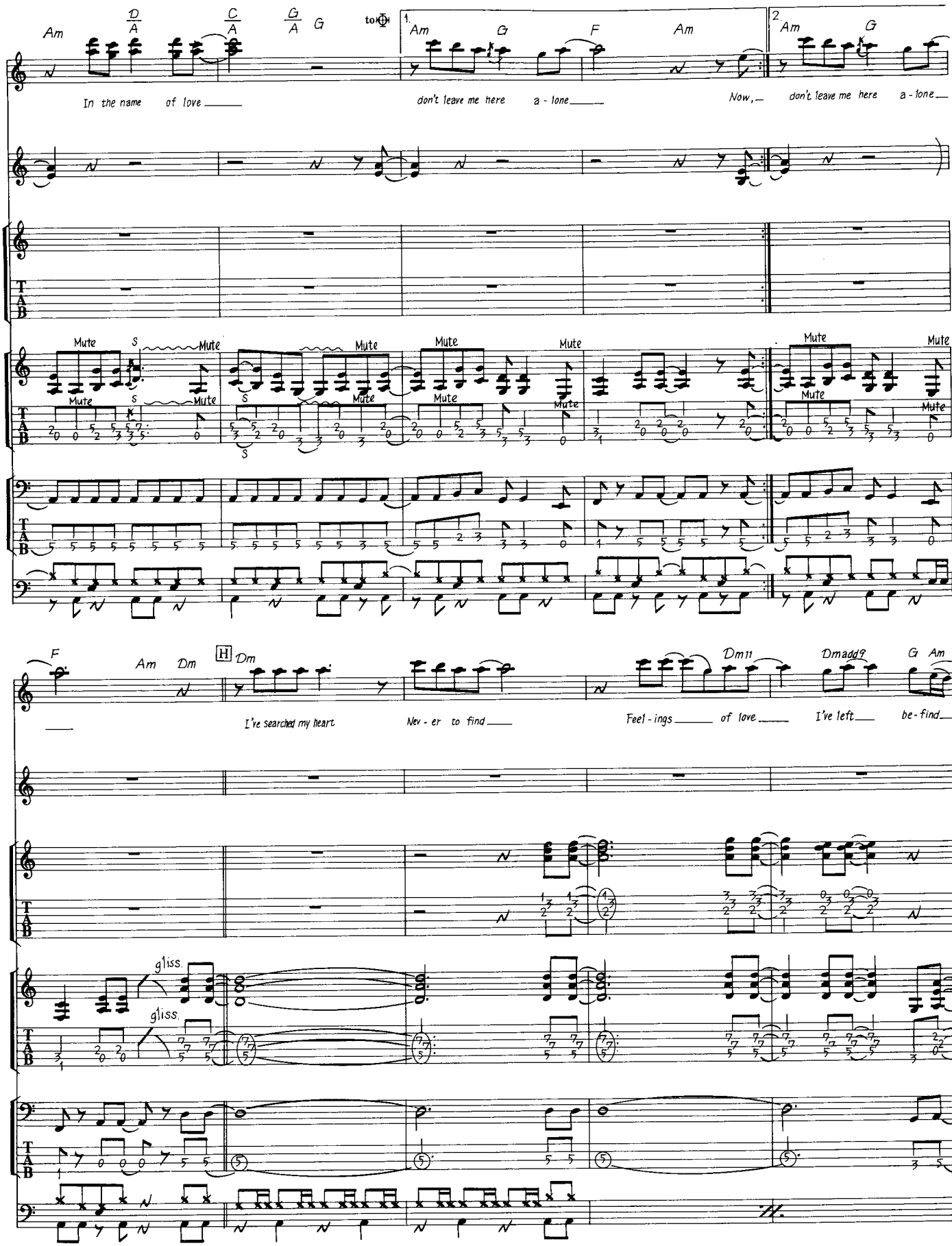

Am11
Am
C
Cadd9
Em
Am
Emp - ty prom - i - ses and lies
Arp.
Arp.
T
A
B

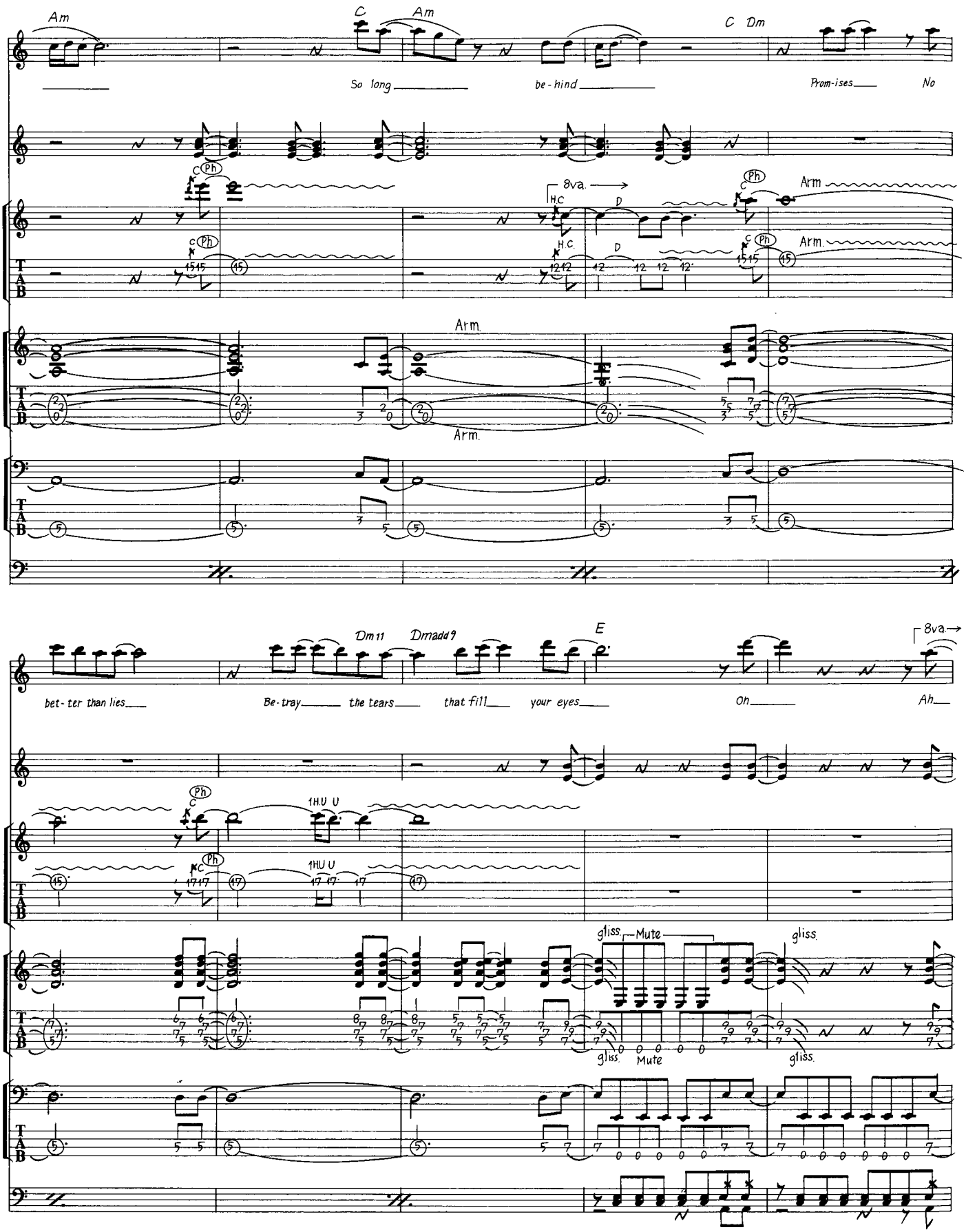

FΔ9
G
Em
G
D
Am
D/A
won't dry
the tears that fill
your eyes
In the name of love
D
Orchestra Hit
Mute
gliss
C/A
G/A
G
Am
D/A
C/A
Am
Am
D/A
C/A
G/A
G
Mute
S
Q.C

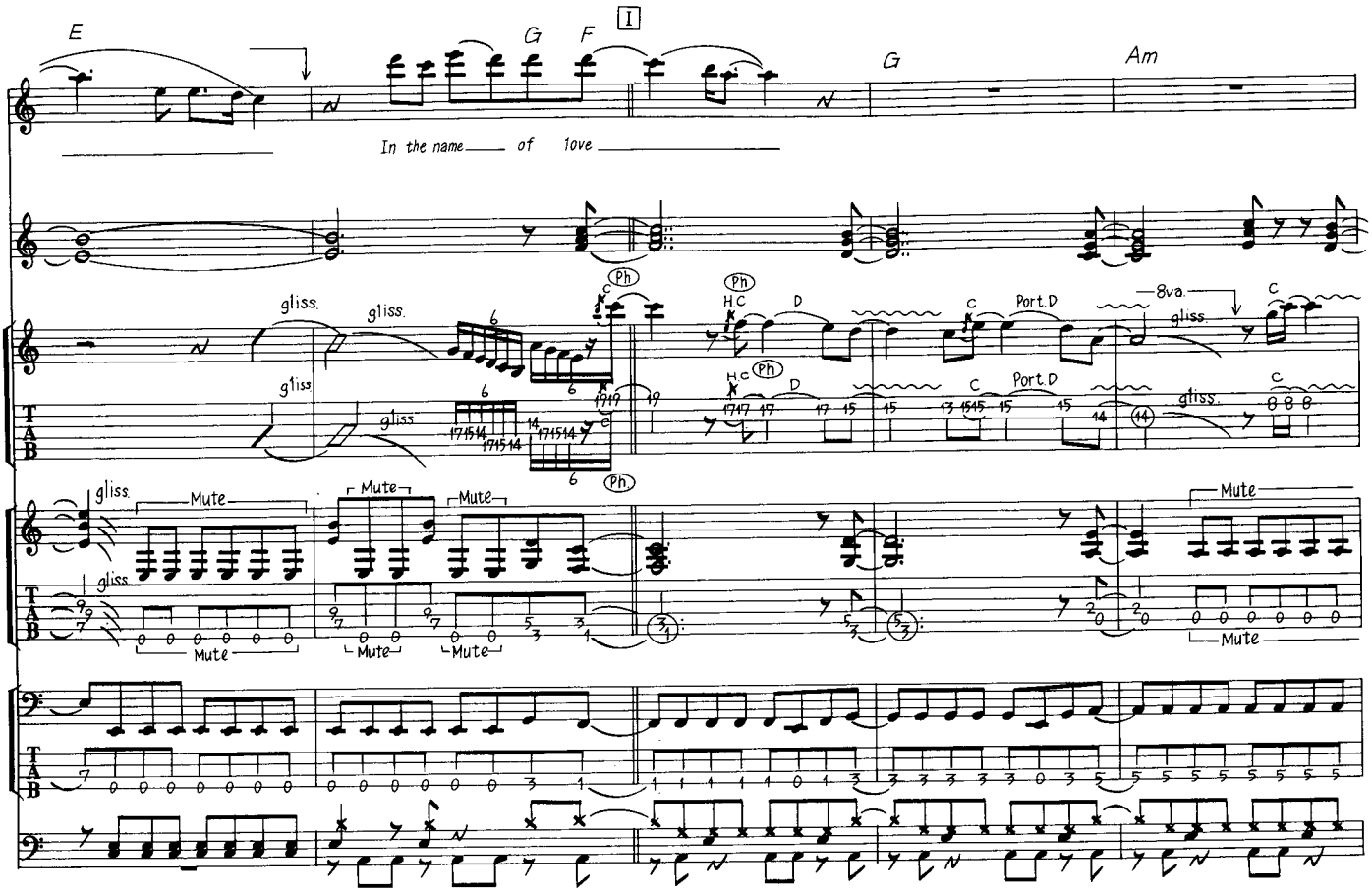

Am
G
F
Am
E
Am
B/A
D/A
Dadd9/A
You,
you are a part of me
now that I have you near
Mute
1x tacet
F/A
G6/A
Am
D
C
G
You've tak- en con-trol
If you say good-bye
Now that you know
you might see me cry
I'll nev - er break free
a si - lent tear
Lost,
Love,
H
S

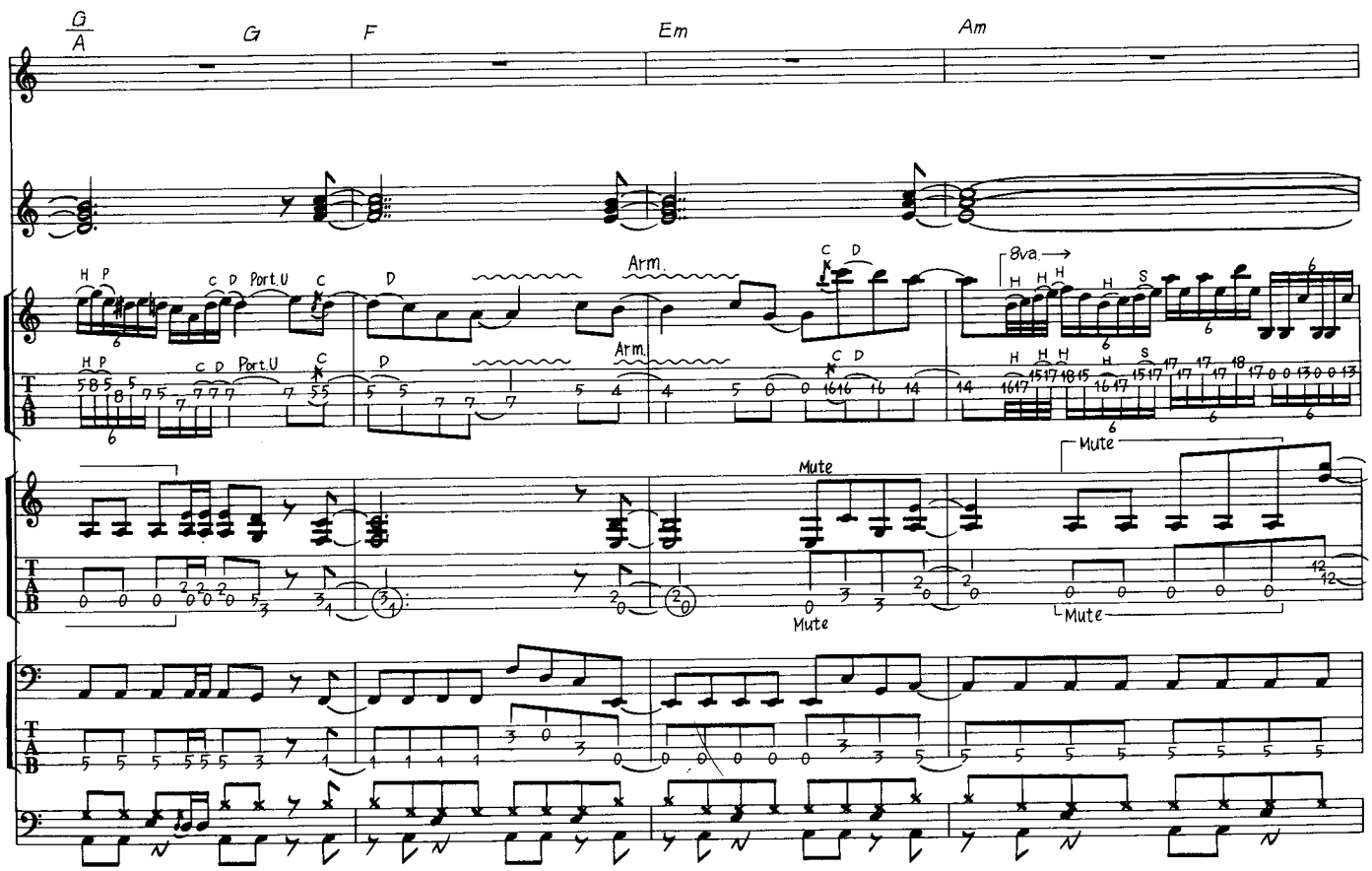

Am
B/A
D/A
Dadd9/A
F/A
lost in a brok - en dream
why does it hurt so bad
that strange-ly e-nough
to al-ways be
has me trapped by love
in search of a dream
1x tacet
Mute
Mute
1x tacet
H
H
H
H
G6/A
Am
F
FΔ7
Em
I'm torn be-tween
that you nev- er have
How can I make you un - der-stand
Why does the mem - o - ry lin - ger on
Mute
Mute
Mute
Mute
Mute
Mute
Mute
Mute
S
S
S
S
Q.C
Q.C
2x
2x
2x
2x

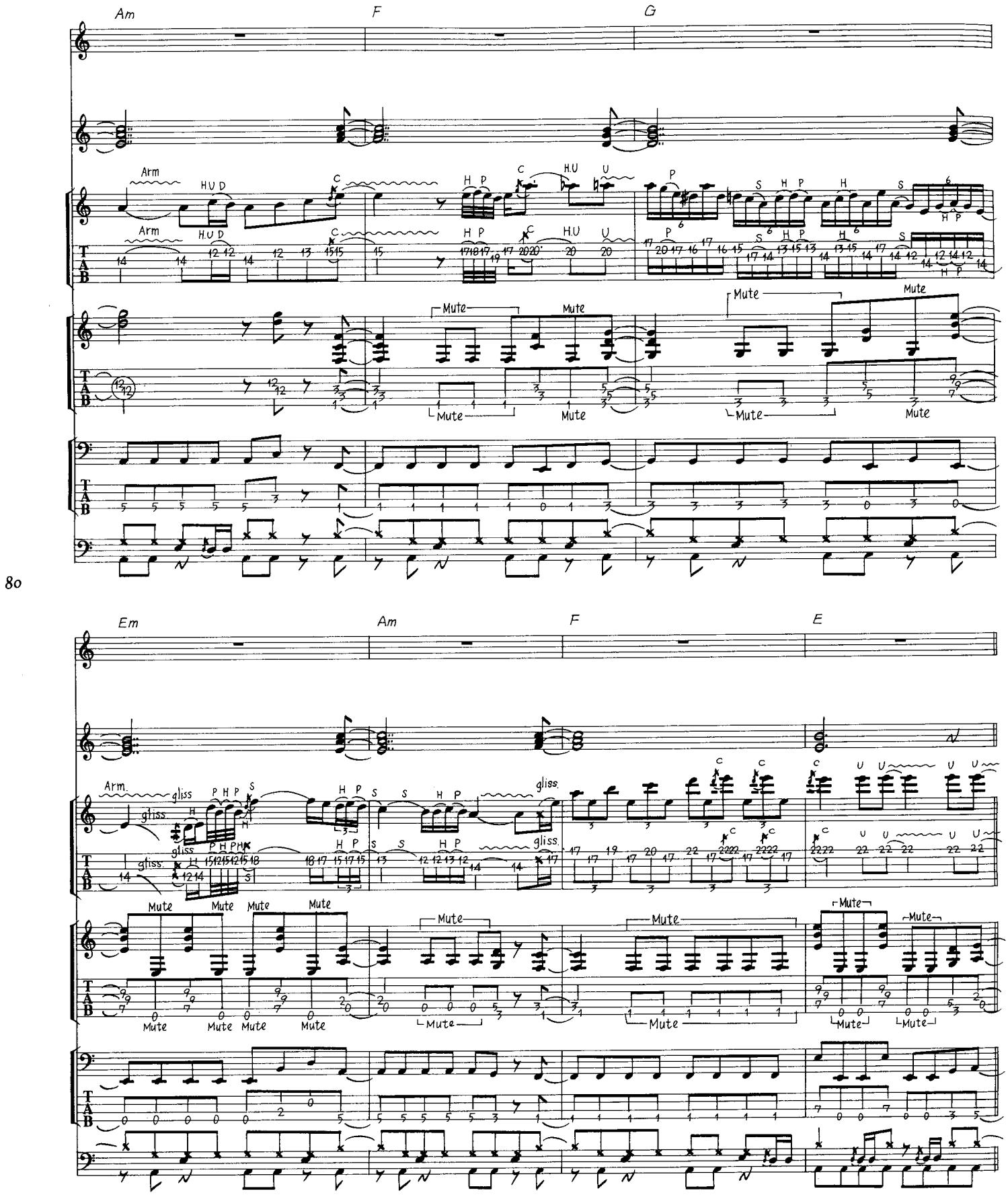
Am7
G F
G
Em
that you hold my fu - ture in your hands so
Long af-ter what we had is gone, gone
gliss.
gliss
Mute
2× gliss.
G Am
D/A
C/A
G/A G Am
Am
In the name of love
don't turn my heart to stone
D.S. time Gt. Solo
8va
Mute
S
Q.C

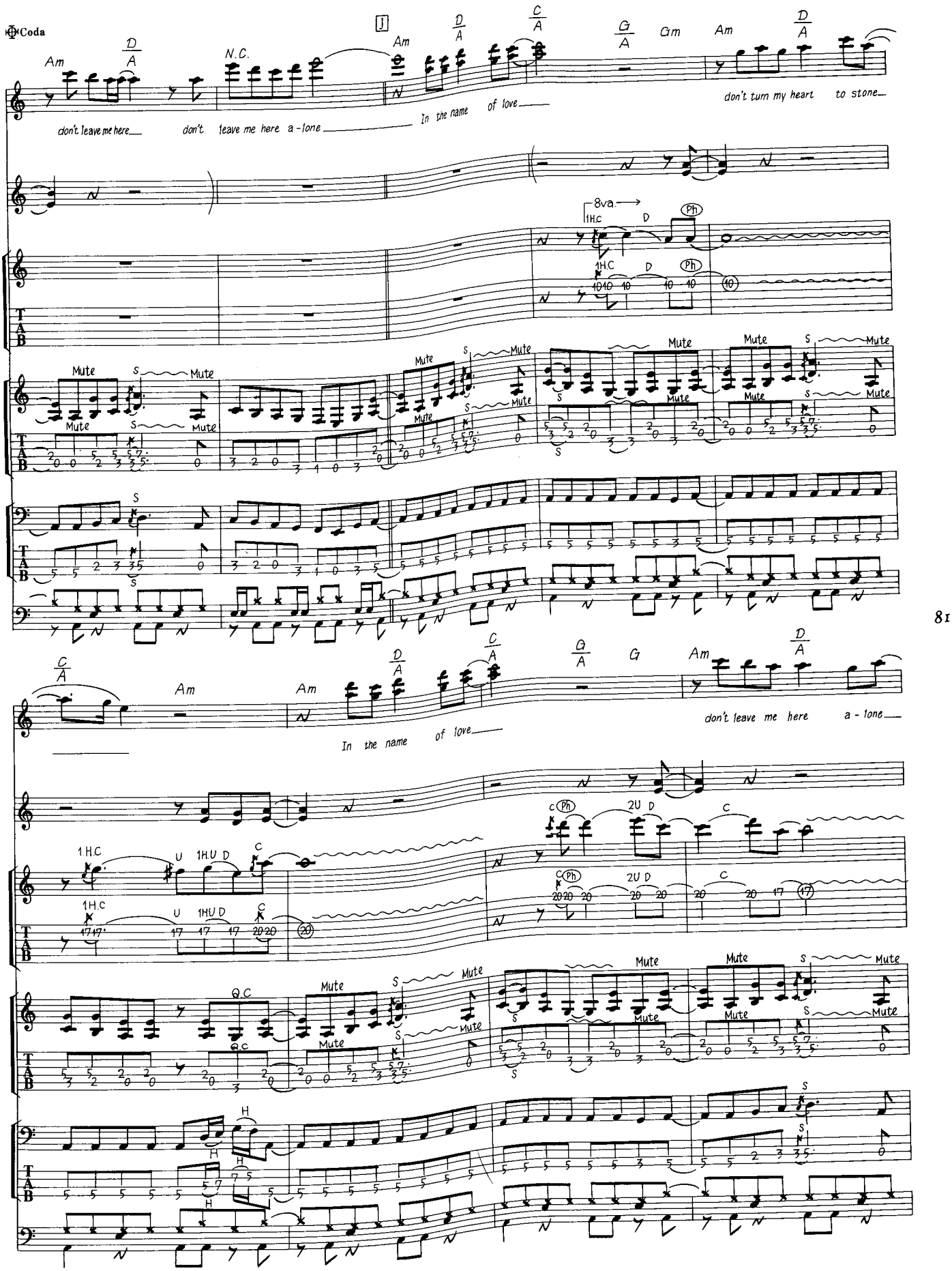

Am D/A C/A G/A G
to Φ
1. Am G F Am
2. Am G
In the name of love
don't leave me here a - lone
Now,
don't leave me here a - lone
Mute
S
F Am Dm
H Dm
I've searched my heart
Nev - er to find
Dm11
Dmadd9
G Am
Feel - ings of love
I've left be - find
gliss.

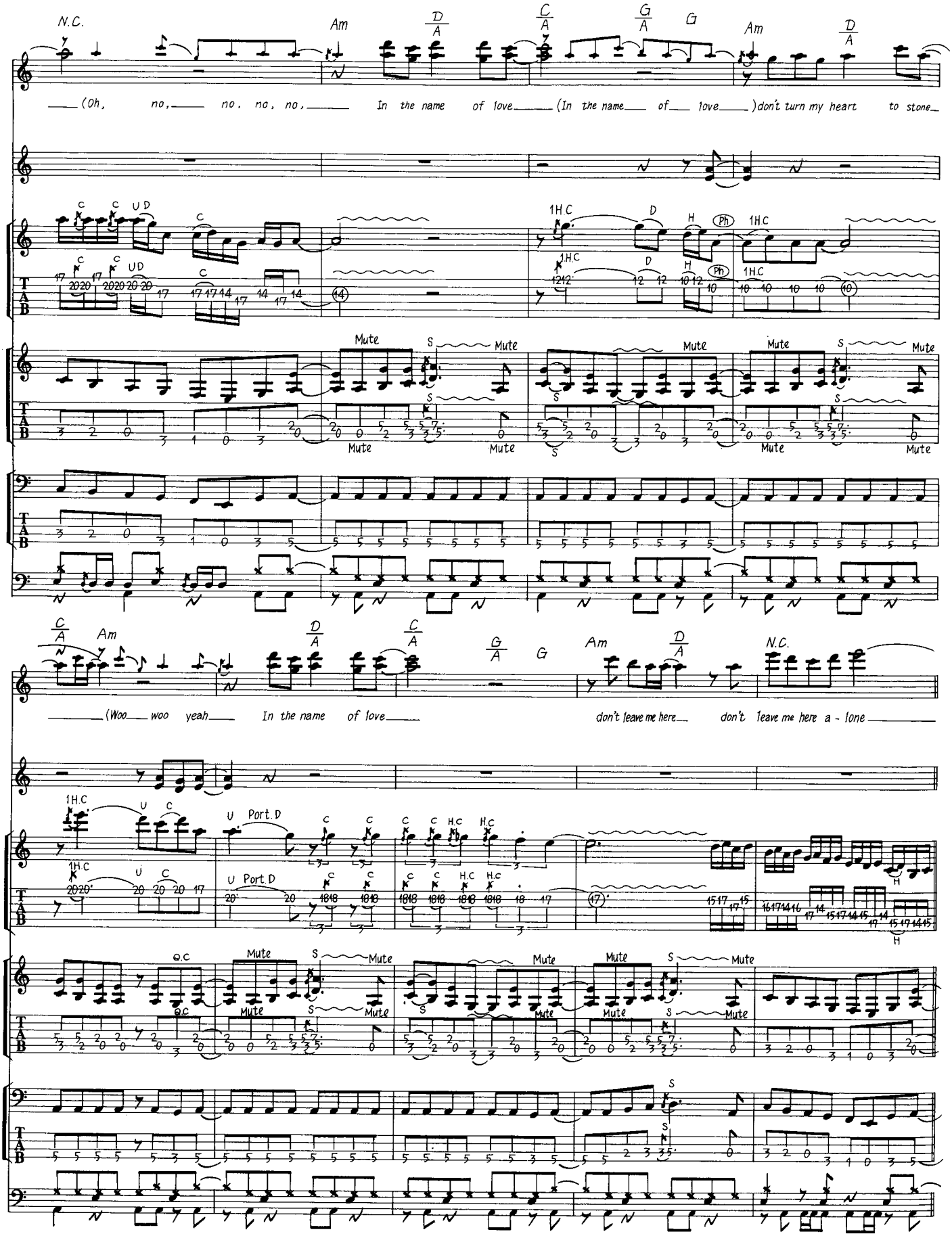

Am
C
Am
C Dm
So long
be-hind
Prom-ises
No
8va.
H.C
D
Arm
Arm.
Arm.
Arm.
Dm 11
Dmadd 9
E
8va.
bet-ter than lies
Be-tray
the tears
that fill
your eyes
Oh
Ah
1H.U U
gliss.
Mute
gliss.
gliss.
Mute
gliss.


E
G
F
I
G
Am
In the name of love
gliss.
Ph
Port.D
8va.
Mute


G/A
G
F
Em
Am
H P
C D
Port.U
Arm.
8va.
Mute


Am
F
G
Arm
Mute
Em
Am
F
E
gliss.
D.S.


Coda
Am
D/A
N.C.
J
Am
D/A
C/A
G/A
Gm
Am
D/A
don't leave me here
don't leave me here a-lone
In the name of love
don't turn my heart to stone
8va
1H.C
D
Ph
Mute
S
C/A
Am
Am
D/A
C/A
G/A
G
Am
D/A
In the name of love
don't leave me here a-lone
1H.C
U
1H.U D
C
c
Ph
2U D
Q.C
H
T
A
B


N.C.
Am
D/A
C/A
G/A
G
Am
D/A
(Oh, no, no, no, no,) In the name of love (In the name of love) don't turn my heart to stone
1H.C
D
H
Ph
Mute
S
82
C/A
Am
D/A
C/A
G/A
G
Am
D/A
N.C.
(Woo woo yeah) In the name of love
don't leave me here don't leave me here a - lone
U
Port.D
H.C
Q.C
Fade Out

AFTER THE FIRE

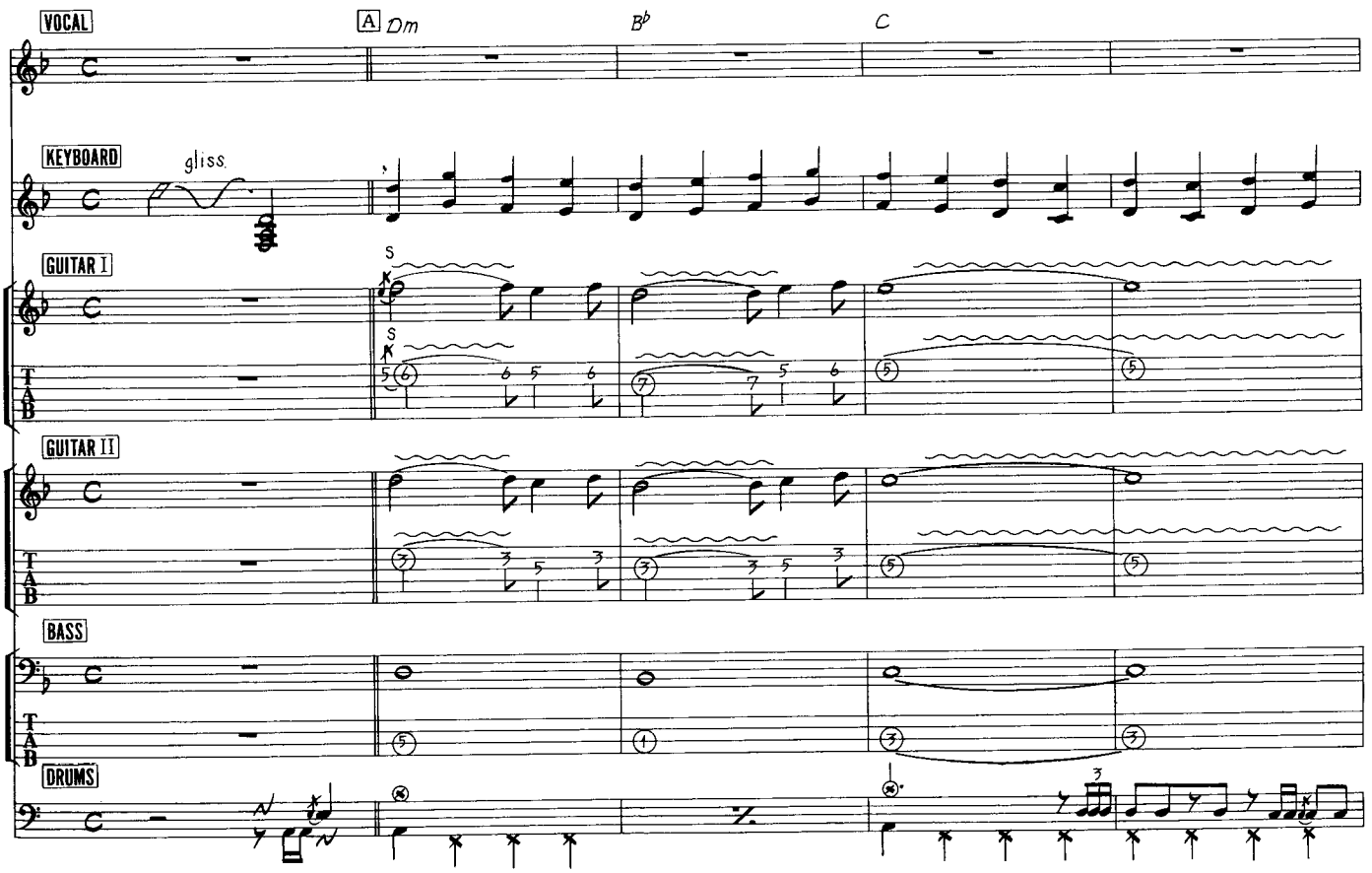
アフター・ザ・ファイアー

Words & Music by Kal Swan

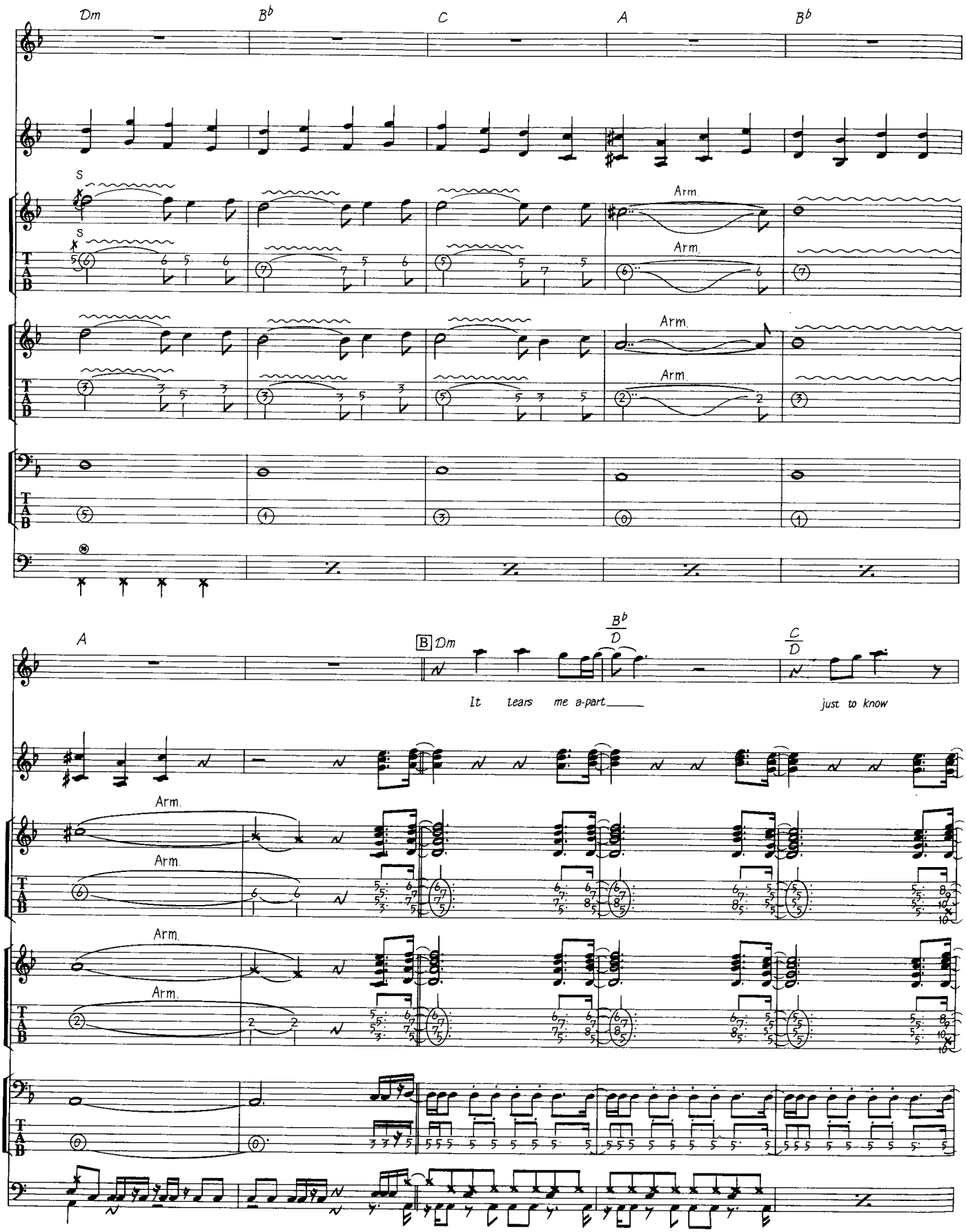
この曲は、きわめてストレートなナンバーだ。特にきわ立っているのは、やはりペダル・トーンをアレンジにうまく取り入れている[B]や[C]の部分で、ここではD音がペダル・トーンとなっている。つまり、コードはDm→B♭→Cと進行している反面、ベースはD音を鳴らし続けることになる。ペダル・トーンは、そのキーのトニック（第1音）かドミナント（第5音）が使われる。従って、この曲のキーはDmであるから、そのトニックであるD音が使われている訳だ。ベースは、歯切れよく弾くことが肝心で、ドラムス、とのコンビネーションも大切な要素と言える。バス・ドラムとベースはぴったりと合うようにプレイすること。

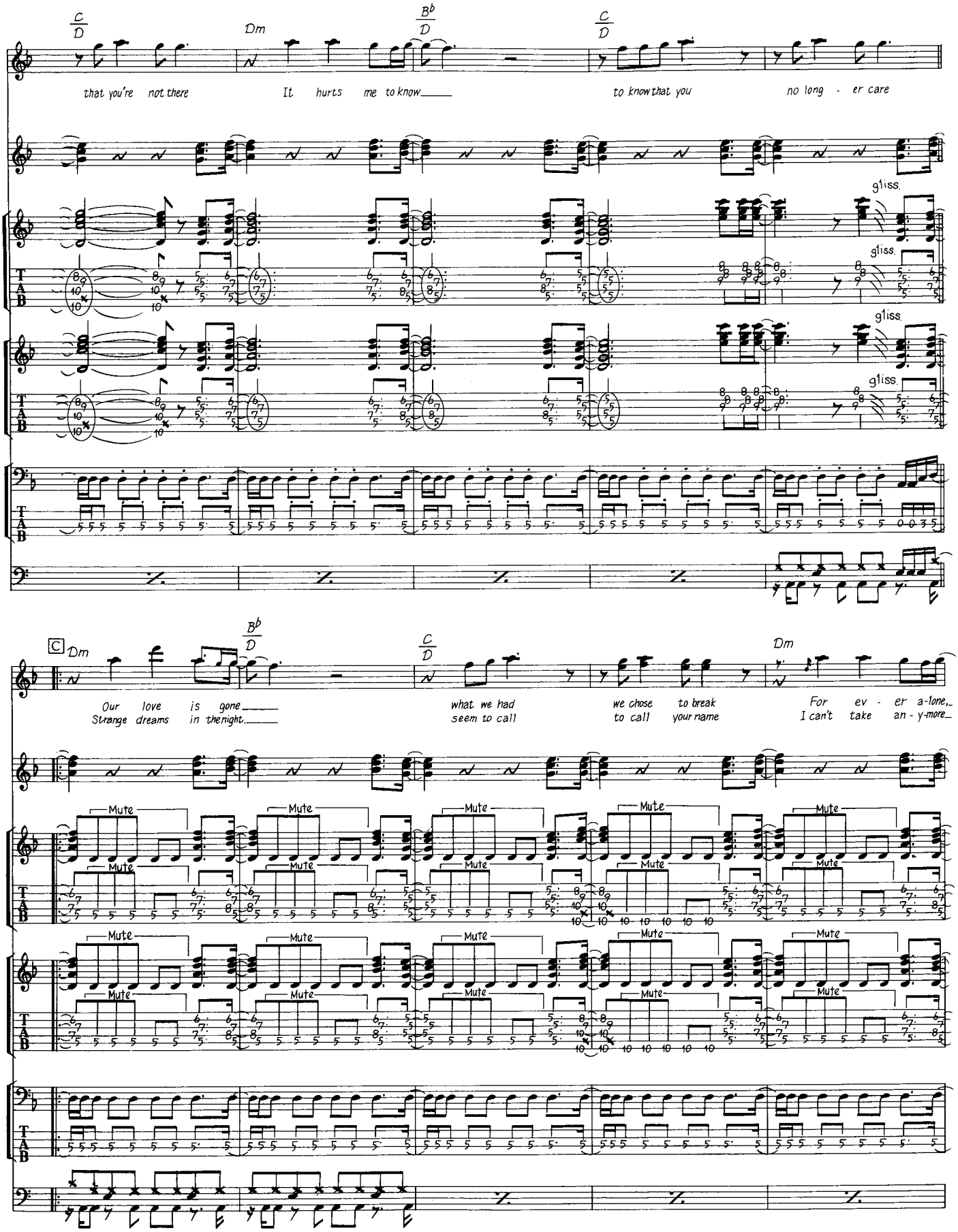
[C]では、ギターのミュート（M）がポイント。これは右手をブリッジ上に軽く乗せて、そのままピッキングするテクニックであるが、確実に5弦をミュート状態にしないと、しまりの無い演奏になってしまうので要注意。ピッキングは押し付ける要領で行ない、パワフルにすること。

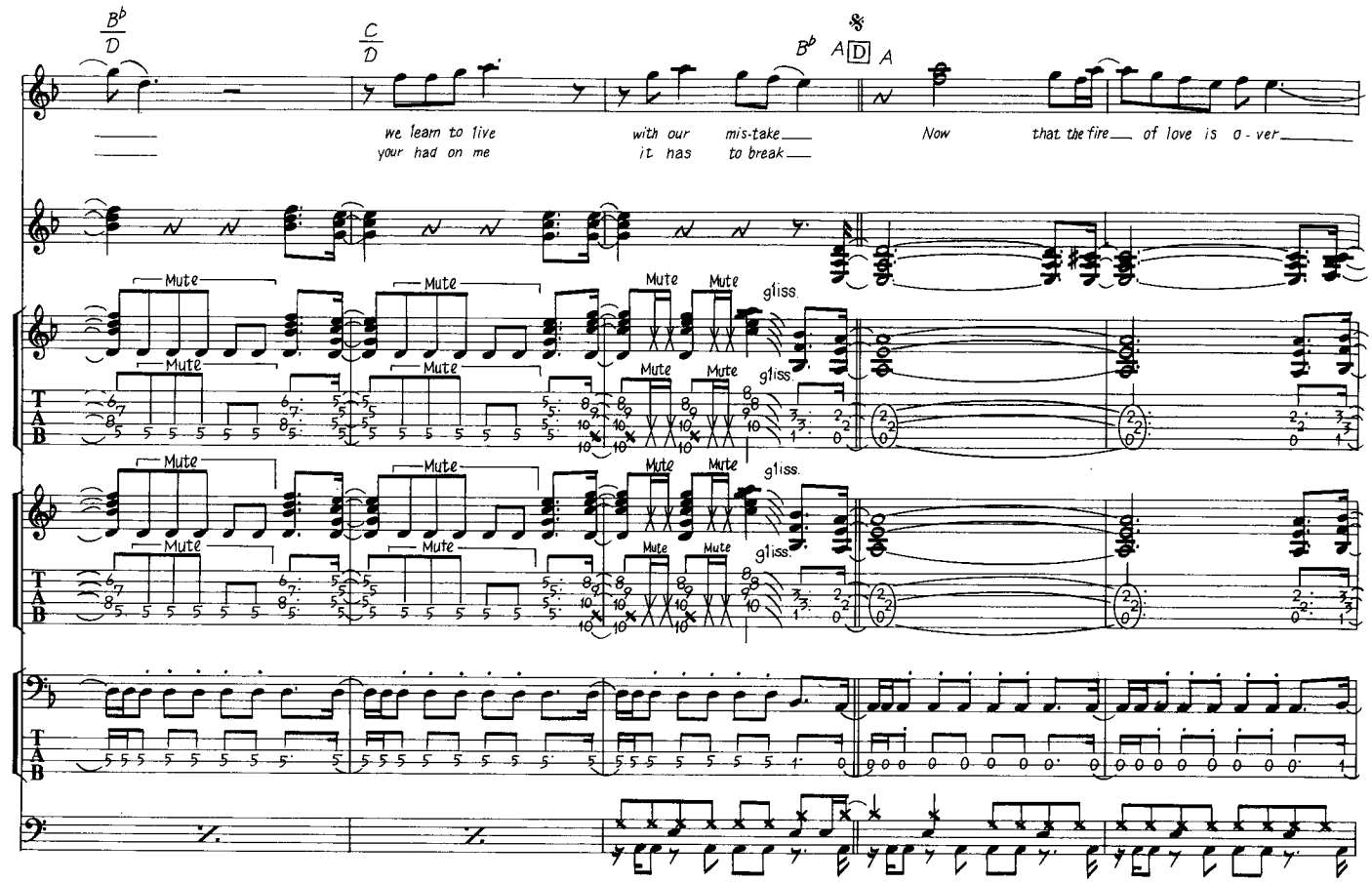
[F]のギター・ソロは、ダグにしては抑えぎみで、それが効果を上げている。最初の4小節間は、Dmのナチュラル・マイナー・スケールをそのまま生かしたフレージングで、ピッキングはオルタネイト方式が最適。オルタネイト・ピッキングとは、ダウンとアップを交互に繰り返す規則的なパターンで、速弾きやリズム・キープにはなくてはならないテクニックである。出だしが前の小節にかかっているので、ここではアップ・ピッキングから始め、[F]の1小節目ド頭はダウンの空ピックをはさむこと。つまり、実際には弦にピックを当てない、素振りを含めて規則正しくピッキングしていく訳だ。こういった実際のプレイを利用して練習することも大切なので、ぜひともこの機会にマスターしておこう。

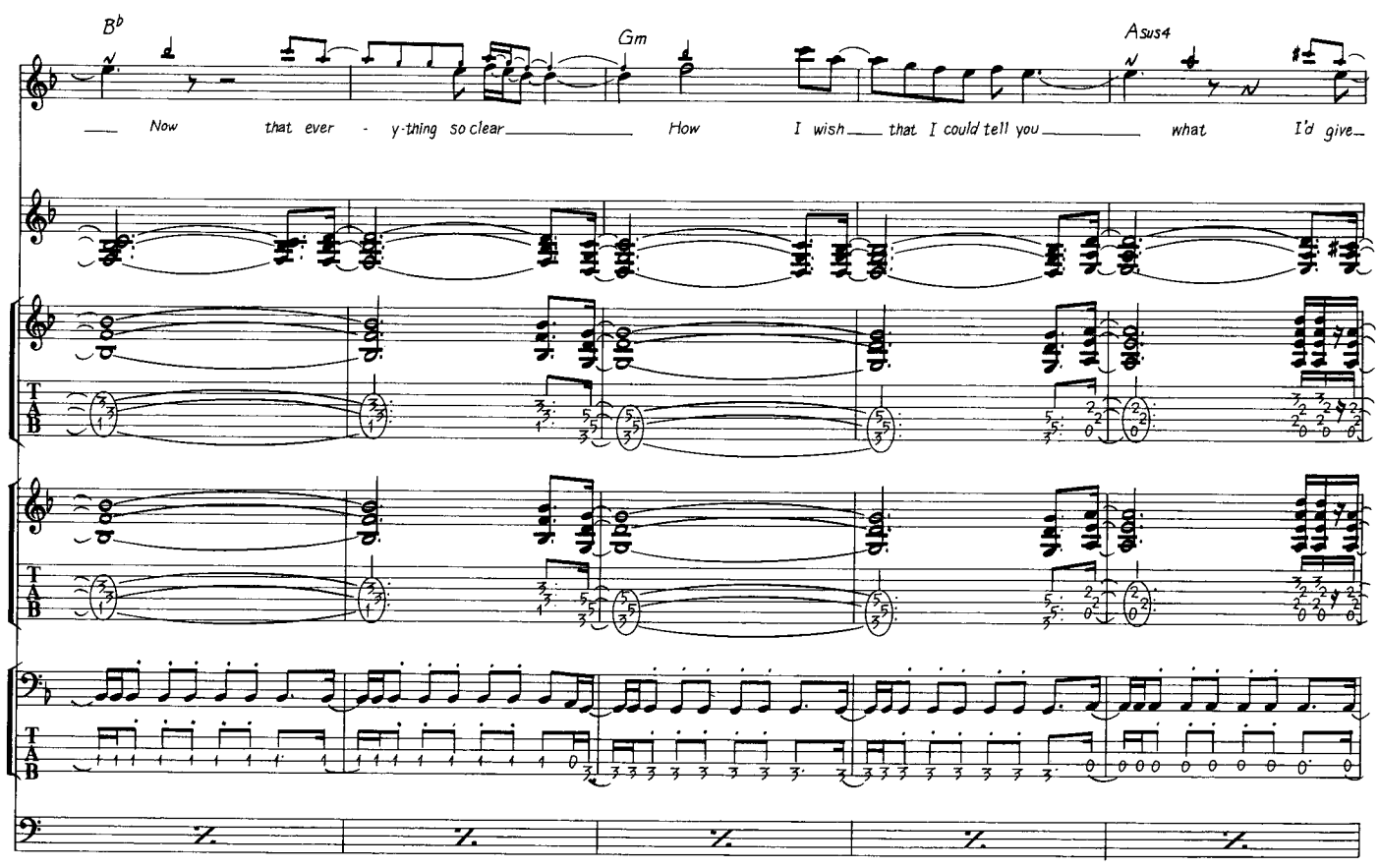


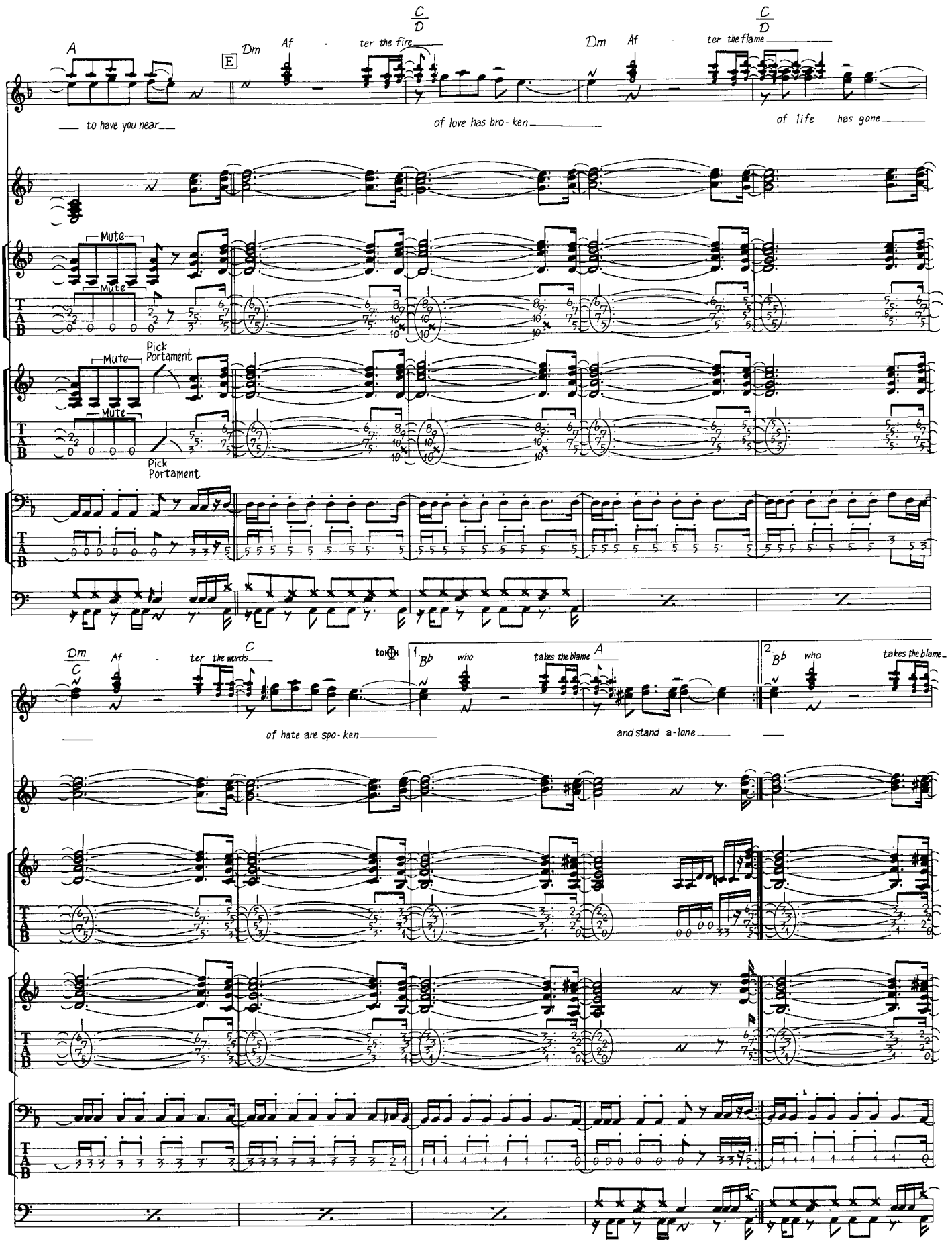
© 1987 by LION
Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

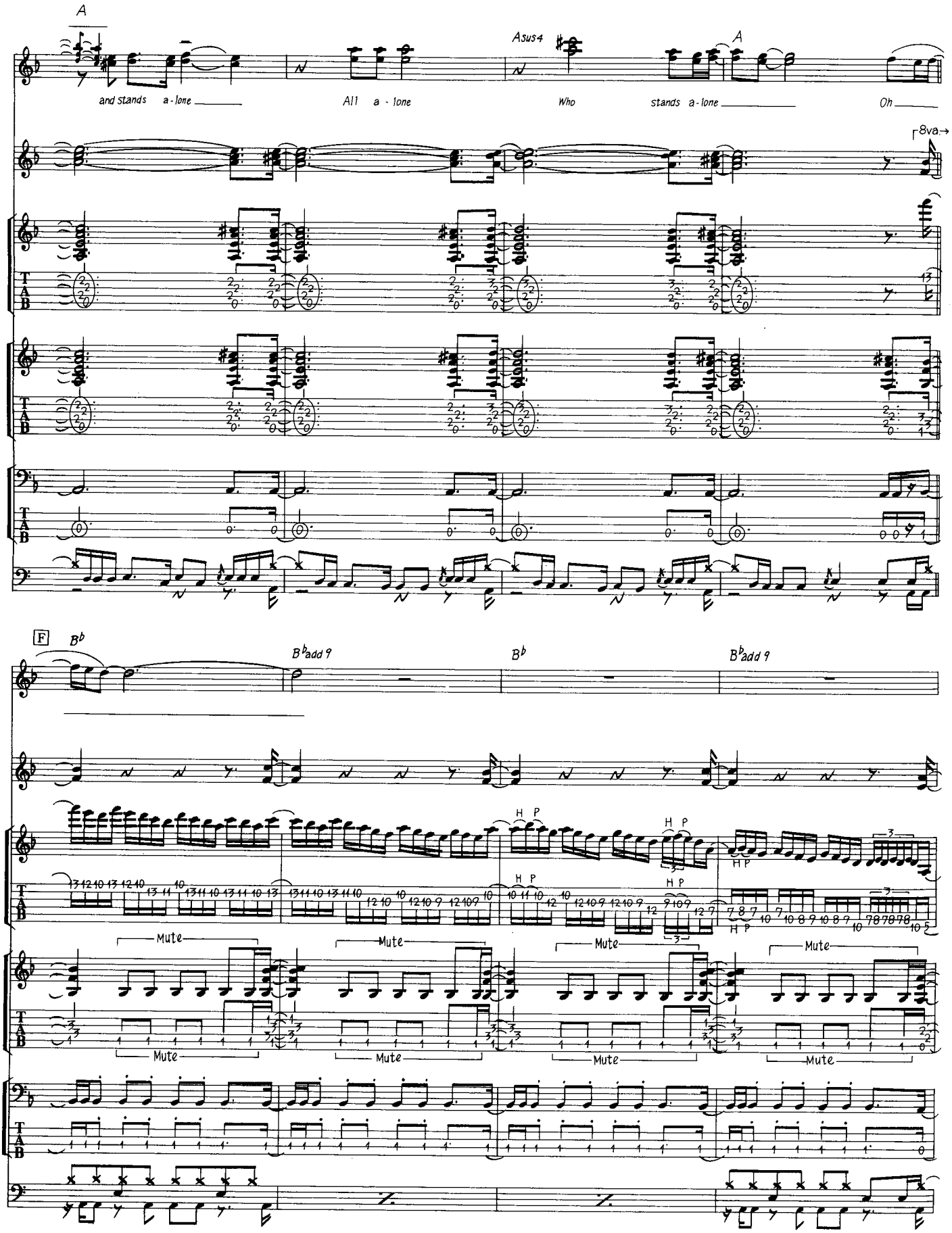

Dm
B♭
C
A
B♭
S
Arm.
T
A
B
A
B Dm
B♭/D
C/D
It tears me a-part
just to know

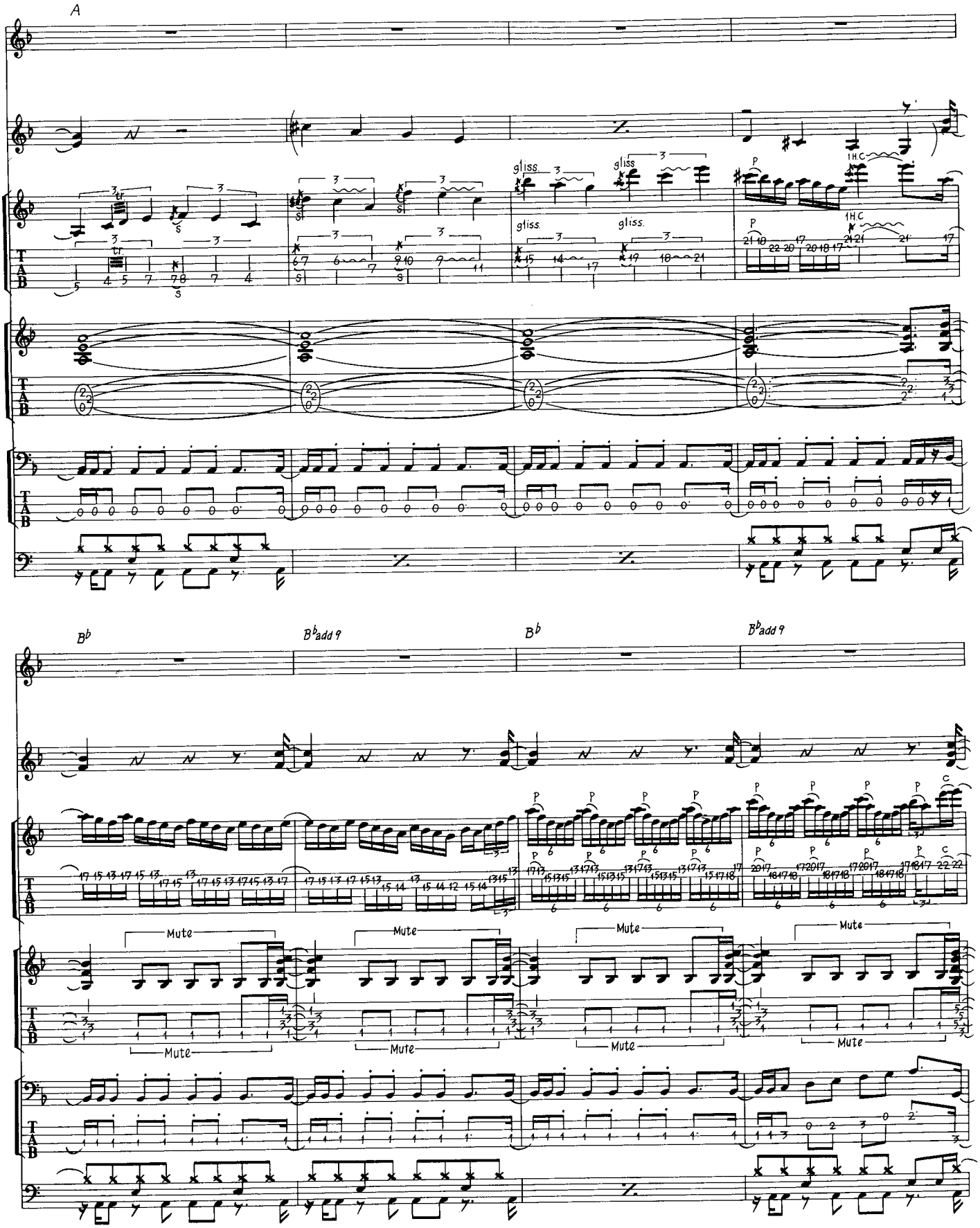

C/D
Dm
B♭/D
C/D
that you're not there
It hurts me to know
to know that you
no long - er care
gliss.
gliss.
gliss.
gliss.
C
Dm
B♭/D
C/D
Dm
Our love is gone
Strange dreams in the night
what we had seem to call
we chose to break to call your name
For ev - er a-lone,
I can't take an - y-more
Mute
T
A
B

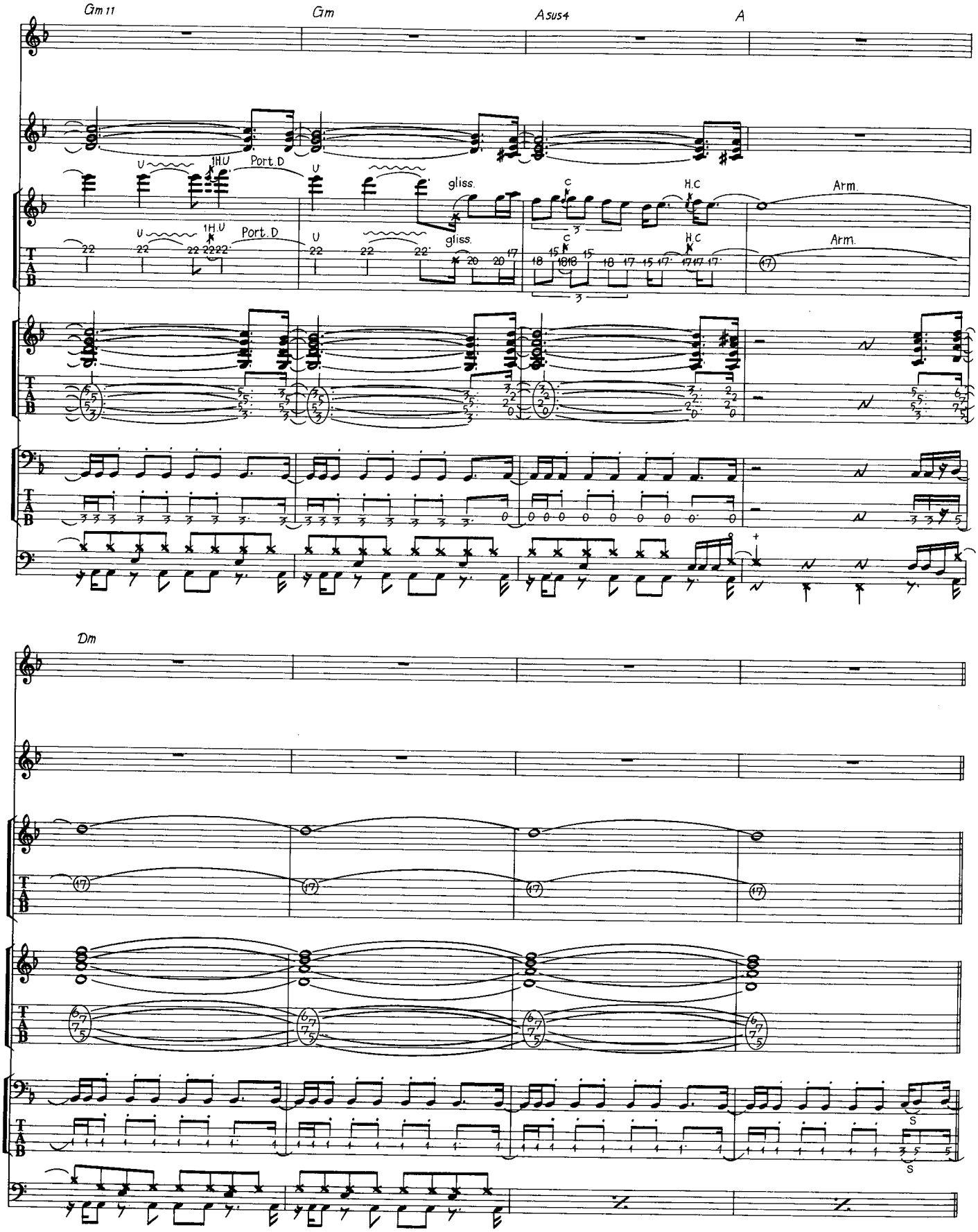

B♭/D
C/D
B♭
A D A
we learn to live
your had on me
with our mis-take
it has to break
Now that the fire of love is o - ver
Mute
gliss.
T
A
B

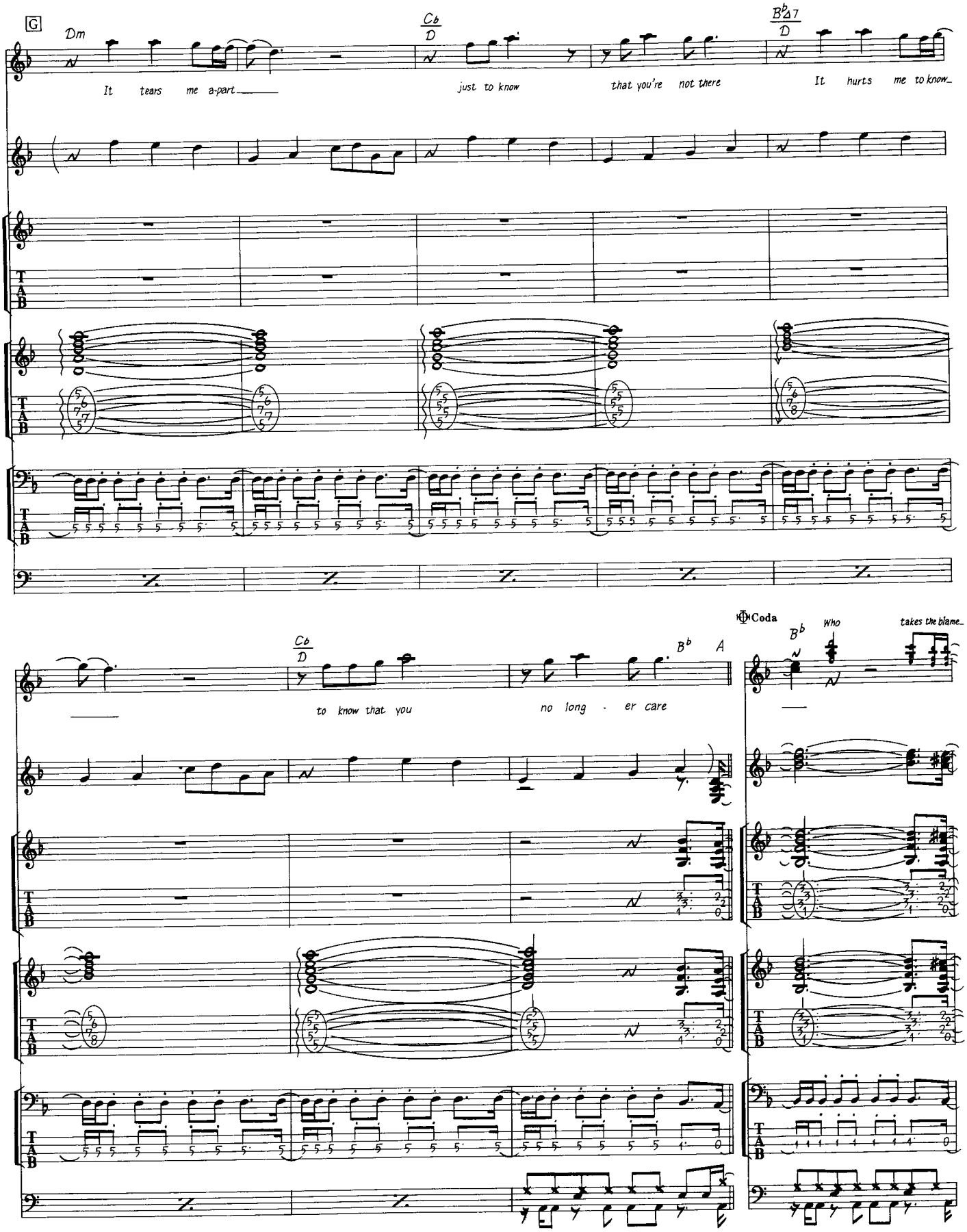

B♭
Gm
Asus4
Now that ever - y-thing so clear
How I wish that I could tell you
what I'd give
T
A
B

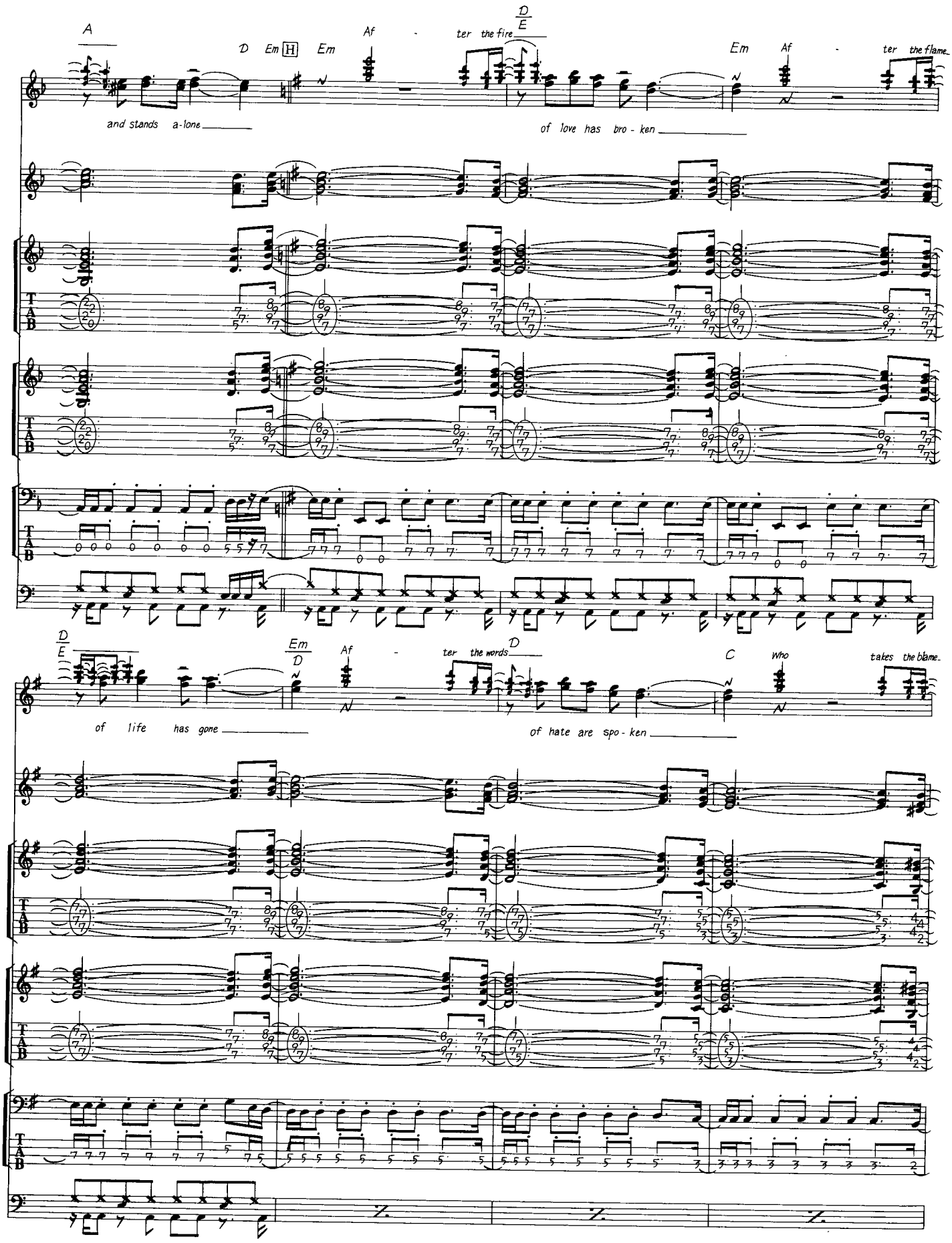

A
E
Dm
Af
ter the fire
C
D
Dm
Af
ter the flame
C
D
to have you near
of love has bro - ken
of life has gone
Mute
Mute
Mute
Mute
Pick
Portament
Pick
Portament
T
A
B
Dm
C
Af
ter the words
C
of hate are spo - ken
to ♦
1
B♭
who
takes the blame
A
and stand a - lone
2
B♭
who
takes the blame

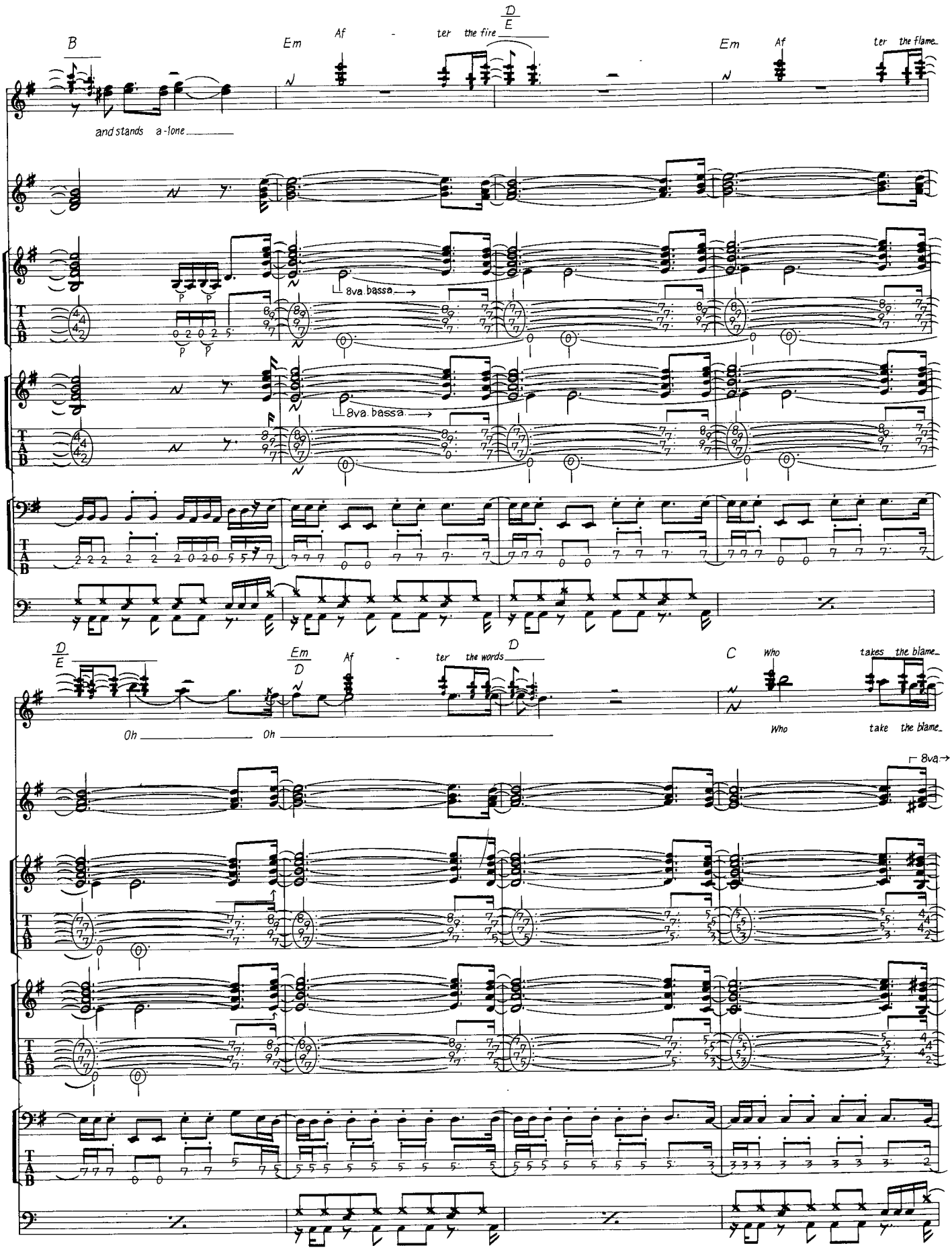

A
Asus4
A
and stands a - lone
All a - lone
Who
stands a - lone
Oh
8va
T
A
B
88
F
B♭
B♭add 9
B♭
B♭add 9
H P
Mute

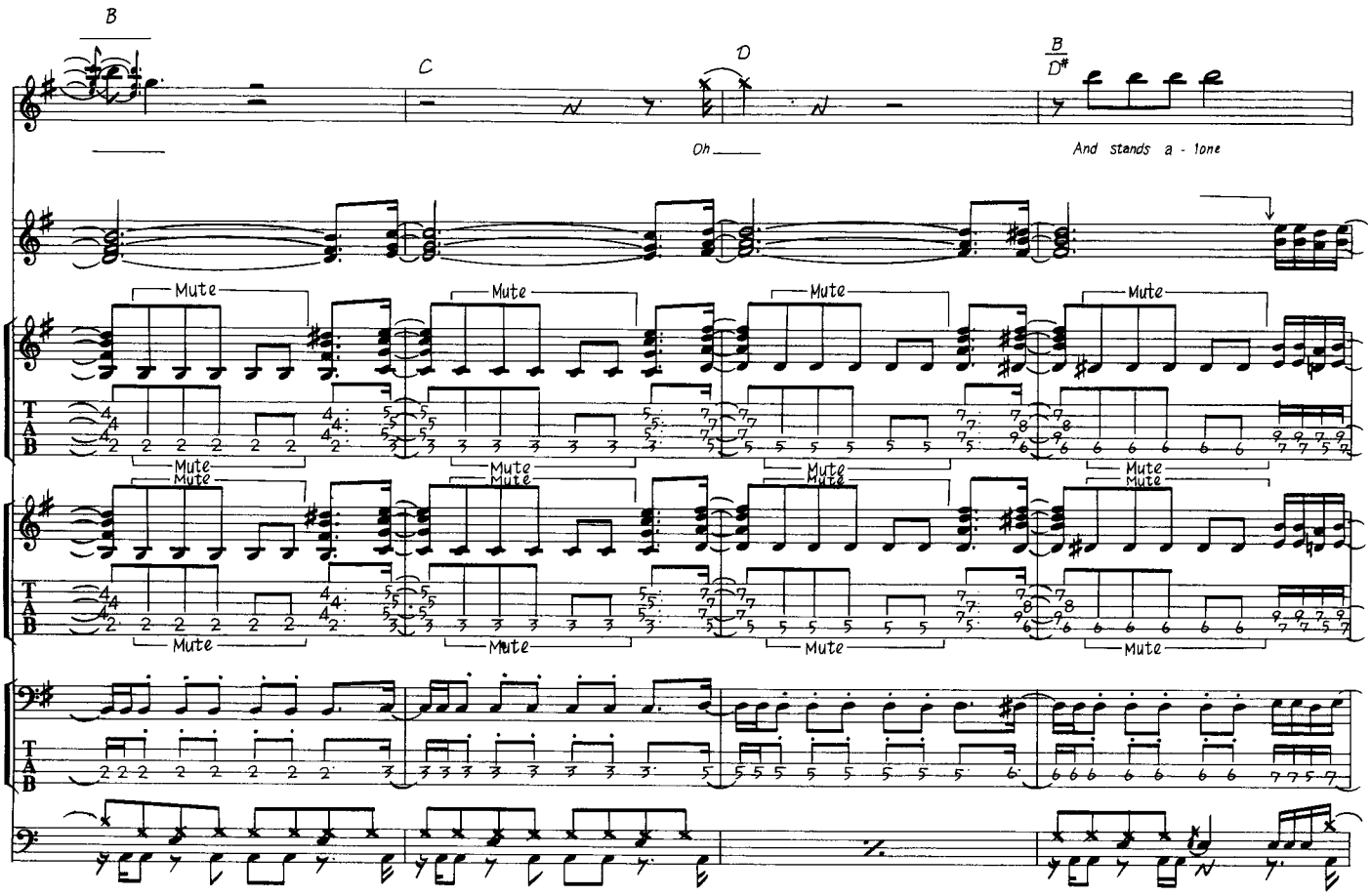

A
gliss.
1H.C
P
B♭
B♭add 9
Mute

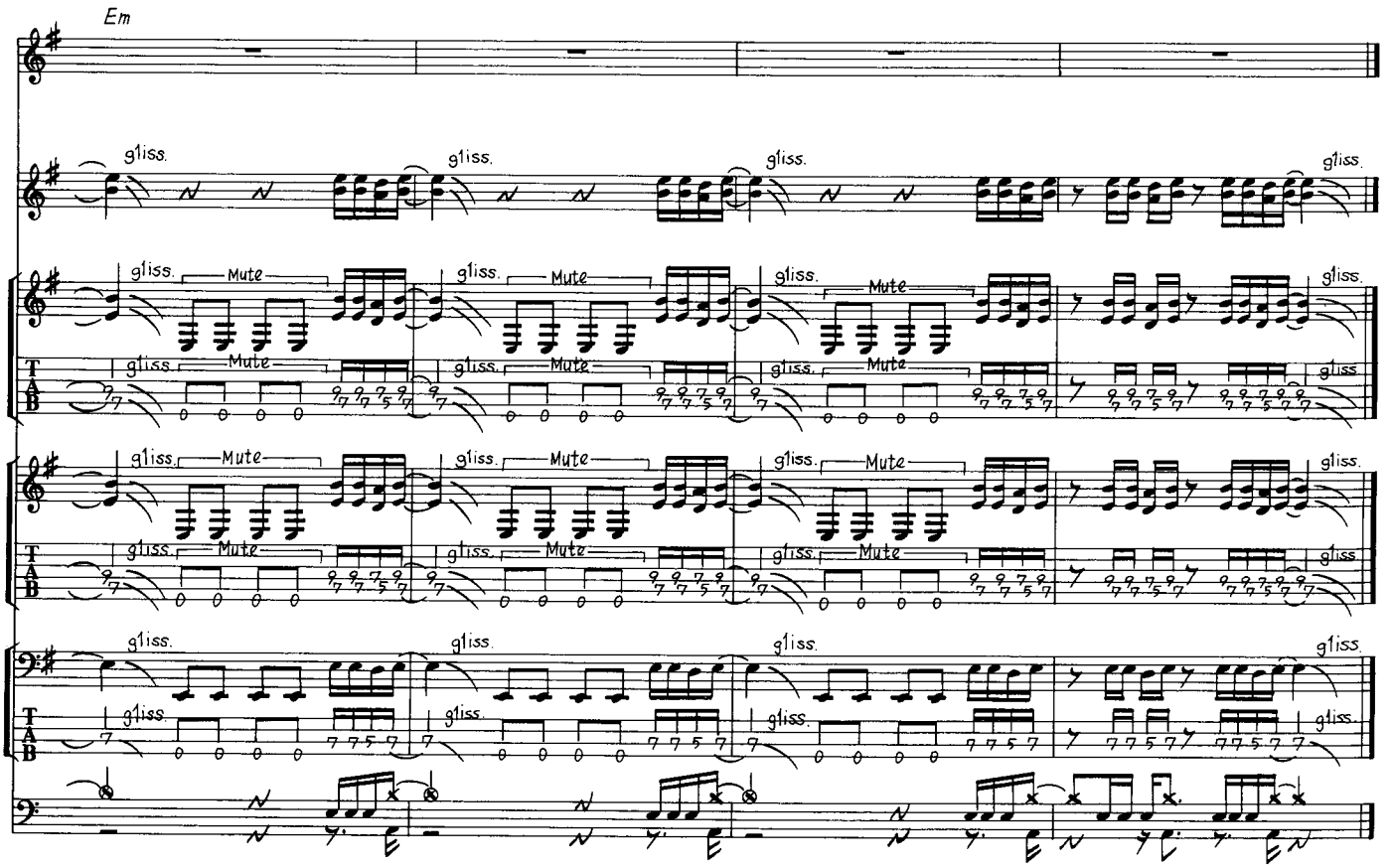

Gm 11
Gm
Asus4
A
Port. D
gliss.
H.C
Arm.
Dm


G
Dm
Cb
D
Bb Δ7
D
It tears me a-part
just to know
that you're not there
It hurts me to know
Cb
D
Bb
A
to know that you
no long . er care
Coda
Bb
Who
takes the blame
D.S.


A
D Em H Em
Af - ter the fire
D/E
Em Af - ter the flame
and stands a-lone
of love has bro - ken
92
D/E
Em/D
Af - ter the words
D
C Who takes the blame
of life has gone
of hate are spo - ken
T A B


B
Em
Af
ter the fire
D
E
Em
Af
ter the flame
and stands a-lone
8va bassa
8va bassa
D
E
Em
D
Af
ter the words
D
C
Who
takes the blame
Oh
Oh
Who
take the blame
8va


B
C
D
B
D#
Oh
And stands a - lone
Mute


Em
gliss.
Mute

SHOUT IT OUT

シャウト・イット・アウト

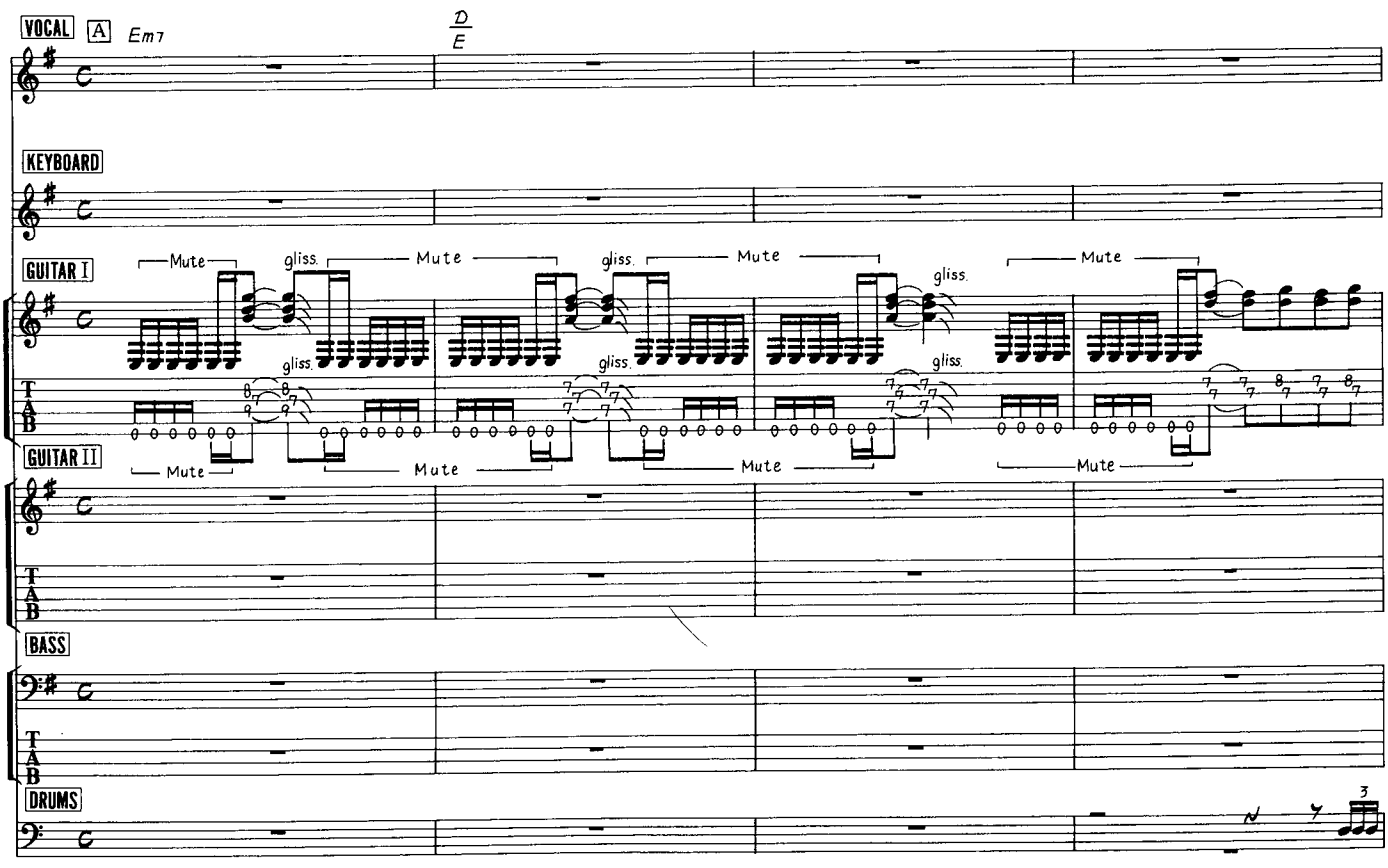
Words & Music by Kal Swan

何といっても、聞き所はダグのギター・ソロだ。緩急を交互に弾き分ける彼のプレイは、変化に富んでいて、しかもスリリングである。

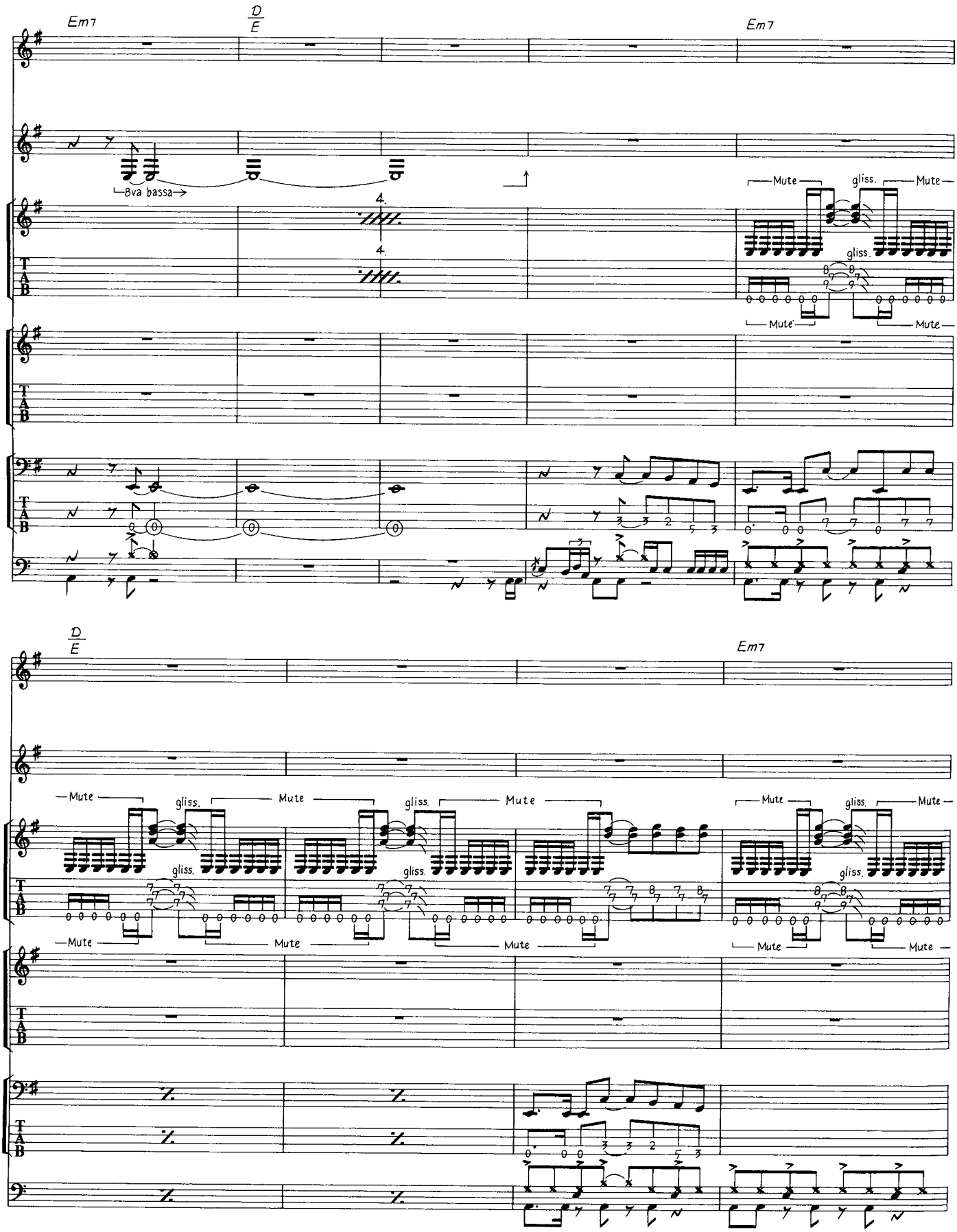
E～Gがそのギター・ソロ。まずはEから。最初の6小節間は、当アルバムでも良く使われているパターンの繰り返しで、フィンガリング・フォームは、ストレッチ。つまり、$\frac{10}{1}$＝人差指、$\frac{14}{1}$＝小指、$\frac{12}{2}$＝中指、$\frac{12}{1}$＝薬指となる。ハンマリングとプリングを確実に行なうことがポイントであるが、特に小指で$\frac{14}{1}$から$\frac{10}{1}$へとプリングする運指は要注意だ。指先を弦に引っ掛けて、下に向けてはずすという基本をお忘れなく。続く7・8小節目は、正確なピッキングが要求される部分。これは、ギター・プレイ全般に言えることだが、ピッキングをする際には、手首を固定し手首から先がギターのボディと平行に上下するように動かさなければならない。

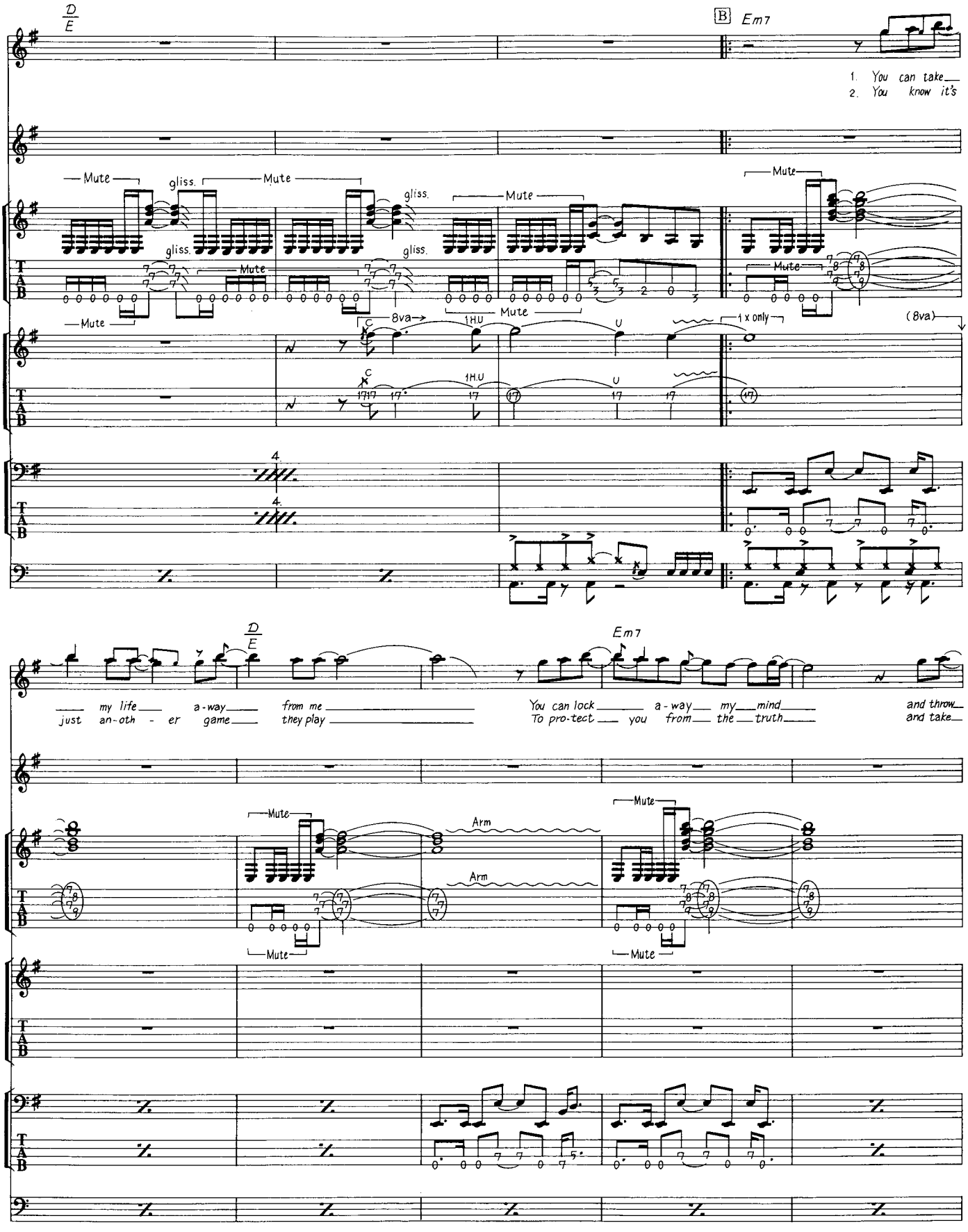
Fの4小節目は、ピッキングに工夫が必要な部分だ。2拍目裏の3連符は、ダウン→アップ→ダウンで弾き、$\frac{14}{5}$小指と$\frac{12}{4}$中指はピッキング後に軽く浮かせ、それぞれの音が混ざり合わないように音を切っておく。2拍目表の$\frac{14}{3}$はアップで始め、$\frac{14}{4}$も同じアップで弾き通し、その裏の3連符はダウンでピッキングしてハンマリングでつなげる。4拍目の表はアップでクリアし、$\frac{14}{3}\rightarrow\frac{12}{2}\rightarrow\frac{14}{3}$はダウン→アップ→ダウンとする。続く5小節目4拍の3連は、いわゆるチョッピングというテクニックで、ダウン・ピッキングだけで一気に弾くフレーズである。

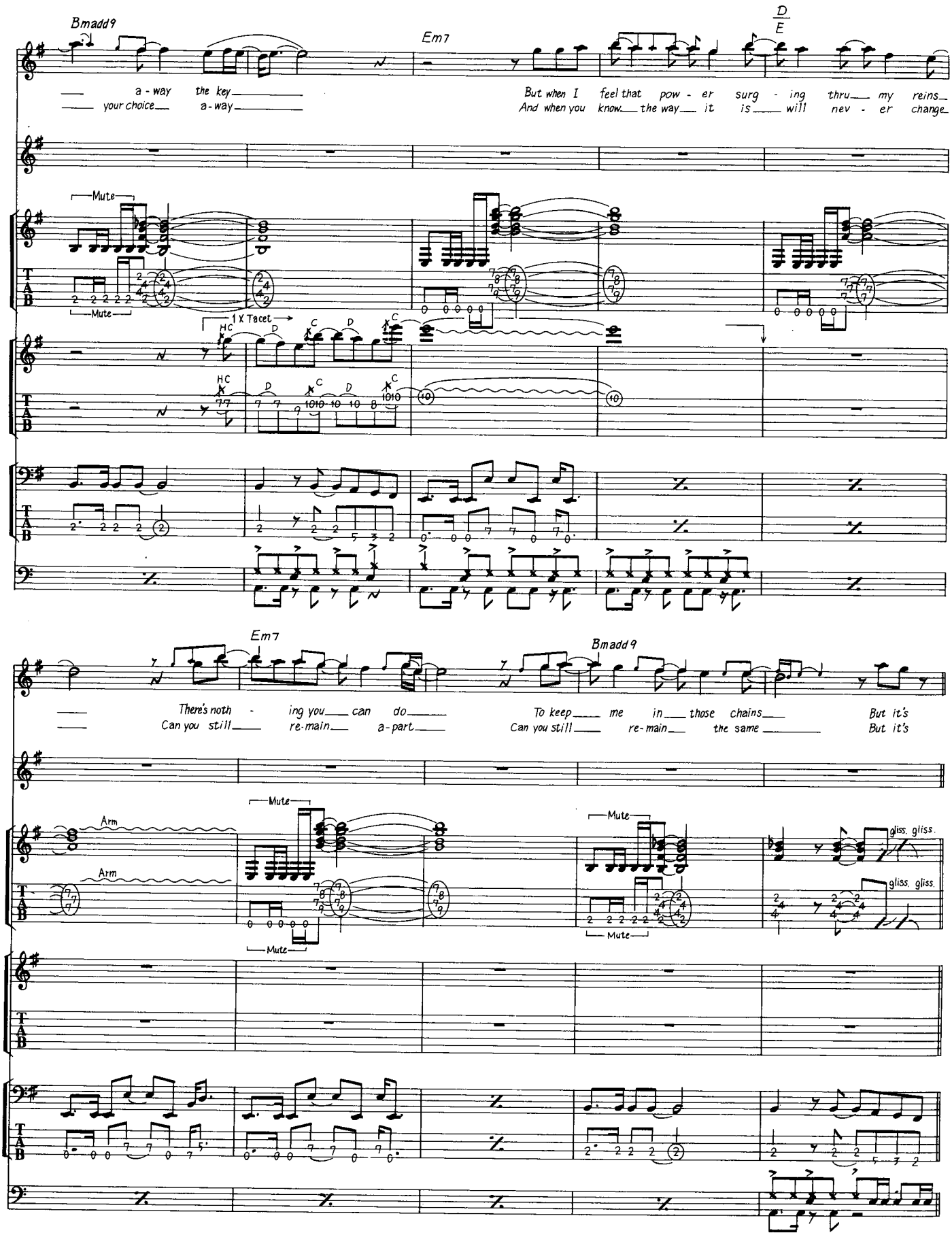
Gの4小節間は、ストレッチのオン・パレード。ここは、オルタネイト・ピッキングで弾く訳だが、最初はダウンとアップを確認しながらゆっくりと弾き、しだいにテンポ・アップしてマスターする方法がベスト。

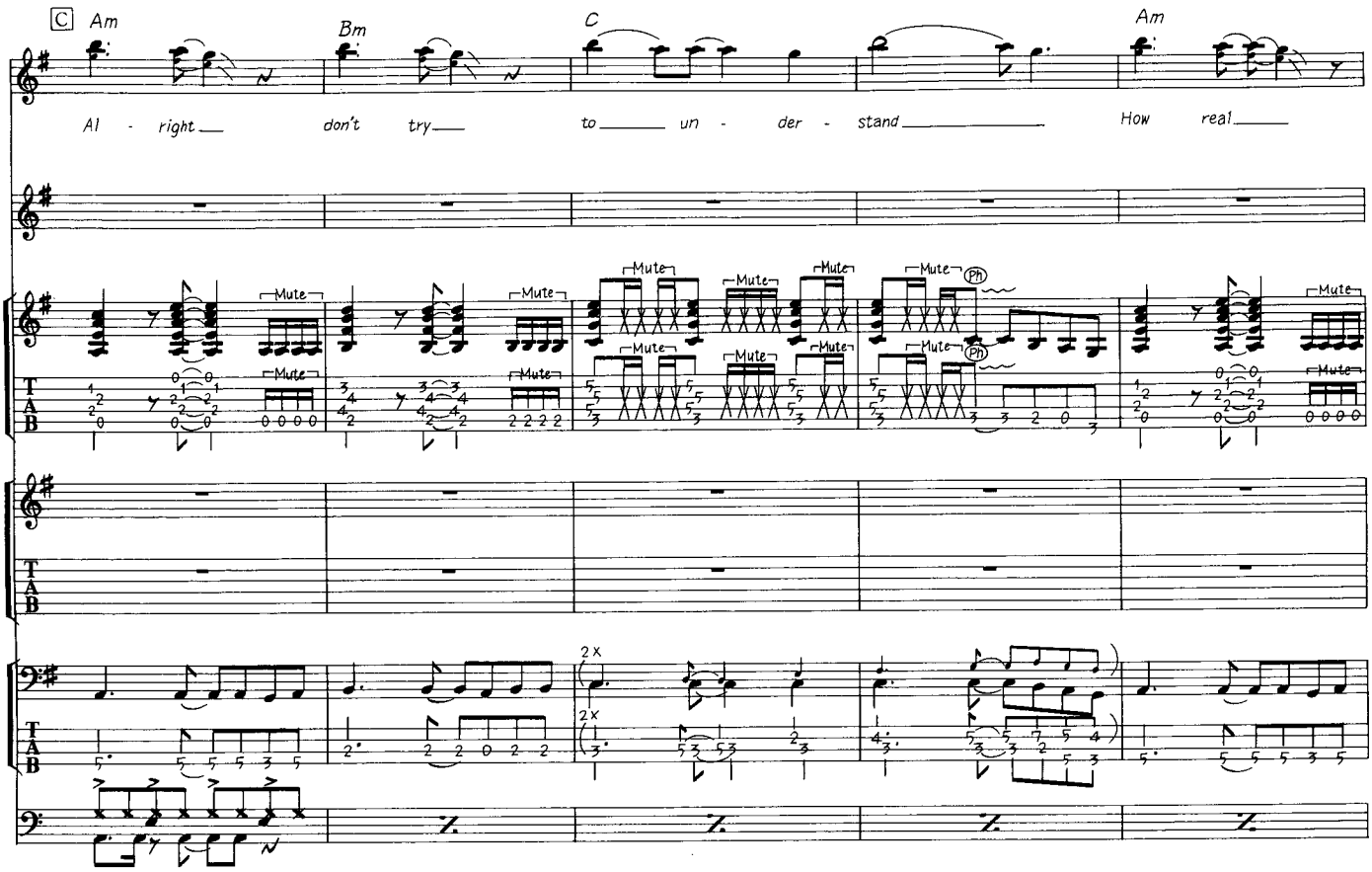


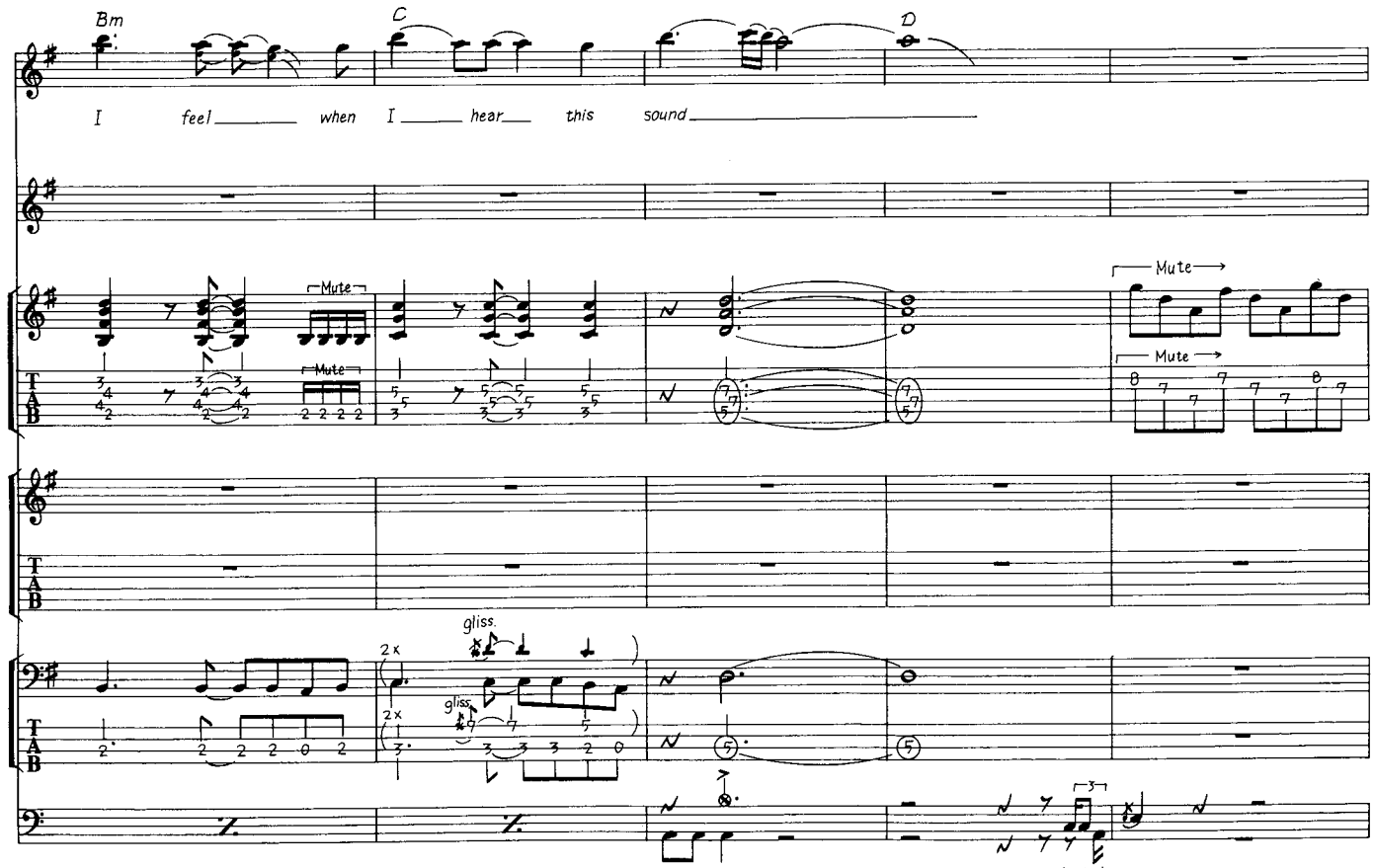
© 1987 by LION
Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

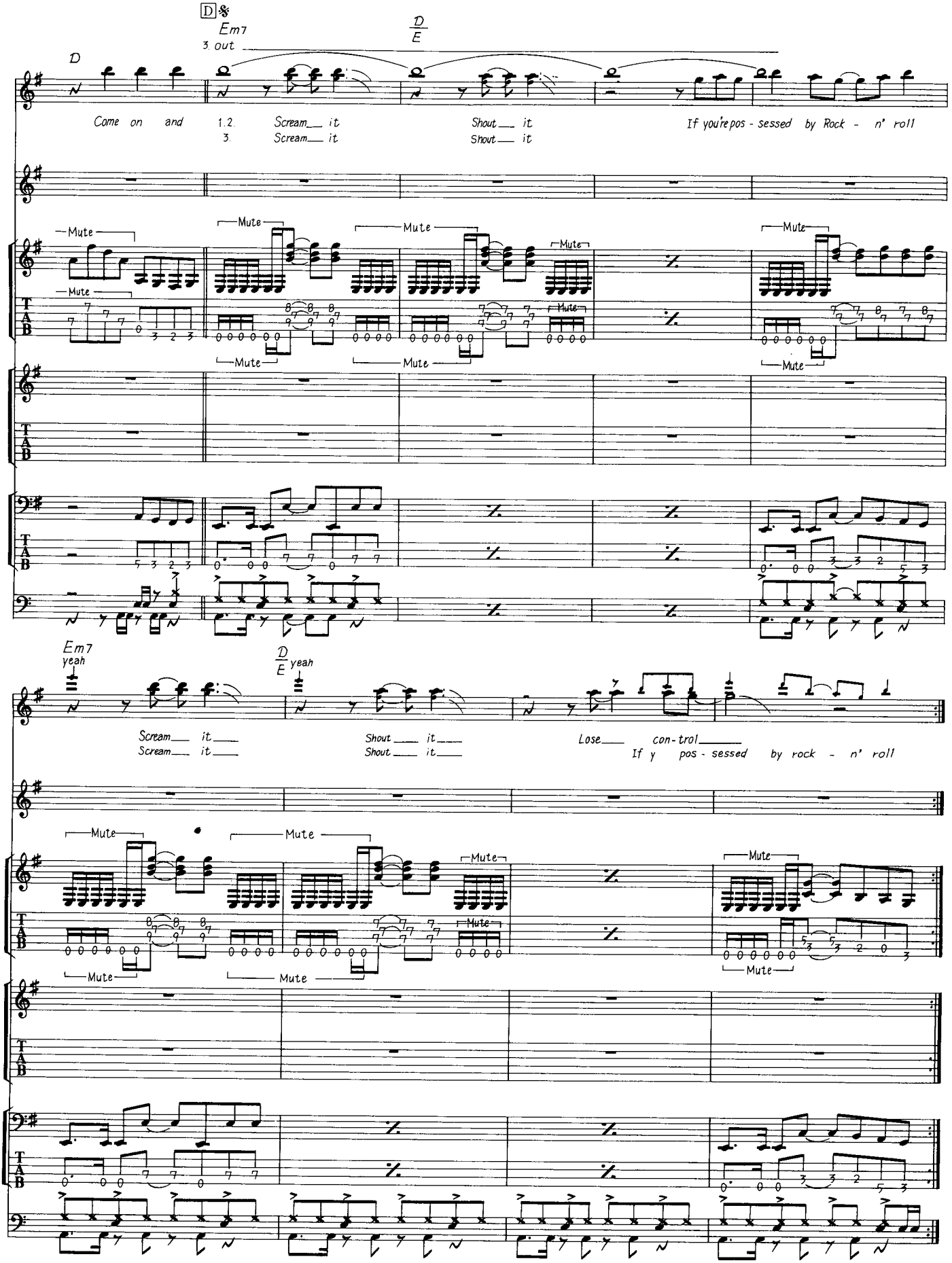

Em7
D/E
Em7
8va bassa
Mute
gliss.
Mute
gliss.
Mute
Mute
T
A
B
96
D/E
Em7
Mute
gliss.
Mute
gliss.
Mute
gliss.
Mute
Mute
gliss.
Mute
Mute
Mute
Mute
Mute
Mute
T
A
B

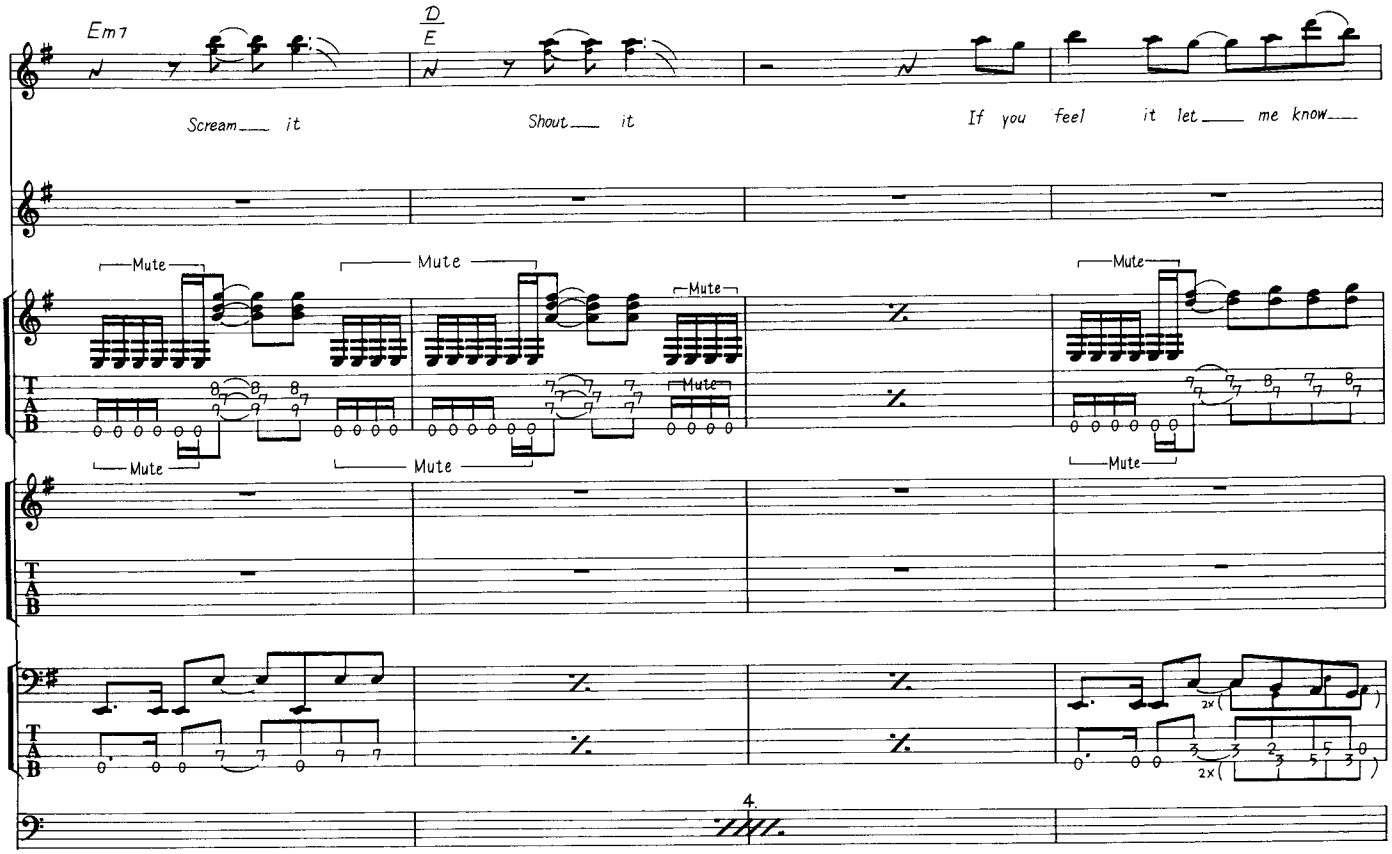

D/E
B Em7
1. You can take
2. You know it's
Mute
gliss.
8va
1H.U
U
1 x only
(8va)
4.
my life a-way from me
just an-oth - er game they play
You can lock a-way my mind and throw
To pro-tect you from the truth and take
Arm

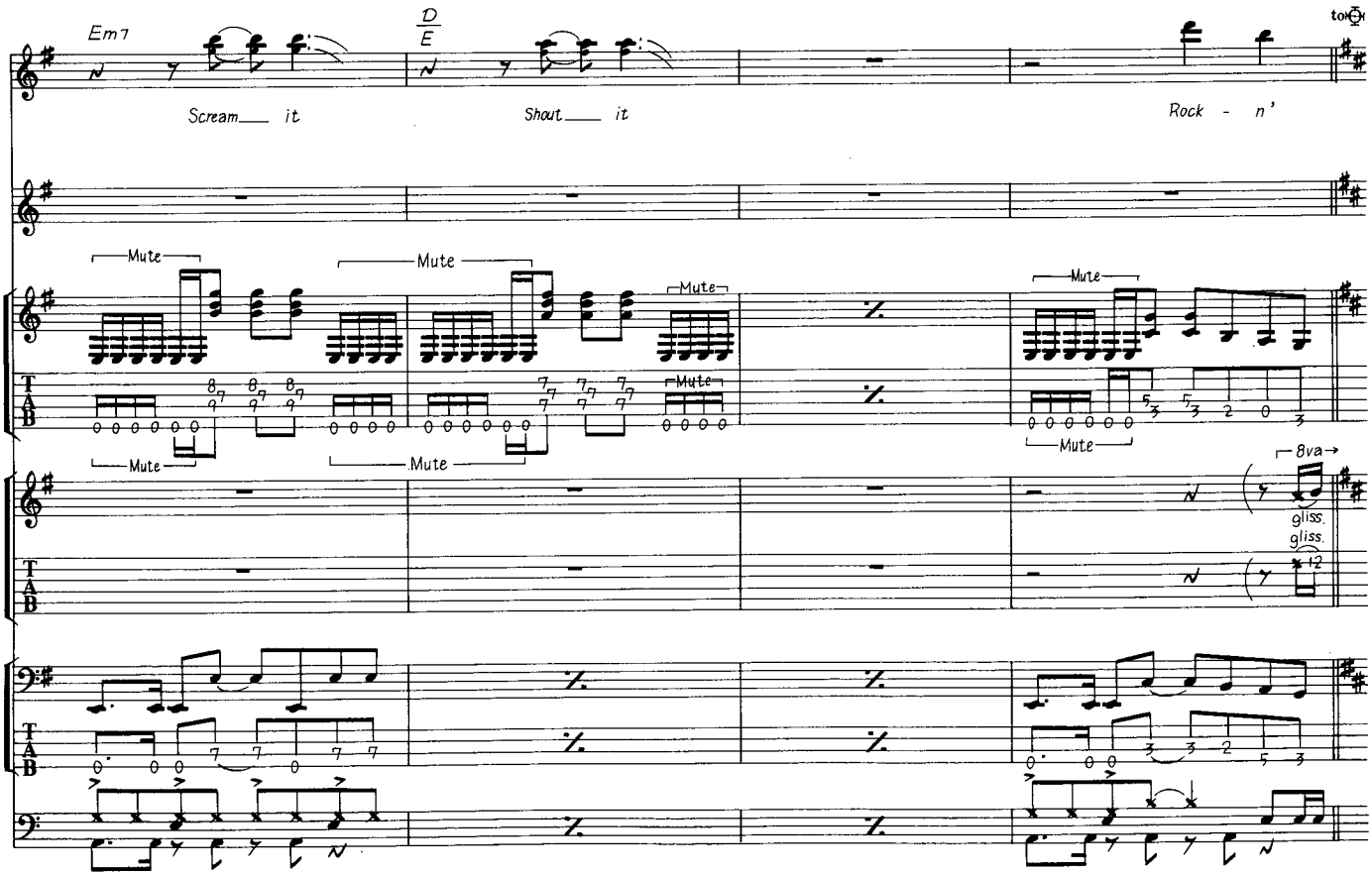

Bmadd9
Em7
D
E
a - way the key
your choice a - way
But when I feel that pow - er surg - ing thru my reins
And when you know the way it is will nev - er change
Mute
1 X Tacet
HC
C
D
Em7
Bmadd9
There's noth - ing you can do
Can you still re-main a-part
To keep me in those chains
Can you still re-main the same
But it's
But it's
Arm
Mute
gliss. gliss.
T
A
B

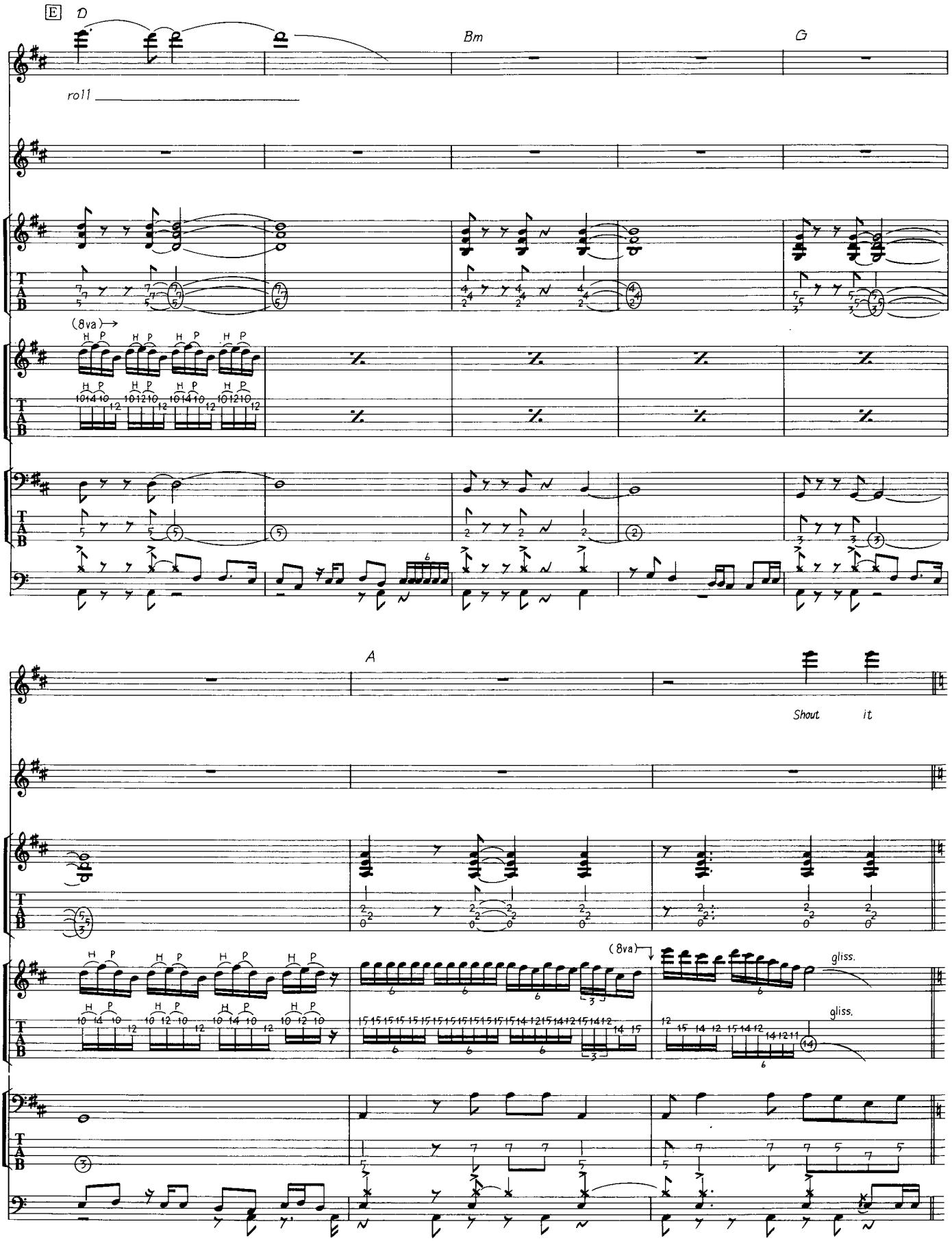

C
Am
Bm
C
Am
Al - right don't try to un - der - stand How real
Mute
Ph
2x
TAB

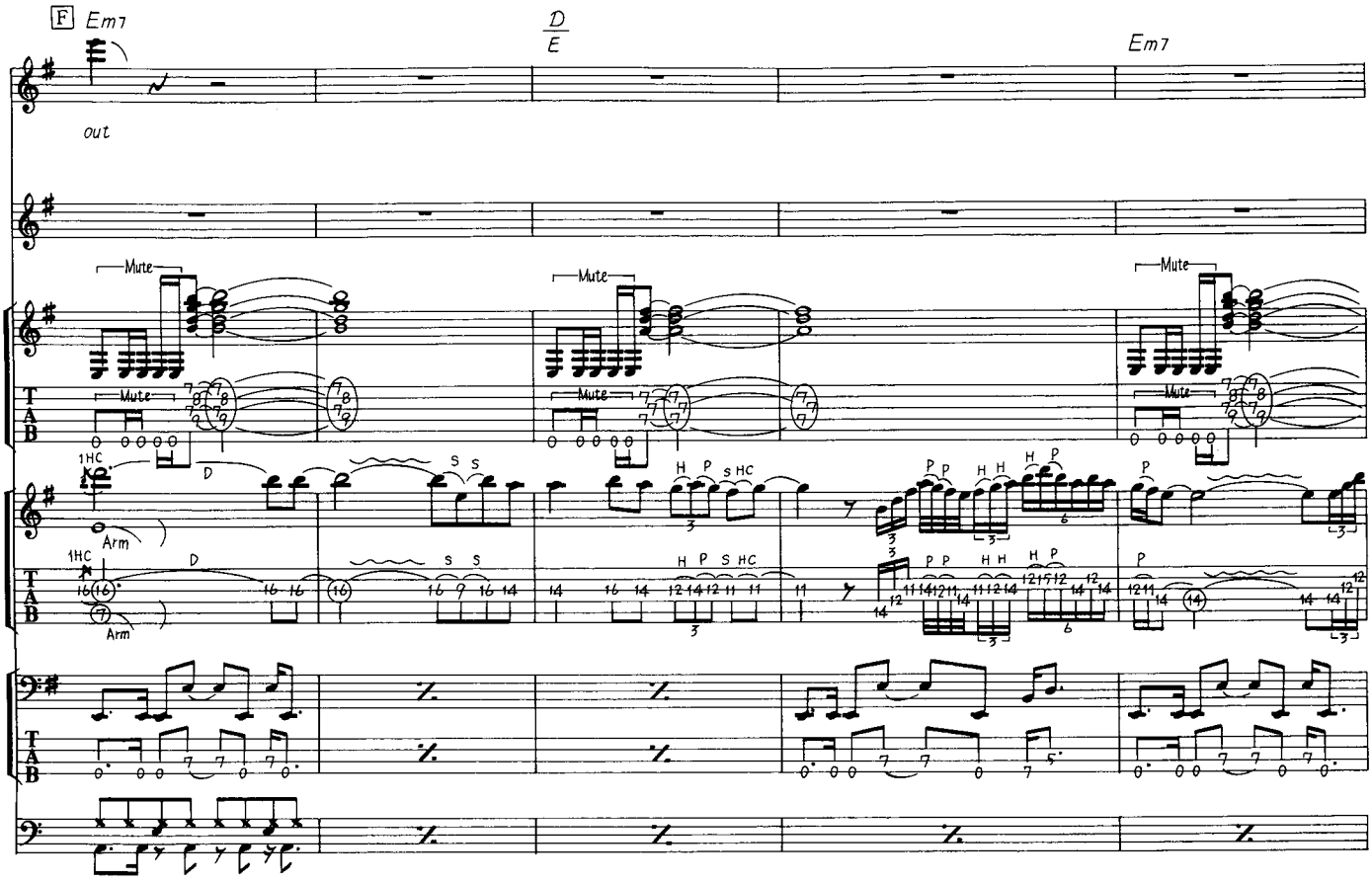

Bm
C
D
I feel when I hear this sound
Mute
gliss.
2x
TAB

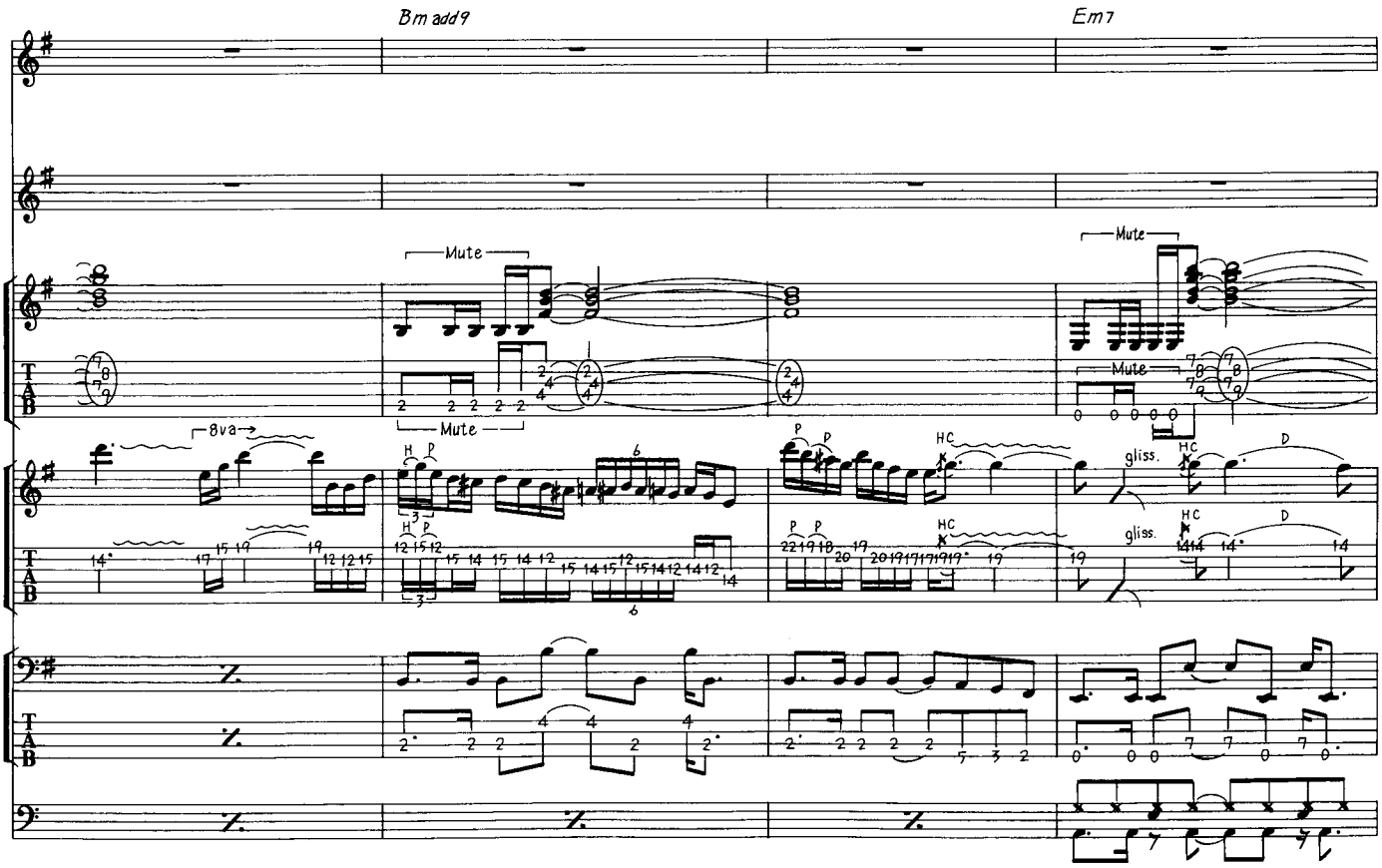

D
Em7
3. out
D/E
Come on and
1.2. Scream it
3. Scream it
Shout it
Shout it
If you're pos - sessed by Rock - n' roll
Mute
100
Em7
yeah
D/E
yeah
Scream it
Scream it
Shout it
Shout it
Lose con-trol
If y pos - sessed by rock - n' roll
T
A
B

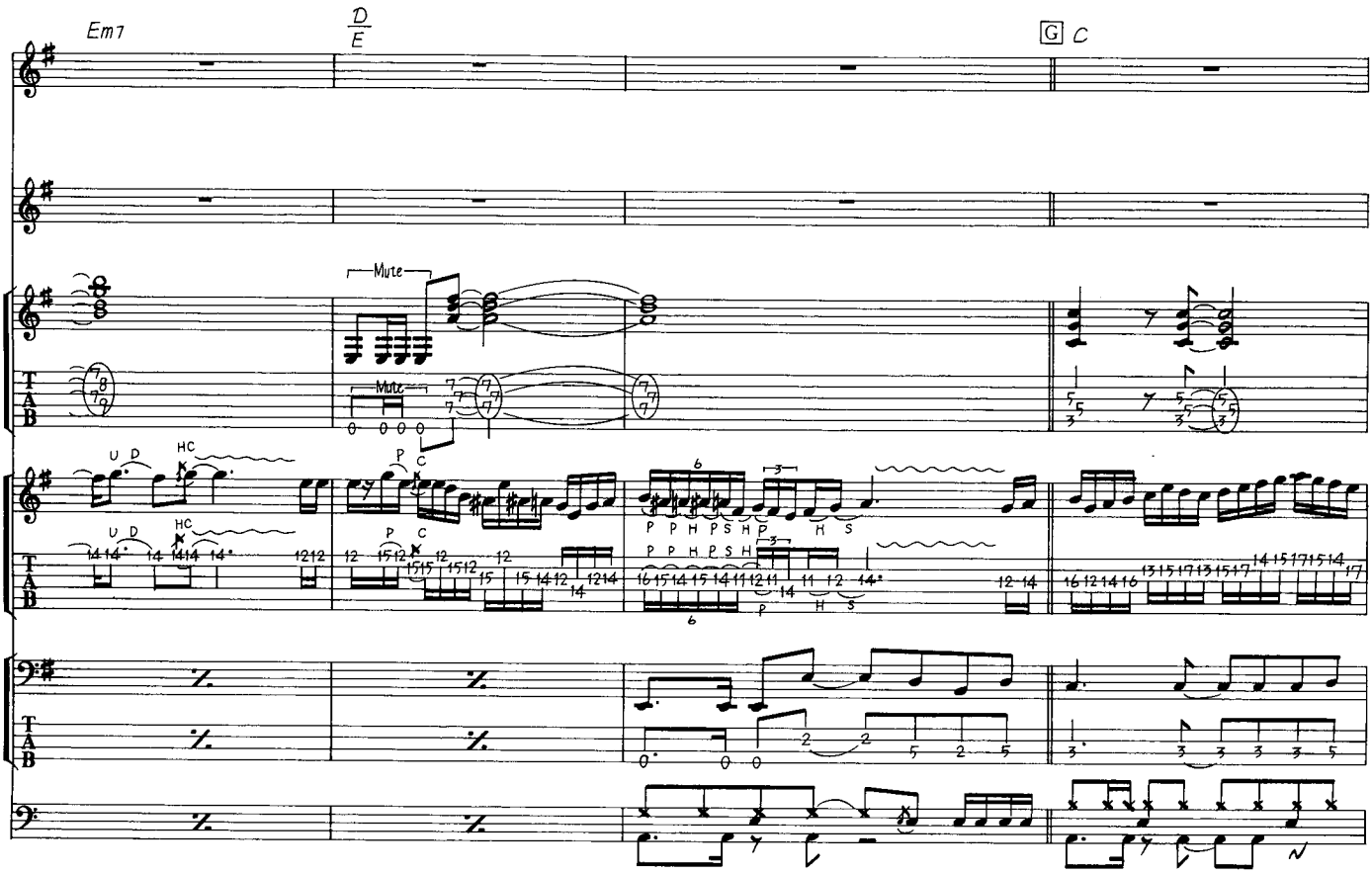

Em7
D
E
Scream___ it
Shout___ it
If you feel it let___ me know___
Mute
T
A
B
2x

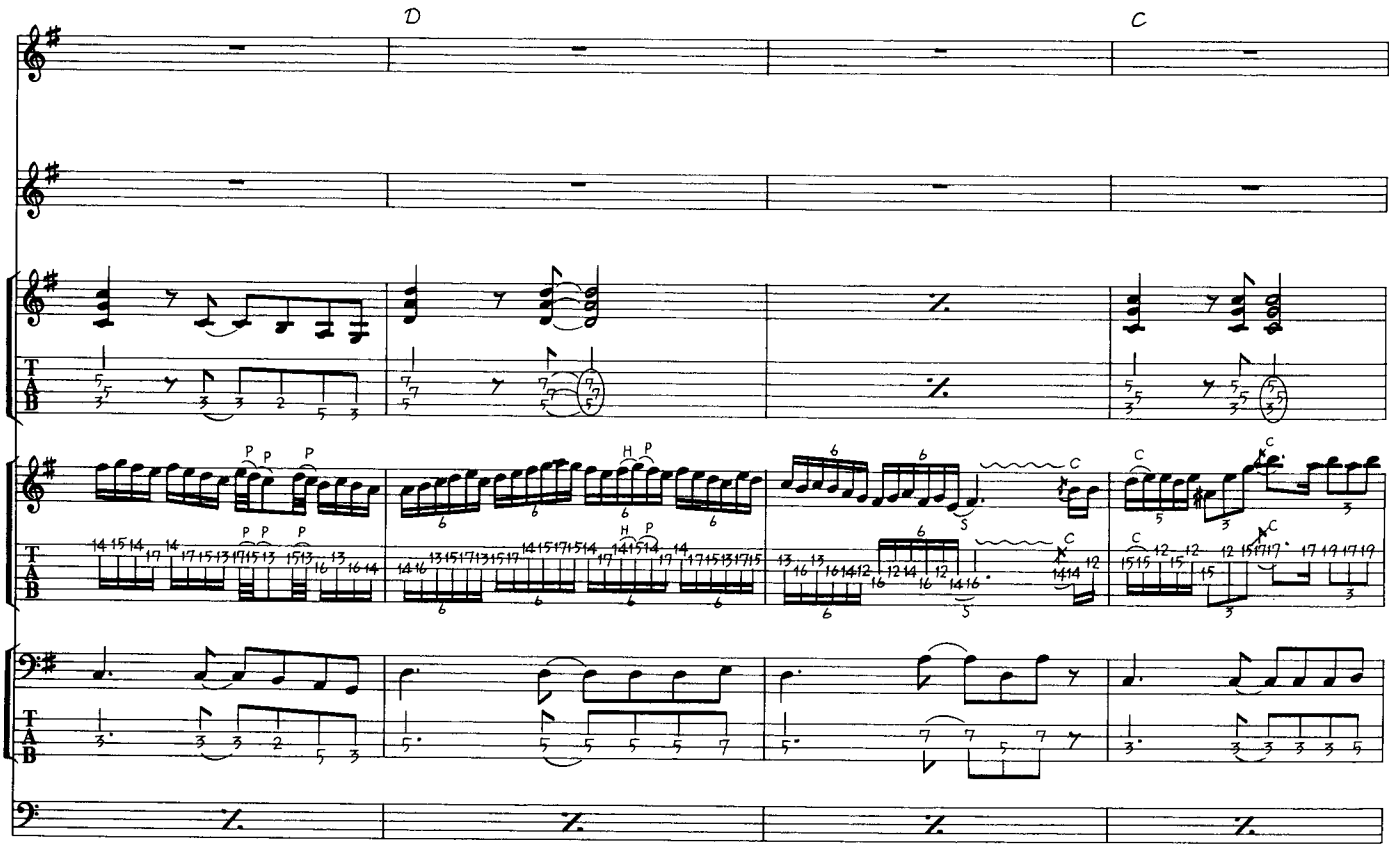

Em7
D
E
Scream___ it
Shout___ it
Rock - n'
to
Mute
8va
gliss.
T
A
B

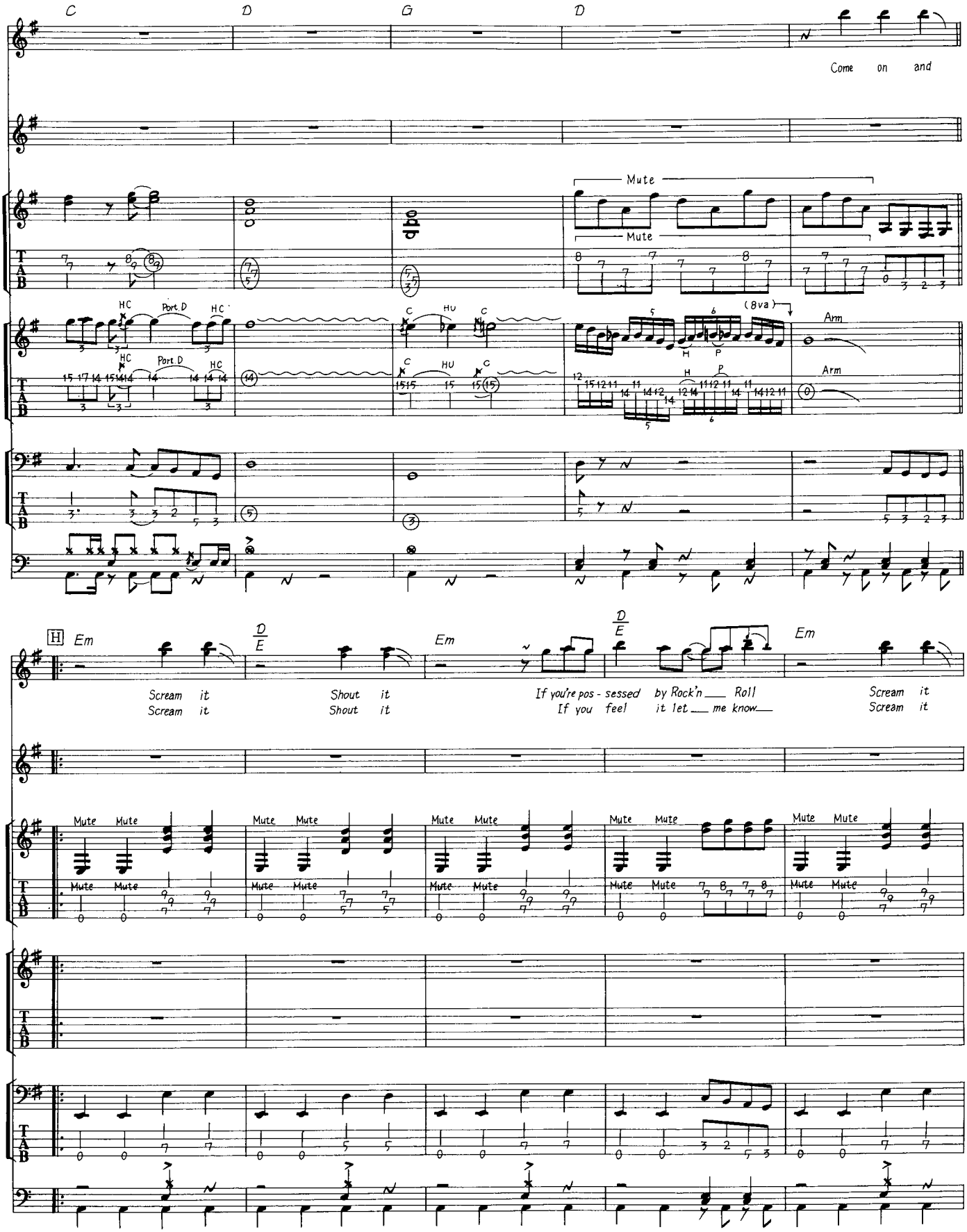

E
D
Bm
G
roll
(8va)
A
Shout it
(8va)
gliss.
gliss.

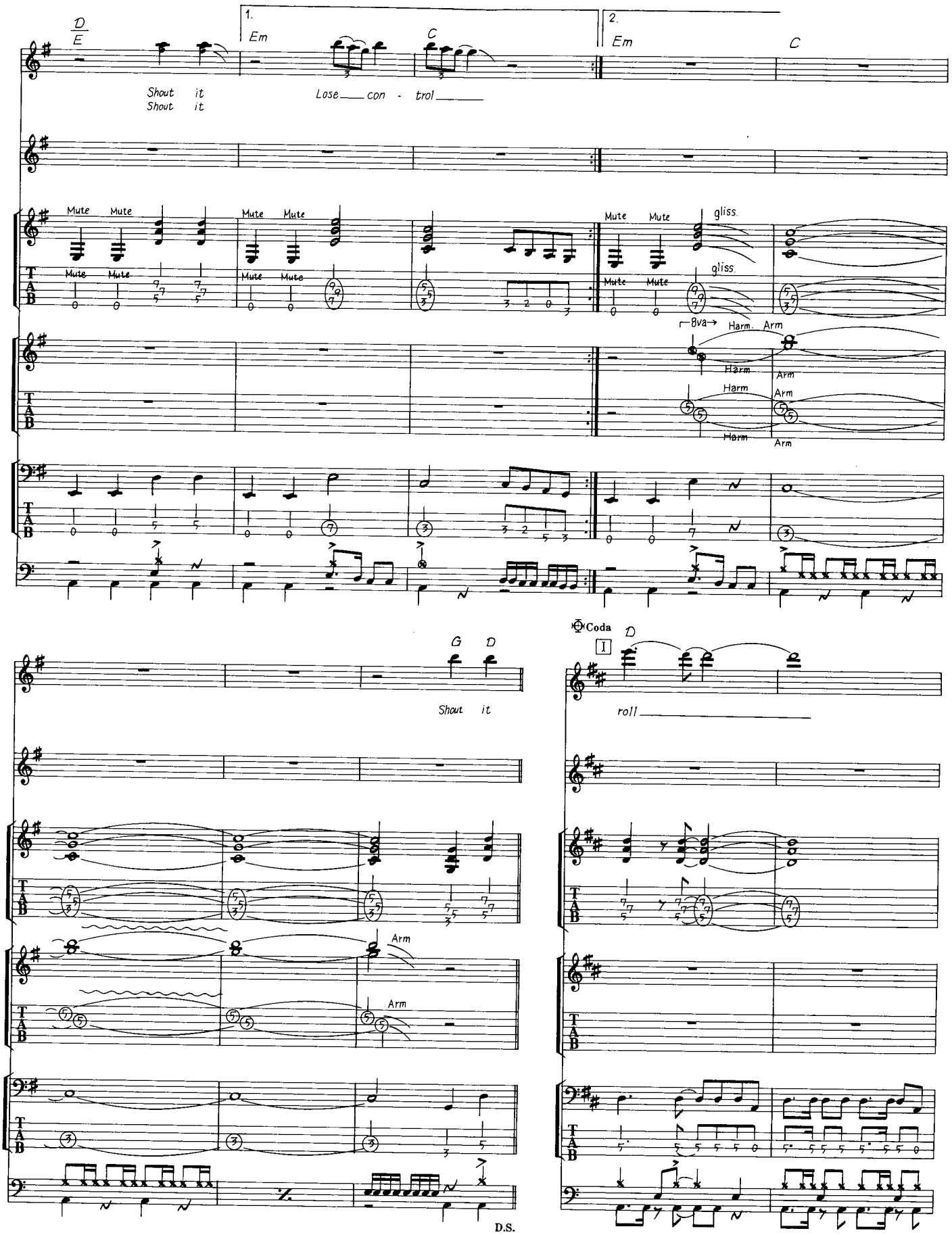

F
Em7
D
E
Em7
out
Mute
1HC
Arm
D
S
H
P
HC

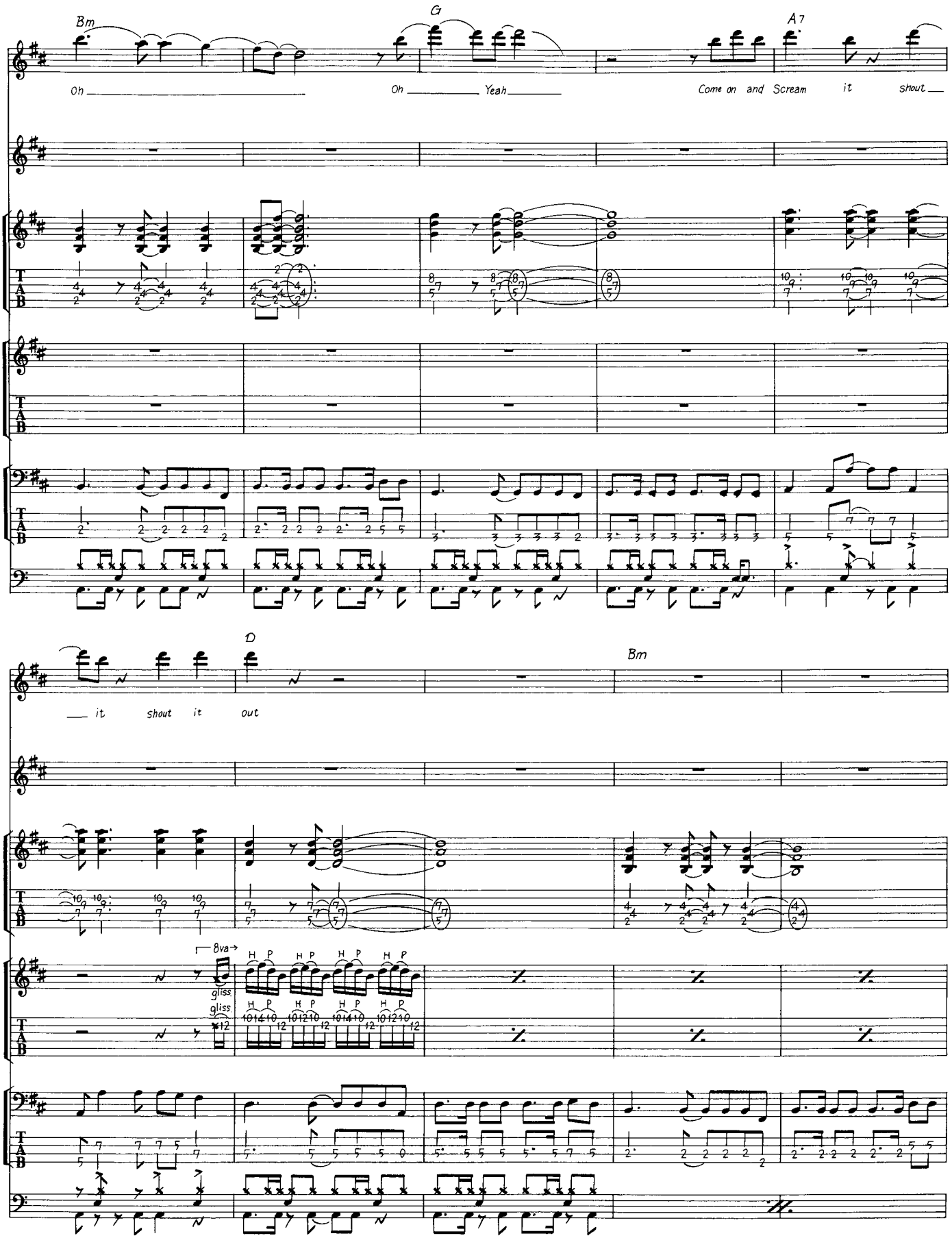

Bm add9
Em7
Mute
8va
H
P
HC
gliss.
D

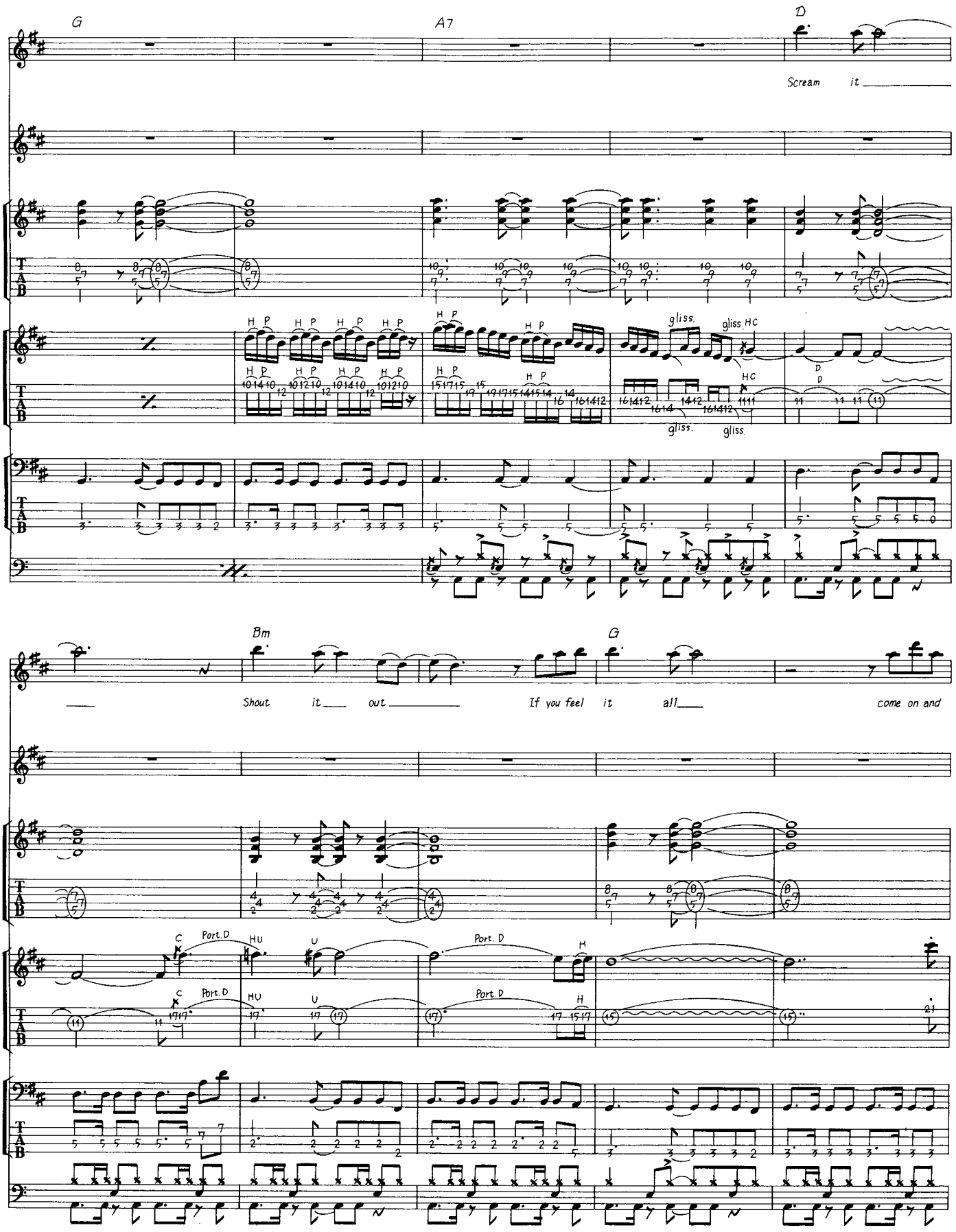

Em7
D
E
G
C
Mute
Mute
T
A
B

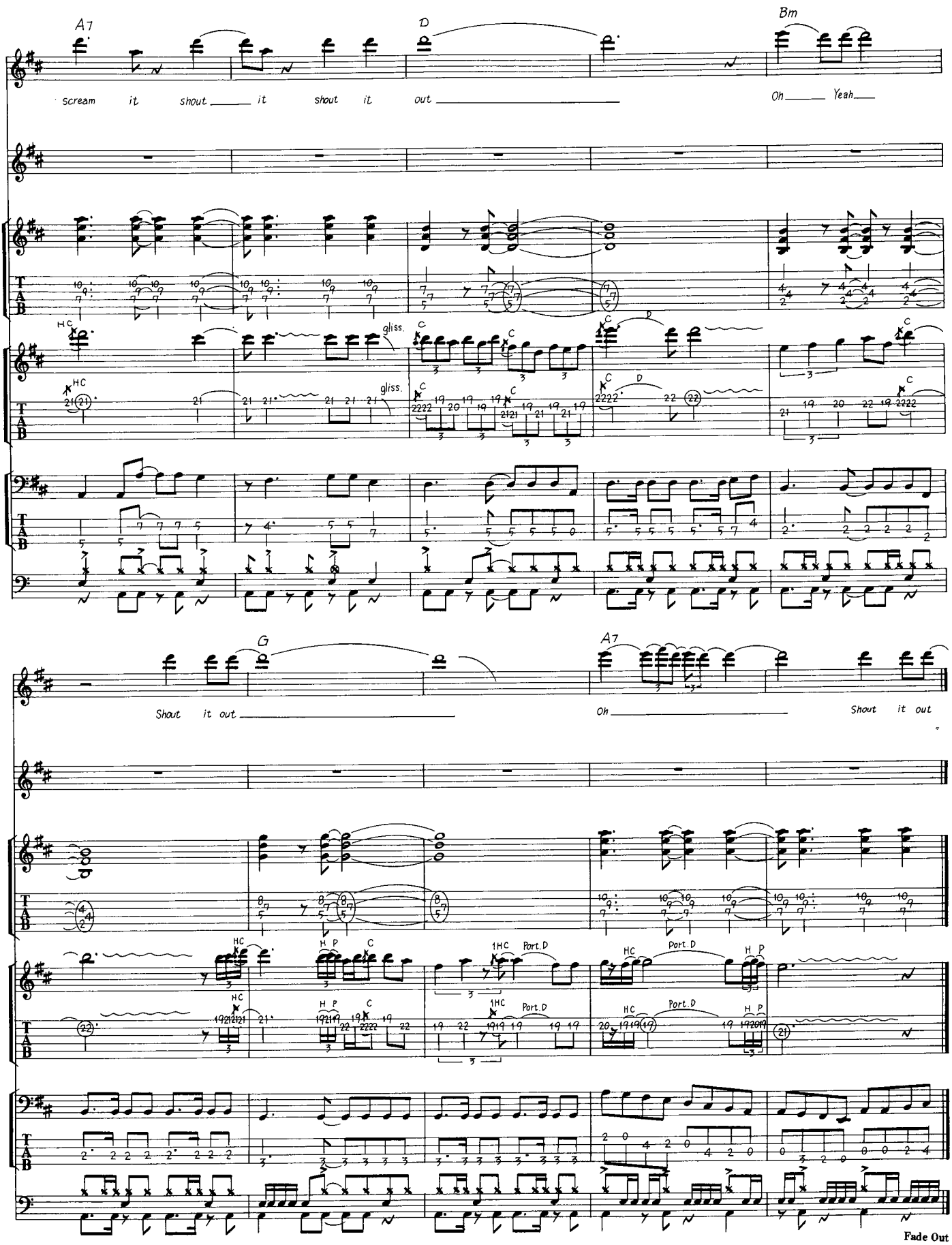

D
C
T
A
B


C
D
G
D
Come on and
Mute
Mute
HC
Port.D
HC
HC
Port.D
HC
C
HU
C
C
HU
C
(8va)
H
P
Arm
Arm
H
Em
D/E
Em
D/E
Em
Scream it
Scream it
Shout it
Shout it
If you're pos - sessed by Rock'n Roll
If you feel it let me know
Scream it
Scream it
Mute


D
E
1.
Em
C
2.
Em
C
Shout it
Shout it
Lose con - trol
Mute
gliss.
8va
Harm.
Arm
Harm
Arm
G
D
Shout it
Arm
Coda
D
roll
D.S.


Bm
G
A7
Oh
Oh Yeah
Come on and Scream it shout
D
Bm
it shout it out
8va
gliss
gliss


G
A7
D
Scream it
gliss.
gliss. HC
HC
gliss.
gliss.
108
Bm
G
Shout it out
If you feel it all
come on and
C
Port. D
HU
U
Port. D
H
C
Port. D
HU
U
Port. D
H


A7
D
Bm
scream it shout it shout it out
Oh Yeah
HC
gliss.
C
D
G
A7
Shout it out
Oh
Shout it out
1HC
Port.D
H P
Fade Out